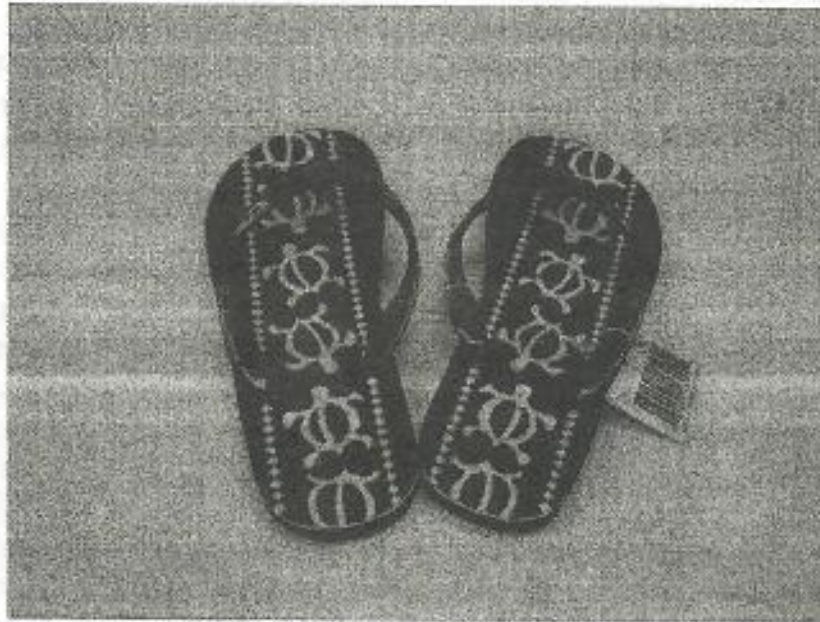


# うみがめ ニュースレター

UMIGAME NEWSLETTER OF JAPAN

No. 64, 2005



## 目次

第25回ウミガメシンポジウムに参加して .....	藤村亜美・大村文乃	2
タイマイの流体力学的特性に関する研究 .....	福田 喜信	5
アカウミガメにおける視覚応答実験 .....	中田史子・尼川大作・黒柳賢治・亀崎直樹・島達也	14
伊豆諸島におけるアオウミガメの上陸・産卵の初記録 .....	植松正宏・成瀬裕昭	22
第15回日本ウミガメ会議（津屋崎会議）講演要旨（追加） .....		26s
日本ウミガメ協議会からのお知らせ .....	日本ウミガメ協議会事務局	27
編集後記 .....		28



表紙/表紙裏写真:

ハワイで見つけたサンダル。ウミガメ（現地語ではHonu）がデザインされている。ハワイで古来ウミガメは海の神の使いと言われ幸運のしるしとして崇められている。しかし、履いてしまうとその神の使いを踏んづけてしまうという、なんとも罰当たりなサンダルでもある。



第25回ウミガメシンポジウムに参加して  
The Attendance at 25th Annual Symposium on Sea Turtle Biology and  
Conservation

藤村亜美・大村文乃  
Ami FUJIMURA and Ayano Omura

アメリカ合衆国ジョージア州サバンナのホテル“The Hyatt Regency Savannah”において2005年1月17日より22日にかけてウミガメの生物学と保護に関するシンポジウムが開催された。口頭発表に並行してポスター発表およびミーティングが行われた。今回で25回になるこのシンポジウムはNational Oceanic and Atmospheric AdministrationやSeaturtle.orgなどの後援を受けてInternational Sea Turtle Societyが主催したものである。70カ国1000人以上の参加者を誇る大規模なものであった。日本からの参加者も我々を含め、10人を超え、ウミガメに対する関心の高さが伺えた。発表の他にSocialやBanquetといった懇親会が設けられ、各々親交を深めていた。口頭発表が100を超えポスター発表が約270枚であったためか、シンポジウムの期間中に口頭発表はテーマごとに二部屋に分けられ、ポスター発表は同様にテーマごとに2回に分けて展示された。

我々は東京海洋大学うみがめ研究会の一員で、通常関東地方沿岸における漂着死亡個体について調査を行っている。本調査では胃内容物に焦点をあて、解剖によるサンプリングを行う。そこで日本以外の研究では漂着死亡個体についてどのように考えているのか等を知りたいと思い、我々は胃内容物と漂着個体に関する発表に注目した。また漂着個体発生の一因として、混獲の可能性があると考えているので混獲についても注目した。

まず注目した発表は、北大西洋のアオウミ

ガメの子ガメについての発表である。解剖顕微鏡を用いた胃内容物の同定がなされ、個体別出現頻度や全胃内容物中に占める割合が調べられていた。結果、出現頻度としては刺胞動物が最も多くなっており、その他ホヤなども出現していた。刺胞動物は体が柔らかいため消化されやすく、同定できない胃内容物の多くは刺胞動物と考えられていた。他に出現頻度が高いものではプラスチック等の人工物もあったが、摂取量が少量であるためウミガメにそれほど影響はないとされていた。

さらにアオウミガメは環境に応じて摂食するものを変えているようで、稀ではあるが、中には魚やイカを多い摂食している個体があった。ただし、同定の結果、その魚は延縄漁業で餌として用いるサバであったり、イカが胃から大量に出現した個体はイカ漁のための流し網に混獲された個体であったりするので、食性を考える際に混獲の影響は必ず考慮しなければならない。今までも混獲された個体の胃内容物の研究はあるが、混獲された場所が近海なのか遠洋なのかがはっきりしていない場合、参考にするには注意が必要であるとのことだ。

病理学的な発表も印象的であり、組織切片、寄生虫のサンプル、採血などが利用されていた。中でも漂着個体に関する採血の結果は興味深い。採血し、ヘマトクリット値、グルコース量などを計測したもので、産卵個体、摂餌個体、漂着個体においてそれぞれ比較されていた。グルコース量は摂餌>産卵>



漂着個体となり、ヘマトリックス値は摂餌＝産卵＞漂着個体となっていた。このことから漂着個体は他の個体に比べると貧血気味なのではないかと考察されていた。今後、死因の判別や健康診断に有効利用するには基準値構築のためのデータベースが必要であるということだった。

これらの発表内容はこれからの我々の活動の参考になるところが多かった。胃内容物の発表では調査地域が異なるものの、刺胞動物、ホヤの出現など、我々が行っている調査の同定結果と類似する点があった。又、プラスチックといった人工物の誤飲をウミガメの直接の死因としていないのも我々が出している考察と同じであった。個体別出現頻度、全胃内容物中の割合を調べるだけでなく、消化の速さや混獲の影響を考慮に入れることの必要性を実感した。多方面からの切り口で考察をすることにより漂着個体から得ることができる情報が多くなればよいと思う。さらにこれから先、ヘマトリックス値などの基準値が確立され、組織切片についても研究が進んでいけば、漂着個体の死因の判別も出来るようになるかもしれないので楽しみである。

混獲についての発表は多く、近年問題になっているマグロ延縄漁は勿論のこと、トロール漁や他の漁法についても調査されている事がわかった。特にトロール漁の方は漁具の改良についても研究されていて、実際混獲率が減少しているとのことであった。トロール漁や他の漁法についての発表としては、トロール漁におけるTED(Turtle Excluder Device)の導入による混獲減少や、けた網の改良について発表されていた。トロール漁におけるTEDの導入は、混獲を減少させたということが非常に印象的であったが、混獲が減少したこと以外にも漁業協同組合の協力体制が大変印象的であった。混獲を防止するためには何よりも漁業協同組合の理解と協力が必要

であり、漁具を改良していく事が不可欠なのだということだ。この協力体制についてはトロール漁に限ったことではなく、啓蒙活動についての発表においても強調されていた。またTEDに関しては他に、Venderスペースに解説パネルとともに実際に使用されている物と同じ物が吊るして展示してあった。これは吊るす事で網が水中と同様な形状となり、漁獲対象外生物の脱出口がよくわかるようになっていた。

マグロ延縄漁についての発表は、現在使用されている漁具(J-hook、18/0hook等の針など)についての発表が多く、漁具や漁法の改良についてはあまり発表されていなかった。例えば、使用されている様々な針のうちJ-hook、18/0hookの2種の混獲率を比較する、魚の正の走行性を利用する為のライトスティックの効果等についてであった。

混獲と直接的な関係はないが、ウミガメを保護するには多方面からのアプローチが必要であることも、興味深かった。保護をただ呼びかけるのではなく、ボランティアや漁業者に対する正しい知識の伝達、地域のネットワーク作りやビーチパトロールなどの地道な活動が重要だということだ。発表によると試行の結果から浮上した課題を克服し、研究者、ボランティア活動、漁業者の繋がりによって、浜辺の保護、混獲の減少や防止へと更に発展させていくとのことだった。

様々な話題に混獲が絡んでいて、どの発表も面白く聞くことができ、大変勉強になった。聞いているうちに考えたことは、日本の各漁法における混獲の現状を自分がほとんど知らない事である。TEDの導入などの混獲防止策について考えていく上で、現状を把握する事は必要不可欠ではないだろうか。また現状を把握すると同時に、日本以外に向けて情報発信することも大事ではないかと思った。これはWWFのVenderスペースに、水産庁が出した日本の遠洋漁業についてのパンフレットがあったが、和文と英文の両方のパンフ



レットがあったからである。もしかするとマグロ延縄漁における仕掛けの低位置化が推奨されていることを知らない人がいるのではないだろうか。この仕掛けの低位置化とは、従来よりも漁具全体を低く仕掛ける事で、ウミガメの活動深度に漁具が無いようにするというものである。漁業とウミガメの保護の両立を目指して日本も努力している事を是非知って欲しいと思う。

発表内容以外にも学ぶところがあった。特にポスター発表の仕方についてである。今まで我がサークル(東京海洋大学うみがめ研究会)はウミガメ会議でポスター発表を行ってきたが、ただ単に形式にそってグラフを載せるなど、見辛いものとなっていた。しかし、このシンポジウムで発表されていたポスターは、どれも工夫されていて非常に見やすいものとなっていた。特に参考にすべきだと思った点は、載せる内容にあわせたレイアウトである。グラフがあるのであれば、グラフを大きめに配置し、文字を少し小さめにする等の工夫により、重要な部分が変わりやすくなっていた。またレイアウトにより、たくさんあるポスターの中でも、人目を引くようにすることができるのだということも判った。この見る側に立った配慮という点を参考にして、今後の活動でポスター発表をする際には、より良い発表をするように心がけたい。ポスター発表だけではなく、今後の活動についてもよりよい活動を目指したいと思う。まず同定方法の見直しである。従来の肉眼視による同定方法に加え、顕微鏡による同定方法を取り入れたい。顕微鏡による作業を取り入れることで、更なるデータの正確性が追及できるのではないかと思う。また、フィールド調査の際の作業における組織採取も行ってみたいと思う。今までは解剖による胃内容物のサンプリングのみ行っていたが、組織の採取を行い、組織切片を作成し病的考察を行う。それにより考察も一つだけではなく、多方面から結果をとらえ、考えるものについてできるだけ考察していけるようになるのではないだろうか。

最後に、今回のシンポジウムへの参加の機会を与えてくれ、サポートしてくださったこと、日本ウミガメ協議会、エバーラスティング・ネイチャーに深く感謝したい。

藤村・大村 (東京海洋大 うみがめ研究会)

タイマイの流体力学的特性に関する研究  
A study on hawksbill turtle hydrodynamics

稲田 喜信  
Yoshinobu INADA

1. はじめに

昨年はタイマイの甲羅に見られる凹凸の意味を調べるためタイマイの模型(図1)を作成して、甲羅に凸凹が有る状態と凸凹を粘土で埋めて甲羅の表面を滑らかにした状態とで抵抗、揚力、モーメント(図2)の相違を比較した。結果として抵抗や揚力には大きな相違は見られなかったが、胴体を回転させる作用(-モーメント)の測定結果(図3)では流れに対する模型の角度(-迎角)が0度付近でモーメントのグラフが右上がりとなり、回転に対して不安定となって胴体の角度が安定に維持できないという結果が得られた(図4)。そこで、今回の実験ではこの原因を後脚が無いためと考え、後脚の模型を作成して胴体に取り付け、昨年度と同じ実験条件で抵抗、揚力、モーメントの3要素を計測した。その結果について報告する。

2. 方法

標本の後脚(図5)を参考にしてバルサ材を用いて後脚の模型を作成し(図6a)、針金を用いて後脚の模型を胴体に固定した(図6b)。その上で後脚の胴体に対する角度( $\beta$ )を10度と20度の2種類に設定して風洞実験を行った(図7)。実験は静岡文化芸術大学にある水平風洞を使用し、風洞に設置された力センサーによって抵抗、揚力、モーメントの3分力を同時計測した(図8)。表1に胴体と頭部模型の諸元、表2に後脚の模型の諸元を示す。実験では空気の流れを用いたが、空気や水といった流体の種類を問わず力やモーメントの大きさを

評価できる抵抗係数( $C_D$ )、揚力係数( $C_L$ )、モーメント係数( $C_M$ )の3つの値を用いて測定結果を評価した。これらはそれぞれ式(1)~式(3)で表わされる係数である。

抵抗係数  $C_D$

$$C_D = D / \frac{1}{2} \rho U^2 S \quad (1)$$

揚力係数  $C_L$

$$C_L = L / \frac{1}{2} \rho U^2 S \quad (2)$$

モーメント係数  $C_M$

$$C_M = M / \frac{1}{2} \rho U^2 S l \quad (3)$$

ここで  $D$ ,  $L$ ,  $M$  はそれぞれ抵抗、揚力、モーメントの計測値、 $\rho$  は流体の密度、 $U$  は流速、 $S$  と  $l$  はそれぞれ甲羅と頭部を合わせた投影面積と前後長である。実験は  $U=12\text{m/s}$  の風速で行ったが、これは水中において約  $0.8\text{m/s}$  の流さでウミガメが移動していることに相当する。

3. 結果

流れに対する模型の角度(-迎角: 図2参照)を変えながら抵抗、揚力、モーメントを測定し、それらを式(1)~式(3)の各係数に変換してプロットしたグラフが図9





(a) 全体



(b) 甲羅の凹凸の様子



(c) 甲羅の凹凸を粘土で埋めた状態

図1 タイマイの模型 (胴体と頭部)

Fig.1 A model of hawksbill turtle (trunk and head regions)

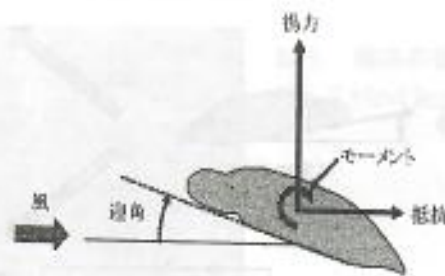


図2 模型に作用する力およびモーメント

Fig.2 Operating force and the moment on the model

タイマイの流体力学的特性に関する研究  
A study on hawksbill turtle hydrodynamics

稲田 喜信  
Yoshinobu INADA

1. はじめに

昨年はタイマイの甲羅に見られる凹凸の意味を調べるためタイマイの模型(図1)を作成して、甲羅に凸凹が有る状態と凸凹を粘土で埋めて甲羅の表面を滑らかにした状態とで抵抗、揚力、モーメント(図2)の相違を比較した。結果として抵抗や揚力には大きな相違は見られなかったが、胴体を回転させる作用(=モーメント)の測定結果(図3)では流れに対する模型の角度(=迎角)が0度付近でモーメントのグラフが右上がりとなり、回転に対して不安定となって胴体の角度が安定に維持できないという結果が得られた(図4)。そこで、今回の実験ではこの原因を後脚が無いためと考え、後脚の模型を作成して胴体に取り付け、昨年度と同じ実験条件で抵抗、揚力、モーメントの3要素を計測した。その結果について報告する。

2. 方法

標本の後脚(図5)を参考にしてパルサ材を用いて後脚の模型を作成し(図6a)、針金を用いて後脚の模型を胴体に固定した(図6b)。その上で後脚の胴体に対する角度( $\beta$ )を10度と20度の2種類に設定して風洞実験を行った(図7)。実験は静岡文化芸術大学にある水平風洞を使用し、風洞に設置された力センサーによって抵抗、揚力、モーメントの3分力を同時計測した(図8)。表1に胴体と頭部模型の諸元、表2に後脚の模型の諸元を示す。実験では空気の流れを用いたが、空気や水といった流体の種類を問わず力やモーメントの大きさを

評価できる抵抗係数( $C_D$ )、揚力係数( $C_L$ )、モーメント係数( $C_M$ )の3つの値を用いて測定結果を評価した。これらはそれぞれ式(1)~式(3)で表わされる係数である。

抵抗係数  $C_D$

$$C_D = D / \frac{1}{2} \rho U^2 S \quad (1)$$

揚力係数  $C_L$

$$C_L = L / \frac{1}{2} \rho U^2 S \quad (2)$$

モーメント係数  $C_M$

$$C_M = M / \frac{1}{2} \rho U^2 S l \quad (3)$$

ここで  $D, L, M$  はそれぞれ抵抗、揚力、モーメントの計測値、 $\rho$  は流体の密度、 $U$  は流速、 $S$  と  $l$  はそれぞれ甲羅と頭部を合わせた投影面積と前後長である。実験は  $U=12\text{m/s}$  の風速で行ったが、これは水中において約  $0.8\text{m/s}$  の流さでウミガメが移動していることに相当する。

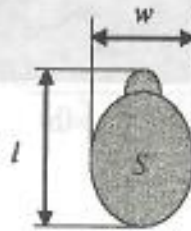
3. 結果

流れに対する模型の角度(=迎角:図2参照)を変えながら抵抗、揚力、モーメントを測定し、それらを式(1)~式(3)の各係数に変換してプロットしたグラフが図9



表1. 胴体の諸元

	前後長 $l$ (cm)	左右長 $w$ (cm)	投影面積 $S$ (cm <sup>2</sup> )	アスペ外比 $AR$
標本	25.5	15.5	265.50	0.90
模型	30	20	382.22	1.05
模型/標本	1.17	1.29	1.43	1.16



投影面積  $S$  は左図のようにウミガメの頭部と甲羅を合わせた部分を平面上に投影した面積で、アスペ外比 (縦横比)  $AR$  は投影図形の縦横比を示す。左図のような不定形では  $AR = w^2/S$  で定義され、図形が横方向に長いほど  $AR$  が大きくなる。

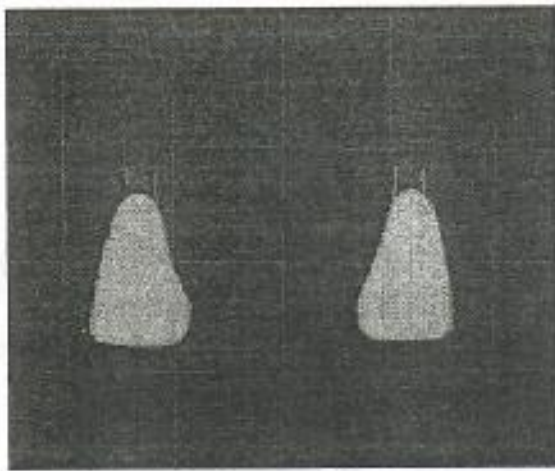
表2. 後脚の諸元

	前後長 $l_r$ (cm)	左右長 $w_r$ (cm)	投影面積 $S_r$ (cm <sup>2</sup> )	アスペ外比 $AR_r$
標本	6.1	3.2	11.79	0.87
模型	7.1	4.6	22.06	0.95
模型/標本	1.16	1.43	1.87	1.09

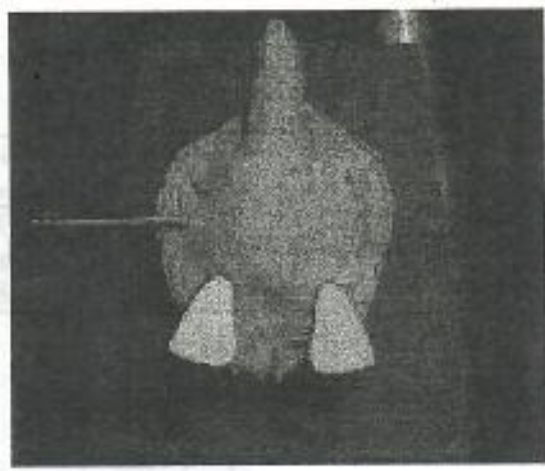
標本の後脚は冷凍保存のため実際の大きさに比べて縮小していると考えられる (図5)。模型ではこのことを考慮して幅と面積を若干大きくした。



図5 標本の後脚  
Fig. 5 Hind legs of a specimen



(a)



(b)

図 6 後脚の模型  
Fig. 6 hind legs model

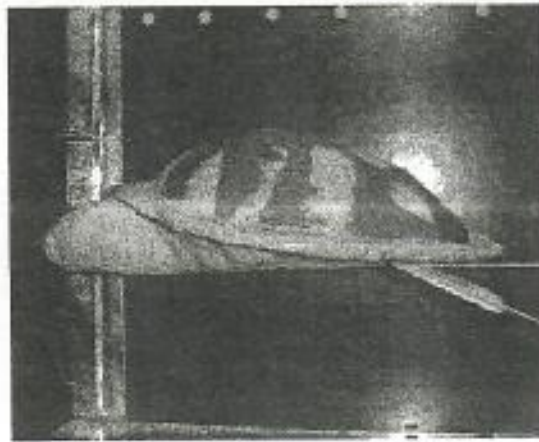


図 7 後脚の角度  
Fig. 7 Angles of hind legs

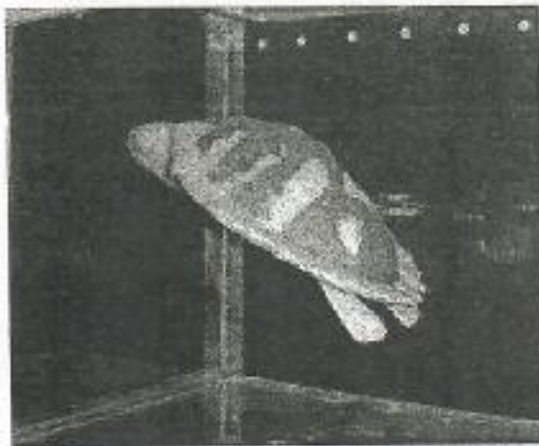
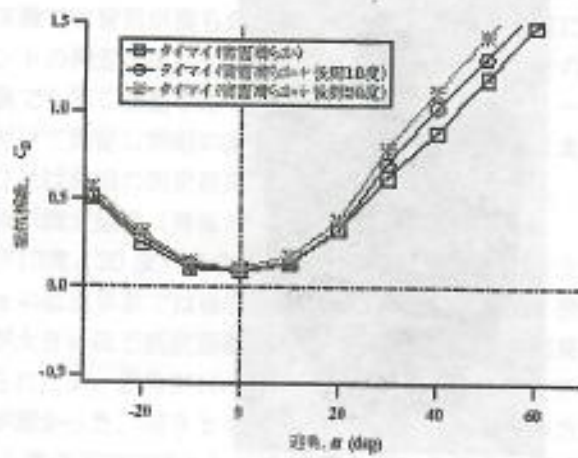
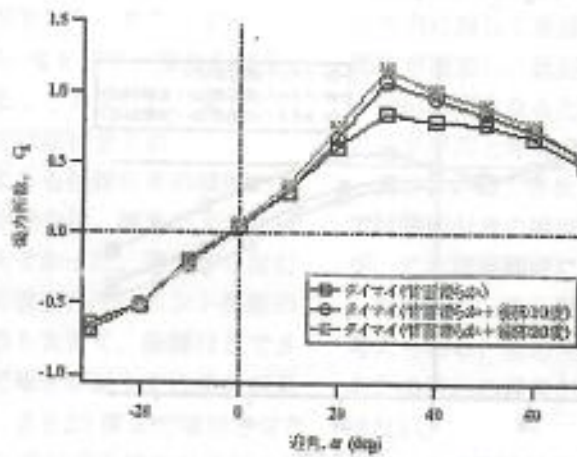


図 8 測定の様子  
Fig. 8 Laboratory; measuring scene

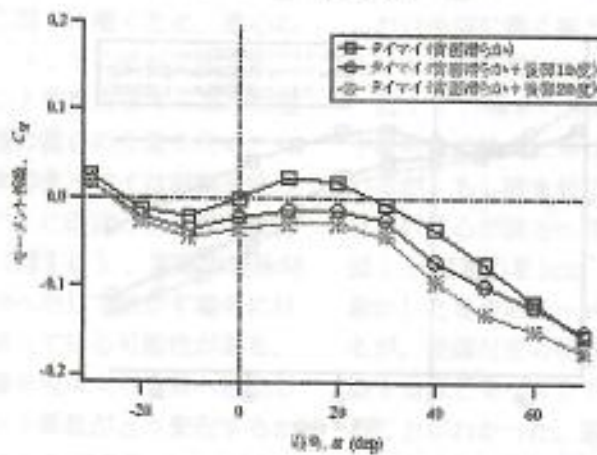




(a) 抵抗係数 resistance coefficient



(b) 揚力係数 lift coefficient



(c) モーメント係数 moment coefficient

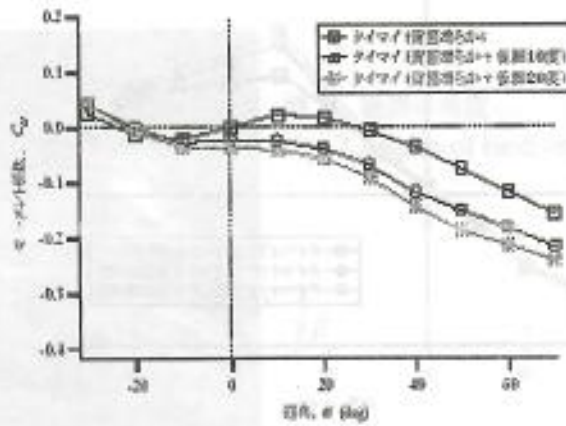
図9 測定の結果

Fig. 9 Measurement results

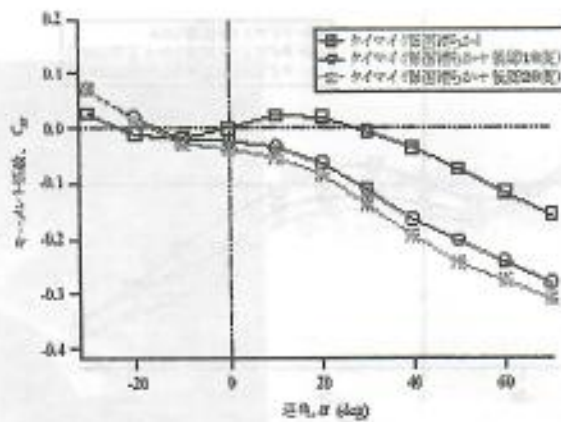


図10 タイマイ標本

Fig. 10 A specimen of hawkbill turtle



(a) 1cm 前方へ移動



(b) 2cm 前方へ移動

図11 重心を前方へ移動した場合のモーメント係数

Fig. 11 Change in moment coefficient as shift in center of gravity is forwarded



である。前回の実験では背面が滑らかな模型でのみモーメントの測定に成功していたため、今回の実験でも同じ模型を用い、これに後脚を取り付けて測定し前回の結果と比較した。グラフには前回の測定結果（背面滑らか）と今回の測定結果（背面滑らか+後脚の角度 $\beta$ が10度と20度）を合わせて表示した。図9aの抵抗係数では後脚付きの模型で角度 $\beta$ が大きいほど抵抗係数が増加する傾向が見られたが、迎角が10度以下ではほとんど差が無かった。図9bの揚力係数では迎角が10度以下ではほとんど差が無く、20度以上では後脚付きで $\beta$ が大きいほど揚力係数が増加した。また、すべてのケースで迎角が30度を越すと揚力が減少して失速状態であることを示した。図9cのモーメント係数ではほぼ全ての迎角で後脚無しよりも後脚付きの模型のモーメント係数が減少し、減少の大きさは $\beta$ が大きいほど大きかった。迎角が0度付近では後脚無しの模型のモーメント係数のグラフの傾きが最も大きく、後脚付きで $\beta$ が大きくなるほど傾きが減少する傾向が見られた。ただし、 $\beta$ を20度まで増加させた段階では迎角が0度付近の傾きが依然として右上がりであった。胴体に対するモーメントは模型の重心周りに働くため、重心の位置によってモーメントの値が変化する。図9cのモーメント係数は標本の重心位置を参考にして模型の重心の位置を決めたものであるが、標本のタイマイは前脚を後ろ向きにして甲羅の上に固定した状態で重心を計測したため（図10）、実際の遊泳時のように前脚を前へ出して動かす場合には重心が前方へ移動している可能性がある。そこで、重心位置を現状よりも前へ移動した場合にモーメント係数がどう変化するかを調べた結果が図11である。これは図9cよりも重心の位置を前方に1cmおよび2cm移動した場合の結果である。図9cとの大きな違いは迎角0度付近のグラフの傾

きで、重心が前方に移動するにつれて後脚付きの模型のグラフの傾きが減少し、負になることがわかった。一方、後脚が無い模型の場合は右上がりのままであった。

#### 4. 考察

今回の実験ではウミガメの模型に後脚を取り付け、模型に働く流体力を測定して後脚が無い前回の実験の結果と比較した。その結果、図9aの抵抗係数では高迎角（20度以上）で後脚付きの模型の方が若干抵抗係数が増加したが、低迎角（10度以下）ではほとんど差が無かった。これは高迎角では後脚の面が流れの方向に対して垂直に近い角度で当たるため抵抗が増加し、低迎角では流れに対して平行に近い角度となるため大きな抵抗を作らないことが原因と考えられる。

図9bの揚力係数では高迎角（20度以上）では後脚付きの模型の方が揚力が増加したが、これは後脚面に対する流れの迎角が増加したため、飛行機のフラップと同じ効果と考えられる。低迎角（10度以下）では後脚にあたる流れの迎角が小さくこの効果は顕著ではない。

図9cでは後脚付きの模型の頭上げのモーメントが後脚無しの模型に比べて減少したが、これは後脚に働く揚力が重心周りに頭下げのモーメントを増加させたためと考えられる。

図10の標本の写真ではタイマイは前腕を甲羅の上に後方に伸ばした状態で固定されているが、もし腕を前へ出して運動すればその分だけ重心が前方へ移動する可能性がある。図11は重心を1cmと2cmの2通り前方に動かした場合のモーメントの変化を示しているが、後脚付きの模型の場合は重心を前へ移動するほどモーメントの変化が右下がりになることがわかった。迎角に対するモーメントの変化が右下がりになれば頭上げや頭下げの回転に対して安定となり、一定の角度を維持することが容易になる。腕を前へ伸ばした時に実際にどの程度重心が前方に移動するかは

別に調べる必要があるが、このことが回転の安定性に寄与していることは図11の結果から見て明らかである。実際のウミガメにおいては後脚の角度はある程度自由に変われると考えられ、今回設定した最大値である20度よりも大きな角度も可能と考えられる。この場合は図11よりさらにグラフが右下がりとなる傾向が増し、安定化の向上の効果が期待できる。

以上2回にわたってウミガメに働く流体力を調べてきたが、体を支えるために必要な揚力や、エネルギー消費の大小を決める抵抗、さらに体の角度を決めるモーメントについていくつかの知見が得られた。特に今回の結果のように後脚がウミガメが安定に遊泳するために重要な機能を持つという結果は、前腕に比べて動きの少ない後脚の機能を理解する上で興味深い。この結果がウミガメの行動や生態を理解する上で一助となれば幸いである。

稲田喜信

科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業  
千葉大学工学部電子機械工学科 劉研究室

## Summary

In an experience conducted on a sea turtle model last year, we found that resistance approaches its minimum when an angle of attack is relatively close to zero degree, i.e. sea turtles can swim without wasting excessive energy if their body is parallel to its direction of movement. However, when an angle of attack is at almost zero degree, the body is prone to moment, a force which works as to rotate the body. Proceeding from a previous experience, we attached a pair of hind legs onto the model and conducted a test to see stability against rotating force. As a result, it was suggested that hind legs work as to stabilize the main body angle and the effect was influenced by the center of gravity's position within the body. This report explains how sea turtle's hind legs function as an angle stabilizer as sea turtles swim.



## アカウミガメにおける視覚応答実験

Visual electric response of a loggerhead turtle (*Caretta caretta*)

中田史子、尾川大作、黒柳賢治、亀崎直樹、島達也

Fumiko NAKATA, Taisaku AMAKAWA, Kenji KUROYANAGI,

Naoki KAMEZAKI, and Tatsuya SHIMA

### 1. はじめに

日本の海岸は北太平洋に生息するアカウミガメ(*Caretta caretta*)にとって唯一の産卵場であり、アカウミガメの生存を考える上でその重要性は極めて高い。しかし世界各地の産卵場と同様に、日本の海岸にもウミガメの上陸・産卵および脱出後の子ガメの掃海を阻害する様々な要因が存在している。それらは、砂浜の地形変化や海岸の整備による護岸や消波ブロック、打ち上げられたゴミ、音、光などである。その中でも光は、母ガメに対しても子ガメに対してもその影響の大きさが議論されている。

Witherington and Martin (1996)によると、海岸に設置した人工灯の影響からウミガメの上陸および産卵が激減したという報告が各地でされているという。また、開発されていない海岸において一方に灯りを設置し、一方はそのままの状態にした場合、アカウミガメにおいてもアオウミガメにおいても灯りのある方を避ける傾向がみられたという。脱出後の子ガメに対しては、子ガメには明るい方向へ向かう目標走性があり、光源の真下まで来たら動きを止める習性を持っていること、鼻のそばに両目から入る光の明るさを比べる「比較体」があって両目から入る光の明るさが等しくなる方向にターンする習性を持っていることなどから、脱出後の子ガメが海を見つける手がかりとして光を利用している可能性が示唆されている。そのため、人工光は脱出後の子ガメの迷走原因となりうると考えられている。

このような現状に対し、日本の海岸近辺での開発はとどまることがなく、今後もますますウミガメに及ぼす人工光の影響は大きくなることが予想される。影響が大きくなるとともに、ますますその影響は多様化・複雑化することが予想される。これに対し、Witherington and Martin (1996)によって提示された低圧ナトリウム灯など、行動実験のみから実証された対策方法だけでは対処しきれない可能性がある。また、提示された対策方法は生理学的にも検証が行われべきであろう。実際、Witherington and Martin (1996)によって提示された低圧ナトリウム灯の波長域と Lenvenson et al.(2004)、Granda and O'Shea (1972)によって示されたアオウミガメ・アカウミガメのスペクトル感度とは食い違いがあり、筆者らは低圧ナトリウム灯の効果に疑問を感じている。

そこでより実効性の高い対策方法を探るために、まずウミガメの視覚システムの解明が必要であろう。つまり行動に現れる前の段階の光に対する感受特性そのものから明らかにすることが必要であると思われる。

ウミガメの視覚システムに関する研究は、これまで主に形態学、組織学、そして行動学においてなされてきた。Bartolら(2002)、Lenvensonら(2004)によると、ウミガメの水晶体は、水中での環境に適した球形であり、陸上では遠近調節ができないため近視であると言われている。Lenvenson et al.(2004)、Granda and O'Shea (1972)、Bartol and Musick (2001)の顕微分光器(MSP)を用いた、

感光色素(11-cis retinal)や視細胞(無色・黄色・橙色の油球など)の研究から、海生動物としては稀なアオウミガメ・アカウミガメの良く発達した明所視の視覚構造が明らかにされてきた。また、アカウミガメの網膜からは高い解像力をもたらす中心視覚面が見つかり、底生動物の探餌に適した網膜を持っていることがBartol and Musick (2001)によって報告されている。このように個々の物質レベルの研究ばかりで、視覚系の種々の物質反応を統合した実質的な視覚感受特性についてはこれまでほとんど研究されてこなかった。

そこで本実験では電気生理学的手法でウミガメの視覚感受特性を明らかにすることを試みた。電気生理学的手法は物質反応を経て発生した電位を測定することから、より実質的な視覚感度を測定することができると考えられている。ウミガメに及ぼす光の影響を生理学的側面からも評価することは解決策を探る上で重要な手がかりとなるだろう。本実験では麻酔を用いずに行うことができ、ウミガメに対して負担の軽い非侵襲的なVEP(視覚誘発電位)測定法を行った。

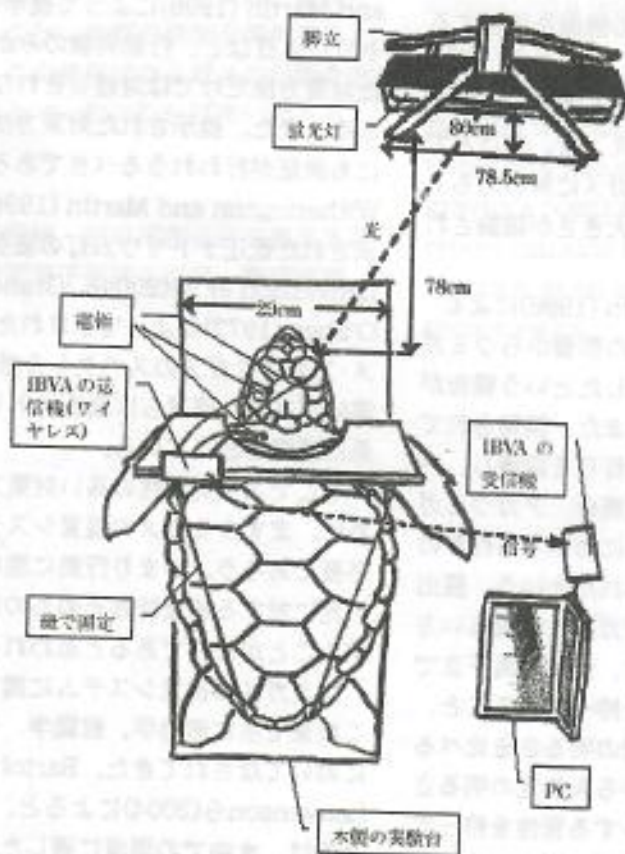


図1. 実験の横式図

Fig1. The overhead view of this experiment



## II. 材料と方法

### (1) 材料

実験には南知多ビーチランドで飼育されている2001年産まれのアカウミガメ(標準直甲長: 54.3cm, 直甲幅: 44.4cm, 体重: 約30kg)のメス個体を用いた。また、光源として蛍光灯(東芝ライテック株式会社メロウルック: 3波長形蛍光色 20形 18ワット)を用いた。

### (2) 測定手法

光刺激を受けて発生する視覚からの神経信号、つまり視覚誘発電位(Visual Evoked Potentials)を測定する「VEP測定法」を採用した。この方法はターゲットとする眼側の視神経、および視蓋(爬虫類における視覚の中樞)の上方に相当する位置に電極を設置することによって、視神経から視蓋に伝わる視覚信号を検出する。ウミガメには視交差が存在するので、Bartolら(2002)の実験を参考とし、視蓋の方の電極はターゲットとする眼とは反対側に設置した。なおリファレンスの電極はターゲットとする眼とは反対側の頸部にとった。

また視神経系は脳の下に存在する為、この方法では視覚領域以外の脳の電位、つまり脳波全体(および周囲の筋電位)も捕らえてしまうことが考えられる。実際には視覚の電位は脳波全体の中に埋もれ、脳波の一部として検出される。また、Bartol et al. (2002)は白金製の針電極を鱗板の下まで刺したが、本実験では銀塩化銀製の皿電極を鱗板上に貼った。測定にはパソコンに接続した脳波測定システム“IBVA”(クワテック株式会社)を用いた。実験の模式図は図1に示す。

### (3) 実験手順

以下にあげる条件の下で(i)明暗の変化に対する応答実験と(ii)明るさの変化に対する応答実験を行った。

実験は暗幕で外界からの光をさえぎった室内にて行い、ウミガメの測定中の動きを抑制す

るために木製の実験台にウミガメを紐で固定した。実験中、光をつけている時には目視から、光を消している時には呼吸の息の音から、それぞれウミガメが呼吸している時間を可能な範囲で記録した。

以下、明条件における明るさはウミガメの右眼の横での測定値とした。

#### (i) 明暗の変化に対する応答実験

IBVA脳波測定システムでウミガメの視覚誘発電位が測定可能であることを確かめるために、明暗に対する応答の実験をおこなった。再現性をみるために5分間隔で暗条件と明条件を繰り返し、連続的に約35分間電位を測定した。

明条件における明るさは、53Luxだった。

#### (ii) 明るさの変化に対する応答実験

第二段階として光の明るさを変えた時の視覚誘発電位を測定した。

3段階強さの光をランダムな順序(53→7→117→53→7→53→117→7→53→117; 単位は各Lux)で各5分ずつ連続的にあてて電位を測定した。なお、以下の操作を行なって3段階の明るさに調節した。

蛍光灯を1本使用し、スタンドを上向きにして7Luxの明るさにした。蛍光灯を1本使用して53Luxの明るさにした((i)の実験と同条件)。蛍光灯を2本使用して117Luxの明るさにした。

#### (4) 解析方法

データの解析には以下の4つの方法を行なった。

##### 【解析方法①】

FFT解析前の生データを比較する。

##### 【解析方法②】

IBVAシステムによってFFT解析した結果(時間・電圧(活動量)・周波数が同時に3次元映像で表示される)を比較する。

##### 【解析方法③】

解析方法②の結果を周波数ごとに分け2次元表示した結果を周波成分ごとに比較する。

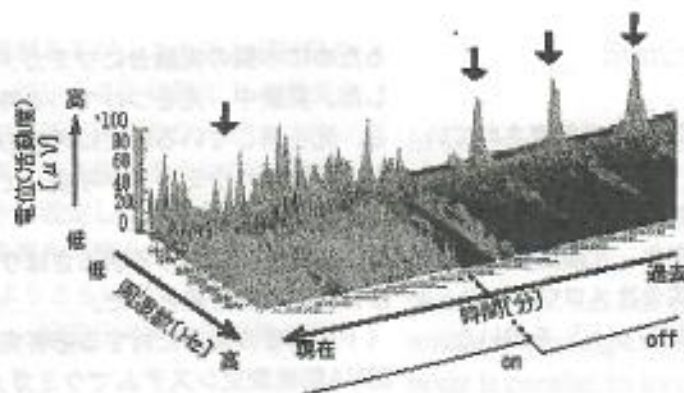


図2. 暗条件から明条件に変化させた時の解析方法②の結果

FFT解析の結果を時間・電位(活動量)・周波数の3次元で表示する。下向きの矢印は呼吸が観察された箇所を示す。右下の時間軸の中での段差は蛍光灯のオン・オフを示す。蛍光灯点灯直後にピークの密度と大きさが急増していることがわかる。

Fig2. Time series graph of electroencephalographic activity in light and dark period

#### 【解析方法④】

解析方法③の結果をさらに刺激時間ごとに区切り、その間の電圧(活動量)の総面積を総活動量として比較する。刺激時間が実験操作の関係できっちりと5分間にできなかった所もあったので、5分間に規格化し、5分あたりの総面積として比較する。

### Ⅲ. 結果および考察

#### (i) 明暗に対する実験

解析方法①、②(図2参照)、③から蛍光灯点灯後にピーク密度と大きさの急増がみられた。その急増は1回目の光刺激と3回目の光刺激に対しては蛍光灯点灯直後にみられたが、2回目の光刺激では点灯後約2分間はピークが抑えられていて、その後急増がみられた。この最初の約2分間は、ウミガメが眼を閉じていたことが観察された。この間は、眼を閉じていたことによって光情報の伝達が妨げられていたのではないかと考えられる。これらの結果から光を眼が開いた状態で感じるとピーク

ク密度と大きさが増加することが確認された。

点灯後急増したピークは、次第に(約2分半後)共通して小さくなり数も減少した。これは3回の光刺激に対して共通にみられた。(再現性があった。)この間、眼を動かす動作が観察されなかったことから、「順応」のような現象がおこっていた可能性が示唆される。ネコや人間など他の動物においても眼を全く動かさないでいると、視覚の順応がおこり、物体が次第に見えなくなることが知られている。アカウミガメにおいては約2分半で視覚の順応がおこるのかもしれない。またピークが減少したのは、on反応の上部だけしか検出できなかった可能性もあり、それが原因となっていたことも考えられる。

解析方法③によりこのようなピークの変動を周波数ごとに個別にみたところ、このピーク減少部分において、基線が上に移動しゆるやかに変動するような特異的変動(図3参照)が52.5~60Hzの単一周波成分に共通してみられた。



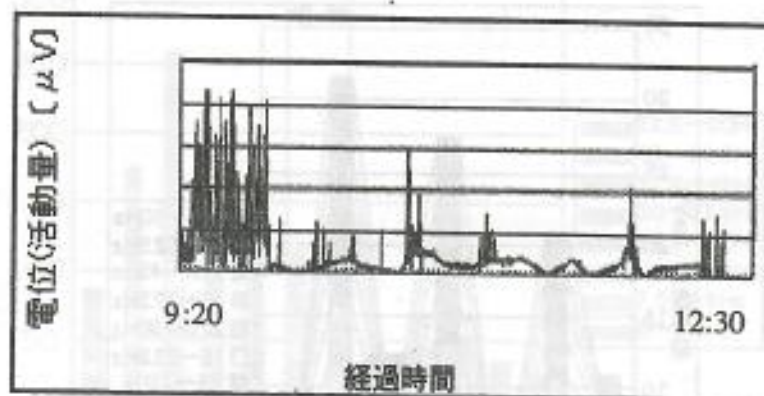


図3. 52.5~60Hzの成分にみられた特異的変動

グラフは、ある190秒間における電位の時系列変化を示す。解析方法③により、52.5~60Hzの成分に特異的変動がみられた。蛍光灯点灯後急増したピークが、次第に減少する部分において基線のゆらぎのような特異的変動がみられる。

Fig3. The unique movement in the 52.5~60Hz element following switching on a light

図4 (解析方法④) より、明条件になると総活動量が増え、暗条件になると総活動量が減ることが確認された。なお、この明条件と暗条件での変動は、特に52.5~60Hz成分で大きな差がみられた。このことと、先ほどのピーク減少部分における52.5~60Hz成分の特異的変動の結果とあわせて、52.5~60Hzの周波成分が視覚成分を特に多く含んでいる可能性が考えられる。

#### (ii) 光の明るさに対する実験

測定中、ウミガメがしっかり眼を開けている期間はわずかであるように観察された。しかし、眼がしっかりと開いていないように観察された期間においても応答がみられ、その応答はしっかりと眼を開けていた期間のものとは大きな差はなかったので、この間ウミガメは薄目であったのではないと思われる。眼がしっかりと開いていたのは2回目の7Luxの光刺激と3回目の53Luxの光刺激の間だった。この部分だけ他の部分と反応条件が違うことからこの部分を除いて図5 (解析方法④) をみ

ると、各明るさ (7~117Lux) において共通して明るく変化させると総活動量が減少し、暗く変化させると総活動量が増加する傾向がみられた。かつ、2回目の7Luxの光刺激までと3回目の53Luxの光刺激以降とではピークの量が全体的に違うことから、その前後で前半、後半に分けそれぞれ別々に考えると、前半・後半ともにそれぞれ7Luxの時に総活動量の極大値があった。

この原因として、網膜での応答はある一定の明るさまでは明るくなればなるほど大きくなることLenvenson et al.(2004)の報告にもあることから、網膜から視蓋までの間で、明るいほど大きな「側抑制」がかかることが考えられる。側抑制がかかり、実質的には7Lux付近の薄暗い明るさが視覚感度の極大であるのかもしれない。または、VEPは脳波の一部として検出されるので、視覚領域以外 (例えば思考など)の脳活動の影響も大きいと思われる。よって7Lux程度の薄暗い明るさが視覚領域以外を含めた脳神経の活動極大をもたらす明るさである可能性も考えられる。

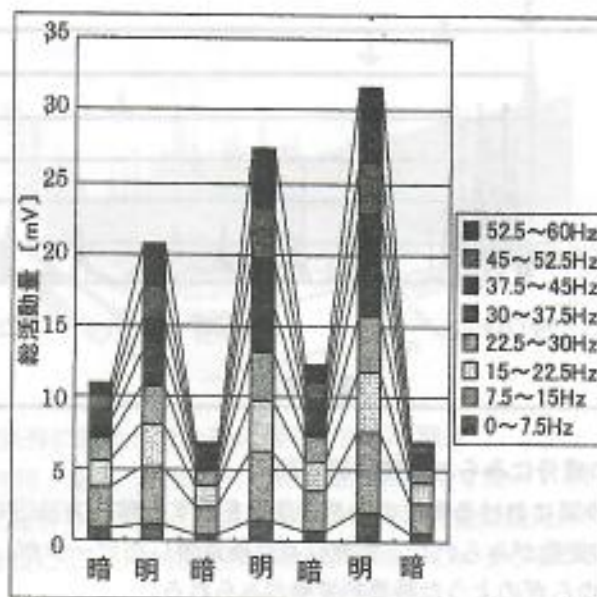


図4. 解析方法④によって得られた、各周波成分の各刺激に対する総活動量 (1)  
明条件下と暗条件下で明らかな違いがみられる。特に52.5~60Hzの成分でその差は大きい。

Fig.4. Changes in electroencephalographic activity under the repeated shift of light and dark

またはその脳波全体が、明るければ明るいほど抑制がかかる可能性も考えられる。あるいは、この実験では脳波やon反応以上に暗く変化した時に得られるoff反応も検出された可能性も考えられる。つまり、このoff反応の量の影響から、7Luxの時に総活動量の極大値がみられ、明るく変化させると総活動量が減少し、暗く変化させると総活動量が増加したことも考えられる。

視覚成分だけの影響であったとしても、視覚成分以外の脳波成分の影響であったとしても7Luxの時に極大反応が得られていることから、7Lux付近の光環境がアカウミガメにとって何かを意味する可能性が示唆される。また、人工光は7Lux程度の薄暗いものであってもアカウミガメに対して影響がある可能性が神経生理学の面からも明らかになったろう。

また、明るく変化させると総活動量が減少

し、暗く変化させると総活動量が増加する現象に対してそのLuxの変化量と総活動量の増減量に量的にはどのような関係があるかをみるために、横軸にLuxの差、総活動量の増減量をとってグラフを描いたところ、図6のようになった。図6より、Luxの減少量が小さい方が（暗く変化させる落差が小さい方が）総活動量の増加量は大きくなる傾向がみられ、Luxの増加量が大きい方が（明るく変化させる落差が大きい方が）総活動量の増加量は小さくなる傾向がみられた。このことから、ウミガメは暗く変化する場合には大きく暗くなるよりも少しだけ暗くなる方が大きく反応し、明るく変化させる場合には少しだけ明るくなるよりも大きく明るくなる方が大きく反応する可能性が考えられる。

今回の結果と自然界の環境とを照らし合わせて考えると、アカウミガメは底生動物を主食として採餌行動を行なっている。7Luxぐ



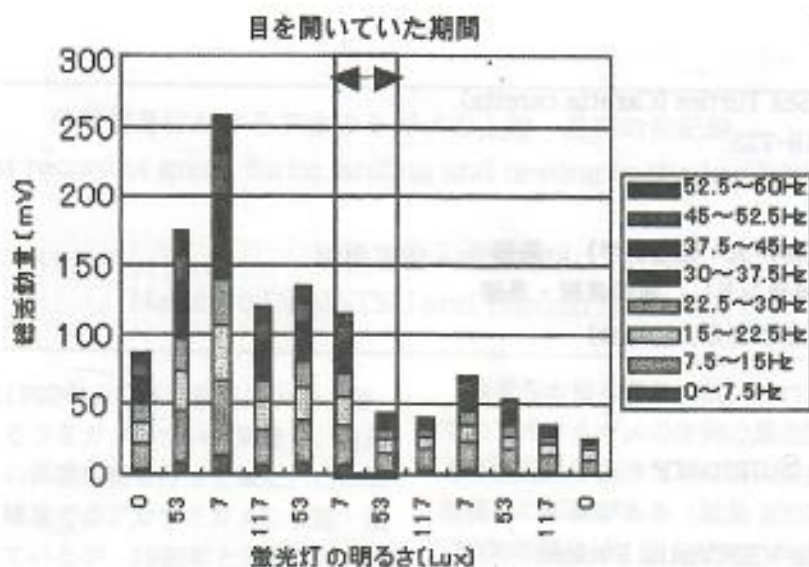


図5. 解析方法④によって得られた、各周波成分の各刺激に対する総活動量 (II) 明るくすると総活動量が減り、暗くすると総活動量が増えている。眼をしっかりと開いていた前後でも7Luxの時に極大値となっていることがわかる。

Fig5. Changes in electroencephalographic activity under the random changes in lighting intensity

らしいの薄暗い環境というのは、もしかするとウミガメが普段最もよく過ごす環境の明るさに近いのかもしれない。ウミガメが7Lux付近の環境から少しだけ暗くなることに大きく反応したのは、そうした海底の餌を見つける動作と関連しているのかもしれない。また、7Lux付近の環境から大きく明るくなることに大きく反応したのは、呼吸のために海上に上がる際に環境が急激に明るくなる場合と似ていたからかもしれない。

#### VI. 謝辞

卒業研究をするにあたって多大なるご援助、ご指導をくださった南知多ビーチランドの皆様、日本ウミガメ協議会の皆様に心より御礼申し上げます。

#### VII. 参考文献

1) Bartol, S.M., Musick, J.A., Ochs, A. L. (2002): Visual acuity thresholds of juvenile

loggerhead sea turtles. *J Comp Physiol A Neuroethol Sens Neural Behav Physiol.* 187 (12): 953-60.

2) Witherington, B.E., Martin, R.E. (1996): *Sea Turtles and Lighting*. FMRI Technical Report TR-2 pp. 1-18.

3) Lenvenson, D.H., Eckert, S.A., Crognale, M.A., Deegan II, J.E., and Jacobs, G.H. (2004): Photopic spectral sensitivity of green and loggerhead sea turtles. *Copeia* 4:908-914.

4) Granda, A.M., O'Shea, P.J. (1972): Spectral sensitivity of the green turtle (*Chelonia mydas mydas*) determined by electrical responses to heterochromatic light. *Brain, Behav. Evol.* 5:143-154.

5) Bartol, S.M., Musick, J.A. (2001): Morphology and Topographical Organization of the Retina of Juvenile

Loggerhead Sea Turtles (*Caretta caretta*)  
 . Copeia 3:718-725.

中田・尾川 (神戸大・発達科学)、黒柳  
 (南知多ビーチランド)、亀崎直樹・島達  
 也 (日本ウミガメ協議会)

Summary

We studied the VEP(Visual Evoked Potential) recorded from a loggerhead turtle. The VEP was linked with light stimuli in the dark. The results of VEP suggested that 52.5~60Hz elements were more closely related with visual system than the other elements. It was also suggested that visual adaptation in the turtles may occur about 2.5 minutes later. Moreover this electric physiological study supported the many previous reports on behavioral observation that turtles reacted to even dim artificial lights.





## 伊豆諸島におけるアオウミガメの上陸・産卵の初記録

The first record of green turtle landing and nesting in the Izu-Islands, Japan

植松正宏・成瀬裕昭

Masahiro UEMATSU and Hiroaki NARUSE

筆者らは1992年より伊豆諸島に上陸・産卵・漂着するウミガメについて調査し、産卵地や稚ガメの保護活動を行って来た。この間毎年、伊豆諸島でのアカウミガメの上陸・産卵を確認しているが、1996年と2004年には新島と大島でアオウミガメの上陸・産卵を確認した(図1)。日本列島でのアオウミガメの産卵地は、小笠原諸島および南西諸島であり、今まで伊豆諸島での確認や報告はされていなかった。アオウミガメの繁殖の北限の記録として残すことにする。

### (1) 新島での上陸

伊豆諸島で筆者らがアカウミガメの上陸を確認しているのは、大島・新島・神津島・三宅島・八丈島である。この内の大島と新島では、ほぼ毎年上陸を確認しているが、上陸数は合計で数回から十数回程度である(植松・成瀬 2002)。1996年10月22日、新島の羽伏浦海岸で植松がアカウミガメの上陸跡とは異なるウミガメの上陸跡を確認した。上陸跡は、種によって異なる(平手 1994)ので、写真に記録し、当時小笠原海洋センター所属の菅沼弘行氏に、後日アオウミガメの上陸跡であると種の同定をして頂いた。島の東側にある羽伏浦は、砂浜の延長が約6 kmあり、新島最大の白砂の浜である。この上陸跡は、羽伏浦の南寄りに位置する堀切階段口から約100 m南の場所にあり、幅は約1 m。汀線から浜を約3.8 m上った所にピットが1カ所あったが、産卵はしていなかった。

### (2) 大島への上陸

筆者らの知る限りでは、これまで日本列島でのアオウミガメの産卵の最北限は、1999年6月鹿児島県薩摩半島南端に程近い額娃町石垣海岸の記録がある(鮫島 2000)。

2000年夏には、伊豆諸島の神津島で海に向かってアオウミガメの稚ガメが目撃・保護されたと新聞報道された(東京七島新聞 2000)。しかし、筆者らが死んだ個体を調べてこれはアカウミガメの誤報であると確認している。

2004年6月28日早朝、大島のオオバエの浜で成瀬がアカウミガメとは異なる上陸跡を確認した。島の西側にある長さ約300 mのこの浜の中央部に上陸跡があり、幅が約125 cmで、アオウミガメの特徴が見られた。ピットの痕跡は5カ所あったが、砂の層が浅く、産卵できずに帰海したものと推察された。

### (3) 産卵・孵化

2004年に大島オオバエの浜で上陸が確認された翌日の6月29日午前3時頃、オオバエの浜からは500 m程の磯を隔てた南隣の砂ノ浜(さのはま)で成瀬が上記の同一個体と見られる幅約125 cmの上陸跡を発見した。この浜は、長さ約500 mで大島最大の砂浜であり、上陸跡は浜のほぼ中央部の満潮線から約42 m上った淵れ沢(宮ノ沢)の平らな砂上へ達していた。親ガメは、しばらくすると産卵巣のカモフラージュを終え海へ向かって這い始めたので、身体測定と標識の装着をさせて貰った。直甲長103.5 cm。直甲幅82.0 cm。美しい深緑色の背甲が、明るくなり始めた波間に沈むと、すぐに姿が見えなくなった。

産卵巣は深く、地表から卵塊の上端まで約55 cm、底は約75 cm。卵の直径は平均



図1. 伊豆諸島の新島羽伏浦と大島砂ノ浜の位置  
 Fig. 1 Location of the landing and nesting sites in Izu-Islands.

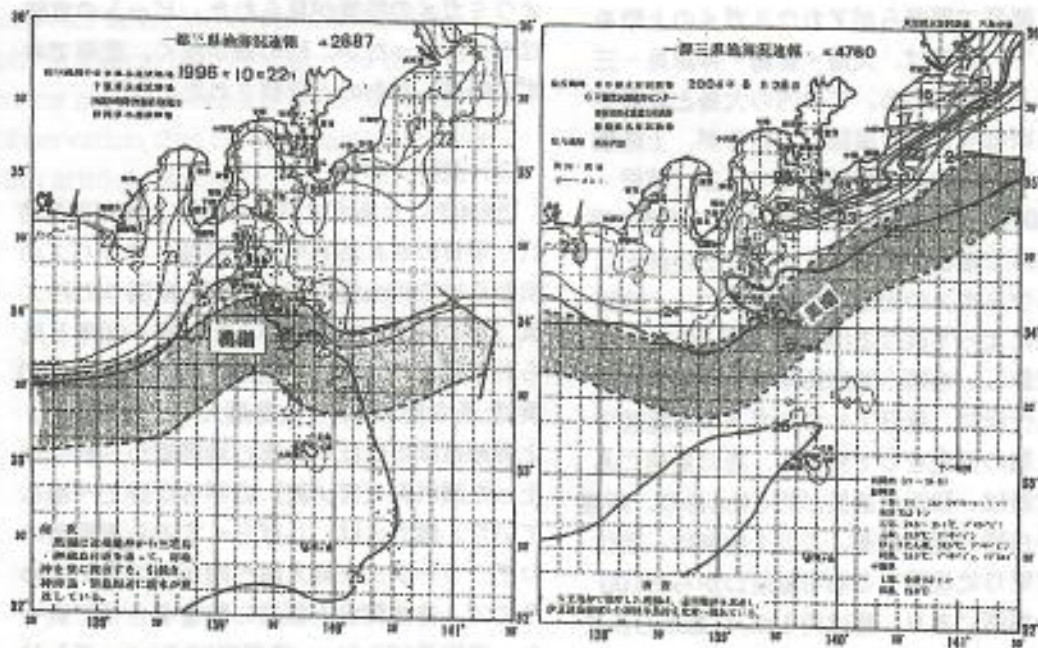


図2. 1996年10月22日および2004年6月28日の海面水温と黒潮流路  
 Fig. 2 Surface temperatures and passage of Kuroshio current in late October 1996 and late June in 2004.



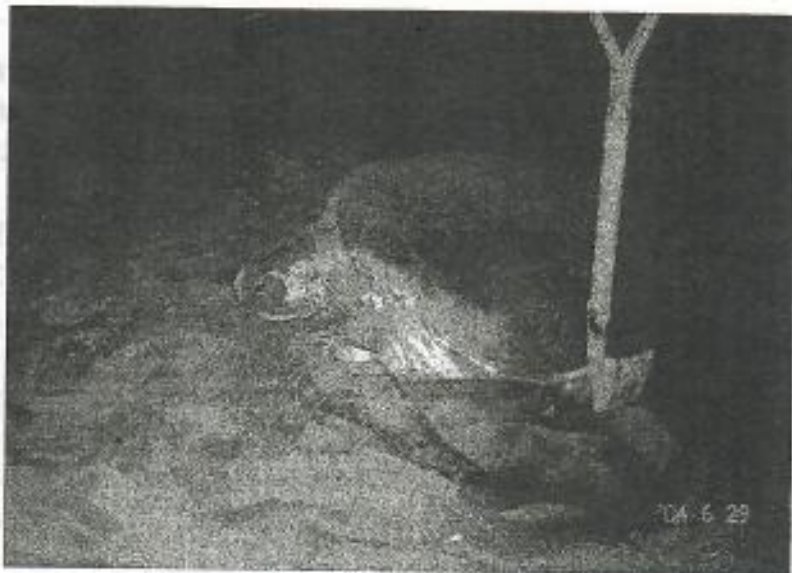


図3. 2004年6月29日に伊豆大島で産卵したアオウミガメ  
Fig. 3 The green turtle nesting on a beach of Izuoshima island.

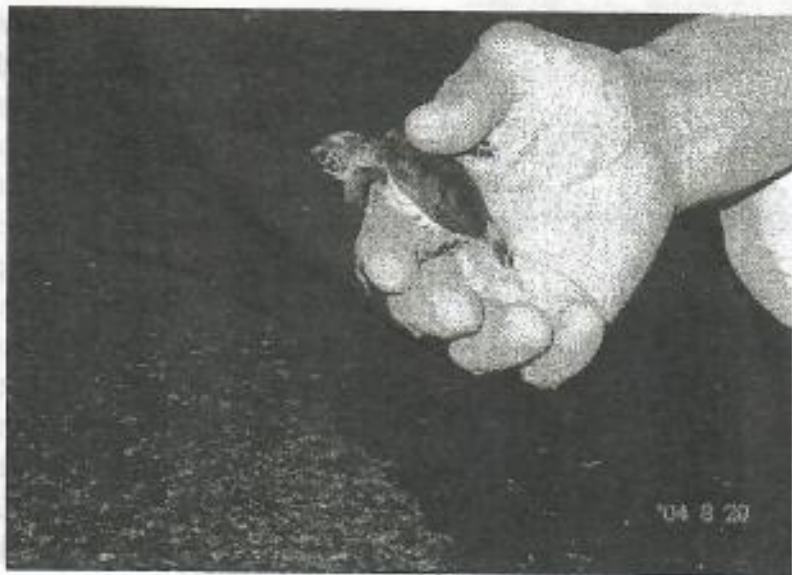


図4. 伊豆大島で生まれたアオウミガメの孵化幼体  
Fig. 4 A green turtle hatchling from the clutch nested in Izuoshima island

45.4mmと大きく、134個あった。産卵場所は、浸水や流失の可能性の高い場所であったので、近くの安全な場所へ移植し保護柵で囲んだ。

砂ノ浜海岸は、玄武岩火山灰からなる黒砂であるため熱の吸収がよく、地温が高くなる傾向がある。アカウミガメの場合、産卵から脱出までの日数が45日程と短期間となり、その際の脱出率は低くなることが多い。2004年の夏は猛暑で、産卵巣の深さの砂中温度が35°Cに近くなる日が多くなったため、保護柵上に寒冷紗（ネット）を張って日陰を作り、時には夕方に散水して地温の上昇を押さえる処置をした。それでも、産卵後47日目の8月14日の夜、初脱出があり、19日の朝までに合計60匹の稚ガメが脱出して、太平洋へ旅立った足跡を確認した。後日、産卵巣内を調べると7匹が脱出できずに残っていた。

#### (4)考察

伊豆諸島近海には年間を通してアオウミガメが棲息しているが、上陸・産卵はごく少ないながらも確認できた。このことから、伊豆・房総半島での上陸の可能性も考えられた。

ウミガメの繁殖行動には海水温が関係すると言われるので、上陸・産卵を初確認した日の水温を調べてみた。東京都水産試験場等が発行した海況速報によると、近海の水温は新島が24°C、大島が23°Cであった（図2）。

伊豆諸島では近年、砂浜の侵食対策などとして離岸堤や人工リーフが設置される海岸が増えている。このような海岸では、ウミガメの上陸が見られなくなったり、減少している。アオウミガメが上陸した羽伏浦と砂ノ浜には、上記のような施設の設置がなく比較的自然が保たれているので、今もウミガメの上陸があるものと思われる。東京都下の伊豆諸島では特に貴重な海岸となっている。

#### 引用文献

植松正宏・成瀬裕昭. 2002: 伊豆諸島. 日本のアカウミガメの産卵と砂浜環境の現状 (亀崎直樹ほか編), pp.152-155, 日本ウミガメ協議会.

平手康市. 1994: 足跡から種を判別する. ウミガメは減っているか, 紀伊半島ウミガメ情報交換会, pp.35.

鮫島正道. 2000: 日本本土におけるアオウミガメの産卵の初記録. うみがめニュースレター, (46), pp.7-8.

東京七島新聞社. 2000.9.8: カメふ化して海へ. 東京七島新聞, (1726), pp.2.

植松 (新島赤海亀会)

成瀬 (みどりの地球大好き会)

#### Summary

The northernmost nesting of green turtle in Japan was recorded in Ishigaki beach, Ei, Kagoshima prefecture, Kyushu in 1999. In this paper we report that first record of the green turtle landing and nesting in the Izu-Islands, which are the new northernmost nesting beaches for the western Pacific green turtles. A false crawl of green turtle was found on Habushiura beach of Nijima Island on October 22, 1996. On June 28, 2004 we found a false crawl of green turtle on a beach of Izuoshima Island. Early in the morning of the next day, we found a nesting green turtle (SCL: 1035mm, SCW:820mm). In order to save her eggs nested close to the sea, we relocated the clutch (134 eggs) to the safe area and shaded. Fortyseven days later, we found the first emergence event.



Abstract of Papers Presented in 15th Japanese Sea Turtle Conference  
in Tuyazaki

西九州4県におけるアカウミガメの上陸・産卵  
に関する基礎調査

吉崎和美（西九州ウミガメ会議）

西九州ウミガメ会議： 恋の浦ウミガメの会  
（福岡県）、岩崎富一（岡垣町）、北部九州ウ  
ミガメ調査チーム（佐賀県）、なんでも探検隊  
（長崎県）、天草ウミガメ協議会（熊本県）

西九州地域におけるアカウミガメの上陸・産  
卵状況の全体像は不明であり、そのための基礎  
調査を行った。調査内容としては、過去も含め  
た砂浜の有無と現状・上陸産卵状況・人工構造  
物の把握などを行った。

今回の調査で確認された砂浜は、過去も含め  
141ヶ所であった。その中で過去10年間にお  
ける上陸産卵地としての砂浜は37ヶ所であ  
った。しかし、上陸産卵可能な砂浜は75ヶ所ほ  
ど存在している事も判った。また、人工構造物  
に対する調査では、最も多いのは「海岸護岸」  
の82ヶ所、次いで「港」71ヶ所、「海岸道  
路」41ヶ所、「建物」28ヶ所、「突堤」2  
5ヶ所などであった。上陸可能な砂浜に対して  
その上陸産卵が一部にしか見られない状況が、  
人工構造物と関連があるかは今後の課題とな  
った。また今回、西九州4県で残された自然海岸  
としての砂浜は、対馬地方2ヶ所、五島列島  
1ヶ所、天草地方3ヶ所の、合計6ヶ所しか残さ  
れていない事が確認され、如何に私たちが海岸  
を人工化してきたかを突きつけられた調査結果  
となった。

各地域の砂浜の状況として、北九州から佐賀  
県東部においては、数キロに及ぶ大規模な砂浜  
が連続的に広がっており、ほとんどの砂浜には

砂防としての防風林や防風柵の設置が見られ  
た。しかし、一つの砂浜において、上陸産卵  
に適した状態で残された場所は一部に限ら  
れ、様々な人工構造物の影響を受けていた。  
また、この地域の砂浜で優先する海岸植物  
は、コウボウシバ、ケカモノハシなどでハマ  
ゴウは砂に抑えられる傾向にあった。また、  
佐賀県西部方面には砂浜の発達が見られな  
かった。

杓岐・対馬地方では、今まで情報がなかつ  
た新たな砂浜の確認や、上陸可能な砂浜も存  
在したが、近年での上陸・産卵の情報は確認  
できなかった。

五島列島では、転石海岸が多く存在し、残  
された砂浜も多くが人工構造物の影響下にあ  
た。島嶼以外の長崎県内では、南部地域に砂  
浜が存在していたが、他の地域と同様に人工  
構造物や海水浴場による影響下であった。

熊本県内では天草地方に砂浜が存在する  
が、消失した砂浜も多くアカウミガメにと  
っては厳しい環境にあった。また、長崎・熊本  
地域の砂浜は、北部九州から佐賀県に比べて  
小規模な砂浜が点在する状況にあり、台風に  
よる孵化脱出への影響が強いと考えられた。

西九州地域は、対馬暖流沿いに存在するア  
カウミガメの上陸産卵として特異な地域であ  
るが、その現状は非常に厳しい環境にあるこ  
とが判ってきた。今後は、残された上陸産卵  
地としての重要な砂浜の、現状と保全対策に  
対する取り組みを行っていききたいと考えてい  
る。

＜日本ウミガメ協議会からのお知らせ＞  
Information from the Sea Turtle Association of Japan

日本ウミガメ協議会事務局  
Sea Turtle Association of Japan

1. 職員の異動について

奄美大島調査員を経て、大阪事務局に勤務しておりました水野康次郎が、筑波大学大学院に社会人枠で入学し、この4月よりつくばに行きました。協議会に在職のまま大学院生となりましたが、講義などが無いときは大阪へ戻って事務をしたり、奄美諸島の調査に出かける予定ですので、今後ともよろしくお願い致します。

2. インターンシップ生の採用について

当協議会が教育顧問をしている、大阪コミュニケーションアート専門学校を今春卒業した4名のフレッシュマン（うち2名はウーマン）を、1年間のインターンシップ生として採用しました。彼らには、ウミガメを始めとする生物の調査・研究の基礎や、社会人としての基本的なマナー・ルール、組織人としての規律などを修得してもらいます。時には電話当番もさせますので、対応にたどたどしいところや、不手際があった場合は、我々の指導の不行き届きです。何とぞご容赦いただきますよう、お願い申し上げます。

3. ウミガメ新グッズの紹介

当協議会のオリジナル商品に、新たに、オサガメのピンバッジ（税込¥525）、オサガメのストラップ（税込¥630）、タイマイのストラップ（税込¥630）、ウミガメ日本手拭い新バージョン（税込¥525）が加わりました。ウミガメマニアを自称される方はもちろん、既にシリーズをお持ちの方、是非ともご購入下さい。商品のお申し込みお問い合わせは、電話（072-864-0335）またはインターネット（<http://www.umigame.org>）まで。

4. 新刊紹介

『ジェーン 屋久島、伝説のアオウミガメ』昨年12月5日に放送されました同タイトルのテレビ番組（NNNドキュメント04）が本になりました。ジェーンを見守る人々とウミガメ保護の実状がしっかりと描写されています。残念ながら放映を見逃したという方にはおすすめの一冊です。なお、本の売上近の一部はウミガメの保護活動の基金として役立てられるそうです。

KYT鹿児島読売テレビ

1260円（縦18.2cm/横15.5cm：95ページ）

南方新社



オサガメのストラップ



新作の日本手拭い



### <編集後記>

今回は、編集委員会から少し積極的に原稿を集めましたところ、予想以上に多くの方からご寄稿いただきました。どうも有り難うございました。これからは、どしどし声をかけるようにいたします。本号に掲載できなかった分については次号で紹介したく思います。

まもなくまた長いウミガメシーズンが始まります。皆さん、今年も健康で充実した日々を送られ、秋にはまた興味深い成果が盛り込まれた原稿を多数お寄せいただけますことをご期待申し上げます。

(松沢)

### <寄付のお願い>

現在、『うみがめニュースレター』は、小笠原村からの助成と日本ウミガメ協議会からのご援助および読者の皆様からのご寄付で無料で発行を続けています。発行部数が年々増加していく中で、引き続き財政的には厳しい状況にあります。今後も発行を継続できるよう、皆様からのご寄付をお待ちしております。

(郵便振替口座)

口座番号 10120-25391001

加入者名 うみがめニュースレター編集委員会  
〒100-2101 東京都小笠原村父島字屏風谷  
小笠原海洋センター内

### <寄付の御礼>

下記の方々から、寄付金を頂戴いたしました。  
どうも有り難うございました。

松井 清和

工藤 勝宏

(順不同：敬称略)





# うみがめニュースレター

UMIGAME NEWSLETTER OF JAPAN

No. 69 2006



## 目次

2005年ウミガメ運報.....	日本ウミガメ協議会事務局.....	2
編集後記.....		46

## うみがめニュースレターPDF配信についてのお知らせとお願い

前号でもご案内しました通り、今号から、本誌のPDF配信を本格化させていきます。専用サイト(<http://www4.osk.3web.ne.jp/~umigame/J/katsudousyukai/newsletter.htm>)からネット上でデジタル版(PDF版)うみがめニュースレターのダウンロードが可能な方で、アナログ版(紙に印刷され郵便で届く旧来の冊子)の配信中止をご希望の方は、お手数ですが、[newsletter@umigame.org](mailto:newsletter@umigame.org)までご連絡ください。タイトルに、「アナログ版不要」とご記入し、本文には、受取人氏名(封筒に明記してある個人名または団体名)を明記してメールを送信してください。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

### 表紙写真

成城大学の小島孝夫氏に案内してもらい訪れた千葉県銚子市内御嶽神社にあるウミガメのお墓。全国各地にカメ塚が存在するが、小島氏の調査によると、銚子市では特に海岸に死亡漂着した個体や混獲死したと思われるウミガメを葬ったと思われる墓が数多く存在するとのこと。写真の例は、「神愛亀之霊 大正三年八月廿二日 西廣良吉」とある。奉納者は旋網を操業していたことから、混獲個体を奉ったものと推測される。



2005年ウミガメ速報  
A Circular Notice on Sea Turtles in 2005.

日本ウミガメ協議会  
Sea Turtle Association of Japan

●ウミガメ速報05-01 (1/11)

\*\*\*\*\*  
魚目漁業共同経営団 橋本峰夫さんより (12/20)

標識のついたウミガメを2頭見つけましたので、お知らせします。

1. 再捕日: 2004年11月19日、再捕場所: 長崎県南松浦郡新上五島町丸郷 沖桂、再捕者: 小倉重喜さん、状況: 混獲、全長: 100cm(目測)、標識: 42230、生死: 生、処置: そのまま放流 事務局より; 本個体の履歴です。捕獲状況: 混獲、放流日: 2004年11月15日、放流場所: 長崎県生月漁協前、放流者: マリンワールド海の中道 宮地勝美さん、種: アオウミガメ、性: 不明、サイズ: 甲長75cm

2. 再捕日: 2004年12月17日、再捕場所: 長崎県南松浦郡新上五島町似首字二番地先、再捕者: 魚目漁業共同経営団、状況: 混獲、全長: 50-60cm(目測)、標識: 44007・44008、生死: 生、処置: そのまま放流 事務局より; 本個体の履歴です。捕獲状況: 混獲、放流日: 2004年12月10日、放流場所: 長崎県生月島 浜沖定置沖、放流者: マリンワールド海の中道 宮地勝美さん、種: アオウミガメ、性: 不明、サイズ: 甲長43cm

\*\*\*\*\*  
長崎県五島漁協 岐宿支所平野敏文さんより (12/21)

アカウミガメの再捕情報です。再捕日: 2004年12月21日、再捕場所: 五島列島西側の岐宿 福江島 定置網にて、再捕者: 平野敏文、メジャーによる計測値: 曲甲長: 41cm、曲甲幅: 35cm、体重: 8.8kg、処置: 生きて放流、事務局より; 本個体の履歴です。捕獲場所: 長崎県生月島の浜沖定置、放流日: 2004年12月10日、放流場所: 浜沖定置沖、連絡者: 宮地勝美、種: アオウミガメ、直標準甲長: 43cm、標識番号: 44007・44008

\*\*\*\*\*  
(有)高根漁業 宮内一朗さんより (1/5)

標識のついたアオウミガメを見つけたので、

お知らせします。

再捕日: 2005年1月5日、再捕場所: 鹿児島県川辺郡坊津町秋目湾、再捕者: 宮内一朗、状況: 混獲、サイズ: 曲甲長88cm、曲甲幅83cm、標識: J34516、性: オス、生死: 生、処置: 測定後そのまま放流 事務局より; 本個体の履歴です。捕獲状況: 混獲、放流日: 2004年5月19日、放流場所: 鹿児島県川辺郡笠沙町野間池、放流者: 宮内叶さん、種: アオウミガメ、性: オス、サイズ: 標準直甲長83.9cm、最小直甲長83.5cm、直甲幅67cm、曲甲長89cm、曲甲幅86cm

\*\*\*\*\*  
福岡県津屋崎町うみがめ課 山下真智子さんより (1/6)

12月16日ウミガメの死骸が漂着しているとの連絡を受け、下記のとおり対応しましたので、ご連絡いたします。

1 発見日時: 平成16年12月16日(木)15:00、2 発見者: 広島立德氏(勝浦塩浜区)、3 発見場所: 福岡県津屋崎町恋の浦海岸、4 発見時状況: イカ漁のため、海岸へ行ったところ発見、5 連絡内容: 役場うみがめ課にTELにて連絡、6 確認内容: 役場職員、いきいき夢の会、恋の浦ウミガメの会で調査を行う。調査後、必要な部位以外は海岸に埋葬。①種類: アオウミガメ、②死因: 不詳、③外傷: 甲羅(剥離)、頭部欠損、前足白骨化、④測定値: 標準直甲長38.2cm、直甲幅

32.9cm、⑤性別: 不詳、⑦その他: かなり腐食  
\*\*\*\*\*  
愛媛大学沿岸環境科学研究センター、阿南弥寿美さんより (1/9)

昨年末に愛媛県保内町にてアカウミガメがストランディングしましたので、体サイズ等のデータをお知らせいたします。種: アカウミガメ、発見日: 2004年12月28日、場所: 愛媛県保内町夢永海岸、発見時の状況: 2004年12月28日、保内町夢永海岸(瀬戸内海側)に漂着。発見時は既に死亡。腐敗は見られないが口から血を流してい



る状態であった。29日に愛媛県総合博物館の山本氏が回収、愛媛大へ搬送。現在は愛媛大学の冷凍庫に保存。2月上旬に解剖予定。その後、愛媛県総合博物館にて剥製化の予定。標準直甲長：79.0cm（専用ノギスで計測）、直甲幅：61.0cm（専用ノギスで計測）、体重：73kg、その他：甲羅にフジツボ。

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-02 (1/22)

\*\*\*\*\*

読売中部朝刊(1/6)より

熊野市から鶴殿村に至る七里御浜は、二十数キロにわたって砂浜が延々と続く。緩やかに、そして伸びやかに弧を描く美しい海岸は、熊野古道の「浜街道」とも呼ばれ、熊野詣での人々が行き来した。その海岸線がここ二十年で大きく変ぼうしている。「余りに貧弱になってしまい、見るのもつらい」。寄せては返す波を眺めながら、「井田海岸を守る会」の尾崎強会長(68)(紀宝町井田)は胸を痛める。七里御浜の最南端にある同海岸は特に深刻だ。一九六〇年代、井田海岸の浜は幅が百メートル以上あったという。地引き網の網元が並び、御浜小石を拾って生計を立てる人もいた。子どもたちは沖合の小島・梶鼻王子に歩いてわたって遊び場になっていた。浜全体が活気に満ちていた。尾崎会長は井田海岸から三百メートルほどのところで生まれ育った。「浜の大きな松の木は勇ましく、自慢の浜だった」。しかし、今は網元の姿は消え、梶鼻王子も離れ小島となった。

浸食の大きな原因は、一九七六年に着工した鶴殿港の建設だといわれる。それまでは、熊野川上流から砂利が運ばれ、波に流される分を補給してきた。さらに八六年、沖合に向けて突堤が完成すると、浸食は顕著になった。河口部の水の流れが変わり、港の北に広がる浜には、それまでのように砂利が流れてこなくなった。

さらに、上流部でのダム建設が拍車をかけた。現在、浜の幅は広いところでも五十メートル程度に狭まり、ひどいところでは堤防の間際まで波が来ている。昨年九月の台風21号でも、海岸沿いを走る国道42号線やJR紀勢線が波に洗われた。これ以上浸食が進めば、高波が直接、道路や鉄道を襲い、民家にも被害を与えかねない。尾崎会長らはシンポジウムを開くなどして、県や国に対策を働きかけている。県は八七年から、井田海岸沖の海中にコンクリート製ブロックの設置を始めた。長さ二百メー

ル、幅三十メートル、高さ十メートル程度の箱形のもの、これまでに十基沈めた。二〇一四年度までに十四基を設置する予定だ。

しかし、食い止めるのが精いっぱい状況で、回復にはつながっていない。県港湾・海岸室の岡崎賢一主幹は「浜に砂利が供給されるような抜本的な保全策が必要だが、現状では決め手がない」と話す。尾崎会長は、だれよりも井田海岸に愛着を持っていると自負する。「地域の人たちと一緒に海岸を守り、次世代に引き継ぐのが我々の責任だ。このままでは生活が脅かされる」と力を込める。七里御浜を含む熊野古道は昨年七月、世界遺産に登録された。「人類共通の宝」になった浜の問題は、地域だけの問題ではない。

産卵ウミガメも泣く 上陸数は激減 狭い砂浜場所なく 井田海岸のある紀宝町は、全国で初めてウミガメ保護条例を制定した。産卵のために、海岸にやってくる親ガメ、孵化(ふか)した子ガメを、町ぐるみで守ろうというものだ。産卵シーズンには、町民が保護監視員として海岸を巡回する。そのウミガメが来なくなっている。保護条例を制定した一九八八年には三十七頭が上陸し、二十頭の産卵を確認したが、年々減少している。九七年には一頭も上陸せず、昨年も二頭しか確認できなかった。その二頭も産卵せずに海に戻っていった。井田海岸は砂利の浜だが、陸に近い部分には砂浜がある。ウミガメは上陸後、砂浜まで行って産卵する。しかし、浸食が進むにつれて、砂浜の部分も狭くなっている。昨年上陸した二頭も、浜を歩きまわったが、産卵場所を見つげられず、海に引き返したとみられる。「砂浜を求めてさまよい歩いた足跡を見て、心が痛くなった」。ウミガメ保護監視員の萩野進也監視員(50)は、申し訳なさそうに話した。監視員は六人。産卵期の六、七月の夜間に井田海岸をパトロールし、上陸するウミガメがいないか、卵を産みつけた跡がないか、懐中電灯を持って歩く。卵が見つかるか、保護のため掘り出してふ化場に移す。萩野さんは商工会で働く傍ら、監視員制度ができる一年前から独自でパトロールを始めた。同町でのウミガメ保護運動の火付け役ともいわれる。卵を盗まれないように警戒するほか、浜に乗り入れて走り回る四輪駆動車のドライバーを注意した。猛スピードで走ってくる車にはおそれそうになったこともあった。萩野さんは「ウミガメの上陸頭数は海岸の自然の度合いを示すバロメーターだと



思う」と話す。井田海岸では三十二頭が上陸した九一年以降、二十頭以上が上陸した年はない。産卵頭数も九一年の二十一頭を最後に十頭以下にとどまっている。「このまま海岸浸食が進めば、ウミガメの来ない海岸になってしまう」。萩野さんは危機感を募らせる。それだけに、海岸にやってくるウミガメを、これまで以上に保護していこうと考えている。(岩本育久、奥村圭)◇ 県内にはウミガメやスナメリなどの調査に取り組む団体がいくつかある。志摩半島野生動物研究会は、志摩半島を中心にウミガメの上陸や産卵、孵化(ふか)状況の調査、フェリーを利用したスナメリの目視調査を行っている。また、三重大学のウミガメ・イルカ調査保護サークル「かめっぷり」も北、中勢地区でウミガメの産卵調査を実施している。柵(さく)を設置して卵を保護しているほか、海岸に打ち上げられたウミガメやスナメリの漂着死体を調査している。

\*\*\*\*\*

#### ●ウミガメ速報05-03(2/1)

\*\*\*\*\*

沖繩・西表島 嘉陽 恵美子さんより(1/18)

ウミガメのストランディングがあったのでお知らせします。発見日時:1月18日(火) 発見場所:竹富町西表島千立(ほしだて)の砂浜 犬の散歩中に漂着しているのを発見し、黒島研究所に連絡。以下、連絡を受けた黒島研究所の稲谷より翌19日、別件で石垣島に滞在している愛媛大学の阿南さん高木さんとともに現地に赴き確認してきました。種類:アオウミガメ 性別:オス 標準直甲長105.8cm 直甲幅80.2cm 外傷:左前足関節脱臼、ロープが結んである。備考:内臓の腐敗がかなり進んでいた為、胃や腸の内容物は詳しく見る事ができませんでした。

\*\*\*\*\*

#### ●ウミガメ速報05-04(2/15)

\*\*\*\*\*

津原崎町いきいき夢の会 上田清成さんより(1/16)

新年最初のストランディング情報です。今回は、生きたままのアカウミガメの幼体のストランディングです。発見日:2005年1月16日AM8:20頃、発見場所:福岡県福岡海岸にて、種:アカウミガメ、発見者:草野健一、サイズ:甲長89mm、幅:83mm、体重:141.4g、全長:1247mm、海水温度:11℃、保

護場所:水産高校、発見時の状況:海岸を散歩中に波打ち際で動かなくなった子ガメを発見との事、

\*\*\*\*\*

千葉県 桜井涼子さんより(1/23)

ストランディングがありましたので報告します。日時:1月22日朝、場所:千葉県館山市平砂浦海岸、確認者:桜井涼子さん、種:アカウミガメ、測定値:甲長75cmほど備考:前日に話を聞いたので探しに行き確認、目立った外傷は無

\*\*\*\*\*

千葉県 武田真弓さんより(1/24)

ストランディングがありましたので報告します。

①日時:2005年1月2日、場所:千葉県館山市洲崎、種:アカウミガメ、目測で80cm位、②日時:2002年の夏季、場所:千葉県館山市西川名漁港より東に磯を5分位歩いた波打ち際、種:アカウミガメ、目測で60cm位、備考:見つけたときはカラスが沢山たかっており、頭がありませんでした。

\*\*\*\*\*

池田幸治さんより(1/24)

海でサーフィンをしている時にアカウミガメの子供の死骸が浮いていましたので報告します。日時:2005年1月22日、場所:福岡市東区三苦海岸、種:アカウミガメ、測定値:目測値で甲長11cm位、甲幅10cm位、備考:発見時は沖合い20m位のところでした。目立つ外傷は無く、死後だいぶたっていたものと思います。全体的に緑のヨケのようなものに覆われていました。また、甲らの尾側に貝のようなものがついていました。

\*\*\*\*\*

魚目漁業共同経営団 橋本峰夫さんより(1/24)

標識のついたウミガメを見つけましたので、お知らせします。再捕日:2005年1月24日、再捕場所:長崎県南松浦郡新上五島町似首字 4番漁場、状況:混獲、全長:100cm(目測)、標識:44023・44024・37708、生死:生、処置:そのまま放流

事務局より:本個体の履歴です。今回が2回目の再捕でした。①混獲日:2005年1月16日、混獲場所:長崎県平戸市平戸島と生月島間の海峡、種:アカウミガメ、サイズ:標準直甲長82cm、直甲幅63cm、標識:37708(インコネル)装着、放流者:綾香良浩さん ②混獲日:2005年1月17日、再捕場所:松本定置(長崎県生月島)、放流場所:生月漁協前、サイズ:標準甲長85cm、標識:44023・44024(プラスチック)装着、放流者:マリンワールド海の中道 宮地勝美さん



\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-05 (2/18)

\*\*\*\*\*

静岡県石津 橋ヶ谷金吾さんより (1/7)

アカウミガメの再捕情報。再捕獲日：2005年1月7日、再捕獲場所：静岡県流津市石津 定置網、再捕者：橋ヶ谷金吾、処置：生きたまま放流、メジャーによる直甲長測定値：75cm、事務局より：本個体の履歴です。捕獲・放流場所：静岡県御前崎市御前崎海岸 第3区芹沢東、放流日：2004年7月16日午後21時37分、放流者：遠洋水産研究所浮魚資源部混獲生物研究室 野別貴博、種：アカウミガメ、性：メス、直標準甲長：65.8cm、直甲幅：58.6cm

\*\*\*\*\*

のとじま水族館 桶田さんより (1/12)

標識のついたアカウミガメが発見されました。発見日：2005年1月11日、発見場所：石川県羽咋郡押水町北川尻の砂浜、発見状況：海岸打ち上げ、再捕者：中島新二、連絡者：のとじま水族館 桶田俊郎、処置：保護、備考：甲長：20.0cm、体重：1.95kg、フジツボ多数(約60個)付着、海水温9.4度。事務局より：本個体の履歴です。個体の由来：2003年にふ化し飼育後放流した個体、ふ化場所：鹿児島県屋久島 田舎浜、放流日：2004年8月8日、放流場所：鹿児島県屋久島 田舎浜、放流者：屋久島ウミガメ館、種：アカウミガメ、直標準甲長：19.9cm、直甲幅：17.0cm、体重：1.495kg、標識番号：JPN-12165、ASSO-28476

\*\*\*\*\*

福岡県恋の浦ウミガメの会 置鮎純子さんより (1/25)

1月22日ウミガメの死骸が漂着しているとの連絡を受け、下記のとおり対応しましたので、ご連絡いたします。1 発見日時：平成17年1月22日(土)午前7:30、2 発見者：清田昭明氏(福津市官司在住)、3 発見場所：福岡海岸(九電工保養所前波打ち際)、4 発見時状況：海岸を散歩中に発見、5 連絡内容：NPO法人つやざき千軒いきいき夢の会 会員山下に連絡あり。発見後24時間後に発見者が拾得。受け取り。6 確認内容：いきいき夢の会、恋の浦ウミガメの会で調査を行う。調査後、内臓部分はNPO法人日本ウミガメ協議会へ送付。外部は剥製にして「海からのメッセージ館」に展示予定。①種類：アカウミガメ②推定年齢：04年生まれ ③死因：不詳④外傷：鳥に頭部を食べられたあとがあ

る。⑤測定値：標準直甲長10.8cm、直甲幅8.5cm ⑥性別：不詳

\*\*\*\*\*

匿名希望の方より(1/26)

ストラレンジングしたウミガメを見つけましたので報告します。発見日：2005年1月26日、場所：千葉県白浜野島崎灯台の脇、発見状況：岩場の水たまりに浮いていた、生死：死、処置：放置、種：アオウミガメ、事務局より：携帯電話のカメラで撮影し、画像を送っていただいて、種を確認しました。

\*\*\*\*\*

五島水産業普及指導センター上利貴光さん、奈留町漁協伊藤さんより (1/27)

標識のついたウミガメを見つけましたので、お知らせします。再発見日：2005年1月27日、再発見場所：長崎県五島市奈留町大串早房地先、再発見者：伊藤、状況：混獲、甲長：70-80cm(目測)、標識：34157(右前)・34158(左前)、生死：生、処置：溝を出た所で放流 事務局より：本個体の履歴です。状況：混獲 捕獲日：2004年1月29日 捕獲場所：長崎県生月(加勢川定置)、放流日：2004年7月28日 放流場所：長崎県生月漁協前 放流者：マリンワールド海の中道 宮地勝美さん、種：アオウミガメ、性：不明、サイズ：標準直甲長66.7cm、

直甲幅55.7cm 備考：右後肢足首欠損、左前肢一部欠損

\*\*\*\*\*

城崎マリンワールド 竹田正義さんより (1/31)

1月28日、丹後でアオウミガメのストラレンジングがありましたので報告させていただきます。発見日時：平成17年1月28日14:30頃、発見者：安達光剛氏、発見場所：京都府京丹後市網野町浅茂川漁港より西へ約200mの磯場、調査日時：1月29日夕方、調査者：竹田正義、種：アオウミガメ、標識：久米島NO.228(インコネル・左前肢)、サイズ：標準直甲長31.2cm、最小直甲長31.0cm、直甲幅25.9cm(専用ノギスを用いて測定)、体重：4.0kg 処置：回収し、城崎マリンワールドにて冷凍保管する。その他：硬直なく、死亡直後と思われる。左前肢に釣糸が密に絡み、全体的にむくみ、出血あり。絡んだ痕跡が明視できる。釣糸の状態等から、生時に絡んだものと思われる。



\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-06 (3/1)

\*\*\*\*\*

通事太郎さんより (2/27)

2/27に西表島西北部ヒナイ崎海岸にウミガメの足跡があるとの連絡を富里保裕さんから受け、即日、確認してきました。奥行きが数メートルしかない海岸ですが、確かにウミガメの上陸跡を確認しました。砂の乾き具合から昨晩、上陸した模様です。何度か陸側に上がろうと試みたあと、ピットを作らずに帰海していることから、産卵はしていないと考えられます。足跡からアオウミガメだと思われませんが断定はできません。日本で今年初の上陸例だと思われま

\*\*\*\*\*

福井県海浜自然センター 小堀 匠さんより (1/29)

標識のついたウミガメが見つかりましたので、お知らせします。再捕日：2005年1月29日、再捕場所：福井県小浜市宇久、状況：混獲(小型定置網)、標識：JPN28986(ロート)、生死：生、サイズ：曲甲長42cm、曲甲幅36cm、体重13.68kg、処置：そのまま放流、事務局より：本個体の履歴です。放流日：2003年9月3日、放流場所：石垣市輝海大田沖センター生簀、種：アカウミガメ、サイズ：標準直甲長38.7cm、直甲幅32.0cm、体重8.5kg、放流者：八重山栽培漁業センター、備考：放流時2歳9ヶ月の飼育個体

\*\*\*\*\*

読売新聞・長崎 (2/12) より

対馬市厳原町豆敷(つつ)の雷(いかずち)神社で十一日、約千五百年前から伝わる古い「亀ト(きぼく)神事」が行われた。ウミガメの甲羅を火であぶり、ひび割れによって一年の出来事を占う。明治初めまで旧対馬藩の公式行事とされ、藩の政治動向などにも大きな影響を与えたという。明治の末ごろまでは実際に甲羅を焼いていたが、今は儀式のみを残し、亀トを世襲する岩佐家の六十九代目当主・教治さん(53)と地区住民によって伝承されている。社殿前にお神酒や矢竹八十七本などが奉納され、羽織はかま姿の教治さんが呪文(じゅもん)を唱えた。時折、鈴を四方に振るなどして一心不乱に折り、ひらめいたことを半紙に筆で次々に書き留めた。結果は、皇室関係で「稚子さま復活、紀宮さま吉」、地異地震は「西中国、東京、中部」、県内で「台風、突風」、流行は「ミニスカ、帽子」などと出たが、果たして――。

\*\*\*\*\*

木更津 根本かおりさんより (2/12)

ストランディングがありましたので報告します。日時：2005年2月11日、場所：千葉県館山市平砂浦ファミリーパーク付近、種：アカウミガメ(写真より)、目測：約70cm(写真より)、備考：まだ死んで間もないようで足からでている血が赤かった。両目はなかった。

\*\*\*\*\*

水産総合研究センター五島栽培漁業センター 本藤さんより (2/14)

標識のついたウミガメが死んでいましたので、お知らせします。再発見日：2005年1月中旬、再発見場所：長崎県五島市岐宿町姫島 水深20m、状況：混獲(刺し網)、体重：4-5kg(目測)、標識：JPN39976、生死：死、処置：投棄 事務局より：本個体の履歴です。混獲日：2004年12月28日、混獲場所：鹿児島県川辺郡笠沙町野間池白瀬定置、種：アオウミガメ、サイズ：標準直甲長41.1cm、最小直甲長40.5cm、直甲幅34.6cm、曲甲長43.2cm、曲甲幅42cm、標識：39976・39977、放流者：宮内 叶さん

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-07 (3/9)

\*\*\*\*\*

鹿児島県東町漁業協同組合 浜畑幸一さんより (2/17)

標識のついたウミガメが死んでいましたので、お知らせします。再捕日：2005年2月17日、再捕場所：鹿児島県出水郡東町 水深約10m、状況：混獲(刺し網)、サイズ：甲長40cm(目測)、甲幅35cm(目測)、標識：JPN42102、生死：死、処置：鹿児島大学ウミガメ研究会が回収して、解剖 事務局より：本個体の履歴です。混獲日：2004年5月21日、混獲場所：鹿児島県川辺郡笠沙町野間池白瀬定置、種：タイマイ、サイズ：標準直甲長36cm、最小直甲長33cm、直甲幅29cm、曲甲長36cm、曲甲幅34cm、標識：JPN42101・42102、放流者：宮内 叶さん

\*\*\*\*\*

鹿児島県 宮内叶さんより (2/17)

標識のついたウミガメが見つかりましたので、お知らせします。再捕日：2005年2月16日、再捕場所：鹿児島県川辺郡笠沙町野間池定置網、発見者：宮内叶、状況：混獲、サイズ：標準直甲長73.4cm、最小直甲長72.0cm、直甲幅59.5cm、標



識：JPN34161・34179、生死：生、処置：そのまま  
放流 事務局より：本個体の履歴です。混獲日：  
2004年2月7日、混獲場所：長崎県生月島 正前置  
網、種：アカウミガメ、サイズ：標準直甲長  
71.2cm、最小直甲長66.4cm、直甲幅58.9cm、放流  
日：2004年7月28日、放流場所：長崎県生月島 船  
場揚げ、放流者：宮地勝美さん

\*\*\*\*\*  
申本海中公園センター 宮脇逸朗さんより（2/1  
7）

標識のついたウミガメが見つかったとの報告が  
ありましたので、お知らせします。再捕日：2005  
年1月中旬、再捕場所：沖縄県名護市辺野古リーフ  
内、発見者：中村善吾さん、状況：混獲（刺し  
網）、サイズ：甲羅の直径約60cm、標識：14266、  
生死：生、処置：そのまま放流、備考：標識が網  
に引っ掛り外れた 事務局より：本個体の履歴で  
す。混獲・放流日：1997年6月21日、混獲場所：宜  
野座村地先定置網、放流場所：沖縄県宜野座村漢  
那漁港、種：アオウミガメ、サイズ：標準直甲長  
63.8cm、体重35.45kg、放流者：平手康市さん

\*\*\*\*\*  
以下3件は同一のストランディングに関する情報  
です。

1 新潟市水族館マリニア日本海 進藤順治さ  
んより（2/18）

オサガメのストランディングの連絡がありまし  
たので、お知らせします。連絡者：山北町役場 町  
民福祉課 板垣さん 発見日：2005年2月17日 発  
見場所：新潟県岩船郡山北町 体長：縦1.45m、横  
0.75m 体重：約100kg（発見者の報告による）特  
徴：背中に白っぽい斑点が見られる。発見者がオ  
サガメでないかと言っていました。

2 遠洋水産研究所 南浩史さんより（2/22）

19日に現地へ脚を運び、無事に解剖することが  
出来ましたので報告します。新潟市水族館マリ  
ニア日本海の進藤さん、山北町の役場の方や地元  
住民の方々の協力もあり、スムーズに作業を行う  
ことが出来ました。特に獣医の進藤さんは、大型  
動物の解体の経験も豊富であり助かりました。以  
下に収集しました

情報を記載します。漂着年月日：2005年2月17日  
15:30 山北町芦谷にて発見 漂着場所：新潟県山  
北町芦谷地先海岸 解剖年月日：2005年2月19日  
解剖前の状況：新鮮であり、全く腐敗無し 標  
識：外部金属標識、内部ビットタグともに無し

直甲長：111.0cm 直甲幅：64.4cm 曲甲長：  
118.0cm 曲甲幅：83.3cm

雌雄：雌（卵巣確認） 食道長：166.0cm 胃長：  
85.8cm 腸長：803.0cm 採集試料：胸筋、肝臓、  
卵巣、胃内容物、腸内容物（遠洋水研）、食道（マリ  
ニア日本海）、胸筋（日本ウミガメ協議会） 解剖  
後の処置：隣接する砂浜に埋葬

3 新潟日報（2/20）より

世界最大のウミガメといわれる「オサガメ」  
が、岩船山北町芦谷の海岸に漂着した。発見時  
にはすでに死んでいたが、生態系のメカニズムが解  
明されていないオサガメの調査のため専門家らが  
19日、同町を訪れた。同町岩崎の矢野儀明さん  
（63）が17日午後、消波ブロック付近でオサガメを  
発見。水産資源保護法で死亡漂着しても所持が禁  
じられているため、同町役場に届け出た。

\*\*\*\*\*  
沖縄県 平手康一さんより（2/19）

標識のついたウミガメが見つかりましたので、  
お知らせします。再捕獲年月日：2005年2月19日、  
捕獲場所：沖縄県島尻郡久米島町イーフビーチ地  
先定置網、SCL：750mm、体重：65.3kg（船上測定  
値）、種：アオウミガメ、性別：不明。尾の伸長は  
見られないが爪が比較的強力で湾曲気味、発見  
者：久米島漁協 中原盛明氏、測定・確認者：山  
崎幸一さん（久米島ウミガメ館）・平手康市、状  
況：定置網に混獲。絡れていたようで元気がな  
かったが、測定中に息をふきかえたので、久米  
島ウミガメ館にて保護し、経過を観察。標識：  
JPN39747・39748、生死：発見時は生存、20日朝に  
死亡確認、処置：死亡確認後、解剖し、胃内容  
物・生殖腺を確認。精巣・未発達なペニスを確認  
され、♂と判明。備考：これと同時に計5個体の  
アオウミガメの混獲（2カ所の定置網）を確認。こ  
れらは測定、標識装着後に船上より放流。事務  
局より：本個体の履歴です。混獲日：2004年10月8  
日、混獲場所：鹿児島県野間池高瀬定置網、種：  
アオウミガメ、サイズ：標準直甲長77.5cm、最小  
直甲長68.3cm、直甲幅60.3cm、曲甲長79cm、  
+u標  
ネ甲幅74cm、標識：JPN39747・39748、放流者：宮  
崎豊さん

\*\*\*\*\*  
協力調査員、戎井邦彦さんより（2/22）  
標識のついたウミガメが見つかりましたので、  
お知らせします。再捕日：2005年2月22日、再捕  
者：三津大敷組合、再捕場所：高知県室戸市三



津、状況：混獲(定置網)、標識：JPN42144・42145、生死：死、処置：投棄、事務局より：本個体の履歴です。放流日：2004年7月19日、混獲場所：鹿児島県川辺郡笠沙町野間池白瀬定置、種：アオウミガメ、サイズ：標準直甲長71.4cm、最小直甲長70.9cm、直甲幅57.1cm、放流者：宮内 叶さん  
\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-08 (3/18)

\*\*\*\*\*  
匿名の方より (2/25)

刺し網でウミガメが死亡しているのとの連絡を受けましたので報告します。日時：不明、場所：神奈川県厚木市、種：アオウミガメ、測定値：目測で甲長1m位、備考：漁師の方から連絡を受け連絡しました。

\*\*\*\*\*  
沖縄美ら海水族館 柳澤さんより (3/2)

標識のついたウミガメが見つかりましたので、お知らせします。再捕日：2005年3月2日、再捕者：上地昌栄さん、再捕連絡者：沖縄県石川市漁業協同組合 町田宗淳さん、再捕場所：沖縄県宜野座村宜野座漁港沖合い500mの刺し網水深40m、状況：混獲(刺し網)、A.M.9:30に引き揚げ時、既に死亡 種：アオウミガメ、サイズ：標準直甲長43.0cm、直甲幅34.5cm、体重11.02kg、標識：JPN35832(インコネル)・33048(ジャンボ)、生死：死、処置：当水族館の湯本が引取り、当水族館にてホルマリン固定後、解剖、事務局より：本個体の履歴です。放流日：2004年2月9日、混獲場所：沖縄県宜野座村漢那漁港、種：アオウミガメ、サイズ：標準直甲長41.0cm、最小直甲長40.5cm、腹甲長33.1cm、直甲幅33.2cm、体重8.56kg、放流者：菊川 章さん  
\*\*\*\*\*

徳永水産 前田 潤さんより (3/4)

標識のついたウミガメが見つかりましたので、お知らせします。再捕日：2005年3月4日、再捕者：前田 潤、再捕場所：鹿児島県薩摩川内市下飯町長浜沙床漁場、状況：混獲(大型定置網)、標識：JPN42146、生死：生、処置：そのまま放流、事務局より：本個体の履歴です。放流日：2004年7月19日、混獲場所：鹿児島県川辺郡笠沙町野間池白瀬定置、種：アオウミガメ、サイズ：標準直甲長75.7cm、最小直甲長75.4cm、直甲幅59cm、放流者：宮内 叶さん、鹿児島大学ウミガメ研究会  
\*\*\*\*\*

秋田県農林水産部水産漁港課 齋藤 寿さんより (3/14)

平成17年3月9日、秋田市沿岸に漂着したアカウミガメに久米島ウミガメ館の標識が付けられていた旨、報告とウミガメの提供があったので漂着状況を添えて久米島ウミガメ館に送付したので報告します。ウミガメに関する情報 (1)ウミガメの種類 アカウミガメ (2)大きさ 甲羅長 23.0cm、甲羅幅19.2cm 体重 2.110g (3)発見した日時 平成17年3月9日 午前10時頃 (4)発見した場所 秋田県秋田市新屋町地先海岸 (5)発見した方 藤田祥二氏 (6)発見した時の状況 死亡(砂浜には前脚を動かした跡らしきものが残っていた) (7)その他 標識より放流先を確認

放流先の久米島ウミガメ館よりの放流データ  
2003.7：沖縄県久米島にてふ化  
2004.5.1：沖縄久米島から放流、放流時サイズ 甲羅長：21.5cm 体重：1.930g  
\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-09 (4/11)

\*\*\*\*\*  
長崎県 森さんより (3/14)

漂着したウミガメを見つけましたので、報告します。発見日：2005年3月14日、発見場所：長崎県野母崎の健康センター近くの海岸 種：アオウミガメ 生死：死 標識：有(黄色のジャンボタグ、番号の上2桁が33) 腐敗状況：少し腐りはじめて、目がない サイズ：甲羅が1mぐらい  
\*\*\*\*\*

神奈川県 桑村星二さんより (3/14)

昨年の12月10日に静岡の白浜で、あおうみがめか、あかうみがめかわかりませんが、海岸に打ち上げられてるうみがめをみました。頭をカラスにつつかれて、みるも無残な姿でした。50センチぐらいのまだ、小さめでした。  
\*\*\*\*\*

大分県海洋水産研究センター 安楽 康宏さんより (3/23)

標識のついたウミガメが見つかりましたので、お知らせします。再捕日：2005年3月15日、再捕者：河野 安義さん、再捕場所：大分県佐伯市蒲江大字竹野浦河内の定置網(元猿7号定置)、状況：混獲(定置網)、サイズ：不明、標識：JPN42376・42377、生死：生、処置：標識2つを外して放流、



事務局より：本個体の履歴です。放流日：2004年9月5日、混獲場所：鹿児島県川辺郡笠沙町野間池白瀬定置網、種：アオウミガメ、サイズ：標準直甲長75cm、最小直甲長75cm、直甲幅56.1cm、放流者：宮内 叶さん、鹿児島大学ウミガメ研究会

\*\*\*\*\*  
オキナワマリナリサーチセンター 氣賀澤 心さんより（3/15）

ストランディンしたウミガメを見つけましたので報告します。発見場所：沖縄県国頭郡恩納村山田ルネッサンスリゾート内ビーチ沖、発見日時：2005年3月14日 午前10時、発見者：宮平 世一（マリンスタッフ）、解剖日：2005年3月15日、種類：タイマイ、性別：不明、甲長：22.8cm、甲幅：17.5cm、体重：0.85kg、解剖所見：胃の内容物なし、腸の内容物 貝殻（種類不明）・泥少々、外傷なし、死因：不明

\*\*\*\*\*  
神奈川県 ロングホーン・エマさんより（3/30）

ウミガメの死体を見つけました。ウミガメの死体は、左後足が半分なくなっていて、甲羅も、一部がなくなっていました。その怪我の形から判断すれば、犯人は、サメかも知れません。切断された後足は綺麗に治っていましたが、やはり、その怪我はこのカメのその後の生活に影響を与えたでしょうね。海がしけた後の、05年3月25日、材木座で漂着していました。

\*\*\*\*\*  
宮崎に住んでいるサーファーFさんより（3/30）

宮崎市の赤江海岸（清武川から空港）の侵食が激しいため、沖に潜堤を入れるという記事が新聞にのりました。県は当初事前の話し合いを持つと約束していましたが、それを無視しての発表に憤りを感じます。今日、県に電話をしましたが、まともに取り合ってくれません。空しい限りです。

\*\*\*\*\*

#### ●ウミガメ速報05-10（4/14）

\*\*\*\*\*  
鹿児島県 岩崎 明さんより（3/22）

漂流しているウミガメを発見しましたので、お知らせします。発見日：2005年3月19日、発見場所：鹿児島県出水郡長島町 長島海峡 牛深との中間あたり、種：アオウミガメ、状況：漂流、生死：死、

標識：無、サイズ：甲長70cmぐらい、腐敗状況：ガスが膨満していないので、比較的新しいようだ。フジツボなどもない。目がとれているようだ。事務局より：後日、鹿児島大学ウミガメ研究会のメンバーが解剖を行いました。調査日：2005年3月23日、サイズ：標準直甲長70.8cm、最小直甲長70.6cm、直甲幅53.5cm、性別：不明（未成熟雄の可能性あり）

\*\*\*\*\*  
神奈川県 ロングホーン・エマさんより（3/30）

ウミガメの死体を見つけました。ウミガメの死体は、左後足が半分なくなっていて、甲羅も、一部がなくなっていました。その怪我の形から判断すれば、犯人は、サメかも知れません。切断された後足は綺麗に治っていましたが、やはり、その怪我はこのカメのその後の生活に影響を与えたでしょうね。海がしけた後の、05年3月25日、材木座で漂着していました。

\*\*\*\*\*  
マレーシア科学技術大学 森田昌之さんより（4/5）

マレーシア科学技術大学傘下の SEATRU (Sea Turtle Research Unit) では、マレーシア東海岸のレダン島において、アオウミガメの上陸産卵期間中に、調査・保全活動のボランティアを広く募っております。5月から10月までのうちの1週間（日曜日にイン、翌日曜日にアウト）で、各回の定員は6名です。参加申し込み方法や参加条件等は以下に示すウェブサイトへアクセスして下さい。ちなみに、例年はマレーシア国内の参加者が大多数で、次にシンガポールからの参加者、ごくわずかに欧米系で、日本からの参加者は皆無です。活動中は、英語またはマレー語によるコミュニケーションとなります。調査地は、完全に外部から隔離された海岸で全長350メートル。年間の産卵数は300～600です。産卵ピークは6月～8月（年によって多少変動）。古い情報ですが日本語ページもサイトの中にありますのでご参照下さい。各週の活動グループをスロットと呼びますが、すでに満席となっているスロットもあります。ご希望の方は、前述のウェブサイトから空席状況をご確認下さい。SEATRU Website <http://www.kustem.edu.my/seatru/>

\*\*\*\*\*  
鈴木祥平さんより（4/9）



西表島上原のミミキリの浜のほぼ中央部に、ウミガメの上陸跡のようなものを見つけたのですが、経験不足と半年間のブランクで素人同然の私では断定できません。写真を2枚添付しますので、判断していただけますようよろしくお願いいたします。間違っていたらごめんなさい。事務局より：間違いなくウミガメの足跡でした。アカウミガメかタイマイのものだと考えられますが、多分、アカウミガメのものだと思います。

\*\*\*\*\*石垣島 阿部寧さんより (4/11)

石垣島シーズンインのお知らせです。4/8に平久保崎東でアカのような上陸痕を2つ発見、うち1つで卵を確認しました。白化が約2cmなので3日前、4/6頃の産卵と思われます。足跡は少し古い感じがしますが、荒天で足跡が薄れたのでしょうか。昨年は始まりが遅くてヤキモキしましたが、今年は例年通り、長い産卵シーズンの開始です。

\*\*\*\*\*

#### ●ウミガメ速報05-12 (4/25)

\*\*\*\*\*屋久島うみがめ館 大牟田一美さんより (4/22)

4月20日に屋久島南西部の大川浜でウミガメの足跡(戻り)を確認しました。今年の屋久島での初上陸です。足跡の状態から、18日の上陸と思われる。また、同じく20日、四つ瀬浜で初産卵がありました。同日、いなか浜と前浜でも上陸(いずれも戻り)があり、永田もいよいよ産卵シーズン突入です。

\*\*\*\*\*日本ウミガメ協議会協力調査員 山下傑さんより (4/14)

4月14日に高知県室戸市高岡漁港内に、ウミガメの死体が流れ着いていました。アオウミガメで、腐敗が激しく頭部と前脚がありませんでした。発見日：2005年4月14日 8時00分ごろ、発見者：山下傑さん(室戸市)、場所：高知県室戸市高岡漁港、標識タグ：なし、体サイズ：甲長42.8センチ、甲幅36センチ、性別：♀

\*\*\*\*\*日本ウミガメ協議会 石原孝より (4/14)

4月14日に上記のストランディングした個体を確認しに行ったところ、同じ漁港内でもう一頭のウミガメの死体が浮いているのを発見しました。アオウミガメで、腐敗が激しく頭部がありませんでした。

発見日：2005年4月14日 15時00分ごろ、発見者：石原孝(事務局)、場所：高知県室戸市高岡漁港、標識タグ：なし、体サイズ：甲長49.2センチ、甲幅42.7センチ、性別：♀

\*\*\*\*\*

#### ●ウミガメ速報05-13 (5/2)

\*\*\*\*\*静岡新聞 (3/25) より

希少な動植物を保護するため県は25日、県立自然公園条例に基づき、4つの公園別に動物8種と植物567種を規制対象とする告示を行う。規制された動植物を許可なく無断で採取したり捕獲した場合、6月以下の懲役または50万円以下の罰金となる。県は自然公園指導員の巡視活動を重点的に行うとともに、県民への周知を図っていく。対象は浜名湖と御前崎遠州灘、日本平、奥大井の各県立自然公園の特別な保護が必要な特別地域。植物は昭和49年以降の見直しで、従来の属中心から種を単位に指定した。絶滅が危ぐされる種だけでなく、乱獲の被害が報告されているハマボウフウや、景観構成上重要な種であるスカシユリなども指定となった。今回初めての指定となる動物については、絶滅の恐れがあり緊急に指定する必要がある種を対象とした。具体的には、マニアによる捕獲が危ぶまれるアカイシサンショウウオや、卵が盗掘の被害を受けやすいアカウミガメなど。他法令で保護の手当てがされている種は対象外となった。平成14年の自然保護法改正とともに、昨年度末に県版レッドデータブックが刊行されて絶滅が危ぐされる動植物が明らかになったことを受け、今回の指定となった。県は希少動植物の保護のために専門家に意見を聞き、規制する対象種を決めた。

\*\*\*\*\*鹿児島県出水農林水産事務所薩摩川内市駐在 宍道弘敏さんより (4/12)

標識のついたウミガメが見つかりましたのでお知らせします。再捕日：2005年3月12日、再捕者：塩田浜男さん、再捕場所：鹿児島県甬島西崎沖、状況：混獲(磯建網)、サイズ：曲甲長45cm、曲甲幅32cm、標識：JPN29264、生死：死、処置：投棄、事務局より：本個体の履歴です。混獲・放流日：2003年1月29日、放流場所：沖縄県宜野座村漢那漁港、状況：混獲(定置網)、種：アオウミガメ、サイズ：標準直甲長45.2cm、最小直甲長



44.2cm、直甲幅38.4cm、体重11.1kg、放流者：林亮太さん・平手康市さん

\*\*\*\*\*  
鹿児島県山下若三さん・屋久島うみがめ館 大内在  
絵さんより (4/16)

標識のついたウミガメが見つかりましたので、お知らせします。再捕日：2005年4月15日夕方、再捕者：山下若三さん、再捕場所：鹿児島県三島村黒島片泊 南の方、砂浜は無いところ、状況：混獲(エビ網)、夕方に網を引きあげたら、網の中でぐるぐる巻きになって死んでいた。網をかけていたところは水深20m位のところ、サイズ(目測)：甲長50cm、甲幅40cm、標識：JPN44010・44009、生死：死、処置：投棄、事務局より：本個体の履歴です。混獲・放流日：2004年12月6日、混獲場所：長崎県生月島松本定置、放流場所：長崎県生月島漁協前、種：アオウミガメ、サイズ：甲長37cm、放流者：海の中道宮地勝美さん。以下、再捕者の山下若三(やましたわかみ)さんの話。+標識が網にひっかかっていた(網の目10cmぐらい)・エビ網にちよこちよこかかる。大抵、生きていてそのまま逃がす。普段は、早朝にかかっているよう。今回は死んでいたから、夜中にかかっていたのかも。+夏ごろよく入り江にウミガメが顔を出す。この辺りは砂浜がないので、産卵にきているのではないと思う。

\*\*\*\*\*  
沖縄国頭村 嘉穂宗幸さんより (4/26)

沖縄島北部の国頭村で今年初産卵です。4月26日の早朝に伊地の浜で、アカウミガメの初産卵を確認しました。同浜では前日に初上陸がありました。沖縄本島も産卵期突入です。

\*\*\*\*\*

#### ●ウミガメ速報05-14 (5/5)

\*\*\*\*\*  
福岡県津屋崎 上田清成さんより(4/22)

4/22、午前6時30分頃、恋の裏海岸にて、赤ウミガメの死骸を発見しました。発見者は三苦力さんと西住成夫さんです。海岸を散歩中に波打ちぎわにて発見されました。発見日：2005.04.22 AM6:30位、発見場所：福岡県福津市津屋崎恋の裏海岸にて、発見者：三苦力さん・西住成夫さん、特徴：体には欠損無し。口中にも異常無し。標識：無し、サイズ：直甲長 750mm、直甲幅 597mm、頭幅 157mm、全長 1056mm、処置：解剖、

\*\*\*\*\*

小笠原海洋センター 山口真名美さんから (4/22)

本日、父島ブタ海岸地先にて、アオウミガメのオス(交尾中)が地元の漁業者、登地修氏によって捕獲されました。サイズは以下の通りです。直甲長874mm、直甲幅727mm、体重97.8kg。この個体には右後肢に標識JPN15471が装着されていました。事務局より：確認したところ、屋久島うみがめ館・大牟田一美氏へ送付した番号であることを分かりました。以下は大牟田氏による放流時の情報。この個体は、1998年7月3日に屋久島一瀬(いっそう)の定置網にて捕獲され、同日中に田舎浜から放流したものです。捕獲時のサイズは以下の通りです。直甲長844mm、直甲幅715mm、体重80kg。

\*\*\*\*\*  
東京都三宅支庁 水産係 大澤さん・三宅島漁協  
村上孝さんより (4/26)

標識のついたウミガメが見つかりましたので、お知らせします。再捕日：2005年4月15日、再捕者：三宅島漁協 村上孝さん、再捕場所：東京都三宅島ミノワ、状況：混獲(イセエビの刺し網)、サイズ(目測)：甲長60cm、標識：26286・26287、生死：死、処置：投棄、事務局より：本個体の履歴です。ふ化年月日：2001年7月～9月、標識：W26286(左後肢)・W26287(右後肢)・I25924(左前肢)、放流日：2002年8月24日、放流場所：東京都小笠原村父島 大村海岸、種：アオウミガメ、サイズ：標準直甲長22.8cm、直甲幅19.0cm、曲甲長：24.3cm、曲甲幅21.5cm、体重1960g、放流者：小笠原海洋センター 山口真名美さん、備考：まもなく4歳になるアオウミガメでした。

\*\*\*\*\*

#### ●ウミガメ速報05-15 (5/15)

\*\*\*\*\*  
福岡県 尾上和久さんより(4/22)

アオウミガメ(♀)のストランディングを発見しましたので、メール致します。発見日：2005年4月20日、発見場所：長崎県五島市三井楽町長崎鼻近くの海岸、発見時の状態：海岸に裏返った状態で死亡。頭部、足などすべて有り。体はガスで膨らんでいて、やや腐敗臭がした。体には数箇所穴が開いていた。発見時カラスが20羽ほど死体周辺に集まっていたことから、カラスが突い



たものと思われる。頭部の一部は骨が露出。目はカラ  
スが食べたのか、両眼とも無かった。タグは金属、プ  
ラともに無し。標準直甲長90cm程度、甲幅不明。

\*\*\*\*\*  
事務局、石原孝より(4/28)

高知県室戸市高岡の杉尾神社前の海岸でウミガメが  
打ちあがっていると元大敷乗りの中島ゆうじさん(6  
7才)より連絡を受け、協力調査員の山下傑さんと確  
認してきました。種:アカウミガメ、性別:♀。腐敗  
進行、パンパンに膨らんでいた。タグなし。直標準甲  
長75.5cm、直甲幅57.3cm

\*\*\*\*\*  
神戸市須磨水族園 大鹿達也さんより(4/29)

4月29日(金)、神戸市の須磨沖合でタイマイが  
捕獲されました。神戸市垂水区塩屋在住の真家清仁  
さん(47)が自身の船にぶつかってぐったり浮いてい  
たタイマイを捕獲し、須磨海浜水族園に持ち込んだ  
(タイマイは収容後、回復しています)。※参考:捕  
獲された時の須磨の表海水温は15.5℃。種:タイ  
マイ、SCL:468mm、SCW:370mm、B  
W:8.8kg(かなり痩せが目立つ)

\*\*\*\*\*  
新入会員の西島宏樹さんより(5/2)

熊本県玉名市で育ちましたが、私が中学生の時まで  
は(45年程前)、アカウミガメが菊池川の西の鍋海  
岸に産卵にきてました。年に3-4回は来ていたと記  
憶しています。卵は半分とって、生で食べました。親  
ガメも大きくない個体は食べる人もいたようです。今  
はまったく産まないようです。

\*\*\*\*\*  
長崎県 中浦ひさのさんより(5/5)

標識のついたウミガメが見つかりましたので、お知  
らせします。再捕日:2005年5月5日、再捕場所:長崎  
県西海市崎戸町地先の刺し網、状況:混獲、サイズ:  
不明、標識:JPN39883、生死:死、処置:投棄、事務  
局より:本個体の履歴です。放流日:2005年4月4日、  
放流場所:鹿児島県川辺郡笠沙町野間池白瀬定置網、  
種:アオウミガメ、標識:JPN39882・39883、サイズ:  
標準直甲長45.2cm、最小直甲長43.7cm、直甲幅  
37.3cm、曲甲長46.3cm、曲甲幅42.0cm、放流者:宮内  
叶さん

\*\*\*\*\*  
事務局 室戸駐在 仲村貴生より(5/11)

室戸市椎名大敷網にて、アカウミガメ(♀)の最捕  
がありましたのでお知らせします。最捕日:2005年5月  
11日、最捕場所:高知県室戸市椎名大敷 標識ジャンボ

プラスチックタグ(青):42015・42016 生死:  
生 処置:港に持ち帰り計測後、新たにインコネ  
ルタグ48060・48061を装着し、同日、港より放  
流。最捕時の個体情報:標準直甲長835mm、直甲幅  
645mm、本個体の履歴:混獲日:2004年7月5日 混  
獲・放流場所:三重県尾鷲市の早田大敷網にて混  
獲、調査者:三重大学「かめっぶり」、放流日:  
2004年7月6日、尾鷲での個体情報:標準直甲長  
829mm、直甲幅651mm、体重88kg、その後、  
2004.7.20和歌山県有田市逢井漁協定置にて再捕。  
発見者江川組組合長。

\*\*\*\*\*  
徳島県牟岐町 大梅謙治さんより(5/12)

今朝、徳島県牟岐町 松ヶ磯にて産卵を確認しま  
した。以下は徳島新聞より:徳島県内で今年初め  
でアカウミガメの上陸・産卵が十二日早朝、牟岐  
町灘の松ヶ磯海岸で確認された。上陸・産卵とも  
県内での初確認は、昨年より四日早い。十五年前  
から同海岸で監視ボランティアをしている県自然  
観察協力員の大梅謙治さん(55)=同町灘、町  
職員=が、近くの住民から電話連絡を受け出向い  
た午前六時前、産卵直後のアカウミガメを見つ  
けた。甲羅の長さ約一メートル、幅約七十センチの  
大型。波打ち際から約十五メートル離れた砂浜に  
穴を掘り、百三十九個の卵を産んでいた。間もな  
くUターンし、海に帰った。果が委託しているN  
PO法人日本ウミガメ協議会(大阪府枚方市)の  
調査によると、県内では昨年、二市六町の計二十  
一海岸で百十八匹が上陸。うち五十三匹が産卵し  
ている。

\*\*\*\*\*  
鹿児島県 宮内叶さんより(5/12)

標識の付いたアオウミガメが再捕されました。  
再捕日:2005年4月26日、再捕場所:鹿児島県笠沙  
町野間池白瀬定置網、状況:混獲、サイズ:標準  
直甲長76.7cm、最小直甲長76.4cm、直甲幅  
61.5cm、曲甲長82.3cm、曲甲幅73.3cm、標識:  
JPN42147・42146、生死:生、処置:放流、事務局  
より:このアオウミガメを事務局で調べてみたど  
ころ、3回目の混獲であることがわかりました。  
今までの混獲履歴です。1回目:放流日:2004年7  
月19日、放流場所:鹿児島県笠沙町野間池白瀬定  
置網、種:アオウミガメ、標識:JPN42147・  
42146、サイズ:標準直甲長75.7cm、最小直甲長  
75.4cm、直甲幅59.0cm、放流者:宮内 叶さん、鹿  
大カメ研、2回目:放流日:2005年3月4日、放流



んより (5/17)

5月16日深夜恩納村塩屋の浜で今年初のアカウミガメの産卵がありました。翌朝の採卵で99個確認しました。いよいよシーズン突入です、皆さん頑張りましょう!

\*\*\*\*\*  
西表島 鈴木祥平さんより (5/19)

5/16 西表島ミミキリの浜 (IR-32B) にて上陸がありました。5/19にはありませんでした。

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-18 (6/2)

\*\*\*\*\*  
志布志湾 大和隆信さんより (5/20)

志布志湾では上陸産卵が遅れています。私が予想する原因が正しいのなら、日向灘から土佐湾が同じように遅れていると思いますがいかがでしょうか。志布志湾ではここ数年無かった状況として、東申良から志布志方面への潮流が春先から続いています。その顕著な影響は、田原川と菱田川の二つの河口からの流れが、距離にして500m前後は志布志方面に蛇行していることです。湾内の潮流がこのような原因は、豊後水道から流れ出して日向灘沿いに南下する冷水塊です。この南下冷水塊の勢力が近年になく強いことにあると思っています。日向灘沿岸でその勢力が大きいほど、黒潮の流域を沖に押し出すのです。そうして南下してきた冷水塊が志布志湾口の内之浦・火崎にぶつかり湾内に流入し、現地で上り潮と呼ぶ柏原から志布志方面への流れができます。カメたちが乗ってくる黒潮が九州の陸地から離れていることと、温度の低い海水の影響で産卵が遅れているのが今年の太平洋岸だと思っています。ちなみにこの状態はチリメンジャコ漁には最高で、数十年ぶりの豊漁になっています。4/20 ストランディング 雌 76.8×58.4 死因(水死と思われる) 死後2週間以上か 頭骨・左前肢骨が露出

\*\*\*\*\*  
南日本新聞 (5/20) より

絶滅の恐れがあるアカウミガメの回遊を調査している日本ウミガメ協議会(特定非営利活動法人・大阪府枚方市)は18日、笠沙町野間岬で4月13日に放流した雌のアカウミガメが薩摩川内市の瓶島近海にいることを確認した。放流から36日間で約800キロ回遊していた。同会は「産卵前のカメの回遊追跡は珍しく、貴重なデータが得られる。発信機をつけたカメを発見したら捕まえずに連絡を」と呼びかけている。雌ガメ(甲長86センチ)は4月9日、野間岬沖約20

0メートルの定置網に入り込んでいた。産卵のため吹上浜に向かう途中だったらしい。鹿児島大学ウミガメ研究会と協力し、甲羅に発信機を付け放流した。定置網所有の漁業宮内叶さん(58)の妻由起子さん(54)にちなみ「ゆきこ」と愛称を付けた。カメが海面上に出ると、人工衛星が発信機の電波をキャッチ、位置が確認できる。バッテリーの寿命は最長3年間。ゆきこは野間岬から10日間で西に約300キロ泳ぎ、その後瓶島近海へ移動。5月8日と18日に里町沖からの電波を受信した。放流から24回受信した。アカウミガメの生態は謎の部分が多く、日本ウミガメ協議会研究員の島達也さん(38)は、「産卵場所を吹上浜から産卵の記録がない瓶島に変えたとすると、大変珍しい」と話している。

上記の記事に対し、匿名希望の男性より事務局に電話を頂きました。

南日本新聞の記事を読みました。瓶島では産卵の記録がないとのことですが、私は50年ほど前に、瓶島里村の市ノ浦という海岸で、たくさんのウミガメが産卵していたことを知っています。卵を掘り出して遊んだ記憶があります。現在は海水浴場になっており、砂浜の大きさも昔より狭くなっています。

\*\*\*\*\*  
徳島県 加島祐二さんより (5/21)

今朝、7時13分頃、徳島県牟岐町砂美の浜で上陸痕跡を発見しました。産卵はしていないもようです。

\*\*\*\*\*  
みなべ町 後藤清さんより (5/23)

みなべ町千里の浜で初上陸産卵確認の報告がありましたのでお知らせいたします。みなべ町千里の浜に、5月22日初上陸産卵がありました。昨年より20日以上、通年より約10日程度遅れています。特産の梅も成長が遅く、収穫は例年より10日以上遅れるということです。

\*\*\*\*\*  
富崎野生動物研究会 竹下完さんより (5/24)

みやざきもぼちぼち上陸しています。23日現在11回産卵です。死体の報告:宮崎市役所松木氏より青島の周辺波状岩に打ち上げられて死んでいるアカウミガメ2体が発見され、計測の後埋設したとの連絡がありました。①甲長80cm、甲幅60cm、頭



場所：鹿児島県薩摩川内市下飯長浜、種：アオウミガメ、標識：JPN42147・42146、サイズ(目測)：甲長1m、甲幅60cm、放流者：前田潤さん

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-16 (5/20)

\*\*\*\*\*

徳島県 石川 侃さんより (4/17)

ウミガメを見ましたので、報告致します。種：アオウミガメ、発見日時：2005年4月17日午前10時頃、発見場所：高知県室戸市古良川漁協のタンク内、標識はついていませんでした。釣り人が釣り上げたので、持ち帰り、その日のうちに海へ放流したとの事です。

\*\*\*\*\*

西表島鈴木祥平さんより (5/9)

西表島のミミキリの浜で上陸跡がありました。ピットもあり産卵していると思われます。ミミキリの浜のほぼ中央部で、4月9日の上陸跡より月が浜方向へ10mほどの地点です。

\*\*\*\*\*

西表島 鈴木祥平さんより (5/12)

本日12日にミミキリの浜を歩いたら3ヶ所に上陸跡を確認しましたので、報告します。3ヶ所の内1ヶ所に植生帯の中にボディピットのような跡がありました。あとの2ヶ所は上陸のみと考えられます。

\*\*\*\*\*

日和佐町 藤井隆司さん・浜崎敏明さんより (5/13)

5/7(土)に藤井さんが明丸の浜へ行った際、上陸跡らしきものを発見。日数が経過していたようで、上陸跡はかなりうすくなっていた。今回は上陸とカウントしなかったそうです。また、浜崎さんは、5/11(水)頃、明丸の浜で上陸したようで、今日(5/13)、確認に行く予定です。

\*\*\*\*\*

鹿児島大学ウミガメ研究会 武内有加さんより (5/16)

昨日、鹿児島県吹上浜で初上陸産卵を確認しました。比較的新しかったので、5/13(金)か14(土)に産卵したもののようです。

\*\*\*\*\*

マル昌水産小村昌治さん、鹿児島県水産技術開発センター田中耕治さんより (5/16)

標識のついたウミガメが見つかりましたので、お

知らせします。再捕日：2005年5月14日A.M.8:00~10:00、再捕場所：鹿児島県薩摩川内市鹿島町吹切、状況：混獲(大型定置網)、サイズ：タタミ半畳ぐらい、標識：JPN29590、生死：生、処置：そのまま放流、翌日(5月15日)のA.M.8:00~9:00ごろにまた入網しており、そのまま放流しました。事務局より：本個体の履歴です。放流日：2004年5月20日、放流場所：宮崎県宮崎市住吉海岸、種：アカウミガメ、性別：メス、標識：J29590(左前)・I27574(右前)、サイズ：甲長94.3cm、直甲幅72.9cm、放流者：宮崎野生動物研究会 竹下 完さん

\*\*\*\*\*

高知県 錦織漁業協同組合 前田一さんより (5/17)

標識のついたウミガメが見つかりましたので、お知らせします。再捕日：2005年5月17日、再捕場所：高知県須崎市双子岩近く、状況：混獲(定置網)、サイズ：不明、標識：JPN44524、生死：生、処置：そのまま放流、事務局より：本個体の履歴です。放流日：2005年5月10日、放流場所：高知県室戸市三津漁港、種：アカウミガメ、性別：メス、標識：J44523(左前)・J44524(右前)・I48058(左後)・I48059(右後)、サイズ：標準直甲長71.1cm、最小直甲長70.9cm、直甲幅57.4cm、曲甲長72.0cm、放流者：協力調査員 戎井邦彦さん・事務局 仲村貴生 以下、連絡者の前田一さんのお話。去年も1回、標識のついたウミガメが、数年前には発信機のついたウミガメが入網したことがあります。

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-17 (5/24)

\*\*\*\*\*

千葉県 中村周史さんより (4/24)

千葉県和田町和田白渚海岸にウミガメの死体が打ちあがっています。事務局より：この情報に対し、千葉にいた水野と岩本が現地調査しました。日時：2005年4月24日、場所：千葉県和田町和田白渚海岸、発見者：中村周史さん、種：アカウミガメ、性別：雄(尾部に伸長見られず生殖腺及び性器より判別)、測定値：曲甲長：706、採取物：DNA用サンプル、胃内容物、生殖腺、備考：解剖後埋設

\*\*\*\*\*

沖縄島 真栄田海亀プロジェクト ペイン留美さ



んより (5/17)

5月16日深夜恩納村塩屋の浜で今年初のアカウミガメの産卵がありました。翌朝の採卵で99個確認しました。いよいよシーズン突入です、皆さん頑張りましょう!

\*\*\*\*\*  
西表島 鈴木祥平さんより (5/19)

5/16 西表島ミミキリの浜 (IR-32B) にて上陸がありました。5/19にはありませんでした。

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-18 (6/2)

\*\*\*\*\*  
志布志湾 大和隆信さんより (5/20)

志布志湾では上陸産卵が遅れています。私が予想する原因が正しいのなら、日向灘から土佐湾が同じように遅れていると思いますがいかがでしょうか。志布志湾ではここ数年無かった状況として、東串良から志布志方面への潮流が春先から続いています。その顕著な影響は、田原川と菱田川の二つの河口からの流れが、距離にして500m前後は志布志方面に蛇行していることです。湾内の潮流がこのようになる原因は、豊後水道から流れ出して日向灘沿いに南下する冷水塊です。この南下冷水塊の勢力が近年に強くあると思っています。日向灘沿岸でその勢力が大きいほど、黒潮の流域を沖に押し出すのです。そうして南下してきた冷水塊が志布志湾口の内之浦・火崎にぶつかり湾内に流入し、現地で上り潮と呼ぶ柏原から志布志方面への流れができます。カメたちが乗ってくる黒潮が九州の陸地から離れていることと、温度の低い海水の影響で産卵が遅れているのが今年の太平洋岸だと思っています。ちなみにこの状態はチリメンジャコ漁には最高で、数十年ぶりの豊漁になっています。4/20 ストランディング 雌 76.8×58.4 死因(水死と思われる) 死後2週間以上か 頭骨・左前肢骨が露出

\*\*\*\*\*  
南日本新聞 (5/20) より

絶滅の恐れがあるアカウミガメの回遊を調査している日本ウミガメ協議会(特定非営利活動法人・大阪府枚方市)は18日、笠沙町野間岬で4月13日に放流した雌のアカウミガメが薩摩川内市の甌島近海にいることを確認した。放流から36日間で約800キロ回遊していた。同会は「産卵前のカメの回遊追跡は珍しく、貴重なデータが得られる。発信機をつけたカメを発見したら捕まえずに連絡を」と呼びかけている。雌ガメ(甲長86センチ)は4月9日、野間岬沖約20

0メートルの定置網に入り込んでいた。産卵のため吹上浜に向かう途中だったらしい。甌島大学ウミガメ研究会と協力し、甲羅に発信機を付け放流した。定置網所有の漁業官内叶さん(58)の妻由起子さん(54)にちなみ「ゆきこ」と愛称を付けた。カメが海面上に出ると、人工衛星が発信機の電波をキャッチ、位置が確認できる。バッテリーの寿命は最長3年間。ゆきこは野間岬から10日間で西に約300キロ泳ぎ、その後甌島近海へ移動。5月8日と18日に里町沖からの電波を受信した。放流から24回受信した。アカウミガメの生態は謎の部分が多く、日本ウミガメ協議会研究員の鳥達也さん(38)は、「産卵場所を吹上浜から産卵の記録がない甌島に変えたとなると、大変珍しい」と話している。

上記の記事に対し、匿名希望の男性より事務局に電話を頂きました。

南日本新聞の記事を読みました。甌島では産卵の記録がないとのことですが、私は50年ほど前に、甌島里村の市ノ浦という海岸で、たくさんのウミガメが産卵していたことを知っています。卵を掘り出して遊んだ記憶があります。現在は海水浴場になっており、砂浜の大きさも昔より狭くなっています。

\*\*\*\*\*  
徳島県 加島祐二さんより (5/21)

今朝、7時13分頃、徳島県牟岐町砂美の浜で上陸痕跡を発見しました。産卵はしていないもようです。

\*\*\*\*\*  
みなべ町 後藤清さんより (5/23)

みなべ町千里の浜で初上陸産卵確認の報告がありましたのでお知らせいたします。みなべ町千里の浜に、5月22日初上陸産卵がありました。昨年より20日以上、通年より約10日程度遅れています。特産の梅も成長が遅く、収穫は例年より10日以上遅れるということです。

\*\*\*\*\*  
富崎野生動物研究会 竹下完さんより (5/24)

みやざきもぼちぼち上陸しています。23日現在11回産卵です。死体の報告:宮崎市役所松木氏より青島の周辺波状岩に打ち上げられて死んでいるアカウミガメ2体が発見され、計測の後埋設したとの連絡がありました。①甲長80cm.甲幅60cm.頭



長32cm、甲幅15cm前肢30cm、後肢25cm、甲高25cm、タグ無し。腐敗かなり進む。写真あり ②甲長70cm、甲幅60cm、頭長25cm、頭幅25cm、前肢20cm、甲肢25cm、甲高24cm、タグ無し、腐敗進行。写真あり。以上2頭の死体報告です。

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-19 (6/3)

\*\*\*\*\*カメハメハ王国 山本明男さんより (5/27)

今朝 静岡県相良海岸 波津青果市場前浜に初産卵がありました。

以下、静岡新聞中部ワイド版より

相良町波津の海岸で二十七日早朝、アカウミガメの今季最初の産卵が確認された。町内の海亀保護団体「カメハメハ王国」(渡辺美穂子代表)メンバーが見つけ、同町須々木のふ化場に移した。この日見つかったのは九十六個。同海岸で早朝パトロールをしていた渡辺代表らが午前四時半ごろ、被打ち際の近くの砂浜にアカウミガメの形跡を発見するとともに、付近の深さ約三十センチ地点に産卵を確認した。毎年五月から町内の海岸でアカウミガメの上陸・産卵調査を行っている同団体によると今季の初産卵は昨年より一週間ほど早いという。産卵場所が海に近く、ふ化に必要な地熱の不足や卵の腐敗が懸念されることから、ふ化場に保護した。順調にいけば七月中にふ化する見込み。アカウミガメの産卵は例年八月いっぱいまで続く。渡辺代表は「今年も一匹でも多くのアカウミガメが産卵してほしい」と目を細めた。

以下、山本さんより記事の訂正と補足：・産卵巣の上面が深さ三十センチ・産卵場所は満潮時汀線より7m・地熱の不足や腐敗より水没や流失の懸念・ふ化は8月10日前後

\*\*\*\*\*表  
浜ネットワーク田中雄二さんより (5/27)

今朝、寺沢海岸にウミガメ上陸しました。船着き場の傾斜を3メートルほどよじ登ったようですが、産卵できずに帰ってしまいました。

\*\*\*\*\*あ  
かばね塾 彦坂真さんより (5/28)

今朝、赤羽根海岸にウミガメの初上陸初産卵を確認しました。汀線から約50m。あかばね塾では基本的には現地保存。ふ化調査ができるように産卵巣付近に目印をつけてあります。

\*\*\*\*\*鹿

児島県志布志 大和隆信さんより (5/29)

遅れていた志布志湾での産卵がようやく始まりました。今朝(5/29)有明町の通山海岸で、観察史上もっとも遅い産卵(93個)を確認しました。産卵場所は昨年の台風で浸食された海岸の防潮堤の建設現場でした。工事の重機に踏みつぶされたり、工事による埋没の恐れや、台風時の高波での流失も十分考えられる場所だったためにふ化場に移しました。ちなみに2000年が産卵回数ももっとも少ない年(25回)でしたが、この年の5月の産卵回数が1回でした。

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-20 (6/10)

\*\*\*\*\*武智由香里さんより (5/1)

先日、ウミガメの死体を見ました。もう、既にそちらへの連絡が入っているかもしれませんが、気になったので写真の一部を送ります。2005年4月30日 和歌山県田辺市 天神崎の丸山に降りていくスロープの近くです。ウミガメの死体がありました。少し離れたところに上顎骨らしきものがありました。甲羅の長さ(首から尻尾に向かって)はだいたい60cmはあったと思います。事務局より：武智さんよりいただいた写真より判別したところ、アカウミガメでした。

\*\*\*\*\*沖  
縄県 小林利江子さんより (5/19)

漂着したウミガメを見つけましたので報告します。発見日：2005年5月16日、発見場所：沖縄県知念村知念の海岸、種：不明、性別：不明、状況：ひっくり返った状態で死んでいた。サイズ：甲長40-50cm(目測)、腐敗状況：新鮮 備考：一昨年も知念の海岸で甲長1mぐらいのウミガメが漂着していました。

\*\*\*\*\*徳  
島県 河野良作さんより (5/22)

漂着したウミガメを2頭、見つけましたので報告します。1. 発見日：2005年5月4日、発見場所：和歌山県串本町潮岬灯台地下、MCL 52cm・SCW 42cm、標識・無 2. 発見日：2005年5月15日、発見場所：高知県野根のすこし室戸寄りの所、MCL53.5cm・SCW 41cm・CCL 55cm・CCW47cm、標識・無。事務局より：河野さんよりいただいた写真から種を判別したところ、5月4日に発見された個体はアカウミガメ、5月15日の個体はアオウ



ミガメでした。

\*\*\*\*\*

千葉県 景山奈緒子さんより (5/22)

千葉在住のものです。先ほど犬の散歩の途中で亀さんが裏返しになっているのを見つけました。場所は千葉県長生郡一宮町の釣ヶ崎という海岸です(サーフポイント名だと志田下)。大きさは30センチくらいで、すでに少々干からびてしまっていました。

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-21 (6/11)

\*\*\*\*\*

兵庫県 中多淑子さんより (5/29)

高知県東洋町生見海岸、町役場の目の前の海岸で腐りかけているウミガメを見つけました。事務局より：出張中の水野・宮形が徳島の長楽さん・太田さんと一緒に調査しました。発見日：2005年5月29日、発見場所：高知県東洋町生見海岸北端、発見者：中多淑子さん、種：アカウミガメ、性別：メス？(尾の長さが短い、生殖腺を確認できていないため不確)、最大曲甲長：752mm、最小曲甲長：733mm、曲甲幅：713mm、標識：なし、状況：腐敗して四肢半分が欠損、甲羅と頭骨が白骨化し、ウジが頭部と体にたまっていた。各内臓組織は融けていて確認できず。卵なし。環境：砂浜に打ち上げられていた。サーファーが多い浜。

\*\*\*\*\*

日和佐うみがめ博物館より (5/29)

高知県野根町ゴロゴロ海岸(1)と徳島県牟岐町権現浜(2)にて、ウミガメが漂着しているとの情報をいただきました。事務局より：出張中の水野・宮形が出向き調査しました。(1)発見日：2005年5月29日、発見場所：高知県野根町ゴロゴロ海岸、種：アオウミガメ、性別：オス(尾の伸長より確認)、最大曲甲長：912mm(甲羅が一部破損していたため参考値)、曲甲幅：847mm、標識：なし、状況：皮膚や筋肉は完全に乾燥し、白骨化していた。体内には胃内容物と思われる藻類が多量に見られた。口腔内にも藻類が見られた。環境：国道55号線下の岩礁地帯。浜の正面には野根の大敷網が見える。備考：上下クチバシと左上腕骨採集。(2)発見日：2005年5月29日、発見場所：徳島県牟岐町権現浜、種：アカウミガメ、性別：メス、最大曲甲長：811mm(緑甲板欠如)、曲甲幅：750mm、標識：なし、状況：頭部・甲羅が白骨化していた。食道・胃内容物はまったく見られない。卵巣は発達していたが、投付卵や輸卵管組織は確認できなかった。環境：浜の正面沖100mあたりに小型定置網があった。浜

に降りる道は1本で、民家の玄関前をと通り、棚田のあぜ道を歩く必要があった。備考：甲羅右側縁甲板から肋甲板(3番目)にかけて甲羅に割れがあった(傷は古く治っていた)。

\*\*\*\*\*

沖縄米陸軍トリーステーション 幸地範直さんより (6/2)

6月2日午前6時にスタッフがパトロールをして産卵の為に掘ったと思われる穴を4ヶ所見つけました。どれも産卵せずに途中で止めたと思われる。

\*\*\*\*\*

表浜ネットワーク田中雄二さんより (5/31)

今朝、豊橋の寺沢海岸にて2頭が連続して上陸していました。2本のトラックは3メートルも離れていません。1頭はブロック手前で遮られあきらめて帰っています。もう1頭はブロック手前で産卵を確認しました。

\*\*\*\*\*

表浜ネットワーク田中雄二さんより (6/1)

今朝は小松原海岸(王寿園前)の浜で上陸を確認しました。

\*\*\*\*\*

表浜ネットワーク田中雄二さんより (6/3)

今朝は細谷の小判田川から東100メートルぐらいに上陸がありました。この浜は比較的砂浜が広く、産卵も適しているのです。汀線からブロックまで60メートルぐらい、そのブロックも砂でそこそこ埋もれているので、楽に乗り越えています。植生帯のところまで上がっているのですが、根や測道の車の轍が気に入らないのでしょうかその後が四方八方に逃走しています。範囲が広く、一人では大変なところ、細谷の地引網の皆さんが、一緒に探してくれました。しかし、小さいボディビットは一カ所ありましたが、砂は硬く前回の小松原と同様にどうやら産卵はしていないようです。

\*\*\*\*\*

表浜ネットワーク田中雄二さんより (6/4)

今朝は産卵を確認。場所は細谷の地引き網小屋のすぐ横です。西から巡回の私に到着したときは、既に地引き網の皆さんで、場所が車が良く通る所だったので掘り出していました。産卵数は104で2個破損？ 細谷の漁師おじいさん達も、笑みを込めて今昔のウミガメの話をしていました。

\*\*\*\*\*

表浜ネットワーク田中雄二さんより (6/6)

今朝のウミガメ巡回はボウズでしたが、昨日は販



やかな浜にもかかわらず、寺沢海岸で上陸産卵がありました。ブロックに当たって海に戻る途中で産卵したようです。

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-22 (6/13)

\*\*\*\*\*

鹿児島県志布志 大和隆信さんより (6/7)

遅れている 少ない そう思い続けていた志布志湾で今朝は4頭が産卵しました。鹿児島県の曾於郡と肝属郡の郡境を挟んだ海岸、距離にして1km弱の間での産卵でした。柏原海岸で2頭、横瀬海岸で2頭。柏原海岸の1頭は埋め戻しの途中であったために甲長甲幅の計測、体組織の標本採取もできませんでした。直甲長85.2 直甲幅67.5 JPN28046を右前肢に装着しました。上陸・産卵があったのは嬉しいことですが、湾中央部で距離が一番長い、田原川と釜田川の間の浜に、まだ一度も上陸してないのは気がかりです。

\*\*\*\*\*

表浜ネットワーク田中雄二さんより (6/8)

今朝の表浜は3上陸のうち2産卵。西七根に産卵。これは防波堤の前の砂の盛り上がり。大須賀さんはなんとか波も免れるだろうと判断し、見守ることに。細谷の上陸はブロック前に上がって、かなり掘り返していましたが、ボディピットも大きく、砂が小山になっていましたが、砂地が硬く踏めたようです。すぐ近くにもう一つ上陸してブロック手前に大きなボディピット、これもかなり掘り返してあり、産卵を確認。しかし、既に波が2~3メートルほど近くまで迫っていたので水没間近。これは移植しました。80の産卵、うち最初に落ちた2つが潰れていました。卵も、なんだか蛇の卵のように細長い楕円のもの数個ありました。

\*\*\*\*\*

鹿児島県志布志 大和隆信さんより (6/8)

カメたちのニュースも暗いモノばかりの中で明るいニュースです。鹿屋市の浜田海岸で産卵を確認しました。一昨年5回の産卵があったのに去年は0だった、鹿屋市の海岸で6/8の朝確認しました。連絡を受け行ってみました。掘り出してみたところ上部の角質化がかなり進んでおり、約1週間を経過していると思われました。現場は全国の砂浜のご多分に漏れず、相次いだ昨年の台風で50%くらいは、海面からの高さが低くなった海岸です。

市役所の担当課の人と相談の上、近くの小学校に

設置したふ化場に移しました。2年ぶりの産卵が、この1回だけに終わらず、2回3回と続くことを期待したいと思います。

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-23 (6/28)

\*\*\*\*\*

事務局宮形佳孝・大鹿達弥より (6/9)

兵庫県・淡路島に隣接する成ヶ島で上陸産卵が確認され、産卵調査に行ってきました。調査日：2005年6月9日 発見者・連絡者：花野晃一氏(成ヶ島を美しくする会) 発見場所：兵庫県洲本市由良 成ヶ島外浜海岸 調査方法：掘り起こしによる卵確認 ※今年度、大阪湾で産卵初確認となります。

\*\*\*\*\*

熊本県牛深市役所 商工観光課 梅田さんより

(6/10)

平成17年6月10日午前9時、熊本県牛深市牛深町天附の牛深ハイヤ大橋ループ橋下においてウミガメの死骸を発見しましたので報告します。まずは画像データを送付していきます。事務局より：梅田さんより甲羅を計測している画像を送っていただき、以下のことが分かりました。種：アオウミガメ、曲甲長：46.7cm、曲工幅：39.5cm、標識：なし、状況：白骨化、甲羅に剥離あり。環境：ループ橋の下に打ち上げられていた。

\*\*\*\*\*

マレーシア科学技術大学 森田昌之さんより

(6/13)

レダン島での調査が始まりました。4月11日より3週間は、大学内部の学生による活動で、主に、今シーズンの調査を開始するにあたっての立ち上げの活動でした。5月1日より外部ボランティアによる活動が開始され、すでに、7組目がレダン島にて活動中です(1週間交代)。今年も、昨年同様、2個体のタイマイが産卵に来ており、5回の産卵を終えました。1個体はもう採食地域へもどったようです。昨年は8巣でしたが、今年は5巣でしょうか。アオウミガメは、昨年は当たり年だったのですが、今年はどうも思わしくありません。昨年の半分ほどのペースで上陸・産卵が行われています。今月は1週間で10巣がやっと、という状況です。93年から開始されている活動のデータを見ると、5年くらいで周期性があり産卵の多かった年の翌年は極端に産卵が少ない



傾向があります(統計計算はしていません、目視で大雑把に)。ボランティア参加ご希望の方はウェブサイトをご確認ください。http://www.kustem.edu.my/seatru/

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-24(6/29)

\*\*\*\*\*

南知多ビーチランド 黒柳賢治さんより(6/13)

本日(13日)、知多半島でも産卵の確認がありましたのでご連絡します。6月11日早朝、海岸を散歩していた住民の方が足跡を発見され、常滑市役所を通じてご連絡頂きました。場所は、常滑市新田町の海岸「通称複戸(えのきど)海岸」です。卵は確認しましたが、通常は波を被る場所ではなかったのもそのまま埋め戻しました。卵数の確認はしていません。ちなみに6月11日の産卵は、ビーチランドが調査を始めた1981年以降最も早い産卵です。

\*\*\*\*\*

屋久島 大野陸さんより(6/13)

宮之浦・平和町海岸にて6月12日・13日と連続して産卵が確認されました。いずれもアカウミガメで、タグは付いていませんでした。情報をいただいてから駆けつけるまでに準備の時間がなく、タグをつけることはできませんでしたが、12日に上陸したウミガメは手尺で直甲長83cm、13日に上陸したウミガメは、ちゃんとノギスで計測して、A89、3cm B87、9cm、甲幅68、9cmでした。どちらのカメもフジツボが1つ付いていました。数年前までは、年に2~3回上陸が確認される海岸でしたが最近の上陸も確認されていませんでした。宮之浦港、火の上埠頭の港湾工事の影響で、砂が若干増えているように思っていたところでした。

\*\*\*\*\*

志布志湾大和隆信さんより(6/14)

志布志湾もやっと賑やかにになってきました。13日・東串良町、郡境降り口西100m 131個(3個破損) 卵径39<sup>5</sup>、・大崎町、田原川東砂州 100個 卵径38<sup>5</sup>、・大崎町、プール東100m 上陸のみ、・有明町、一丁田テトラの間の浜に産んでいた。66個 卵径38<sup>5</sup>、14日・大崎町、横瀬海岸 大丸小西50m 88個 卵径39<sup>5</sup>。以上で延べ11回の産卵なのですが、今年は産卵個数が平均からするとかなり少ないことが特徴的です。これまでの志布志湾の平均は約120個なのですが、今年は102、114、107、100、88、93、91、66、83、117、131の合計で1,092個 平均すると100個を下

回っているのです。他地域での実態はどのような状態なのでしょう。志布志湾だけの傾向なのでしょう。か?

\*\*\*\*\*

千葉県立中央博物館分館海の博物館 立川浩之さんより(6/14)

今年上半期のウミガメ類の漂着・混獲の情報です。

1. 種: アカウミガメ; 日時: 2005年2月26日; 場所: 千葉県勝浦市吉尾漁港内の岩場; 状況: 死亡漂着(目立った外傷無し); 測定値: SCL 620mm/MCL 607mm/SCW523mm; 処置: 海の博物館で標本として保存(千葉県ウミガメ採捕承認証 千かめ第6号による)

2. 種: アオウミガメ; 日時: 2005年5月17日; 場所: 千葉県勝浦市吉尾地先; 状況: 刺網に羅網。瀕死状態で海の博物館に持ち込まれるがまもなく死亡; 測定値: SCL394mm/MCL 387mm/SCW 329mm; 処置: 海の博物館で標本として保存(千葉県ウミガメ採捕承認証 千かめ第6号による)

両個体とも標識は装着されていませんでした。

\*\*\*\*\*

高知中村 溝淵幸三さんより(6/14)より

大岐海岸にやっと初上陸産卵がありました。ここ数年砂の流失が激しく、段差がどんどん大きくなっています。そのため、高波などでは卵がさらわれる場所です。ということで、孵化場へ移植。卵は125個でした。今後も産卵は大変、どうしようかとカメさんが言っております。近くの入野浜へは既に数頭上陸していますが、大岐へ上陸しようと思っていたカメさんもこちらの方へ行くのでしょうか。私は今カメさんどころではなくなっております。ブルーベリーに凝って昼間の畑仕事です。夜中とは縁遠くなり、お酒の世界も忘れてしまいましたぞな。酒屋の前を通るだけでもうフラフラ。

\*\*\*\*\*

高知中村 溝淵幸三さんより(6/15)より

15日、岡田さんとヨバイのデバガメをしようかと話していたが、雨も降るし、飲めない麦酒を飲んでしまった。朝の電話は岡田氏、4頭上陸しているとのこと。早速大岐浜へ。段差が激しいため、全てが波打ち際。小学生と掘り出すことに。作業中にも足下に波が打ち寄せる始末。卵と一緒にさらわれるのではと、ウミガメから足を洗いた



なくなった。ということで、2頭ぶんだけ採捕。91個と110個でした。2頭ぶんはそのままに。ノギス借りられますか。現在、ブルーベリー用のノギスがあるが、カメさんの背中にははかれない。最大5センチだもんね。

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-25 (7/1)

\*\*\*\*\*

志布志 大和隆信さんより (6/19)

ここのところ、引き続き好調です。錦江湾でも産卵がありました。① 6/14 大崎町・菱田で77個 卵径4.1<sup>♂</sup>、2.6<sup>♀</sup>と1.4<sup>♂</sup>の黄身のない卵を各1個、② 鹿屋市・浜田海岸で2頭分を確認6/13の夜の産卵か? 125個(5個破損) 106個(3個破損) ③ 6/16鹿屋・浜田114個・卵径3.9<sup>♂</sup>、④ 東串良・柏原海岸 115個 卵径3.8<sup>♂</sup>、⑤ 志布志町・ダグリ 140個 卵径4.1<sup>♂</sup>、⑥ 志布志町・スズレ 84個(5個破損) 卵径3.8<sup>♂</sup>、10日ほど経過、⑦ 志布志町・スズレ 122個 卵径4.1<sup>♂</sup>、6/15の産卵か?、⑧ 6/18有明町・押切 119個(2個破損) 卵径3.7<sup>♂</sup>、⑨ 志布志町・ダグリ 118個 卵径3.9、⑩ 6/19有明町・通山 工事現場、5/29とほぼ同じ場所、124個 卵径3.8<sup>♂</sup>、※先週後半上陸・産卵の状況です。シーズンの残りは一月余りですが、あと2回くらいの産卵は期待できますので、楽しみに待ちたいと思います。

\*\*\*\*\*  
宮崎野生動物研究会 竹下完さんより (6/23)

昨夜から本格的な梅雨になり滝のような雨の中の調査をしています。ところで6月21日宮崎市木崎浜の緩傾斜護岸の崩れた部分に挟まれたアカウミガメを発見救出しタグをつけて放流しましたが衰弱が激しかったので翌日(6月22日朝確認にいったところ死体で発見しました。)事故死でした。甲長77cm・甲幅61cm・甲高30.5cm・頭長28cm・頭幅16cm・前肢43cm・後肢31cm

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-27 (7/8)

\*\*\*\*\*

宮崎県串間市東漁協 山口さんより (6/25)

6月24日、定置網に標識のついたウミガメが入っていたのでお知らせします。番号34494 生きていたのでそのまま放流しました。事務局より この個体は平成16年7月6日、小笠原村

母島平島の海岸に、産卵のために上陸したメスのアオウミガメでした。SCL903mm、CCL973mm、SCW728mm、CCW892mm。装着者小笠原海洋センター。

\*\*\*\*\*  
新宮市海ガメを保護する会速水政夫さんより (6/25)

王子が浜では、6/2に初上陸がありましたが、産卵はなし。続いて16日までに計5回の上陸があったが何れも産卵はなく、心配しておりましたが、やっと待望の初産卵が今朝(25日)にありました。卵113コはフ化場に移植致しました。また、午後3時半頃三輪崎より今朝2頭のカメが上陸していたとの電話があり、早速あっちこっち電話して車をチャーターして三輪崎町へと急ぎました。同町の東の浜に2ヶ所産卵跡があり、1ヶ所は堤防まで行き、その間七ヶ所の穴をほっていたが、ジャリの為産卵できずに帰海。他の一頭も40m上がった所で横に進み30メートル位の間に5ヶ所の掘りかけの穴をのこし帰海しましたので以上2ヶ所とも産卵はありませんでした。本日はとても疲れましたが、お知らせいたします。

\*\*\*\*\*  
高知室戸 植田壮一郎さんより (6/26)

元海岸でウミガメの産卵跡があります。この報告を受けて、室戸基地から巖東と山崎が調査に向きました。●発見者：山下泰弘さん、朝6時ごろ犬の散歩途中にウミガメの足跡を発見。発見日：2005年6月26日、発見場所：高知県室戸市元海岸。午前中、植田さんと共に元海岸へ産卵確認に行ってきました。ボディビット：3、卵数：102個ありましたが1個割れました。高い波がきたら被りそうだったので元小学校へ持って行きました。そして、元小学校の中山校長先生と共に、小学校のカレックハウスへ移植しました。

\*\*\*\*\*  
財団法人下関海洋科学アカデミー、久志本鉄平さんより (6/26)

昨年まで三重大学かめっぷりで活動しており、その時はお世話になりました。この春から下関水族館で飼育係をしております。上陸、産卵がありましたので報告します。6月24日：下関市長府宮崎町串崎(関見台公園下)にて地域住民→市役所→水族館とウミガメの上陸の連絡が入り確認に向かったが産卵せず。6月25日、上記と同じ砂浜に24~25日にかけて再び上陸し、産卵。足跡の形状よ



りアカウミガメだと考えられます。

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-28 (7/15)

\*\*\*\*\*

徳島 藤井栄さんより (6/24)

本日、由岐町坂ノ浜にて調査をしましたところ、2箇所の上陸跡がありましたので報告いたします。

\*\*\*\*\*

屋久島 大牟田一美さんとの電話の中から (7/1)

上屋久町役場から電話があった。一湊の海水浴場に浜崖が出来ているので砂を入れるが、いかとの事。もう既に産卵しているのだから、いいわけないよね。

\*\*\*\*\*

藤沢の石井雅之さんより (7/2)

2004年10月から2005年6月までの報告をいたします。漂着報告はELNA不在などで、石井が対応してきたものです。産卵情報は新江の島水族館の発表によるものです。■2004年10月9日 横須賀市走水港、アカウミガメ：メス未成熟(卵巣確認)、甲長SSCL67.2cm MSCL66.1cm SCW57.4cm、口腔：固く閉じる。舌根から食道入口にかけて砂が存在。声門：砂が詰まり、ゆるく開いている。気管：声門から28cmにかけて砂がゆるく詰まっている。全体につぶれていない。気管・気管支にうすい血液色の泡沫があり、やや粘潤性あり。備考 ■2004年11月12日

鎌倉市坂ノ下、発見者氏名：池 英夫、アカウミガメ 甲長不明(70cmほど。)ほぼバラバラだが、かろうじて皮で繋がっている状態。■2004年11月13日 鎌倉市腰越1丁目地先、アオウミガメ オス未成熟、精巣確認。甲長 SSCL:52.6cm MSCL:51.3cm SCW:44.3cm、気管：しっとり濡れる。肺：わずかに泡沫あり。■2005年1月18日 三浦市南下浦町豊沙門、アカウミガメ メス未成熟 卵巣・卵管を確認、甲長SSCL64.0cm MSCL65.1cm SCW52.5cm、気管：つぶれていない。泡沫がわずかに残る。肺：肺気腫と肺水腫の様相。仰向け時に収縮したが、まだガスが残る気味だった。■2005年1月21日 藤沢市江の島西岸、アカウミガメ 甲長不明(70cmほど。)新江の島水族館より連絡があり、すぐ現場に向かいましたが市によって焼却処理済みでした。■2005年3月25日 鎌倉市材木座、報告者 かながわ海岸美化財団、アオウミガメ オス未成

熟 精巣確認、甲長SSCL37.0cm MSCL36.2cm

SCW30.4cm、■2005年6月7日 二宮町、中村川河口の西100m、発見日：2005年6月6日16時、発見者：山下浩之、報告受付日：2005年6月7日、報告者氏名：樽創、アカウミガメ メス未成熟(卵巣確認)、甲長SSCL74.8cm MSCL73.7cm、SCW62.1cm、■2005年6月25日 藤沢市辻堂、報告者 新江の島水族館、アカウミガメ オス未成熟 精巣確認、甲長 SSCL73.5cm MSCL72.3cm SCW54.6cm ●2005年6月28日 葉山町一色、142個の卵が新江の島水族館に收容されました。

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-29 (7/22)

\*\*\*\*\*

浜松市教育委員会生涯学習推進課 内藤さんより (6/20)

標識の付いたウミガメの死体を発見したので報告します。発見日：2005年6月20日朝、発見場所：静岡県浜松市倉松町の海岸、発見状況：ストランディング、生死：死、甲羅にスクリューで割られたような傷あり、標識：J33113、サイズ：甲長約90cm 処置：名古屋港水族館がその日のうちに解剖しました。事務局より：本個体の履歴です。放流者：志摩半島野生動物研究会 若林郁夫さん、放流日：2003年7月10日、放流場所：三重県志摩市大王町波切、種：アカウミガメ、性別：メス、サイズ：標準直甲長87.9cm、直甲幅70.3cm、発見状況：混獲(定置網)

\*\*\*\*\*

鹿児島県笠沙町漁協 中尾和成さんより (6/24)

6月22日の朝網に標識だけがかかっていた。標識の番号は「JPN39835」と入っています。亀自体が引っかかる事は無い網ですので、おそらく外れていたものだと思います。野間池から吹上浜へ向け泳いでいた時に外れたのでしょうか？場所は鹿児島県川辺郡笠沙町小浦です。事務局より：本個体の履歴です。放流者：宮内叶さん、放流日：2005年6月7日、放流場所：鹿児島県川辺郡笠沙町白瀬定置、種：アオウミガメ、サイズ：標準直甲長43.2cm・最小直甲長42.6cm・直甲幅37.4cm・曲甲長44.8cm・曲甲幅44cm、標識：J39834・J39835

\*\*\*\*\*

横浜・八景島シーパラダイス アクアミュージア



おはようございます。志布志湾のカメ親父です。7/2：大崎町・益丸で75個 卵径4.13、7/4：有明町・通山（一丁田堤防との中間）クレーンの近くで産卵、7/5 有明町・一丁田、径3.93、有明町・穴廻り、4:45産卵、5:05埋め戻し、5:38掃海、5:45掃海完了、JPN28048を装着、直甲長79.13×直甲幅61.6、志布志町・ダグリ 街灯下の崖の直下で136個 卵径4.13、志布志町・すずれ 中央堤防のところで上陸のみ。この一週間はこんな状態で推移しました。7/7現在で36回の産卵を確認しました。

\*\*\*\*\*  
高知 溝渕幸三さんより（7/7）

6日、夜中の見回りを休んだら上陸。朝、岡田さんより連絡。カメさんが堤防を乗り越えて松林の中へ転落とのこと。早速大岐浜へ。幸い大雨でカメさんも無事の様子。卵を産む場所を探して落ちて込んだものらしい。高さは約60センチほど。3箇所試みた跡があった。産卵はしていない様子。こんなところでノギスが必要になるとは・・・。甲長76センチ。甲幅63センチ。総排出口の周囲には寄生虫がびっしり。甲羅にはフジツボなどはなかったが、寄生虫と烏帽子のような貝類が付いていた。4時ごろ黒潮生物研究所の田中氏が見回ったときには気が付かなかったという。その後上陸、転落の可能性が高い。田中氏によってタグが取り付けられた。詳しくは田中氏まで。独り言：会員の中には酒を飲み過ぎてどこかにぶちこけたりする者もいるが、まさかカメさんは二日酔いではなからうな、赤い顔をしているが・・・。それにしても、丁くんはむごいことをするなあ。前足に穴を開けて、標識を取り付けた。小心者で真面目な我が輩はかわいそうで見ても居られなかった。涙が雨よりもひどかったぞな。さぞ痛かったろうなあ。恨む人を間違えるなよカメさんよ。

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-30（7/27）

\*\*\*\*\*  
福岡県福津市うみがめ課 自然環境係 山下さんより（7/7）

7月6日にウミガメの死骸が花見海岸に漂着しているとの連絡を受け、下記のとおりに対応しましたので、ご連絡致します。1.発見日 2005年7月6日（水曜日）18時50分頃、2.発見場所 福岡県古賀

市花見海岸、3.発見者 福津市在住者、4.発見状況 散歩の途中に砂浜に打ち上がっているウミガメの死骸を見付けた。、5.連絡内容 発見者より役所へ連絡がある。うみがめ課より、恋の浦ウミガメの会・いきいき夢の会へ連絡を入れる。6.確認内容 いきいき夢の会 上田清成さん、恋の浦ウミガメの会、福岡エコ・コミュニケーション専門学校(FEC)、役場職員で調査を行う。調査後、現場近くの砂浜に埋める。7.調査内容 ①種類：アカウミガメ ②死因 不詳 ③外傷 無し ④測定値：標準直甲長77.5cm、直甲幅63.2cm ⑤性別 メス⑥死後 10日間以内 8.連絡先①特定非営利活動法人 日本ウミガメ協議会 ②マリンワールド海の中道魚類課

\*\*\*\*\*  
宮崎野生動物研究会 竹下完さんより（7/13）

6月の仮集計が出しました。高鍋、産卵58、新富94、大炊田28、明神山31、住吉27、一つ葉16、松崎30、運動公園12、子どもの国25、その他人工ビーチ3と全体的には昨年並みに上陸していますが利用できなくなった海岸では激減しどうやら高鍋や新富に移動しているため面白い結果が出そうです。

\*\*\*\*\*  
豊橋市 大須賀哲夫さんより（7/14）

今朝、豊橋市小島町の海岸で、消波ブロックに挟まれて動けなくなっているウミガメを発見し、サーファーの人達と救出して海に帰しました。このウミガメはJPN23801の標識を付けていました。（事務局より）このウミガメは、2005年7月12日夜に、静岡県湖西市の海岸をパトロールしていた『カレッタ君のふるさとを守る会』の鮫田直仁さん、谷田欣次さん、田中輝彦さんが、上陸し植生帯を動き回っているところを発見し、その後産卵巣を掘ることなく海に帰っていった個体でした。種) アカウミガメ 性別) メス 標準甲長) 80.1cm 最小甲長) 78.6cm 甲幅) 59.6cm

\*\*\*\*\*  
大阪 矢野光男さん 奈良県 中島尚美さんより（7/14）

今、死んだウミガメを見つけたので連絡しました。発見場所：三重県志摩市阿児町志島「市後浜」の北側、種：アカウミガメ、サイズ：曲甲長77cm、曲甲幅 63cm、頭の先から首の根元 29cm、



▲ 徳武 浩司さんより(6/29)

本日、横浜市港湾局 海務課 真壁 央(マカベナカベ)さんより当館へ、アカウミガメの漂着情報がありましたのでお知らせいたします。一刻も早く処分したいという意向があり、調査にはいりませんが参考になれば幸いです。日時:2005年6月29日13:00頃(当館への通報時間)場所:横浜市横浜港内 鶴見航路つばさ橋付近。(回収位置:東経139.42.25.7、北緯35.27.47.1の水域)種類:アカウミガメ 頭数:2(ともに同じ場所で発見し、同時に回収)性別:不明 体長:スケール参照 処分:焼却。真壁氏によれば見る限り大きな外傷もなく四肢へのタグ装着は認められなかったそうです。

\*\*\*\*\*  
メキシコ アントニオ・レセンデズさんより(7/1)

We learn from a Baja's local fishermen that he find out about oldjapanese's tag..with this data: Site:Between Santo Domingo,La Poza y San Juanico, Baja California Sur,Mexico. Date:unknow..maybe few years ago...even late 80's or early 90's. Tag No.:412 Address:

Okinawa,Expo.Aquar,JAPAN. We hope this tag will help out your tagging effort in your country...sincerely..Antonio and Bety  
事務局より:メキシコ、カリフォルニア半島の漁師が沖縄から放流したアカウミガメに装着されていたと思われる標識を持っていたそうです。ただし、このカメがいつ捕まったものかなど詳細な情報はわからないようです。標識を付けた海洋博記念公園水族館(現、美ら海水族館)の照屋秀司当会理事には連絡しました。

\*\*\*\*\*  
高知 溝渕幸三さんより(7/1)

大枝浜11頭目、昨夜我々が帰った後1頭が上陸産卵していた。清水よりの波打ち際、しかも川の水がそのまま押し流すような場所。まだ移植はしていない。今夜も空振り、稲妻がすごい。雨も降っている。これから上陸するだろう。真面目な我々は深夜徘徊はしないのだ。独り言:中村の小京都の街も四万十市中村になった。飲屋街も全て無くなった。その後お酒の味を知らない。以前は、少しでも飲めるようになったら嬉しいと思、ウミガメ協議会の皆さんに鍛えてもらった

が、素質がないのか必ず酔っぱらった。見極めをつけて、今は元の真面目な溝渕に戻っている。絶対誘わないで。

\*\*\*\*\*  
まるほ水産 間部さんより(7/3)

タグ付きのウミガメを発見したので報告します。発見日:2005年6月20日頃、発見場所:三重県熊野市磯崎漁港、発見状況:混獲(定置網)。標識が付いていたので気になって標識をとっておいた。標識:JPN 42250、生死:死、処置:投棄。事務局より:本個体の履歴です。放流者:マリンワールド海の中道 宮地勝美さん、混獲場所:長崎県生月元浦定置網、放流日:2004年12月6日、放流場所:生月漁協前、種:アオウミガメ、サイズ:甲長78cm。

\*\*\*\*\*  
山口県 廣中秀行さんより(7/4)

サーファー+ウィンドサーファー+漁協によるビーチクリーン時に、海草などを埋める穴を掘ったところ、ウミガメの卵50コ程度を発見しましたのでご報告いたします。日時:2005年7月3日(am7:00頃)、発見場所:山口県の北西部 角島 通称:コバルトビーチ(「しおかぜの里」の正面の海岸です。)の波打ち際から7~8m、深さ:1mぐらい。足跡らしいものがあつたようなので産んで間もないものだったようです。1つ割れてしまいましたが、中身は普通の生タマゴのようでした。まんまるでピンポン球のようでした。少し柔らかかったです。全て元通りに埋めました。幹線道路沿いの海岸で、駐車スペース(しおかぜの里)もタツブリあって、夏は海水浴客が大勢来るので結構心配です。また、外灯の光も海にもれているような気がします。あと、5年前頃、瀬戸内海側ですが、山口県古賀郡秋穂町的美濃ヶ浜沖50mぐらいのところ、ウィンドサーフィン中に泳いでいる30cmぐらいのウミガメを見かけたことがあります。

\*\*\*\*\*  
下田海中水族館 浅川弘さんより(7/6)

下田でもようやく上陸、産卵が確認できましたのでお知らせします。6/28入田浜。早朝、地元サーファーの通報により上陸跡を確認。卵も確認でき98個ありました。そのまま埋め戻し、保護策を作り見守っています。7/5多々戸浜。朝、足跡を確認。産卵の有無は確認できませんでしたが、足跡の状況から見ておそらく産卵は無かった様子です。  
\*\*\*\*\*  
志布志湾大和隆信さんより(7/7)



おはようございます。志布志湾のカメ親父です。7/2:大崎町・益丸で75個 卵径4.13%、7/4:有明町・通山(一丁田堤防との中間) クレーンの近くで産卵。7/5 有明町・一丁田、径3.9%。有明町・穴掘り、4:45産卵、5:05埋め戻し、5:38帰海、5:45帰海完了、JPN28048を装着、直甲長79.1%×直甲幅61.6、志布志町・ダグリ 街灯下の崖の直下で136個 卵径4.13%、志布志町・すずれ 中央堤防のところで上陸のみ。この一週間はこんな状態で推移しました。7/7現在で36回の産卵を確認しました。

\*\*\*\*\*  
高知 澤潤幸三さんより(7/7)

6日、夜中の見回りを休んだら上陸。朝、岡田さんより連絡。カメさんが堤防を乗り越えて松林の中へ転落とのこと。早速大岐浜へ。幸い大雨でカメさんも無事の様子。卵を産む場所を探して落ちて込んだものらしい。高さは約60センチほど。3箇所試みた跡があった。産卵はしていない様子。こんなところでノギスが必要になるとは・・・。甲長76センチ、甲幅63センチ。総排出口の周囲には寄生虫がびっしり。甲羅にはフジツボなどはなかったが、寄生虫と鳥帽子のような貝類が付いていた。4時ごろ黒潮生物研究所の田中氏が見回ったときには気が付かなかったという。その後上陸、転落の可能性が高い。田中氏によってタグが取り付けられた。詳しくは田中氏まで。独り言:会員の中には酒を飲み過ぎてどこかにぶちこけたりする者もいるが、まさかカメさんは二日酔いではなかろうな、赤い顔をしているが・・・。それにしても、丁くんはむごいことをするなあ。前足に穴を開けて、標識を取り付けた。小心者で真面目な我が輩はかわいそうで見ても居られなかった。涙が雨よりもひどかったぞな。さぞ痛かったろうなあ。恨む人を間違えるなよカメさんよ。

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-30(7/27)

\*\*\*\*\*  
福岡県福津市うみがめ課 自然環境係 山下さんより(7/7)

7月6日にウミガメの死骸が花見海岸に漂着しているとの連絡を受け、下記のとおりに対応しましたので、ご連絡致します。1.発見日 2005年7月6日(水曜日)18時50分頃、2.発見場所 福岡県古賀

市花見海岸、3.発見者 福津市在住者、4.発見状況 散歩の途中に砂浜に打ち上がっているウミガメの死骸を見付けた。、5.連絡内容 発見者より役所へ連絡がある。うみがめ課より、恋の浦ウミガメの会・いきいき夢の会へ連絡を入れる。6.確認内容 いきいき夢の会 上田清成さん、恋の浦ウミガメの会、福岡エコ・コミュニケーション専門学校(FEC)、役場職員で調査を行う。調査後、現場近くの砂浜に埋める。7.調査内容 ①種類:アカウミガメ ②死因 不詳 ③外傷 無し ④測定値:標準直甲長77.5cm、直甲幅63.2cm ⑤性別 メス⑥死後 10日間以内 8.連絡先①特定非営利活動法人 日本ウミガメ協議会 ②マリンワールド海の中道魚類課

\*\*\*\*\*  
宮崎野生動物研究会 竹下完さんより(7/13)

6月の仮集計が出しました。高鍋、産卵58、新富94、大炊田28、明神山31、住吉27、一つ葉16、松崎30、運動公園12、子どもの国25、その他人工ビーチ3と全体的には昨年並みに上陸していますが利用できなくなった海岸では激減しどうやら高鍋や新富に移動しているみたいで面白い結果が出そうです。

\*\*\*\*\*  
豊橋市 大須賀哲夫さんより(7/14)

今朝、豊橋市小島町の海岸で、消波ブロックに挟まれて動けなくなっているウミガメを発見し、サーファーの人達と救出して海に帰しました。このウミガメはJPN23801の標識を付けていました。(事務局より)このウミガメは、2005年7月12日夜に、静岡県湖西市の海岸をパトロールしていた『カレッタ君のふるさとを守る会』の鮫田直仁さん、谷田欣式さん、田中輝彦さんが、上陸し植生帯を動き回っているところを発見し、その後産卵巣を掘ることなく海に帰っていった個体でした。(種)アカウミガメ (性別)メス (標準甲長)80.1cm (最小甲長)78.6cm (甲幅)59.6cm

\*\*\*\*\*  
大阪 矢野光男さん 奈良県 中島尚美さんより(7/14)

今、死んだウミガメを見つけたので連絡しました。発見場所:三重県志摩市阿児町志島「市後浜」の北側、種:アカウミガメ、サイズ:曲甲長77cm、曲甲幅63cm、頭の先から首の根元29cm、



腐敗状況：頭の一部がはがれている。甲羅がはがれている。目から血がでていいる。首がパンパンに膨らんでいる。脱腸している。

\*\*\*\*\*  
徳島県阿南市 鎌田 武さんより(7/15)

今朝現在の蒲生田海岸の上陸産卵状況を報告します。上陸は21回、内産卵は16回です。この調子で、去年の上陸産卵回数を上回ってくれることを期待しています。

\*\*\*\*\*  
中澄あきのさんより(7/15)

EVERBLUEを見ました。ストランディングしたウミガメを見たので報告します。日時：2005年7月15日、場所：愛知県田原市池尻町 赤羽根漁港東側の海岸、種：不明、目測全長(頭部を含む)1.5m、備考：腐敗がすすんでいた。目が欠損、甲羅の右後端がかけていた。甲羅は茶色でつや消しがかったように見えた。

\*\*\*\*\*  
石川侃さんより(7/15)

徳島県海部郡穴喰町の穴喰温泉前の海岸でウミガメの上陸跡があるとの連絡を受けました。発見者は毎朝海岸を散歩されている、阿波銀行の支店長さんで、昨日(14日)の朝に足跡を発見されたそうです。足跡の途中にへこんだところがあり、産卵していると思います。産卵していると思われるところは普段は波をかぶることがない場所です。

\*\*\*\*\*

ウミガメ速報05-31(8/1)

\*\*\*\*\*  
宇都宮 英之さんより(6/29)

6月23日午前11時ころ、奄美大島龍郷町円沖リーフ際で4匹のウミガメを水中で確認しました。普段は1匹から2匹が根付きで居るポイントですが、今回は4匹が浅い方に集結していました。種はアオウミガメです。

\*\*\*\*\*  
相良 山本明男さんより(7/22)

相良海岸ストランディング記録05-3 1. 漂着日時：平成17年7月21日、死亡漂着、解剖者：山本明男 名波あづさ 久保田昭久、2. 漂着場所：静岡県榛原郡相良町須々木海岸、3. 種別：アカウミガメ ♀、直甲長 85.0cm、甲幅 63.2cm、4. その他の所見 ・ガス有 ・標識無し ・青甲剥離せず ・前肢有り 後肢有り ・頭部

有り ・頭部損傷(殴打痕?) 5. 消化管内容物

胃：貝殻破片、石、腸：貝殻破片(ほとんどが空) 6. その他：腹腔内：産卵直前の卵百個程度、次回産卵の予定と思われる卵百個程度  
\*\*\*\*\*  
ふくしま海洋科学館 平治隆さんより(7/24)

7月23日にアカウミガメのストランディングが2件ありましたので報告します。1. 7月23日午後4時30分頃、いわき市平磯の薄磯海岸(塩屋崎灯台の約500m北)にアカウミガメがストランディングしたとの連絡を受け確認した。すでに当該個体は死亡しており、体内にガスが貯留、体が膨張していた。メスの個体で標準直甲長65.1cm、甲幅56.0cm、肋甲板数が右6、左5だった。現地に埋却した。2. 1の発見者より聞き取りしたところ、同日午前8時頃にもウミガメのストランディングがあり、埋却したとのこと。特徴からアカウミガメと思われる。すでに腐敗しており、頭部は欠損していたとのこと。未計測。

\*\*\*\*\*  
東京大学海洋研究所国際沿岸海洋研究センター佐藤克文さんより(7/25)

岩手沿岸部は連日ヤマセで、22度前後の過ごしやすい日々が続いています。先週末に漁師さんに「ウミガメはとれますかねえ」といった話をしたところ、さっそく今朝2個体が定置網にかかり、色々な幸運も重なって生きた状態で1個体をセンターに持ってくる事ができました。現在、センターの水槽内を泳いでいます。種：アカウミガメ、標準直線甲長：73.0cm、最小直線甲長：71.5cm、標準直甲幅：60.0cm、備考：おそらく未成熟個体の雌、です。この個体については、2週間ほどキープし、放流時に自動切り離し装置付きのデータロガーを付けて放流し、数時間の潜水行動データを取得しようと考えているところです。背甲にはカメフジツボ(大)が1個ついており、ほかには褐色の藻類が結構たくさん付着しています。

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-32(8/9)

\*\*\*\*\*  
岩手県水産技術センター 漁業資源部 高橋 恵明さんより(7/13)



プラスチックタグを付けたウミガメが発見されましたのでお知らせいたします。入網日：2005年7月13日昼の網上げ、場所：二つ水定置網(北緯39.6、東経141.55)、標識：JPN44652、その他：標識の付いたウミガメが定置網に入網した。かわいそうに思い、タグを外して再放流した。外したタグは市場調査担当の臨時職員を通じて当センターへ持ち込まれ、標識はウミガメ協議会へ送付した。体長、体重などは計測していないそうです。事務局より：起喜来漁業協同組合の船砥浩一さんによると定置網の場所は岩手県大船渡市三陸町起喜来字明神道(首崎灯台の100~200m沖)とのことでした。本個体の履歴は次のとおりです。捕獲者：沼島漁業協同組合 寛真さん、捕獲日：2005年5月31日、捕獲場所：兵庫県南あわじ市沼島、発見状況：混獲(底曳網)、放流者：事務局 松沢・宮形、放流日：2005年6月2日、放流場所：兵庫県南あわじ市灘の土生港、種：アカウミガメ、性別：メス、サイズ：標準直甲長720mm、最小直甲長711mm、直甲幅610mm、標識(青プラスチック)：右前44652・左前44651

\*\*\*\*\*  
鹿川漁業協同組合 黒木憲二さんより(7/22)

標識の付いたウミガメを発見したので報告します。発見日：2005年7月22日朝6:00ごろ、発見者：黒木清広さん、発見場所：宮城県東白郡門川町鹿川西の沖、発見状況：混獲(定置網)、標識：JPN34916(外れた)、生死：生、処置：そのまま放流。備考：入網していたウミガメを放流した後、標識が網に取り残されているのを見ました。事務局より：本個体の履歴です。放流者：宮崎野生動物研究会 竹下完さん、放流日：2005年6月24日、捕獲・放流場所：宮城県宮崎郡佐土原町大炊田海岸、発見状況：産卵、種：アカウミガメ、性別：メス、サイズ：直甲長81cm、直甲幅66cm、標識：右前34916(プラスチック)、左前38914(インコネル)

\*\*\*\*\*  
かいゑい漁業協同組合 鶴田春行さんより(7/22)

標識の付いたウミガメを発見したので報告します。発見日：2005年7月22日、発見者：坂元茂さん、発見場所：鹿児島県掛箱郡開聞町川尻、発見状況：混獲(定置網)、標識：JPN39857・39858、サイズ：全長80~100cm(目測)、生死：生、処置：そのまま放流。事務局より：本個体の履歴です。放流者：宮内叶さん、放流日：2005年6月12日、混獲・放流場所：鹿児島県笠沙町野間池定置、種：アカウミガメ、標識：

JPN39587・39585、サイズ：甲長70~80cm(目測)  
\*\*\*\*\*  
洲本漁業協同組合 土屋さんより(7/26)

25日午前6時ごろ、淡路島洲本市のサントピアマリーナ沖約1000mでウミガメの死体を発見しました。潮目で腹を上にして、たくさんのゴミといしょに流れていました。かなり大きいウミガメで、すこし遠くからでもウミガメだとわかりました。接近して確認したかったのですが、底引き網漁の操業中でできませんでした。申し遅れました、淡路で漁業を営んでいる土屋と申します。ウミガメの死体を発見したのは今回が初めてですが、地元の大浜海水浴場で産卵しているところは、何回か見たことがあります。いつもアカウミガメでした。

僕は淡路島に生まれ子供のころから、いつも海を見て育ちました。家を出るとすぐに海があり、夏休みは毎日のように飽きもせず、サザエ、アワビをとって遊んでいました。そんな淡路の海も今ではゴミだらけになってしまいました。島外からの観光客や釣り客が平気で海にゴミを捨てていくのです。休日、祝日の翌日などはひどいものがあります。怒りがこみあげてきます!もっとひどいのが海底のゴミで、底引き網をしているとよくわかります。網のなかにはゴミだらけで、その中から少しのサカナを探すといった感じの日がほとんどです。大部分はレジ袋で、その中にべんとうの空き箱が入っていたりします。沖で網に入ったゴミは、すべて持って帰ってくるのですが、そんなゴミを見ていると本当に悲しくなってきました。人間はなんとかなさけない生き物であろうか・・・そんなふうにして、環境や海洋生物のことを考えるようになり、ネットで検索してウミガメ協議会を知りました。レジ袋をクラゲと間違えてウミガメが食べてしまうことを知りました。網に入ったレジ袋を毎日持って帰ってくることで、ほんのちょっとでもウミガメを助けることができるなら・・・と思っています。

\*\*\*\*\*

ウミガメ速報05-33(8/11)

\*\*\*\*\*  
小笠原海洋センター 山口真名美より(7/15)

青プラタグNO.44589をつけたウミガメが産卵しました。捕獲日：2005年7月4日、捕獲場所：東京都小笠原村父島大村海岸、捕獲状況：小穴埋め中、測定年月日：同上、測定値：SCL: 89.9cm、SCW: 67.4cm、CCL: 94.0cm、CCW: 83.3cm、放流年月日：同上、放



流場所：同上 事務局より：本個体の履歴です。放流者：宮内一朗さん、放流日：2005年1月24日、捕獲場所：鹿児島県川辺郡坊津町秋目、標識番号：JPN44589(左前)、種：アオウミガメ、性別：メス、サイズ：曲甲長93cm、曲甲幅80cm、発見状況：混獲(定置網)

\*\*\*\*\*  
神奈川県横須賀市大楠漁業協同組合 新倉 真二さんより(7/19)

標識の付いたウミガメを発見したので報告します。ウミガメが入網することは時々ありますが、標識がついたウミガメが入網したのは初めて。この6月は多く、1ヶ月間で10頭程入網していました。発見日：2005年7月19日、発見場所：神奈川県横須賀市大楠漁業協同組合の定置網、発見状況：混獲、標識：44547、性別：メス、サイズ：甲羅の長さ80cm(目測)、生死：生 事務局より：本個体の履歴です。放流者：協力調査員 戎井邦彦さん・事務局 空戸駐在員。放流日：2005年5月25日、放流場所：高知県室戸市三津、種：アカウミガメ サイズ：標準直甲長80cm、最小直甲長78.9cm、直甲幅61.5cm、曲甲長85cm、体重69kg 発見状況：混獲(定置網)

\*\*\*\*\*  
愛知県名古屋市長久美原で2004年9月21日に見つけました。事務局より：送っていただいた画像を確認したところ、アカウミガメでした。腐敗状況：四肢・頭部あり、甲羅剝離、ガス膨満。

\*\*\*\*\*  
伊東市漁業協同組合富戸支所 日吉直人さんより(7/20)

標識のついたウミガメを発見しました。再捕日：2005年7月18日、再捕場所：静岡県伊東市富戸、発見状況：混獲(定置網)、標識番号：44252(青ブラ)、サイズ：甲長約60cm(目測)、処置：そのまま放流事務局より：本個体の履歴です。調査者：三重大学かめっぷり、放流者：早田大敷組合、放流日：2004年12月15日、放流場所：三重県尾鷲市早田町、発見状況：混獲(定置網)、種：アカウミガメ、性別：不明、標識番号：44251・44252(青ブラ)、サイズ：標準直甲長64.2cm、最小直甲長62.9cm、直甲幅54.3cm、体重38kg

\*\*\*\*\*  
カメハメハ王国 山本明男さんより(7/22)

ストランディング個体を確認しましたので報告

します。日時：平成17年7月21日、場所：静岡県榎原郡相良町須々木海岸、発見者：良知弘也、解剖者：山本明男、名波あづさ、久保田昭久、種：アカウミガメ♀、測定値：標準直甲長85.0cm、直甲幅63.2cm、備考：その他の所見、ガス有、標識無し、背甲剝離せず、前肢有り、後肢有り、頭部有り、頭部損傷(殴打痕?) 消化管内容物、胃：貝殻破片、石、腸：貝殻破片(ほとんどが空：産卵個体) 腹腔内：産卵直前の卵百個程度

\*\*\*\*\*  
徳島県 宮崎光一さんより(8/1)

2005年7月31日16:30頃、漂着した死体を発見しましたので報告します。サイズ：甲羅長42cm、甲羅幅39cm、前足幅62cm 発見場所：徳島県那賀郡那賀川町(経緯度 33度.57分41秒04, 134度.40分09秒46) 事務局より：宮崎さんよりいただいた画像で種を確認したところ、アカウミガメでした。腐敗状況：頭部白骨化、甲羅一部剝離。

\*\*\*\*\*  
●ウミガメ速報05-34(8/16)

\*\*\*\*\*  
徳島県 河野良作さんより(7/24)

ストランディングがありましたので報告します。日時：2005年7月24日15時頃、場所：徳島県海部郡穴喰町大字穴喰浦字竹ヶ島・マリッジャム横、種：アカウミガメ、目測1m、備考：新鮮、波うち際に半分浮かんでいるような状態であった \*\*\*\*\*  
表浜ネットワーク 田中雄二さんより(7/27)

今日、表浜海岸にアカウミガメが初めて上陸致しました！ と言っても実は漂着が正しいのでしょうか。若い個体で、かなり元気が無かったですね。無事南知多ビーチランドに運びました。黒柳賢治さんより(7/28)：この個体は翌日人工飼料をすぐに食べました。野生個体ではまず有り得ないことですので、どこかで飼育されていた個体が海に放された個体かもしれません。SCL: 49.5cm、CW:37.9cm、BW:17.8kg

\*\*\*\*\*  
和歌山県 小谷修子さんより(8/4)

愛知県のサーフィンポイント、ロコポイント(田原市赤羽根漁港東海岸)にてウミガメの死体を



発見したと友達から教えてもらいました。昨日の朝九時すぎにロコポイントの駐車場の一番奥から海に歩いて行ったところにあったそうです。事務局より：小谷さんからいただいた画像より、アカウミガメでした。腐敗状況：頭部・甲羅ともに白骨化。また、愛知県田原市のあかばね塾の彦坂真さんに連絡したところ、サイズは直甲長66cm、直甲幅61cmとわかりました。

\*\*\*\*\*  
宮城県仙台市 鈴木寛人さん・橋本勝さんより(8/3)

鈴木寛人さんより仙台新港にてウミガメの死体が打ちあがっているとの情報をいただき、橋本勝さんが調査してくださいました。発見者：鈴木寛人さん、調査者：橋本勝さん、仙台新港の現着時間：8月3日11時35分 晴・無風、漂着個体確認時間：11時47分、漂着場所：仙台市宮城野区港1丁目(丁目は不確かです)、GPS：N38°15'43"74+E141°01'15"27、種：アカウミガメ、性別：不明、計測値：直標準甲長72.6cm、直最小甲長71.1cm、直甲幅59.2cm、標識の有無：四足ありましたが、タグは無し。漂着個体の状況：全体に腐敗は進行しているものの、原形をとどめている(添付画像)。調査後の処置：漂着した海岸で埋却処分。死因：不明(ウミガメの内臓器官について詳しくないので、解剖所見はしていません)

\*\*\*\*\*  
事務局 空戸駐在 山崎千亜希より(8/5)

空戸市椎名大敷網にて、アカウミガメの再捕がありましたのでお知らせします。

再捕日：2005年8月5日朝、再捕場所：高知県室戸市椎名大敷、状況：混獲、発見者：椎名大敷組合・事務局 空戸駐在員、標識：左前肢J8893・右前肢I22351、サイズ：標準直甲長 86.1cm 最小直甲長 85.2cm 直甲幅 70.1cm 曲甲長 90.8cm 曲甲幅 84.0cm 生死：生、処置：そのまま放流 事務局より：本個体の履歴です。発見日：2003年7月4日、発見場所：和歌山県日高郡みなべ町千里浜、発見状況：産卵、種：アカウミガメ、性別：メス、サイズ：標準直甲長84.7cm、最小直甲長83.2cm、直甲幅69.5cm、放流者：後藤清さん、備考：この個体は2003年7月18日、2005年6月27日、7月14日、8月1日にもみなべ町千里浜で産卵が確認されています。

※ 同日の午後、高知県室戸市三津大敷で、再々捕されました。発見日：2005年8月5日午後、発見場所：高知県室戸市三津大敷、状況：混獲、発見者：

協力調査員 我井邦彦さん・事務局 空戸駐在員、生死：生、処置：そのまま放流

\*\*\*\*\*  
佐賀県唐津市 阪本 登さんより(8/5)

上陸産卵情報を取り急ぎ一報いたします。場所：佐賀県唐津市湊町 北浜海水浴場 海の家 仮設休憩テント横 日時：2005年7月29日(金)午前6時ころ 海の家経営者が、清掃中に蹲っているカメを発見した。体長1.2~1.3メートル 大人4人で抱えきれない重さだったが、海へかえた。これに立ち会っていないので、タグは未確認です。甲羅に大きなフジツボが付着していたとの発見者証言より、アカウミガメと判断される。発見者と隣の店舗経営者が、その日の仕事を終えてカメが居た場所を掘ってみたところ30個ほど確認した。全て掘ってはいないので、全体数は、不明。過去には、上陸産卵地であったようですが、データは有りません。当該地では、初の産卵と言えそうです。現在、金網で囲ってあり人が触れないようにしてあります。孵化が近くなったら開放囲いに代えます。後日、詳細報告致します。

\*\*\*\*\*  
青森県三沢市 三代 由紀さんより(8/6)

2001年の夏の終わり、先輩から、三沢の海岸にウミガメの死体があると聞き、友達と見に行きました。三沢の海岸は、長い長い砂浜が、何キロも続く、人もあまりこないですが、ごみがたくさんあるところ。死体があった場所についてですが、青森県三沢市の338号線沿いに織笠(地名)というところがあります。そこからさらに15分くらい車で北上したところに保育園があり、そこから海のほうに入っていくと、車一台が通れるような細い砂利道になっていて、土手の向こうに海が広がっています。そこから砂浜を歩いて北上したところにありました。状態は悪く、うじがすごかったです。そこから歩いてさらに3分程度のところにも、もう一体のウミガメの死体がありました。あれから当時のことを思い出していましたが、その1週間くらい前に台風かなにかがきていて、海が荒れていて、それでウミガメがあがったんじゃないかと話していたのを思い出しました。

\*\*\*\*\*  
南知多ビーチランド大池辰也さんより(8/7)

湿美半島でアオウミガメの漂着死体が打ちあ



がっているとの報告を受け、行ってきました。なんとオサガメでした。日時：2005年8月5日、種類：オサガメ、性別：メス、漂着場所：愛知県渥美郡渥美町小塩津、小塩津海岸（表浜・遠州灘）、漂着状況：砂浜の海岸に打ち上げられずで死亡している。初期腐敗。発見・連絡者：渥美町役場・環境課岡本氏・影山俊彦氏 ○外部所見 特に外傷などなし。体全体が膨張している。甲長115.0cm、甲幅65.0cm、右前肢長71.7cm、右前肢幅22.2cm、右後肢長33.5cm、右後肢幅18.9cm、尾長7.2cm ○内部所見

・食道：クラゲ?の残渣あり。・胃：胃内容物としてクラゲ?の未消化物あり。胃粘膜面異常なし。・心臓：特に異常なし。・肺：特に異常なし。・肝臓特に異常なし。・小腸：ゴミ袋2片。粘膜面異常なし。・大腸：特に異常なし。・輸卵管：太さ2mmほど。・腎臓：特に異常なし。肉眼的に特徴的な病変は認められなかった。標本採取：頭骨、皮脂、筋肉、肝、腎、ゴミ袋、食道内クラゲ?、胃内クラゲ?

\*\*\*\*\*

### ●ウミガメ速報05-35 (8/23)

\*\*\*\*\*

日和佐町 藤井隆司さんより (6/6)

漂着したウミガメの調査をしましたので、報告します。調査日時：2005年6月3日(金)18:05、発見場所：徳島県阿南市北ノ脇海岸、種：アカウミガメ、サイズ：曲甲長74.5cm、曲甲幅60cm、生死：死、尾の長さ：短い、標識の有無：無、処置：解剖後、埋設。状況：死亡して1日くらい。外傷なし。死因は窒息死と思われる。腹部よごれていた。生殖器で確認したところ、オスでした。調査協力者：森田さん(日和佐うみがめ博物館 カレック職員)、新居さん(阿南ウミガメクラブ)、石原(日本ウミガメ協議会)

\*\*\*\*\*  
高知県安芸漁協藤田淳司さん・安芸市峰本高洋さんより(7/9)

標識の付いたウミガメを発見したので報告します。発見日：2005年7月9日、発見場所：高知県安芸市波打ち際から10~20m付近、発見状況：混獲(シラス用の船曳網)、標識：右47090、左47089、性別：メス、サイズ：標準直甲長80cm、曲甲幅75cm、生死：生、処置：そのまま放流。備考：陸に上げて、水槽に入れていたら卵を29個放出しており、内1個は割れていました。卵は砂浜に埋めています。事務局より：本個体の履歴です。放流者：協力調査員 戎井邦彦さん・事務

局 室戸駐在員。放流日：2005年6月23日、放流場所：高知県室戸市三津、種：アカウミガメ サイズ：標準直甲長79.3cm、最小直甲長77.2cm、直甲幅65.4cm、曲甲長86.4cm、体重66.6kg 発見状況：混獲(定置網)

\*\*\*\*\*  
事務局 室戸駐在 山崎千亜希より (8/5)

室戸市椎名大敷網にて、アカウミガメの再捕がありましたのでお知らせします。再捕日：2005年8月5日、再捕場所：高知県室戸市椎名大敷、状況：混獲、発見者：椎名大敷組合・事務局 室戸駐在員、標識：左前肢J8893・右前肢T22351、サイズ：標準直甲長86.1cm 最小直甲長85.2cm 直甲幅70.1cm 曲甲長90.8cm 曲甲幅84.0cm 生死：生、処置：そのまま放流 事務局より：本個体の履歴です。発見日：2003年7月4日、発見場所：和歌山県日高郡みなべ町千里浜、発見状況：産卵、種：アカウミガメ、性別：メス、サイズ：標準直甲長84.7cm、最小直甲長83.2cm、直甲幅69.5cm、放流者：後藤清さん、備考：この個体は2003年7月18日、2005年6月27日、7月14日にもみなべ町千里浜で産卵が確認されています。

\*\*\*\*\*  
竹富町役場慶田盛氏のカメラ話(若月元樹採取 8/9)

出身の小浜島には小学校の1年の途中まで居た。そこから石垣の登野城に移った。移ってまもなく前の貸家を借りている人が庭に池をつくってそこに砂を入れた。しばらくしてウミガメの卵を沢山その池に埋めてしばらくすると子ガメが沢山這い出てきた。それを一緒に海に放しに行ったことがある。何の目的でやっていたのかはわからない。子ガメを売っている気配もなかった。何年間かそれを続けていた。卵はどこから持ってきていたのかはわからないが、その人は西表出身でちよくちよく西表にも行っていたので西表から持ってきていたのかもわからない。だから私は子ガメが砂から出てくる感動シーンを何度か見ている。海では見たこと無いが、また、若いころ、出張で来ていた県の職員と日曜日に新城島(上地)でキャンプをしていたら、何かもそもそ動くので近づいてみたらウミガメが産卵していた。その時に初めてウミガメの産卵を見た。

\*\*\*\*\*  
和歌山県 小谷修子さんより(8/4)  
愛知県のサーフィンポイント、ロコポイント(田



原市赤羽根漁港東海岸)にてウミガメの死体を発見したと友達から教えてもらいました。昨日の朝九時すぎにロコポイントの駐車場の一番奥から海に歩いて行ったところにあったそうです。事務局より:小谷さんからいただいた画像より、アカウミガメでした。腐敗状況:頭部・甲羅ともに白骨化。また、愛知県田原市のあかばね塾の彦坂真さんに連絡したところ、サイズは直甲長66cm、直甲幅61cmとわかりました。

\*\*\*\*\*  
福井市自然史博物館 石田 惣さんより(4/12)  
昨日4月11日に福井市白浜町の海岸を歩いていた方から、ウミガメの漂着死体をもらい受けました。専門外ながら同定したところタイマイではないかと思われました。かなり腐敗しており、頭部と前脚はありません。標本はこちらで収蔵・登録します。発見日:2005年4月11日 13時30分ごろ、発見者:八田 真毅さん(福井市)、場所:福井市白浜町(N36度4分53秒、E136度1分40秒)、標識タグ:なし、体サイズ:甲長37センチ、甲幅29センチ、重さ約1.3キロ(ただし腐敗状態)、性別:未確認 事務局より:石田さんにいただいた写真よりタイマイであることを確認しました。

\*\*\*\*\*  
みなべウミガメ研究班 後藤清さんより(4/12)  
4月11日朝 みなべ町堺漁港から、ウミガメの漂着があるという連絡をうけました。早速、調べに行きましたが、写真の通り漁港内をプカプカ浮遊しています。もちろん測定など調査はできません。しかし、目測では70~80cm程度です。種はアカウミガメ、性別はわかりません。腐敗がかなり進んでいるようです。標識は見られません。処置はやむなく放置することになりました。まもなく港内から流出するという事です。以上、お知らせします。(今回は掲載漏れの古いニュースを記録させていただきました。)

\*\*\*\*\*  
●ウミガメ速報05-39(9/4)

\*\*\*\*\*  
神奈川県 石井了介さんより(8/21)  
ウミガメの死体が漂着していましたので報告します。場所:神奈川県鎌倉市材木座、日時:05.8.20、甲長:80cm(目測)、標識:なし、種:不明、腐敗状況:少し悪臭がしました。外傷なし。処理の方法が分からないので、波打ち際に砂を掘って

埋めました。後日、台風11号で流されてしまったようで、埋めた場所がわからなくなりました。長老から処理の方法と、鎌倉にも昔は海がめが産卵に来ていたとの話を聞きました。

\*\*\*\*\*  
日向市 大野裕さんより(8/22)

日向市の状況を報告します。①ストランディング、日時:2005年7月2日、場所:日向市お倉ヶ浜、種:アカウミガメ、測定値:標準直甲長67cm、直甲幅54cm、前肢37cm、後肢20cm、尾10cm、②上陸死亡個体、種:アカウミガメ、場所:日向市美々津海岸、上陸後産卵場所を探すために覆の多い海岸をかなり歩行後穴を掘り産卵一部するも死亡、直甲長80cm、直甲幅62cm、前肢40cm、後肢20cm、甲羅の後部にひび割れあり。③日南市全体のカメの上陸産卵情報:上陸76回うち産卵52回(8月1日現在)半分近く孵化した

\*\*\*\*\*  
●ウミガメ速報05-40(9/5)

\*\*\*\*\*  
南知多ビーチランド 黒柳賢治さんより(8/31)  
標識をつけたウミガメが見つかりましたので、報告します。再捕日:2005年8月31日、再捕者:豊浜漁業協同組合 友隆丸 田中千隆さん、再捕場所:愛知県知多郡南知多町山海沖3-4km、水深25-30km、状況:混獲(底引き網)、標識:インコネル2658、サイズ(捕獲時計測値):標準直甲長45.2cm、直甲幅36.5cm、体重:13.2kg、処置:9月3日夕方、南知多町内海海岸より放流。なお、放流した内海海岸は捕獲された山海の西隣の海岸で、ふ化種ガメを放流する際、一緒に放流しただけで、特に意味はありません。事務局より:本個体の履歴です。放流日:2005年7月16日、放流者:日和佐うみがめ博物館、放流場所:徳島県海部郡日和佐町大浜海岸、種:アカウミガメ、性別:不明、サイズ:標準直甲長44.8cm、直甲幅34.2cm、体重12.7kg、備考:今年8月で4歳になる飼育個体。卵の採取した場所は不明。

\*\*\*\*\*  
山口県 守山明夫さん、岩国市水産港漁課 甲斐野さんより(9/1)

ウミガメの死体が漂着していましたので報告します。発見日:2005年8月31日午後3時30分、発見場所:山口県岩国市通津海水浴場、甲長:約80cm、甲幅:60cm、標識:なし、種:



アオウミガメ、事務局より：いただいた写真より高  
敗状況です。鱗板剥離、前肢一部脱落、内臓露出。  
\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-41 (9/6)

\*\*\*\*\*  
宮崎県漁港漁場整備課西布穂也さん、同南郡阿農林  
振興局中西健二さんより(8/11)

漁協より標識を付けたウミガメを発見したとの情  
報がありましたのでお知らせします。日時：8月11日  
早朝、場所：宮崎県日南市宮浦地先、標識：JN  
27210、状況：小型定置網に入網。3人がかりで引き上  
げて標識番号を確認。標識は多数付いていたが、そ  
のうちの1つだけを確認した。ウミガメの種類は確  
認せずに再放流。発見者：日南市漁業協同組合所属外  
山水産 外山和徳さん、事務局より：本個体の履歴で  
す。放流者：宮崎野生動物研究会竹下完さん、捕獲場  
所：宮崎県高鍋町堀之内海岸、捕獲日：'02年6月13  
日、捕獲状況：産卵、サイズ：甲長85cm、甲周81cm、  
種：アカウミガメ、標識装着：JN 27210、JPN 18272  
\*\*\*\*\*  
カレッタ君のふる里を守る会 田中 輝彦さんより  
(8/11)

ストランディングがありましたので報告します。  
年月日：'05年8月7日、種名：アカウミガメ、サイズ：  
標準直甲長80.1cm、直甲幅59.6cm、発見場所：静岡県  
湖西市白須賀海岸、発見者：佐原正晃さん、標識：  
23801、発見状況：波打ち際に漂着。りんぱんが一部  
剥がれ腐敗し、目鼻から汁が出ていた。外傷は無  
し、魚網に入り窒息と考えられる。処置：波のこない  
場所に埋葬。このカメの経過：'05年7月12日23時頃  
湖西市白須賀海岸に上陸、産卵せず帰る(標識装  
着)。'05年7月14日豊橋市小島の消波ブロックに挟ま  
れ動けなくなっているところを救助され再放流。

\*\*\*\*\*  
屋久島うみがめ館 大平田一美さん、法子さんより  
(8/13)

屋久島で標識装着個体の産卵がありました。産卵  
日：'05年6月27日(前浜)、7月12日(いなか浜)、標識  
番号：44536(左前肢、青いプラスチックタグ)、  
00063B4B52(インナータグ)、種：アカウミガメ、標識  
装着：左前肢 49249(モネルタグ)、装着日：6月27日、  
備考：タグの取れた跡有り。後肢のタグの確認はし  
ておりません。事務局より：本個体の履歴です。放流日  
時：'05年5月21日、放流場所：高知県室戸市三津漁  
港、放流者：室戸基地駐在員、協力調査員 戎井邦彦

さん、種：アカウミガメ(♀)、サイズ：標準直甲長  
88.6cm、最小直甲長87.7cm、直甲幅72.5cm、曲甲  
長91.0cm青いプラスチックタグ：JPN 44536(右前  
肢)、JPN 44585(左前肢)、インコネルタグ：48073  
(右後肢)、48072(左後肢)

\*\*\*\*\*  
カメハメハ王国 山本明男さんより(8/13)  
ストランディングがありましたので報告しま  
す。日時：平成17年8月12日午前10時死亡  
漂着、場所：静岡県榛原郡相良町波津海岸。解剖  
者：山本明男、松下静夫、渡辺美穂子、種：アカ  
ウミガメ♀、測定値：標準直甲長75.9cm、直甲幅  
60.1cm、備考：その他の所見：標識無、ガス有、  
背甲剥離初期、前肢有り 後肢有り、頭部有り、  
外傷無し、消化管内容物：食道無、胃無、腸プ  
ラチック片、貝殻、卵巣：産卵直前の卵100個  
程度(最終産卵と思われる)

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-42 (9/9)

\*\*\*\*\*  
鹿兒島 森山ひろしさん(衆議院議員)より(7  
31)

2頭のウミガメに出会いましたのでお知らせい  
たします。2005年7月30日午前7時ごろ 鹿兒島県  
肝属郡肝付町内之浦(内之浦港より3キロ沖)、定置  
網漁見学時、大きいカメ(表記番号：39205)  
と小さいカメ(表記なし)に出会いました。何かの  
役にたてば幸いです。

事務局より：送っていただいた写真より、大きい  
カメはアオウミガメ、小さいカメはアカウミガメ  
でした。また、標識のついていた大きいカメの履  
歴は次のとおりです。放流者：小笠原海洋セン  
ター、発見日：2005年6月3日、発見場所：東京都  
小笠原村父島製氷海岸、発見状況：上陸(標識装  
着後に帰海)、種：アオウミガメ、性別：メス、サ  
イズ：SCL94.2cm SCW71.9cm CCL99.8cm  
CCW91.5cm、標識番号：左後肢Y39205 左前肢  
141547 右前肢I41548、その他：上陸を初めて確  
認した個体でした。

\*\*\*\*\*  
愛知県 伊藤麗子さんより(8/6)

私、愛知県豊橋市に住む伊藤というものです。  
今日の午後4時ごろ、ウミガメが浜で死んでい  
るのを見つけました。藤壺が背中についており、死



後間もない様子で、目から涙のようなものが流れておりました。場所は、瀨美半島の六連（むつれ）の、多分「浜田海岸」という看板から海に下りたところで、東に向かって400mくらい？（テトラポットの種類の変わるあたり）歩いたところです。インターネットで「豊橋 ウミガメの会」で検索したのですが、代わりにヒットしましたこちらの方にご連絡すれば、豊橋の会の方にも伝わるのではないかと思います、ご連絡しました。ちなみに私、一昨年、豊橋市の催しで、ウミガメの卵や赤ちゃんを、会の方の先導で見ることが出来、感動した者です。ウミガメの実物を表浜海岸で見るのは初めてでしたが、それが死んでいたウミガメだったのは残念でした。

\*\*\*\*\*  
兵庫県 宇恵功さんより(8/8)

ウミガメの産卵後を目撃しましたので、お知らせします。情報：産卵後と思われるウミガメが海に帰っていく様子を目撃しました。目撃日：2005年8月7日早朝5時。場所：和歌山県南部海岸、城田港側。状況：明け方、5時ごろに釣りをするために南部海岸に立ち寄った所、ウミガメが海に向かっての姿を目撃しました。また、そこから少し離れた所にもウミガメが通ったと思われる足跡もありました。浜全体は広いのですが、ごろた浜でほとんどが大きめの石ですが、港側のみ細かな砂になっており、そこに上陸していました。すぐ近くに国道が走っており、明け方には犬の散歩を楽しむ人もおり、こんな近くで目撃するとは正直、驚きました。

\*\*\*\*\*  
沖縄県座間味島 オーシャンウェイ 北條貴子さんより(8/10)

沖縄県座間味島のダイビングサービス オーシャンウェイと申します。先日、アオウミガメの死体が漂流しているのを見つけましたので、参考になればと、いちおう写真と情報を送ります。2005年8月26日 座間味島、座間味島の島のすぐ近くで、海岸線より200mくらい沖あいのところ。ちょうどダイビングポイントの掃りで、よくボートが通る海域です。うつぶせで漂流していました。甲羅の表面には、スクリーと思われるような、大きな外傷がなかったので、何が原因なのかな??と、仰向けにひっくり返してみました。おなか側の甲羅のまんなかのラインにそって、ちょっと亀裂が入っているように見えました。あとは、目玉の周りや、あご、片方の足のあたりが、白っぽくふやけていま

した。  
\*\*\*\*\*  
愛媛県総合科学博物館 山本貴仁さんより(8/11)

ウミガメの混獲がありましたので報告いたします。種：アオウミガメ、場所：愛媛県上島町豊島沖、日：2005年7月31日、状況：豊島沖の定置網に入り死亡していた。外傷はなし。8月10日に冷凍されていた個体を山本が確認。サイズ：直甲長81cm・直甲幅63cm、標識：後肢にはなし、前肢は確認できず。

\*\*\*\*\*  
宮崎県那珂農林振興局農政水産課 中西健二さんより(8/11)

日南市漁業協同組合よりウミガメが混獲されたとの連絡がありましたのでお知らせします。発見日：'05年7月26日頃、発見者：日南市漁業協同組合 湯浅勝好さん、発見場所：宮崎県日南市鶴戸漁港より沖合に700~800mの定置網、発見状況：網をあげたら、後肢に標識が2個ついているウミガメを発見したので引き上げた。暴れて番号確認が難しかったので、標識を1個切断して番号を確認し、放流した。標識番号：JPN 39167、サイズ(目測)：甲長100cm、甲幅60~70cm、種：アオウミガメ(♂) 事務局より：本個体の履歴です。この個体は、2度目の再捕でした。放流者：屋久島うみがめ館 大牟田一美さん、発見・放流日：'98年7月3日、発見場所：鹿児島県屋久島一湊の定置網、サイズ：標準直甲長84.4cm、直甲幅71.5cm、体重80kg、放流者：小笠原海洋センター 山口真名美さん、発見日：'05年4月22日、発見場所：東京都小笠原父島ブタ海岸、発見状況：交尾中にウミガメ漁師に捕獲。放流日：'05年6月25日、放流場所：東京都小笠原村父島大村海岸(小笠原返還行事として放流)、サイズ(発見日に測定)：標準直甲長87.4cm、曲甲長91.9cm、直甲幅72.7cm、曲甲幅88.8cm、イエロープラスチックタグ：39167(左後肢)、39168(右後肢)インコネルタグ：41525(左前肢)、41526(右前肢)

\*\*\*\*\*  
三重県紀北県民局水産課 水谷さんより(8/17)

標識のついたウミガメが見つかりましたので、お知らせします。日時：8月17日、場所：三重県尾鷲市九鬼町中鼻定置網、標識番号：JPN 33819、甲長56.7cm(メジャーで計



測)、処置:標識はそのままにして、生きたままその場で放流。(事務局より)このウミガメは、2005年7月18日、愛知県美浜町の南知多ビーチランドで放流した6歳のアオウミガメで、放流時の記録では、SCL57.5cm、CW47.7cm、BW30kgでした。

\*\*\*\*\*  
東京都島嶼農林水産センター大島事業所 堀清樹さんより(8/18)

東京都神津島漁業協同組合より標識の付いたウミガメが混獲されたとの連絡があったのでお知らせします。発見日:05年8月18日、発見者:神津島漁業協同組合 前田好樹さん、石田竜一さん、発見場所:神津島西側長浜沖約700m、水深約25mの定置網、発見状況:標識の付いているウミガメがかかっていたので、引き上げて標識を全て切断。その後、状態は悪かったが生きていたので放流した。標識番号:JPN 43458、サイズ(日測):全長120cm、幅70cm。

事務局より:本個体の履歴です。放流者:小笠原海洋センター 山口真名美さん、発見日(放流日):05年7月16日、発見場所(放流場所):小笠原諸島母島列島平島、発見状況:採集中、種:アオウミガメ(♀)、サイズ:標準直甲長105.0cm、曲甲長106cm、直甲幅77.5cm、曲甲幅98.0cmイエロープラスチックタグ:43458(左後肢)、43459(右後肢)インコネルトグ:41828(左前肢)備考:1週間の無人島張り込みで標識を装着したウミガメ。

\*\*\*\*\*

#### ●ウミガメ速報05-44 (9/20)

\*\*\*\*\*  
カメハメハ王国 山本明男さんより(8/7)

相良海岸ストランディング記録05-4です。漂着日時:平成17年8月6日午後2時死亡漂着、午後3時解剖、解剖者:山本明男 松下静夫 渡辺美穂子 松下千吉、漂着場所:静岡県榛原郡相良町波津海岸、種・性:アカウミガメ ♀、直甲長:75.9cm、甲幅:69.0cm、その他の所見:電波発信器 TELONICS装着、右前肢標識000654(遠洋水産研究所のものと思われる)、ガス無、背甲剥離途中、前肢有り 後肢有り、頭部有り、腹部損傷(内臓突出・剥離)、頸部骨折、消化管内容物:食道一アジと思われる魚がまるごと、胃一魚類が多数、腸一外部放出・溶解、その他:産卵直前の卵が数個(残りは腹部の穴から放

出と思われる)

\*\*\*\*\*  
鹿児島県野間池 協力研究員 宮内叶さんより  
(8/16)

野間池の白瀬定置網に、標識の付いたウミガメが入っていましたのでご連絡します。捕獲日8月16日、アオウミガメ SCL102cm MCL102cmSCW 76.8cm 前足に金属タグ JPN 41637 41636 後足に黄色タグあり。事務局より:この個体は小笠原海洋センターにて標識放流したものでした。データ: 捕獲年月日:2005年6月25日 捕獲場所:東京都小笠原村父島境浦 捕獲状況:大穴掘り中 性別:♀ 放流年月日:同上 放流場所:同上 測定年月日:同上 測定値: SCL:102.6cm SCW:77.8cm CCL:107.6cm CCW:96.4cm

\*\*\*\*\*  
福岡 馬奈木雄史さんより(8/17)

ストランディングを発見しましたのでお知らせします。また、写真を送ります。発見日:05年8月16日、発見場所:福岡県糸島郡志摩町芥屋黒磯海岸、発見状況:岩だらけの海岸で、波打ち際に漂着したアカウミガメを発見した。サイズ:最大直甲長約77.0cm、直甲幅約61.5cm、標識:なし。死後数日は経過していると思われる。ガスで首や足の付け根がふくらんでおり、眼球も突出していました。甲羅が一部剥けていましたが、目立った外傷もなく、四肢も完全に形をとどめていました。尾は短く、後ろから見ると外からも総排出口が確認できるくらいに膨らんでいました。事務局より:写真よりアカウミガメの未成熟もしくはメスと判断しました。

\*\*\*\*\*  
福岡 馬奈木雄史さんより(8/20)

ストランディングがありましたので報告します。雌雄の判別に自信がありませんので写真を送ります。ご確認の程よろしくお願ひします。なお、発見当時の状況は、次のとおりです。日時:05年6月6日(月)、17時50分頃、場所:福岡県糸島郡志摩町芥屋黒磯海岸、サイズ:最大直甲長約85.0cm、直甲幅約63.5cm、状況:足の付け根や首のあたりが少しガスで膨らんでおり、少し腐敗臭がしました。首の付け根部分に傷があり、甲羅の縁にかけて広い範囲でえぐれたようになっていました。頸部に刺し傷のようなものがありました。また、左



後ろ足の先がなく、足の付け根部分の甲羅も一部欠けていましたが治癒の後がありました。事務局より：写真より、アカウミガメのオスと確認されました。

\*\*\*\*\*  
愛知県 荒井利夫さんより(8/23)

はじめまして。私は愛知県伊良湖周辺でサーフィンをやっています。21日の日曜日にウミガメの死骸を発見しました。凄く小さかったので、卵から孵った赤ちゃんだとも思います。ちなみに場所は愛知県田原市赤羽根町のロコポイント(赤羽根海岸)です。亀の大きさは6cmでした。また、甲羅に穴が空いていました。写真はサーフィンする前でしたので撮りませんでした

\*\*\*\*\*

●ウミガメ連報05-45 (9/22)

\*\*\*\*\*  
国土交通省四国地方整備局高知河川国道事務所 山本尚さんより(8/23)

海岸の巡視中にウミガメの漂着死体を発見しましたので、お知らせします。写真をメールに添付して送ります。発見日：05年8月23日14時20分頃、発見場所：高知県南国市十市(とうち)の海岸、種：アカウミガメ、雌雄：不明、サイズ：曲甲長70cm、曲甲幅50cm、標識：無し。状態(写真より)：腐敗が激しく、頭部がほぼ白骨化して露出。

\*\*\*\*\*

鹿児島県野間池 宮内叶さん・鹿大ウミガメ研究会 武内有加さんより(8/31)

標識をつけたウミガメが見つかりましたので、報告します。再捕日：2005年8月31日、再捕場所：鹿児島県笠沙町野間池、状況：混獲(定置網)、標識：ブラ43339(左後肢)・43340(右後肢)、インコネル41721(左前肢)・41722(右前肢)、サイズ：標準直甲長101.5cm、最小直甲長101.4cm、直甲幅76.6cm、処置：そのまま放流事務局より；本個体の履歴です。放流者：小笠原海洋センター、捕獲・放流日：2005年7月10日、捕獲・放流場所：東京都小笠原村父島初寝浦海岸、種：アオウミガメ、性別：メス、状況：上陸(小穴掘り中止)、サイズ：標準直甲長100.8cm、直甲幅78.4cm、曲甲長105.4cm、曲甲幅96.8cm

\*\*\*\*\*

南知多ビーチランド黒柳賢治さんより(9/4)

先日再捕しましたアカウミガメを昨日(3日)夕

方、南知多町内海(うつみ)海岸より放流しましたのでご連絡します。なお、捕獲時のデータを記しますのでご確認ください。捕獲日：8月31日、捕獲場所：南知多町山海沖3~4km、水深25~30m、捕獲者：田中千隆氏(友隆丸ともたかまる)による底引き網、捕獲時計測値：SCL45.2cm、CW36.5cm、BW13.2kg

\*\*\*\*\*  
北里大学水産学部 朝日田卓さんより(9/8)

先日に引き続き、ウミガメが捕獲されましたので、貴協会から提供されたタグをつけて放流しました。以下にその情報を記します。タグナンバー30478と30479；アオウミガメ 曲甲長46.9cm、甲長43cm、曲甲幅43.5cm、甲幅36cm、体重11.5kg、岩手県大船渡市三陸町 大入漁場(定置網) 2005年9月3日

\*\*\*\*\*  
オキナワマリンリサーチセンター来山大貴さんより(9/2)

先日、当施設より保護したタイマイを標識をつけ放流しましたので連絡させていただきます。種：タイマイ、性：不明、放流日：2005年8月11日、放流場所：沖縄県本部町かきのうちビーチ、直最小甲長：314mm、直甲幅：273mm、体重：4.04kg、標識番号：右前肢プラスチック20721、左前肢インコネル20368、メモ：右後肢甲羅が直径3センチほど欠損

\*\*\*\*\*  
OMRC小林利充さんより(9/5)

本日は、台風に見舞われ、沖縄は強風が吹き荒れておりますが、暴雨風域には入らなかったもので、イルカも含め一同安堵しております。台風によって多くのゴミがビーチに流れ着きましたが、その中にアカウミガメの子供が混じっていたのでご報告いたします。最初は、死んでいるかと思いましたが、しばらくすると動き始め、今は水槽の中で元気に泳いでおります。また、しばらく飼育して大きくから海に戻します。種類 アカウミガメ、甲長40mm、甲幅3.2mm、体重13g、発見場所：沖縄県恩納村山田3425-2 ルネッサンスビーチ。この時期、台風時に多くのアカウミガメの子が打ちあがります。ゴミの中に埋もれていることが多いです。9月だとまだ生きていたことが多いのですが、10月後半や11月ですと死亡している例も少なくありません。



\*\*\*\*\*  
OMRC小林利充さんより(9/9)

また、カメのライブストランディングですので  
ご報告しておきます。

9月9日漂着、種類：アカウミガメ、甲長40cm、  
甲幅32mm、体重14g、発見場所：沖縄  
県恩納村山田3425-2 ルネッサンスビー  
チ、打ちあがるカメが紛れているゴミは、アマモ  
が多いのですが、それ以外に流水やビニール袋、  
ペットボトル、発砲スチロール、フロートなど  
多数です。台風時は、トラック一杯分くらいのゴ  
ミが引き上げられます。最も割合の多いのは「ア  
マモ」です。

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-46(10/2)

\*\*\*\*\*  
下関市長府のせき水族館 久志本鉄平さんより  
(9/8)

この夏、海響館で扱ったストランディングと下  
関市長府宮崎町申崎の産卵巣の調査報告です。ス  
トランディング、海上漂流(死亡)、発見日：  
2005年9月2日、場所：下関市大和町(関門海  
峡)、種：アカウミガメ、甲長70~80cm。孵化率  
調査 場所：下関市長府宮崎町申崎(関見台公園  
下)、産卵日：2005年6月25日、脱出日：2005年8  
月22日~9月2日、調査日：2005年9月4日、産卵  
数：129個、孵化：50匹(42脱出、8失敗 孵化率  
38.8%、脱出率32.6%)備考：未孵化であった卵79  
個の内68個では孵化直前まで発生進行。

\*\*\*\*\*  
福島県自然保護グループ 朽木洋美さんより(9/  
8)

いわき市久之浜に漂着したアカウミガメの死体  
について報告いたします。1漂着場所：いわき市  
久之浜海水浴場の砂浜、2漂着発見年月日：平成  
17年7月27日、3体長1m30cm程度、4経  
過：①7月27日午前8時30分頃いわき地方振  
興局に通報あり。②いわき地方振興局職員が現場  
で埋設処分。

\*\*\*\*\*  
東京都島しょ農林水産総合センター八丈事業所  
根本弘美さんより(9/8)

アオウミガメを確保し放流しましたので報告し  
ます。アオウミガメリリース情報、発見日時：  
2005.9.8 12:30、発見者：磯谷篤、発見場所：

東京都八丈島八丈町三根垂戸湾(北緯33°07'  
50.2" 東経139°48'03.2")経緯：12:30発見  
者より当センターに、潮だまりにウミガメが  
いるとの電話連絡。13:00当センター職員が現場を確  
認。東京都八丈支庁水産係に連絡。13:20衰弱し  
ているようだが、自力呼吸もしており、リリース  
することした。ブルーシートに乗せ、6人掛り  
で約20mを移動させる(自力でも移動した)。14:  
07 放流。尚、アオウミガメに関するデータは次  
の通り、標識番号：左足JPN34444、右足JPN  
34445、測定値：甲長101.5cm、甲幅95.1cm  
性別：メスと思われる。

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-47(10/6)

\*\*\*\*\*  
宮崎野生動物研究会 竹下完さんより(9/3)

日南市風田海岸の孵化場でアオウミガメが孵化  
しました。30日の朝、桑田さんの息さんが孵化  
場に行くとき色が変わった子ガメを発見、31日に  
また孵化したので日南市社会教育課に連絡担当の甲  
斐さんから野生動物研究会に写真を添えてたずね  
て来ました。まさしくアオウミガメの子ガメでし  
た。アオウミガメが孵化したのは宮崎では初めて  
で今年産卵上陸したことがわかりました。

\*\*\*\*\*  
福岡県 岩崎 富一さんより(9/3)

産卵の初便りをします。日時：2005年7月  
8日 午前5時50分、場所：福岡県遠賀郡岡垣  
町吉木浜、何時ものように海岸線を調査中に足跡  
を発見。近寄ってみると紛れもなくカメの足跡で  
した。早速行政に連絡し、産卵の確認実行。足跡  
の幅：5.6cm 小ぶり(過去の足跡9.5cm平均)、  
産卵数：85個 少なめ(過去平均120個にく  
らべ)初産の若亀、種類：過去のアカウミガメの  
卵と大きさが等しく、アカウミガメと推定され  
る。同日、産卵場所が海岸に近く水災の可能性有  
りの為、移植実行。岡垣町では、過去、平成4年  
に1回、6年に3回、8年に2回、11年に1回  
それぞれ上陸産卵、15年は1回の上陸を確認し  
ましたが産卵なしと、6年振りの産卵に大変喜ん  
でいます。9月5日前後が孵化日です。確認後連  
絡します。

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-48(10/10)



\*\*\*\*\*

静岡県 畑 敦夫さんより (6/20)

6/20、朝7時に大井川河口(静岡県榛原郡吉田町川尻)に釣りに行った際、死んだウミガメを発見しました。18日も同じ時間に行きましたが、その日は無かったように思います。19日は行っていませんので、18日朝8時以降から20日朝までの間に打上げられたのではないのでしょうか。18日は、波は1m~1.5mくらいでしたが、19日~20日はうねりがあり、高波でした。ウミガメを発見したときは、腹側を上にしてすでに死んでいました。波打ち際から10m位のところにおり、腐ったような臭いがして、カラスが2~3羽つつついていました。右前肢にJPN44409の、左前肢にJPN44410の標識がついていました。甲羅がはがれており、頭部が白骨化していました。全長は約90cmでした。ウミガメはそのまま放置しています。事務局より：本個体の履歴です。捕獲・放流日：2005年6月、捕獲場所：静岡県熱海市網代定置網、種：アカウミガメ、性別：不明、直甲長：66.7cm、直甲幅：55.5cm、状況：定置網にて混獲、生死：生→放流、報告者：網代漁業株式会社 佐々木さん。放流先の確認に手間がかかり、連報掲載が遅れました。

\*\*\*\*\*

ふくしま海洋科学館 平治陸さんより (9/5)

アカウミガメの産卵がありましたので報告します。9月2日午前6時頃、福島県双葉郡富岡町仏坂の富岡海水浴場でアカウミガメが産卵しているのを住民が発見しました。住民から連絡を受けた富岡町役場職員とふくしま海洋科学館職員が現地にて確認しました。産卵場所は干潮時の波打ち際からおよそ20m、満潮時には波をかぶるおそれがある場所でした。また、2ヶ月後の11月初旬は気温、水温共にかなり下がってしまいアカウミガメが無事に孵化できる可能性が低いと、町役場、発見者、ウミガメ協議会と相談の上、ふくしま海洋科学館にて人工孵化させることとしました。産卵数は123個。来年水温が上がり次第放流予定です。また、8月18日と8月27日にアカウミガメのストランディングがありましたので報告します。

1. 8月18日、いわき市四倉の四倉海水浴場にアカウミガメがストランディングしたとの連絡を受け確認した。すでに当該個体は死亡しており、腐敗し頭部の白骨化が始まっていた。また、前肢も一部欠損していた。オスの個体と思われる。標準直甲長71.3cm、甲幅58.3cmだった。小名浜港湾建設

事務所により焼却処分。

2. 8月27日、いわき市勿来にアカウミガメがストランディングしたとの連絡を受け確認した。すでに当該個体は死亡しており、腐敗がひどく白骨化が始まっていた。メスの個体で標準直甲長72.0cm、甲幅54.0cmだった。現地にて埋却する。

\*\*\*\*\*

兵庫県 野崎亜紀子さんより (9/6)

私のカメ好きを知っている同僚から聞いた話です。先週の土曜日(9/3)、武庫川の一文字(いちもんじ)で蛸釣りをしていたときに、アカウミガメをみたそうです。ほんの10メートルまで近づいてきて、プシュープシューっと顔を出しては息づきをしていたそうです・・・携帯で写真を撮ったそうですが、全然何かわかりませんでした。

\*\*\*\*\*

静岡県伊東市漁協 富戸支所 日吉直人さんより (9/7)

標識のついたウミガメを同時に2頭発見しましたので、お知らせします。

再捕日：2005年9月7日、再捕場所：静岡県伊東市富戸、状況：混獲(定置網)、1. 標識：J39230・J39229、サイズ：全長1m強、生死：生存、処置：そのまま放流 事務局より：本個体の履歴です。放流者：小笠原海洋センター、捕獲・放流日：2005年6月14日、捕獲・放流場所：東京都小笠原村父島扇浦海岸、種：アオウミガメ、性別：メス、状況：帰海中、サイズ：標準直甲長

100.4cm、直甲幅75.7cm、曲甲長105.3cm、曲甲幅97.6cm、2. 標識：J39364、サイズ：全長1m弱、生死：生存、処置：そのまま放流 事務局より：本個体の履歴です。放流者：小笠原海洋センター、捕獲・放流日：2005年7月2日、捕獲・放流場所：東京都小笠原村父島大村海岸、種：アオウミガメ、性別：メス、サイズ：標準直甲長

100.4cm、直甲幅75.7cm、曲甲長105.3cm、曲甲幅97.6cm

\*\*\*\*\*

紀南漁業協同組合 下川 善己さんより (9/14)

標識のついたウミガメを発見しましたので、お知らせします。

再捕日：2005年9月14日、再捕場所：三重県南牟婁郡御浜町阿田和、状況：混獲(定置網)、標識：



39459、サイズ：不明、生死：生存、処置：そのまま放流 事務局より：本個体の履歴です。今回は2回目の再捕でした。1. 放流者：小笠原海洋センター、捕獲・放流日：1995年7月2日、捕獲・放流場所：東京都小笠原村父島北初寝海岸、種：アオウミガメ、性別：メス、2. 放流者：小笠原海洋センター、捕獲・放流日：2005年7月4日、捕獲・放流場所：東京都小笠原村父島北初寝海岸、サイズ：標準直甲長 97.0cm、直甲幅 76.5cm、曲甲長 102.0cm、曲甲幅 85.0cm、標識：J39458(左後肢)・J39459(右後肢)・I41740(左前肢)

\*\*\*\*\*  
兵庫県淡路市 近野卓哉さんより(9/21)

9月20日夕方南あわじ市津井港の砂浜にウミガメの死体(全長約1.5m)を発見し、南あわじ市西淡庁舎に通報。翌朝同職員が現地を確認したが発見できず。種はアオウミガメ(携帯電話の写真より)、標識は無し。

\*\*\*\*\*  
OMRC 小林利充さんより(9/26)

本日、アカウミガメが護岸から200mくらいのところを漂流していました。触っても動かず、甲良にも若干の変形がみられ瘦せているように見えます。最初、死んでいると思ったので引き上げたのですが、生きていました。このまま海に返すと死ぬように思いますので、飼育して甲長300mm越えたら標識放流します。9月26日 種類：アカウミガメ、甲長113mm、甲幅104mm、体重324g、※ 甲良中央部より右斜め部分が凹状にくぼんでいます。発見場所：沖縄県恩納村山田3425-2 ルネッサンスビーチ約200m沖合い  
\*\*\*\*\*  
鹿児島県出水農水事務所 宍道弘敏さん、甌島漁協 梶原伝三さんより(9/26)

甌島漁業協同組合より標識の付いたウミガメを発見したとの連絡がありましたので、報告します。発見日：2005年9月26日朝、発見者：甌島漁協上甌支所の漁師 梶原伝三さん、生死：生、発見状況：混獲(定置網)、発見場所：鹿児島県中甌島西海岸、標識番号：JPN44830、備考：生きていたのでサイズを計測せずにそのまま放流。大体50~60cmぐらいの大きさだった。事務局より：この個体の履歴です。放流者：宮内叶さん、放流場所：鹿児島県白瀬定置網、放流年月日：2005年8月31日、種：アオウミガメ、サイズ：標準直甲長76.9cm、最小直甲長76.5cm、直甲幅65.9cm、雌雄：不明、標識：左前肢

JPN44830、右前肢JPN44827。

\*\*\*\*\*

### ●ウミガメ速報05-49(10/11)

\*\*\*\*\*  
北海道広尾町音調津 サケ定置網漁師 上野貴次さんより(9/9)

鮭定置にウミガメが混獲していましたので報告します。発見日：2005年9月初旬ごろ 場所：北海道広尾町音調津標識：なし船上に引き上げ後、海に帰しました。非常に大きなカメで、またぐのがやっとだったそうです。事務局より：電話で確認したところ、特徴よりアカウミガメの雄と思われます。

\*\*\*\*\*  
北海道広尾町音調津 サケ定置網漁師 上野雅彦さんより(9/9)

鮭定置にウミガメが混獲していましたので報告します。発見日：2005年9月9日午前 台風の影響で網上げを行った際入網していました。場所：北海道広尾町音調津標準直甲長：70cm標識：なし 事務局より：送付して頂いた写真よりアカウミガメと判別しました。

\*\*\*\*\*  
北海道襟裳岬「風の館」石川慎也さんより(9/25)

はじめまして、本日(9月25日)午後1時にウミガメのストランディングがありましたのでお知らせします。日時：2005年9月25日午後1時、場所：北海道幌泉郡えりも町字えりも岬(標識岬先端)、状況：砂利浜に死体が漂着。今のところ、その場所に放置、大きさ(メジャーを浮かせて測定)：直甲長71cm、直甲幅54cm、写真：あり、事務局より：いただいた写真よりアカウミガメでした。性別は不明。後日、再計測してくださいました。曲甲長 81cm、曲甲幅 73cm、

\*\*\*\*\*  
三重県 山本壽夫さんより(9/26)

ウミガメの産卵・移動・脱出の報告をします。産卵場所：三重県津市中河原海岸、産卵日：7/30 P.M.、発見日：7/31 A.M. 5:00頃、犬の散歩で足跡を発見、確認日：8/1 P.M.、移動日：8/3 A.M.、脱出日：9/25 A.M.、連絡経路：8/1 獣医→三重県庁→三重大学(水産資源) 当地での産卵は珍しく、連絡させて戴きます。

\*\*\*\*\*



北海道襟裳岬「風の館」石川慎也さんより(9/27)

本日(9月27日)午前6時ころにまた、アカウミガメのストランディングがありましたのでお知らせします。日時:2005年9月27日午前6時ころ、場所:北海道幌泉郡えりも町字庶野(百人浜)、状況:砂浜に死体が漂着、大きさ(メジャーを浮かせて測定):直甲長70cm、直甲幅55cm、備考:頭骨、DNAサンプル用甲羅片を回収。その他はその場に放置してあります。事務局より:後日、再計測していただきました。曲甲長79.5cm、曲甲幅70.5cm

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-50(10/14)

\*\*\*\*\*

鹿児島県 吉井豊寛さんより(9/30)

標識の付いたウミガメ見つけたので報告します。発見日:2005年9月30日A.M.7:00頃、発見場所:鹿児島県肝属郡肝付町内之浦漁業協同組合 自営定置 倉之下漁場、状況:混獲(定置網)、標識番号:JPN43902、サイズ(目測):甲長1m、甲幅60cm、生死:生、処置:そのまま放流、事務局より:本個体の履歴です。捕獲・放流日:2005年7月18日、捕獲場所:和歌山県みなべ町千里浜、種:アカウミガメ、性別:メス、サイズ:直甲長:86.2cm、最小直甲長:84.7cm、直甲幅:71.0cm、状況:産卵、放流者:後藤清さん・日本ウミガメ協議会 江口英作、報告者:日本ウミガメ協議会松沢慶将

\*\*\*\*\*

和歌山県白浜町 田名瀬英朋さんより(10/1)

2005年アカウミガメ上陸記録(和歌山県西牟婁郡白浜町周辺海域)の報告(1)5月31日白浜町鴨居(黒潮台)海岸1頭上陸(今季白浜地区最初の上陸)筆者未見(紀伊民報:6月3日付け記事より)、産卵の有無不明、甲長約90cm

(2)6月18日調査 白浜町富田大浜海岸 1頭上陸跡あり(上陸日不明)、産卵の有無不明

(3)7月10日瀬戸臨海実験所南浜 1頭上陸跡あり、産卵の有無不明

(4)7月23日調査 白浜町富田大浜海岸 1頭上陸跡あり(上陸日不明)、産卵の有無不明

(5)7月25日瀬戸臨海実験所南浜 1頭上陸(17時)、産卵せずに海に帰る、甲長77.6cm 特記:7月26日瀬戸臨海実験所南浜 1頭上陸跡あり、昨夕の上陸個体と思われる。産卵の有無不明も産卵の可能性あり。

2005年ウミガメ類漂着記録(和歌山県西牟婁郡白浜町周辺海域)の報告アオウミガメ(死亡個体)

(1)2月25日 白浜町藤島海岸 甲長57.2cm、甲幅45.4cm、標識なし、体は腐敗ガスで肥大

(2)5月26日 白浜町塔島海岸 甲長測定不可、甲幅64.7cm、腐敗進行、鱗板剥離 アカウミガメ(死亡個体)

(1)2月27日 田辺市三壺崎海岸 筆者未見(和歌山県農林部調べより)甲長90.0cm、甲幅65.0cm、雌、体内に腐敗ガスあり

(2)6月24日 白浜町白良浜海岸 甲長75.4cm、甲幅60.9cm、雌、標識なし

\*\*\*\*\*  
ふくしま海洋科学館 平治陸さんより(10/3)

9月30日にアカウミガメの孵化直後の個体が保護されましたので報告します。発見場所は福島県相馬市の鶴の尾岬の南側の海岸で、朝10時頃犬の散歩をしていた地元住民が草むらでひっくり返っているのを発見しました。海に放そうとしたが、陸に戻ってきてしまい、アクアマリンふくしまに相談がありました。現地に向かい個体を確認すると孵化直後の個体と思われました。砂浜を調べましたが、雨が降ってしまい脱出跡は発見できませんでした。明日、再度調査に行きたいと思えます。

\*\*\*\*\*  
高知 山崎亮さんより(10/5)

高知県室戸市室戸岬漁港の東側の水深12mの海底にタイマイらしきウミガメが死んで沈んでいましたのでお知らせいたします。日時:2005年10月5日、場所:高知県室戸市室戸岬漁港の東側の水深12mほどの海底、状況:死んで海底に沈んでいた。写真:あり。事務局より:海岸まで持って帰っていただき室戸の駐在していた石原が確認したところ確かにタイマイでした。大きさ:直甲長35.9cm、直甲幅28.1mm、体重4.38kg、性別メス(生殖腺にて確認)。腐敗わずか、死後1、2日と思われる。

\*\*\*\*\*  
長崎県佐世保市水産センター 梅田啓一さんより(10/3)

長崎県佐世保市黒島漁協より、3日前標識の付いたウミガメがかかったとの連絡がありましたの



で報告します。発見日:2005年9月30日、発見者:黒島漁業協同組合 浅田博文さん、生死:生、発見場所:長崎県佐世保市黒島町北緯33度9分70秒、東経129度30分30秒、発見状況:定置網に混獲していた。標識:JPN44811、サイズ(目測):

甲長70cm、甲幅40~50cm、重さ:50~60kg、処置:標識を1つ取ってそのまま放流。事務局より:本個体の履歴です。放流者:宮内叶さん。放流場所:鹿児島県笠沙町野間池  
白瀬定置網。放流年月日:2005年8月26日、種:アオウミガメ、雌雄:不明、サイズ:標準直甲長79cm、最小直甲長78.2cm、直甲幅60.8cm、標識:左前肢JPN44811、右前肢JPN44812。

\*\*\*\*\*  
大分市役所農政課佐賀閣水産振興室 日高俊次さんより(10/3) 大分市の工藤勝宏さんから連絡先をご紹介いただき、報告いたします。大分市の神崎海岸(大分市本神崎)に9月28日にウミガメの死骸が漂着しました。甲の大きさは長さ70cm、幅55cmくらいで、腐敗がひどい状態です。両手足は損傷が無いようですが、頭部はなく甲の前頂部の損傷がひどかったです。死骸は、地元の人たちが、海岸に埋葬するそうです。種別は当方ではわかりませんので、写真をお送りします。なお、この海岸は20年ほど前、アカウミガメが産卵して話題になったことがある海岸です。事務局より:いただいた写真:アカウミガメでした。

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-51(10/22)

\*\*\*\*\*  
Margarita T. de la Cruzさんより(9/2)

アオウミガメの再捕情報です。再捕獲日:2005年9月7日、再捕獲場所:フィリピンEastern Samar州 GuiuanのTubabao島(刺網にて混獲)、再捕者:Melchor Duran夫妻、直甲長:47cm、直甲幅:31cm、処置:暫く飼育にて様子見、以下、小笠原海洋センター山口真名美さんより:本個体の履歴です。捕獲及び放流場所:小笠原村父島宮之浜、放流日:2003年10月21日、放流者:小笠原海洋センター、種:アオウミガメ、性:不明、標識:JP36207・JPN28962、備考:2002年孵化・飼育個体

\*\*\*\*\*  
徳島県 百々治さんより(10/3)

漂着したウミガメを見つけましたので、報告しま

す。発見日:2005年10月2日(日)15:00頃、発見場所:徳島県穴喰町長浜海岸、サイズ:SCL 44cm、SCW 37cm、CCL47cm、CCW 45cm、生死:死、尾の長さ:3cm、標識無し、処置:埋設、備考:波打際に打上げられていた。外傷は無かった。少々腐敗臭があるが、死後余り経っていない様です。甲羅の形を見ると、アオウミガメの様です。甲羅の色はキレイな茶色です。事務局より:いただいた写真より、アオウミガメでした。

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-52(10/26)

\*\*\*\*\*  
鹿児島県 宮崎豊さんより(9/14)

鹿児島大学ウミガメ研究会 武内有加さんより(9/15)

同じアオウミガメが2日続けて混獲されました。

宮崎さんより 発見日:2005年9月14日、発見者:宮崎豊さん、生死:生、発見場所:鹿児島県川辺郡笠沙町野間池高、発見状況:混獲(定置網)、標識番号:39177、39178、処置:放流。

武内有加さんより 発見日:2005年9月15日、発見者:宮内叶さん、鹿児島大学ウミガメ研究会学生、生死:生、発見場所:鹿児島県川辺郡笠沙町白瀬定置網、発見状況:混獲(定置網)、標識番号:41521(左前肢)、39177(左後肢)、39188(右前肢)、サイズ:標準直甲長 90.2cm、最小直甲長 90cm、直甲幅 68.7cm、曲甲長 94cm、曲甲幅 88.5cm、処置:放流。事務局より:本個体の履歴です。放流者:小笠原海洋センター、放流(捕獲)日:2005年5月11日、放流(捕獲)場所:東京都小笠原父島製氷海岸、捕獲状況:上陸探巢中、種:アオウミガメ、性別:メス、サイズ:標準直甲長 89.2cm、直甲幅 68.0cm、曲甲長 95.5cm、曲甲幅 89.9cm。

\*\*\*\*\*

鹿児島県笠沙町漁業協同組合 山寺敏さんより(9/20)

網に標識を付けたウミガメがかかったとの情報がありましたので連絡しました。

発見日:2005年9月20日朝、発見者:宿里武利さん、発見場所:鹿児島県川辺郡笠沙町、発見状況:混獲(個人小型定置網)、生死:死、発見時の状態:ガスがたまっていた、標識番号:JPN33437、処置:投棄、備考:発信機らしきものが付いていた。事



務局より:本個体の履歴です。放流者:小笠原海洋センター、捕獲日:2004年6月22日、放流日:2004年8月17日、捕獲場所:東京都小笠原父島屏風谷、捕獲状況:上陸採集中、種:アオウミガメ、性別:メス、サイズ(捕獲日計測):標準直甲長92.7cm、直甲幅74.6cm、曲甲長98.4cm、曲甲幅91.5cm、標識:Y33436(左後肢)、Y33437(右後肢)、I27878(左前肢)

\*\*\*\*\*  
和歌山県農林水産総合センター水産試験場 小久保友義さんより(10/4)

下田原漁業協同組合より標識の付いたウミガメがかかったとの連絡を受け、調査しましたので報告します。発見日:2005年10月4日、発見者:下田原漁業協同組合の漁師、生死:死、発見場所:和歌山県串本町古座荒船海岸主島(ホウジマ)から沖合い800m付近(緯度33度31分36秒、東経135度51分40秒)、状況:混獲(伊勢海老漁用の刺し網)、標識番号:JPN44622、サイズ:標準直甲長43.1cm、最小直甲長39.2cm、直甲幅35.7cm、頭幅5.9cm、種:アオウミガメ。事務局より:本個体の履歴です。放流者:伊東漁業協同組合富戸支所 日吉直人さん、捕獲場所:静岡県伊東市の定置網、放流日:2005年7月22日から27日の間。

\*\*\*\*\*  
飯島漁業協同組合上飯支所 畑勇二さんより(10/7)

標識の付いたウミガメを見つけたので報告します。発見日:2005年10月7日、発見場所:鹿児島県薩摩川内市中飯西海岸、状況:混獲(磯建網)、標識番号:JPN39841、サイズ:不明、生死:死、処置:投棄、事務局より:本個体の履歴です。放流日:2005年5月16日、放流場所:鹿児島県笠沙町野間池白瀬定置、種:アオウミガメ、性別:不明、サイズ:直甲長:57cm、最小直甲長:54cm、直甲幅:44.2cm、曲甲長:59cm、曲甲幅:53cm、状況:混獲(定置網)、標識:左前肢39840・右前肢39841、放流者:宮内叶さん

\*\*\*\*\*  
鹿児島県 柳井谷和人さんより(10/8)

定置網に標識の付いたウミガメがかかったので報告します。発見日:2005年10月8日、発見場所:鹿児島県肝属郡肝付町波見800m沖の定置網、発見者:高山漁業協同組合の漁師、発見状況:混獲(定置網)、生死:生、標識番号:29960、処置:焼酎を吞ませて放流。事務局より:本個体の履歴です。放流者:小笠原海洋センター、放流(捕獲)日:2002年7月16日、放流(捕獲)場所:東京都小笠原父島境浦南海岸、捕獲状況:産卵

上陸(未産卵)、種:アオウミガメ、性別:メス  
\*\*\*\*\*

#### ●ウミガメ速報05-53(11/1)

\*\*\*\*\*  
鹿児島県丸世大吉漁業生産組合 伊東正英さんより(10/10)

私が従事する定置網に標識の付いたアオウミガメが混獲しましたのでお知らせします。寸法測定は船に積んであるメジャーでざっと測ったため正確ではありませんのでご了承ください。あくまでも参考程度をお願いします。発見日:2005年10月10日、発見者:伊東正英、発見場所:鹿児島県川辺郡笠沙町崎ノ山地先、発見状況:混獲(定置網)、生死:生、処置:生きたまま再放流、標識:JPN19138(右後肢、黄色のプラスチック)、JPN19731(左後肢、シルバー金属、串本海中公園印刻)、サイズ:SCL 81.0cm、SCW 63.0cm。事務局より:本個体の履歴です。捕獲者:石垣市在住の漁師 比嘉正宗さん、捕獲日:1999年5月14日、捕獲場所:沖縄県宮古郡多良間島、放流者:島達也、放流日:1999年5月17日、放流場所:沖縄県石垣市新川、サイズ(放流日に測定):SCL 69cm、CW 58.1cm、BW 35.9kg。

\*\*\*\*\*  
ふくしま海洋科学館 平治隆さんより(10/15)

10月15日にオサガメのストランディングがありました。場所は福島県いわき市永崎の海岸で、すでに死亡して腐敗がひどい状態でした。甲羅が2箇所割れていました。また頸部も潰れていました。直甲長は116cm、甲幅71.3cmでした。

\*\*\*\*\*  
ふくしま海洋科学館 平治隆さんより(10/18)

10月4日に混獲し溺れたアオウミガメを本日放流しました。

10月4日いわき市小名浜沖の刺し網に直甲長41.9cm、甲幅35.5cmのアオウミガメが混獲していました。溺れていて元気なく虚脱していました。抗生剤、ステロイド、利尿剤などの注射や酸素吸入など治療を行い回復したため、10月18日に小名浜下神白の海岸から放流しました。標識を左前肢に取り付けました(JPN10315)。

\*\*\*\*\*  
高知県穴内漁業協同組合・宏漁丸 前田 嘉広さ



んより (10/24)

標識のついたカメを発見し放流しました。発見日：2005年7月30日、種：アカウミガメ、No. 214、発見者：前田 嘉広、発見場所：高知県穴内沖、発見状況：混獲(曳き網)、生死：生、処置：左前脚、右前脚、右後足のタグ外し、生きたまま再放流、標識：JPN47089(左前肢、青色のプラスチック)、JPN47090(右前肢、青色のプラスチック)、JPN48276(左後肢、インコネル)、JPN48277(右後肢、インコネル)。事務局より：本個体の履歴です。捕獲者：高知県室戸市高岡大数組合の漁師、捕獲日：2005年6月23日、捕獲場所：三津大数網、放流者：戎井邦彦、山崎千亜希(日本ウミガメ協議会調査員)、放流日：2005年6月23日、放流場所：高知県三津漁港、サイズ(放流日に測定)：種：アカウミガメ、No. 214、標準直甲長79.3cm、直甲幅65.4cm、体重66.6kg。

\*\*\*\*\*  
森田昌之さん(マレーシア)より(10/26)

今年のウミガメ調査も、雨季の到来とともに、先週終了しました。本来は、今週も調査地のレダン島に行っているはずでしたが、予想以上に荒天で、最終週はキャンセルとなりました。4月から調査は始まりましたが、乾季の約半年間で、約200回のアオウミガメの産卵がありました(海岸は350メートルです)。タイマイが数回の産卵でした。昨年のお半分以下です。この海域の年間産卵数の傾向は、産卵数が多かった年の翌年はかなり少ないようです。そして、200から600の産卵数を推移しながら、緩やかな減少傾向を示しているように見えます。当地での保全活動が1993年スタートなので、その結果が出るまで、いましばらくの時間、待たなければなりません。増加傾向に転じてくれればと願うばかりです。ボランティアプログラムに、1名の参加がありました。

\*\*\*\*\*  
鹿児島県 宮内一朗さんより(10/28)

標識のついたウミガメが見つかりましたので、報告します。再捕日：2005年10月28日、再捕場所：鹿児島県坊津町秋目、状況：混獲(定置網)、標識番号：44812、サイズ：直甲長82cm、曲甲幅76cm、生死：生、処置：そのまま放流、種：アオウミガメ、事務局より：本個体の履歴です。放流日：2005年8月26日、放流場所：鹿児島県笠沙町野間池白瀬定置、種：アオウミガメ、性別：不明、サイズ：直甲長：79cm、最小直甲長：78.2cm、直甲幅：60.8cm、状況：混獲(定置網)、標

識：左前肢44811・右前肢44812、放流者：宮内叶さん

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-54(11/11)

\*\*\*\*\*  
椎名大数組合員 橋本健さんより(10/28)

高知県室戸市椎名漁港内を漂流中の小さいアオウミガメがいると橋本健さんより連絡があり、石原、江口で調査に向かいました。到着後個体を確認するとアオウミガメではなくタイマイでした。種：タイマイ、性別：♀、腐敗進行、すこし臭いがする程度、標識：なし、測定値：直標準甲長454mm、最小直甲長427mm、直甲幅347mm、曲甲長475mm、曲甲幅409mm 対応室戸駐在員江口英作  
\*\*\*\*\*  
長崎県県北水産業普及指導センター松倉一樹さん  
志々伎漁業協同組合 楠富幸宏さんより(11/4)

標識のついたウミガメが見つかりましたので、報告します。再捕日：2005年10月29日、再捕場所：長崎県平戸市野子町宮ノ浦池先、状況：混獲(定置網)、生死：生存、標識番号：44931(右前肢)・44930(左前肢)、サイズ(メジャーで計測)：全長100cm、甲長85cm、甲幅80cm、処置：そのまま放流、事務局より：本個体の履歴です。放流日：2005年9月23日、放流場所：高知県室戸市高岡漁港、種：アオウミガメ、性別：不明、サイズ：直甲長764mm、最小直甲長：756mm、直甲幅：612mm、曲甲長815mm、曲甲幅755mm、体重61.4kg 状況：混獲(定置網)、標識：44930・44931・48613・48614、放流者：協議会協力調査員 山下傑さん、協議会室戸駐在員 山崎千亜希・村井薫

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-56(11/28)

\*\*\*\*\*  
愛媛県立宇和島水産高等学校 水野晃秀さんより(10/12)

はじめてメールを差し上げます。私は愛媛県立宇和島水産高等学校に勤務する水野晃秀と申します。さっそくですが、ウミガメ情報についてお知らせ致します。漂着日：2005年9月29日 場所：愛媛県宇和島市津島町田風(たおろし)地先(環境庁都道府県別地図 メッシュコード番号 4932-



5307) 確認状況: 上記在住の山田努氏よりアカウミガメ(稚ガメ)と思われる死体が漂着しているとの連絡を受け、回収し、現在は本校冷凍庫に保管しております。なお、本個体は愛媛大学沿岸環境科学研究センターへ寄贈する予定にしております。 標本: 標準直甲長51.2mm、頭部および甲羅の一部が腐敗して破損。 備考: 当地で過去(2003年or2004年)にアオウミガメの死亡漂着が確認されております。なお、本個体の画像を高知県の黒潮生物研究所の田中幸記氏に送り、同定していただきました。

\*\*\*\*\* 徳島県 吉田泰博さん、百々治さんより(10/21)

ストランディングの報告をいたします。発見日: 2005年10月21日16:30、発見場所: 徳島県穴喰町長浜海岸、サイズ: 直甲長 99cm、直甲幅 78cm、曲甲長 104cm、曲甲幅 97cm、尾の長さ 20cm、種: アオウミガメ、生死: 死、標識: なし、処置: 埋設、状況: 20日に漂流しているのを目撃されていた。首のまわりがひどく腐敗していた。事務局より: いただいた写真より腐敗状況です。頭部白骨化。ガス膨満。甲羅一部剥離。

\*\*\*\*\* Inno Life.com (11/8) より

韓国の海水浴場などに利用される砂浜の面積が徐々に減っていることがわかった。韓国海洋水産部とジオシステムリサーチが共同作成した報告書によると、2003年から最近まで全国13の海岸線に沿って形成された砂の堆積地帯である海浜の浸蝕状況を測定した結果、11地域で「緩慢な浸蝕傾向」が確認された。浸蝕が幅が減っている海浜は▲釜山・海雲台と広安里▲東草・永郎洞▲江陵・キョンボ台と江門▲莞島・明沙十里▲泰安・コッチ▲三陟・湖山▲蔚珍・鳳坪里▲蔚州・鎮下▲済州・梨湖▲漣津・ジャンゴル▲泰安・蔚斗里。報告書ではこのような沿岸浸蝕の背景には無分別な沿岸開発事業など人為的な理由と、地球温暖化などの気候変化による海水面の上昇、ひんぱんな台風上陸などの自然的要因を上げている。

\*\*\*\*\*

#### ●ウミガメ速報05-57 (12/2)

\*\*\*\*\* 千葉県銚子水産事務所 漁業調整課 永野さんより(10/14)

標識のついたウミガメが混獲されたので標識を送付いたします。なお、地元市から当方に連絡があつ

た際、カメは死亡しているとのことでしたので、標識を外し、甲長等のデータを残した上で埋設するよう指導したところ、標識を外した後、生存していることが判明し、カメは放流したとのことです。

発見日: 2005年10月11日(当日放流)、場所: 千葉県旭市飯岡漁港、状況: まき網漁船による混獲、その他: 甲羅の大きさ 90cm×55cm、体重不明、標識番号: JPN25158(屋久島 プラスチック黄色) 発見者: 海匠漁業協同組合 島田晋さん、連絡者: 旭市飯岡支所産業課 江戸さん 事務局より: 本個体の履歴です。放流日: 2005年5月24日、放流場所: 鹿児島県屋久島いなか浜、種: アカウミガメ、性別: メス、サイズ: 直甲長

87.5cm、最小直甲長 86.7cm、直甲幅 68.7cm、備考: 右後肢欠損、標識番号: 25158(屋久島ブラ黄)・42774(モネル)、放流者: 屋久島うみがめ館 \*\*\*\*\* 平戸市漁業協同組合 青崎さんより(11/7)

標識のついたウミガメが見つかりましたので、報告します。

再捕日: 2005年11月7日、再捕場所: 長崎県平戸市竹ノ子島付近、発見者: 橋口厚則さん、状況: 混獲(定置網)、標識番号: JB44859・44860、サイズ: 曲甲長 74cm、曲甲幅 74.5cm、生死: 生、処置: そのまま放流、事務局より: 本個体の履歴です。放流日: 2005年10月2日、放流場所: 鹿児島県笠沙町野間池白瀬定置、種: アオウミガメ、性別: 不明、サイズ: 直甲長 72.7cm、最小直甲長 71.3cm、直甲幅 63.2cm、曲甲長 75.5cm、曲甲幅 73.8cm、状況: 混獲(定置網)、標識: 左前肢 44859・右前肢44860、放流者: 宮内叶さん、鹿児島大学ウミガメ研究会

\*\*\*\*\* みなべウミガメ研究班 後藤清さんより(11/7)

ストランディングの報告をいたします。漂着場所: 和歌山県日高郡みなべ町堺 森の鼻、発見日時: 2005年11月5日、発見者: 松根伸氏、測定等調査: 後藤清、種: アオウミガメ、性別: 不明。外見上メスと思われる。測定値: 甲長 71.3cm、最小70.8cm、甲幅49.3cm、標識: なし、状態: 眼球突出、ガス膨満、外傷なし、臭気わずかにする、背甲すべて剥離なし、処置: 同じ浜に埋設事務局より: いただいた写真を確認したところ、クロウミガメとわかりました。



\*\*\*\*\*  
土佐清水漁業指導所漁崎盛也さん、窪津共同大数組合島中悠さんより(11/8)

標識のついたウミガメが見つかりましたので、報告します。再捕日：2005年11月2日、再捕場所：高知県土佐清水市窪津地先、発見者(代表)：上杉泰廣さん、状況：混獲(定置網)、標識番号：JB44905・I48488、サイズ：体重100kg(目測)、生死：生、処置：標識を2つ外して放流、種：アカウミガメ、性別：オス、事務局より：本個体は2度目の再捕でした。1. 放流日：2005年8月5日、放流場所：高知県室戸市椎名、種：アカウミガメ、性別：オス、サイズ：直甲長 91.6cm、最小直甲長 90.6cm、直甲幅 70.5cm、曲甲長 94.5cm、曲甲幅 87.5cm、体重：110.2kg、状況：混獲(定置網)、標識：左前肢 44904・右前肢44905・左後肢48487・右後肢48488、放流者：椎名大数組合 安岡幸男さん、協議会室戸駐在員 山崎千亜希・園東佑介、2. 再捕日：2005年8月16日、再捕場所：高知県室戸市椎名、状況：混獲(定置網)、処置：そのまま放流、放流者：椎名大数組合 安岡幸男さん、協議会室戸駐在員 山崎千亜希・園東佑介

\*\*\*\*\*  
京都大学フィールド科学教育研究センター田名瀬英朋さんより(11/17)

アオウミガメ：1個体の漂着がありましたのでお知らせします。漂着場所：和歌山県西牟婁郡白浜町、田辺湾内の島島西海岸(砂浜)、漂着状況：死亡個体、体内ガスで膨張、標識なし、確認年月日：2005年11月14日、第1発見者：白浜町在住の真鍋養氏(真鍋氏からの連絡で田名瀬が個体を確認)、個体の大きさ：直甲長 109.4センチ、直甲幅 81.6センチ(成体)

\*\*\*\*\*

#### ●ウミガメ速報05-58(12/12)

\*\*\*\*\*  
北海道 大嶋さんより(10/16)

10/16に北海道根室市の根室港でウミガメ(だと思っただけですが自信はありません。)を発見しました。写真を撮りましたので送信します。腐っていると思われ、臭いがひどいのであまり注意深くは見えていませんが、甲羅(と思われる部分)だけでも60cm(もっと大きいかも)はありました。事務局より：いただいた写真から背甲の形態を知ることができ、アオウミガメの亜種のクロウミガメと思われまし

た。

\*\*\*\*\*  
神奈川県 木下信一郎さんより(11/15)

昨日、千葉で波乗りをした際にウミガメの死体を見つけました。もう、情報が上がっているかも知れませんが、念のために画像をお送りします。発見場所は千葉県和田町です。

千葉県 半田葉子さんより(11/21)

少し前になってしまうのですが、ウミガメの死体を発見しました。画像を添付致します。場所：千葉県鴨川市和田町 和田浦海水浴場、時：11月12日(土) 11月16日に再度訪れた時もまだそのままでした。状態：逆さまになって浜に打ち上げられていました。死んでしまってから数日かは経ってしまっているようにみえました。日本ウミガメ協議会さまのHPを知ったのが先日でしたので、そこまで詳しく亀の様子を見ていないのですが、明らかに死んでしまっていたと思われま。その場を去ってから数日して、ひっくり返してあげれば良かった、死んでしまっていたのなら埋めてあげれば良かったと後悔しています。参考になるかわかりませんが、写真に撮った画像を全て添付いたします。

事務局より：お二人からいただいた写真より、アオウミガメとわかりました。また、11/23にELNAの嶋島さんが調査され、上記の個体は同一個体とわかりました。

\*\*\*\*\*  
大分県 中山 幸喜さんより(11/21)

こんにちは。私は大分県で父親と一緒に底引き網漁船で漁をしているものです。昨日(20日)の午後11時ごろ生きたウミガメが網にかかっていた。網を開けてウミガメを見てみたら口から東にほつれた釣り糸が出ていました。可哀想なので引っ張って何とかとってやって海に帰しました。多分釣り糸は口の中で切れただけかもしれませんが、最初網を開けてウミガメの顔を見たとき目をつぶって苦しそうで。凄く悲しかったです。これで今月ウミガメがとれたのは三回目、前の二匹は死んでいました。二匹といっても初めてとれたウミガメを海に帰したので、それがまた網にかかった可能性もあります。非常に可哀想だったので何か役にたてればと思いメールしてみました。ウミガメの種類はアカウミガメと思います。大きさは正確にはよく分かりませんが、とにかく大きかったです。標識も多分ついていなかったと



思います。ウミガメをすみずみまで見たわけではないので何とも言えません。私自身漁業を手伝ってから1年3ヶ月なんですが、ウミガメがとれたのは今月が初めてです。普段は陸(安芸町下原)から10キロくらい沖で漁をしています。10月からは陸から5キロくらいの沖で漁をしています。今回のことで初めてウミガメを見ました。また、詳しくは覚えていませんが、数年前に近くの塩屋の砂浜で産卵があったというような話がありました。

\*\*\*\*\*  
神奈川県 福原 富士美さんより(11/21)

久米島出張中の友人(カメに特に興味はない)より、「久米島の港脇の浜にきてみたらタイマイらしき亀の死体が、ほとんど腐っちゃって甲らしかなかった。」との情報をもらいました。大きさ、標識等はわかりません(一応友人に頼んでいますが、気持ち悪がられています)。後日、写真を送ってもらったところ、タイマイではなくてアオでした。本当に甲羅しかないです……。場所は久米島島島港の海に向かって右脇にある浜で、発見日時は21日の昼頃だそうです。

\*\*\*\*\*  
千葉県 宇賀野 孝治さんより(11/23)

先日11/20の日に千葉の白子町中里海岸にて海がめの死体を発見しましたので報告します。画像は裏側だと思えます、表側の甲羅は有りませんでした。また見つけましたら報告いたします。事務局より：いただいた写真より、白骨化したアカウミガメの背甲でした。

\*\*\*\*\*  
大洗水族館 小藤一弥さんより(11/24)

当方で保護したタイマイについて報告します。捕獲日：2005年11月21日、捕獲場所：茨城県日立市沖2マイルの地点のシラス網にて混獲、標準直甲長48.7cm、直甲幅40.0cm、体重15kg、とりあえず当館で保護し、体調が回復したら来年にでも放流する予定です。

\*\*\*\*\*  
アメリカ Hoyt Peckhamさんより(11/27)

2005年9月2日にメキシコよりザバタと名づけたアカウミガメに発信機を装着して放流しました。現在日本に向かって泳いでいます。この個体は未成熟のオスです。1999年から1100個体以上のアカウミガメをこの海域で調査していますが、未成熟のオスと確認できる個体は初めてです。これまでのアデリータなど太平洋を渡って日本に帰った

個体は飼育された個体だったので、ザバタが日本に戻れば野生個体では初めての記録になります。回遊経緯は

(<http://www.seaturtle.org/tracking/yamilet>)で見ることができます。

\*\*\*\*\*  
牟婁東漁業協同組合の加島祐二さんより(11/27)

11/23、徳島県牟婁町古牟婁漁業組合員小島良正さんよりアオウミガメのストランディング情報をいただき、11/26に調査しました。調査年月日：平成17年11月26日、調査者：加島祐二、戎井邦彦、山崎千重希、死体発見場所：古牟婁港入り口、種：アオウミガメ、性：不明、標準直甲長：444mm、直甲幅：335mm、腐敗状況：ガス有、背甲剥離せず、四肢有、頭部有、目なし、外傷・付着物：右前脚にイソギンチャク、頭部少し欠けた状態、死体は協議会室戸基地に持ち帰り、江口が解剖し、消化器官、胃腸内容物、上腕骨、採取しました。

\*\*\*\*\*  
つやざき千軒いきいき夢の会 上田清成さんより(11/27)

福岡県宗像市神湊の海岸でアカウミガメの死骸が発見されました。種別：アカウミガメ、性：メス、最大甲長79.0cm、標準甲長77.0cm、甲幅64.7cm、外観：縁甲板右側欠損、腐敗が極度に進行し、頭部、手足とも無、発見者：福津市塩浜の広島氏、現認者：秦信男及び山下征夫、備考：11月24日散歩中の住民の方から通報があり、午前11時過ぎ現場に到着。場所は神湊の旅館街の海岸。ウミガメは腐敗が進んでおり、内臓もない状態でした。いきいき夢の会の秦信男が現認し、計測及び記録写真を撮り、埋葬することにしました。

\*\*\*\*\*  
国土環境(株) 田端 重夫さんより(11/28)

ウミガメ会議の3日目、みんなが荒天のなか、視察をしている頃に、弊社職員の横倉が別件で竹富島に行った際に、アオのストランディングをみたので、その連絡です。細かなデータが取れていないので、申し訳ないですが、標識等はなかったということです。彼が作成したファイルと写真を添付しますので、御利用ください。横倉さんの報告書より：発見日 11/20(日)13:00頃、場所 竹富島(蔵元跡より200~300m南)、サイズは、甲長約



90~100cm程度でした。

\*\*\*\*\*

●ウミガメ速報05-59 (12/22)

\*\*\*\*\*

仙台市 石井勝美さんより (11/18)

事務局より：石井さんより白骨化したアカウミガメの漂着死体の写真をお送りいただき、その後発見状況を伺いました。以下、石井さんからの情報です。

死んでいたウミガメはやはりアカウミガメだったのですね、でも、どうして宮城県の海岸で死んでいたのか？ アカウミガメの北限は関東あたりだと聞いています。宮城の海は寒すぎると思うのですが・・・弱って海流に流されてきたのでしょうか？ 発見日時：2005年10月23日、発見場所：宮城県東松島市矢本(旧矢本町矢本)、矢本海浜緑地公園の海岸にて発見、発見時の死体の状況：砂浜を歩いているときに、ほぼ白骨化したウミガメの死体をみつけました。裏返してみると腹側が大きく陥没骨折していました。この骨折が死因になったのか、それとも死後つけられた骨折痕なのか判りません。甲羅の大きさはおよそ1メートル、白骨化の程度から夏頃に漂着したものと思われます。頭部および四肢の骨は失われていました。

\*\*\*\*\*

土佐清水漁業指導所 中田 拓二さんより (11/18)

標識のついたウミガメの情報がありましたのでお知らせします。標識No.：JP26952、海亀種類：不明(朝日模様があったとの事でしたので、アオカと思われま。)、確認者・大方町漁協上川口支所の漁師の方、確認場所・高知県幡多郡大方町上川口地先、確認日時・平成17年10月31日、伊勢エビ刺網(dep20m)に掛かっていたようで、外した後放流してくれたそうです。事務局より：本個体の履歴です。放流日：2003年7月28日、放流場所：沖縄県石垣市桃里伊野田、種：アオウミガメ、性別：不明、サイズ：標準直甲長 21.2cm、最小直甲長 20.9cm、直甲幅 17.7cm、標識：J26952、備考：放流時1歳、放流者：八重山栽培漁業センター

\*\*\*\*\*

和歌山県みなべ町 前田一樹さん・後藤清さんより (11/22)

本日11月22日午前9時ごろ、南部漁協からストランディングの連絡があり、現場へ行きました。岩代の漁師の網に引っかかっていたのを漁協へ搬入されたらしいです。詳細は次のとおりです。再捕場所：和歌

山県みなべ町岩代沿岸の漁網、状況：混獲、生死：死亡、種：アオウミガメ 亜成体、性：不明、サイズ：標準直甲長44.9cm、直甲幅 38.3cm、標識：左39982・右39983、所見：外傷なし。網にかかっていたので、窒息死と考えられる。新鮮個体である。処置：堺 森の鼻浜に埋没 事務局より：本個体の履歴です。放流日：2005年1月28日、放流場所：鹿児島県南さつま市笠沙町野間池白瀬定置、種：アオウミガメ、性別：不明、サイズ：標準直甲長41.4cm、最小直甲長 40.5cm、直甲幅 35.7cm、曲甲長 43.8cm、曲甲幅 40.0cm、標識：J39982(左)・J39983(右)、放流者：宮内叶さん

\*\*\*\*\*

有川町漁業協同組合 総務課 佐々木文明さんより (11/23)

標識のついたウミガメを見つけましたので報告します。再捕日：2005年11月23日午前7時、再捕場所：長崎県南松浦郡新上五島町有川郷 松ヶ崎一号漁場、全長(頭部先端より後部甲羅まで)98cm、甲羅の長さ80cm、甲羅の幅(最大個所)60cm、左手前の長さ40cm、頭部の幅 20cm、標識番号 JPN42271(ブルー)、生死：生、処置：そのまま放流。事務局より：放流日 不明(2004年12月?-2005年4月?)、放流場所 鹿児島県熊毛郡中種子町熊野沖、状況 定置網に混獲した個体、放流者 岩下文男

\*\*\*\*\*

徳島県 モラスコむぎ 水上雅晴さんより (11/24)

2005.11.13に牟岐町古江湾内の小型定置網にて混獲されたアオウミガメがモラスコむぎへ持ち込まれました。後日、標識をつけて放流しましたので、報告します。放流までは館内水槽にて保護しました。放流日：2005年11月18日、放流場所：徳島県海部郡牟岐町小島の浜(モラスコむぎ前)、種：アオウミガメ、性別：不明、サイズ：曲甲長 50.0cm、曲甲幅 47.5cm、標識番号：JPN47152(左前肢)・JPN47153(右前肢)

\*\*\*\*\*

紀南漁業協同組合 下川 善己さんより (11/26)

標識のついたウミガメを発見しましたので、お知らせします。再捕日：2005年11月26日、再捕場所：三重県南牟婁郡御浜町阿田和 水深43m位、状況：混獲(定置網)、標識：JP44918、サイズ：不明、生死：生存、処置：そのまま放流 事務局より：履歴です。放流日：2005年9月10日、放流場所：高知県空戸



市三津、種：アオウミガメ、サイズ：標準直甲長 78.6cm、最小直甲長 78.0cm、直甲幅 62.0cm、曲甲長 82.7cm、曲甲幅 76.6cm、標識：J44918(左前)・J44919(右前)・48601(左後)・48602(右後)、放流者：協力調査員 戎井邦彦さん・室戸駐在員 山崎千亜希・村井薫

\*\*\*\*\*

茨城県神栖市 徳元茂さんより (11/28)

初めまして。茨城県神栖市波崎、波崎新港内にアカウミガメと思われる漂着死体を11月26日11時確認しましたので連絡いたします。事務局より：写真よりアカウミガメと確認。また、11/30にELNAの嶋島氏が調査されました。

\*\*\*\*\*

和歌山県みなべ町 後藤 清さんより (11/29)

ストラディングの報告をします。日時：11月26日、場所：和歌山県みなべ町 森の鼻崎、測定：標準直甲長 46.8cm、最小直甲長 46.2cm、直甲幅 39.1cm、標識：なし、状況：頭部白骨化、四肢腐敗、鱗板半分剥離、事務局より：いただいた写真より、アオウミガメと分かりました。

\*\*\*\*\*

西表しょうとく庵 辻口 政明さんより (11/30)

西表島上原の海岸に標識のついたウミガメが漂着しているのを見つけました。衰弱しているようです。タイマイのように思われます。事務局より：放流先である八重山栽培漁業センターへ連絡し、引取りをお願いします。八重山栽培漁業センター 小林真人さんより：放流個体のデータは次のとおりです。種類：タイマイ、標識番号：32599(ロート)、再捕時サイズ：標準直甲長 296mm、最小直甲長 280mm、直甲幅 226mm、体重3.5kg、雌、生死：衰弱して漂着(空胃)、センターに搬入後、翌日に死亡、処置：解剖、放流データ、放流日：2005年10月29日、放流場所：沖縄県石垣市浮海大田 八重山栽培漁業センター地先海岸、サイズ：標準直甲長 290mm、最小直甲長 275mm、直甲幅 221mm、体重3.8kg、備考：飼育個体、放流時2歳(H15年度ふ化)、放流者：水産総合研究センター八重山栽培漁業センター

\*\*\*\*\*

### ●ウミガメ速報05-60 (12/30)

\*\*\*\*\*

しまね海洋館 村上 昌吾さんより (11/22)

標識のついたウミガメを見つけましたので報告します。再捕日：2005年11月22日朝、再捕場所：島根松江

市美保関町笠浦の津ノ和鼻、状況：混獲(定置網)、標識番号：JPN44578、生死：生、処置：そのまま放流、連絡者：松江水産、事務局より：本個体の履歴です。放流日：2005年10月27日、放流場所：鹿児島県南さつま市坊津町秋目、種：アオウミガメ、サイズ：曲甲長 73cm、曲甲幅 68cm、状況：混獲(定置網)、放流者 宮内 一朗さん

\*\*\*\*\*

鴨川シーワールド 魚類展示課 中坪 敏之さんより (11/24)

標識のついたウミガメを見つけましたので報告します。再捕日：2005年11月11日、再捕場所：千葉県鴨川沖3-4km、再捕者：鴨川市漁業協同組合、標識番号：JPN30444(2つついていたが、番号を確認したのは1つ)、状況：混獲(定置網)、生死：生、処置：そのまま放流、事務局より：本個体の履歴です。放流日：不明(2002年8月以降)、放流場所：茨城県内、放流者：アクアワールド茨城県大洗水族館

\*\*\*\*\*

静岡県焼津 編ヶ谷金吾さんより (12/2)

標識のついたウミガメを見つけましたので報告します。再捕日：2005年12月2日、再捕場所：静岡県焼津沖、状況：長谷川漁業センターの網に入網、標識番号：JPN44452、生死：生、処置：そのまま放流、事務局より：この個体は、去年の今頃、同じ定置網で再捕されていたウミガメでした。放流時と1回目の再捕時のデータは次のとおりです。1.放流日：2004年12月13日、放流場所：神奈川県足柄下郡真鶴町 真鶴大敷付近、放流者：真鶴大敷漁業協同組合 田沢裕彦さん、種：アカウミガメ、性：オス、標識：44452、サイズ：直甲長78.8cm 直甲幅68cm 体重67kg 2.再捕日：2004年12月17日、再捕場所：静岡県焼津沖、状況：定置網にて混獲、標識番号：JPN44452、サイズ：全長100cm(目測)、生死：生、処置：そのまま放流

\*\*\*\*\*

神戸 James Benstedさんより (12/4)

先日、父と電話した際に聞いたところによると、私の故郷、豪州Queensland州Gladstoneのすぐ沖にあるFacing島では、11月末からヒラタクミガメの産卵が始まったそうです。

\*\*\*\*\*

東京都利島 榎本雅仁さんより (12/5)

潜水ウミガメをみつけました。年月日：平成17年12月4日、場所：伊豆諸島 利島村 利島港内、

水温：18℃、天候：雨 うねりあり。近くによっても逃げるそぶりもありませんでした。事務局より：写真よりタイマイと判断しました。標識がついていましたが、写真からは番号が読み取れませんでした。また、1週間前にも付近で別のウミガメを見かけました。年月日：平成17年11月27日、場所：利島港沖水深15m、水温：21℃、添付の写真のほかにもう一匹いました。種類は同じようでした。事務局より：いただいた写真よりアオウミガメとわかりました。

\*\*\*\*\*  
福津市山下真智子さん・上田清成さんより（12/6）

昨日アカウミガメのストランディングがありましたので、ご連絡いたします。発見日時：平成17年12月5日(月)14:00頃、発見場所：福岡県福津市渡「恋の浦海岸」、発見者：宗像市田熊 向野 久重さん、現認者：福津市うみがめ課、NPO法人つやざき千軒いきいき夢の会、恋の浦ウミガメの会、ウミガメの概要◆種別：アカウミガメ◆雌雄：オス◆最大甲長：93.6cm、標準甲長：91.4cm、甲幅：73.3cm◆外観：縁甲板右側剥離、右前脚のみのこし3本欠損、頭部半分欠損、腹部破裂内臓露出、背甲板欠損なし◆タグはなし、死後数ヶ月、損傷が激しいため計測及び外観調査後砂浜に埋設

\*\*\*\*\*  
徳島県牟岐東漁協 加島祐二さんより（12/9）

牟岐東漁協の建網にアサヒガメ(アオウミガメの小さな個体)がかかりました。日本ウミガメ協議会 宝戸基地の石原、山崎、村井が対応しました。種：アオウミガメ、サイズ：標準直甲長498mm、最小直甲長489、曲甲長523mm、直甲幅394mm、曲甲幅456mm、性別：♀(生殖腺より判別)

\*\*\*\*\*  
魚目漁業共同経営団 橋本 峰夫さんより（12/9）

標識のついたウミガメの情報がありましたのでお知らせします。再捕日：2005年12月18日朝、発見者：漁師の方、再捕場所：長崎県南松浦郡新上五島町似首4番漁場、発見状況：混獲(定置網)、サイズ：1mぐらい(目測)、標識番号：JPN35461(インコネル)、備考：標識をいくつか外して放流。標識番号を確認した1つ以外はカラスに取られたりして紛失したようで、全部でいくつの標識が付いていて、いくつの標識を外したかは確認できませんでした。事務局より：本個体の履歴です。放流日：2003年9月18日、放流場所：高知県室戸市権名、種：アカウミガメ、性別：オス、サ

イズ：標準直甲長 87.3cm、最小直甲長 86.1cm、直甲幅 69.5cm、標識：J33262(左前肢)・J33263(右前肢)・I35461(左後肢)・I35460(右後肢)、状況：混獲(定置網)、放流者：協議会室戸駐在員 若月元樹・笠井優介

\*\*\*\*\*  
沖縄県国頭村の嘉陽宗幸さんより（12/28）

今年の大寒波の影響は沖縄本島まで及んでいます。12月22日、国頭村浜の海岸でおそらく今年生まれたばかりと思われるアオウミガメの子ガメが死亡漂着しました。更に、12月27日にも同村辺土名の海岸で衰弱したアオウミガメの子ガメが漂着しました。

\*\*\*\*\*  
香川県水産課 中山さんより・仁尾町漁協 岡田克己さんより（12/27）

ウミガメの混獲情報が入りましたので、お知らせします。捕獲日：2005年11月30日、捕獲場所：香川県三豊郡仁尾町葛島の沖 西へ約3kmの海域、状況：混獲(小型機船底びき網)、再捕者：東 日出夫さん、体重：100kg以上、種：アカウミガメ、処置：ウミガメにお酒を飲ませて放流しました。備考：仁尾町漁協でウミガメがかかったのは数十年ぶりです。

\*\*\*\*\*



## <編集後記>

今年の産卵期もほぼ終了したようですが、いかがでしたでしょうか？8月後半は大きな台風の襲来もなく、孵化については概ね順調ではなかなと思いますが、日付変更線を越えてハリケーンから台風になった12号の今後の動きが心配です。

本土におけるアカウミガメの産卵も、また小笠原でのアオウミガメの産卵も、ここ数年にはないほど少なかったと、各地の皆さんからうかがっています。これに関して各方面から質問を受けますが、なぜ今年いきなり少なくなったのかなど、正直、わかりません。もしかしたら、ウミガメは海溝型の巨大地震を予知する能力があり、今年産卵しても津波でやられてしまうから控えているのかもしれないね。もちろん、これも「もしも」の話ですが、いいじゃないですか。なにせ、今日は防災の日ですから。故人曰く、「地震、雷、火事、親父」、また「備えあれば憂いなし」と。(松沢)

## <寄付のお願い>

『うみがめニュースレター』は、小笠原村からの助成と日本ウミガメ協議会からのご援助および読者の皆様からのご寄付で無料で発行を続けてきましたが、赤字続きの厳しい状況にあります。これからも有意義な誌面作りに編集委員一同努力いたしますので、今後も弊誌発行を継続できるよう、皆様からの温かいご寄付をお待ちしております。

(郵便振替口座)

口座番号 10120-25391001

加入者名 うみがめニュースレター編集委員会  
〒100-2101 東京都小笠原村父島字屏風谷  
小笠原海洋センター内

以下の方からご寄付を頂戴いたしました。  
心から御礼申し上げます。

松井清和 牧野伸一 宮本満次

(敬称略 順不同)

発行日 1998年8月

会員費 1年 1,000円 2年 2,000円 3年 3,000円

事務局 東京都小笠原村父島字屏風谷 1012-001

電話 045-764-1111

E-mail: umigame@nissaiwan.com





# うみがめニュースレター

UMIGAME NEWSLETTER OF JAPAN

No.84 2010



## 目次

2009年ウミガメ速報.....日本ウミガメ協議会事務局 ... 2

## ■PDF版も利用できます

本誌のPDF配信を本格化させました。

専用サイト ([http://www.unigame.org/J1/katsudou\\_newsletter.html](http://www.unigame.org/J1/katsudou_newsletter.html)) からネット上でデジタル版 (PDF版) うみがめニュースレターをダウンロードしていただくことができます。デジタル版の利用が可能な方で、アナログ版 (紙に印刷され郵便で届く旧来の冊子) の配信中止をご希望の方は、お手数ですが、[newsletter@unigame.org](mailto:newsletter@unigame.org)までご連絡ください。タイトルに、「アナログ版不要」とご記入の上、本文には、受取人氏名 (封筒に明記してある個人名または団体名) を明記してメールを送信してください。経費削減と紙資源の節約に対する皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## ■寄付のお願い

「うみがめニュースレター」は、小笠原村からの補助と日本ウミガメ協議会からの援助および一部の読者からのご寄付で無料にて発行を続けております。経費のほぼ全てを占める印刷費・送料を圧縮するため、PDF配信の導入など経費節減につとめてきますが、引き続き厳しい状況にあります。これからも有意義な誌面作りに編集委員一同努力いたしますので、今後も皆様からの温かいご寄付をお待ちしております。切手の寄付も大歓迎です。

郵便振替口座 10120-25391001

加入者名 うみがめニュースレター編集委員会

〒100-2101 東京都小笠原村父島宇屏風谷 小笠原海洋センター内

## ■寄稿者へのお知らせ

本誌はウミガメに関する国内唯一の総合情報誌として、関連するあらゆる情報を取り扱い掲載しています。生物学的知見はもちろんのこと、ウミガメに関わる民俗、保護、論評や意見、会議報告なども含みます。様式は特に定めるものではありませんので、読者の皆様もどうぞお気軽にご寄稿ください。寄稿者には編集委員会から記念の粗品を差し上げております。なお、本誌はISSN番号の登録を受けた定期刊行物で、海外の関連機関や研究者へも配布しております関係上、編集の際に英文の要旨とタイトルをつけております。予めご了承ください。

## ■訂正のお知らせとお詫び

本誌82号掲載の黒柳賢治氏の論文に以下の通り誤りがありました。訂正してお詫び致します。

訂正箇所：10ページ右下図1 誤：「18. 篠志摩前浜」 正：「18. 篠島前浜」

## ■Cover photograph

第20回日本ウミガメ会議の懇親会において、日本ウミガメ協議会に対し、これまでのウミガメの保全への功績をたたえて、米国西部太平洋区漁業管理評議会 (WPRFMC) と米国大気海洋局 (NOAA) から『Award of Commendation』が贈られました。右から順に、日本ウミガメ協議会亀崎直樹会長、後藤清理事、石崎明日香女史 (WPRFMC保護動物コーディネーター)、George Balazs氏 (NOAA)、Kitty Simonds女史 (WPRFMC専務理事)、松沢慶将理事、Donald Koayashi博士 (NOAA)。

## ■編集後記

この度、米国連邦政府は、絶滅危惧種保護法に基づき、これまでひとくくりでThreatened (絶滅危惧になる恐れのある種) と扱っていたアカウミガメを、9つの個体群に分けたうえで、日本で生まれる北太平洋個体群はEndangered (絶滅危惧種) にするとの提案をしました。6月14日までパブリックコメントの募集期間となります。詳細は下記サイトをご覧ください。(文責：松沢)

[http://www.nmfs.noaa.gov/pr/pdfs/species/turtle\\_loggerhead\\_proposed\\_dps.pdf](http://www.nmfs.noaa.gov/pr/pdfs/species/turtle_loggerhead_proposed_dps.pdf)



## 2009年ウミガメ速報

### A Circular Notice on Sea Turtles in 2008

#### 日本ウミガメ協議会 Sea Turtle Association of Japan

##### ■ウミガメ速報09-01 (1/15)

\*\*\*\*\*  
長崎県総合水産試験場 丸丸さんより (12/11)

標識のついたウミガメの発見2例です。① 年月日: 2008/9/20頃、再捕場所: 五島市三井楽町 貝津打瀬地先 小型定置、捕獲者: 草野祐輔、体長: 甲羅の長さが60cm、標識番号: JPN62219、JPN62220、《事務局より放流情報》年月日: 2008/7/27、場所: 室戸、種: アオ、性: ♀、SCL: 835mm、MCL: 831mm、CCL: 896mm、SCW: 644mm、CCW: 811mm、BW: 84kg② 年月日: 2008/11/24 7:00、再捕場所: 五島市三井楽町 高崎 高崎鼻地先 高崎経営団3号定置網、体重: 20kg、処理: 標識のついたまま再放流、標識番号: タグ 青色 17203 事務局より: 番号の読み間違いのようで、放流個体が検索できていません。

\*\*\*\*\*  
三重県水産研究所 久野正博さんより (12/12)

標識ウミガメの情報です。今朝、12/12 (金) 尾鷲市の九鬼1号定置網に標識の付いたウミガメが入網し、番号を確認後に再放流したと連絡がありました。1ヶ月前に報告があった漁場でもまた再捕です。標識番号は「JPN43997」です。取り急ぎ、報告します。事務局より: JPN43997の放流情報です。2008年和歌山県みなべ町千里浜にて産卵、種: アカウミガメ、産卵日: 6月23日、7月8日、7月25日 (3回)、標識: JPN43997 (プラスチック)、JP59631 (金属製)、標準直甲長 (SCL): 78.3cm、最小直甲長 (MCL): 77.2cm、直甲幅 (SCW): 61.3cm。

\*\*\*\*\*  
青森県の佐藤さんより (12/12)

青森県に住んでいる佐藤と申します。今日12月12日、海岸で大きなウミガメの死骸を見つけましたので、参考なるものかどうか分かりませんが、情報をお送りします。場所はつがる市七里長浜の砂山付近です。事務局より: 添付していただいた写真には大きなオサガメが写っていました。

\*\*\*\*\*  
徳島県でのヒアリング 亀崎

冬はクエの季節です。クエはクエ繩と呼ばれる底延縄で獲ることが多いのですが、その針にウミガメがかかることが結構あるそうです。また、アオリイカの泳がせ釣りでもウミガメが混獲されるようです。この漁法は、アジの生き餌を泳がせてアオリイカを釣るらしいのですが、アジにイカが食い付いて、そのイカにカメが食いつくらしいのです。両方とも糸を切って放すそうです。

\*\*\*\*\*  
のとじま水族館 池口新一郎さんより (12/20)

12月10日に輪島市門前町の海岸にウミガメの上陸があり産卵のための穴を掘っているとの連絡がありました。時期や海岸の状況から、産卵は何かの間違えではないかと判断しましたが、後日、現場とカメの画像を頂きました。写真には砂浜に上陸したアカウミガメが写っており、穴もありました。事務局より: 写真を見ましたら確かに生きていたアカウミガメでした。測量ポールも写し込まれていましたので甲長も70cm程度と推測できました。多分、未成熟でしょう。穴は通常の産卵巣とはちょっと違うようなので、現在、さらに問い合わせているところです。

\*\*\*\*\*  
宍毛湾漁業協同組合 今村さんより (12/22)

12/17(水)に古満目沖の協栄組合大敷の方が62867の番号が書かれた標識を持ってきました。カメはどうなったのか分かりません。事務局より放流情報です。年月日: 2008/11/23 場所: 室戸 椎名大敷 種: アカ、性: ♂ 標識番号: 62867、62868、59582、59584、SCL: 757mm、SCW: 607mm

\*\*\*\*\*  
下田海中水族館 浅川弘さんより (12/22)

アオウミガメの混獲があり、チタンタグを装着し放流しましたのでご報告いたします。混獲日: 12月20日、場所: 静岡県南伊豆町、漁法: 海老刺し網、ケガ等: なし、プロポーション: 標準直甲長46.2cm 最小45cm 直甲幅40cm、取り付け標識及び位置: タグNO. 10396 左前肢、放流日: 12月21日

\*\*\*\*\*  
和歌山県白浜町 田名瀬英朋さんより (12/22)

漂着アオウミガメが2例 (死亡個体) ありましたのでお知らせします。(1) 2008年12月8日、白浜町富田中大浜、直甲長: 76.1cm、鱗板剥離中 (頭部なし、尾部なし)、標識なし、死亡原因不明、発見者: 壺山嘉郎氏。(2) 2008年12月22日、白浜町番所崎、直甲長: 59.0cm、雌、鱗板剥離中 (頭部なし、両前肢なし)、標識なし、死亡原因不明、発見者: 興田喜久男氏。

\*\*\*\*\*  
千葉大学 林亮太さんより (12/23)

ウミガメ混獲情報です。2008/12/22早朝、さかなタンと石鯛恵さんから千葉県館山市坂田の刺し網にてタイマイがかかり弱っているとの情報をいただきました。捕獲後は体力と体温の低下が心配されたので、発泡スチロールケースに入れてシークロップダイビングスク



ールに一時的に避難させました。現場には僕と海洋大  
うみがめ研究会の橋本瑛くん、小川太輝くんが対応し  
ました。ノギスがなかったので正確な数字ではありませんが、  
(ボールペンとヒモと定規で計測) 直甲長約  
30cm、直甲幅約28cmの小型のタイマイです。刺し網混  
獲なのでかなり衰弱し、ケースの中でぐったりしてい  
ましたがときどき自分で首を上げて呼吸をしたりして  
いたので死ぬことはないかと思われました。肺には海水  
が入ってしまったかもしれず肺炎の心配があります。  
八景島シーパラダイスが回収を希望していたようで  
すが、結局現場が一番近い鴨川シーワールドが回収して  
経過を見ることになったようです。展示するかもしれ  
ない、とのことなので我々が個体識別タグは打って  
いません。このタイマイは「坂田で採れたからパンちゃん  
だ！」(高い声)とさかなクンに命名されておりました。  
パンちゃんにはPlatytepus hexastylusという  
種が約30個ほど付着していました。パンちゃんが元氣  
に回復し、立派なカメフジツボを付けてまた戻ってき  
てくれることを期待しています。

\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報09-02 (1/28)

\*\*\*\*\*  
伊勢志摩経済新聞 (11/11)

今年7月21日、同市・大王崎神約5マイル付近で、海  
上で捨てられたロープに絡まっている「アオウミガ  
メ」を同市安乗の漁船「片山丸(船長=片山勇さん)」  
が見つかり救助。その後、水族館・志摩マリンラ  
ンドで保護飼育していた。アオウミガメの足にタグが  
ついており、確認すると東京都小笠原村父島の「小笠  
原海洋センター」で付けたもので、2006年3月25日に  
小笠原小学校の5年生らがウミガメ学習の一環で放流  
した19尾のうちの1尾だということが判明。志摩市へ  
の「寄り道」に同市関係者はもちろん、小笠原小学校  
の当時の子どもたちや同海洋センターの職員も驚いて  
いたという。保護直後は食欲がなく心配したが、同水  
族館の手厚い世話で、体重も1.4キロ増加し元氣にな  
ったため新たなタグを付け、安乗保育所の児童56人ら  
に見送られ海に戻っていった。小笠原放流時から保護  
直後、今回放流前までのウミガメの大きさは甲長=  
25.2センチから37.5センチ、40センチに、甲幅=19.7  
センチから30.3センチ、32.6センチに、体重=2.42キ  
ロから8.29キロ、9.7キロに成長。保護飼育中、プ  
ラスチック系の塊やポリ袋の破片、輪ゴムなど、人間が  
捨てたものを誤って食べた形跡が排泄物から出てきた。  
同水族館の大久保館長は「海の汚れやゴミがウミガメ  
たちの生命を脅かしていることを物語っている」と訴  
えた。「無事生まれ故郷の小笠原に戻ってほしい」とも。

\*\*\*\*\*  
水産総合研究センター石垣支所 小林真人さんより  
(12/30)

2007年に石垣島の漁港で、船にひかれて甲羅のはげ  
たタイマイが漂流しており、栽培センターで養生しま  
したが、数日後に死亡しました。とりあえず冷凍して、  
あとで測定などをしようとして保管したまま1年以上が経  
過し、先日解凍してみたところ標識がついていたので、取  
り急ぎ、再捕情報を送信します。再捕年月日：現在調  
査中、種類：タイマイ、標識：JPN23762(黄色)、イン

コネル25616、SCL 574mm SCW445mm、再捕場所 石  
垣島八重山漁港(確認中) 事務局より：当会の黒島研  
究所で放流したものでした。情報は、下記です。<放  
流情報>混獲日：2001/10/6、放流日：2001/10/7、場  
所：八島(桜口)、タグ：J-23762、I-25516、SCL：  
492mm、CW：406mm、BW10.70kg、<その後、一度捕獲  
発見されてます>混獲日：2002/9/7、放流日：  
2002/9/24、場所：阿名泊、タグ：J-23762、  
I-25516、SCL：511mm、CW：416mm、BW：11.70kg、  
実に悪い成長です。

\*\*\*\*\*  
鳥取県立博物館附属『山陰海岸学習館』和田年史さん  
より (1/4)

年末でバタバタしていて、ご報告が遅くなってしま  
いましたが、昨年11月29日にウミガメの海岸漂  
着がありましたので、以下にお知らせしておきます。  
漂着個体：ウミガメの一種(同定できず)、発見日：  
2008年11月29日、発見場所：鳥取県岩美郡岩  
美町陸上(くがみ)海岸、発見者：岩瀬佳弥子氏(米  
子市在住)、状態：胴部のみで、ほぼ白骨化(骨の一  
部に5mmぐらいエポシガイが付着)、写真：添付。  
この個体はほとんど骨だけでしたが、内臓裏側の  
筋肉の一部を採取しました。骨は当館の裏庭に埋めま  
した。採取した筋肉片は99.5%のアルコールで保  
存しています。必要であればお送りさせていただ  
くと思います。骨は再度掘り出して、子供たちでも触れ  
るような展示物にしたいと考えているのですが、何か  
良い防腐処理法などがありましたら教えていただければ  
と思います。事務局より：背甲の形からアカウミガ  
メと判断できました。

\*\*\*\*\*  
大阪府 高久圭二さんより (1/6)

2008年12月28日、和歌山県御坊市名田町植  
井の海岸で、ウミガメの死体を発見しました。事務局  
より：写真から、アカウミガメと判別されました。

\*\*\*\*\*  
中日新聞 (1/7)より

豊橋市は6日、アカウミガメの上陸・産卵地として  
知られる同市太平洋岸の二川漁港海岸で、アカウミガ  
メと海岸保全の両面に配慮した全国初となる海岸環境  
整備工事を始めた。農林水産庁による「既存施設改良  
型エコ・コースト事業」の一環で、総事業費は1億  
8000万円。工事は、同海岸の880メートルで実施。  
台風などで露出した3段積みの消波ブロック(1段は  
高さ約1メートル、幅1.8メートル、奥行き1.8  
メートル)が壁になり、アカウミガメの上陸・産卵の  
邪魔となっていたため、ブロック上段を撤去し、30  
-50メートル後方に移設。海岸の浸食を防ぐための  
緩傾斜堤に造り替える。本年度は、既に撤去した消波  
ブロックなど計475個を使用し、同海岸の176メ  
ートルに緩傾斜堤を完成させる。6日は、消波ブ  
ロックを埋める緩傾斜堤の穴をショベルカーで掘り始めた。  
市は、アカウミガメ保護を目的に2006年6月、露  
出した消波ブロックの一部を仮撤去。学識者やNPO  
法人のメンバー、地元住民ら10人からなる「エコ・  
コースト推進協議会」とともに、海岸の経過を調査し  
ていた。その結果、アカウミガメの上陸・産卵に影響  
は無くなったが、低くなった消波ブロックを波が乗り  
越えていたため、浸食防止を目的に撤去したブロック



で緩傾斜堤を造ることを決めた。工事は12年に完了する。

\*\*\*\*\*  
沖縄県国頭村の嘉陽宗幸さんより (1/16)

この頃、沖縄島北端の辺戸岬からは、ザトウクジラがよく見えますが、岬の周辺の浜では早くもアオウミガメの上陸がありました。1月15日、国頭村央中学の教頭先生から「砂浜にウミガメのものと思われる足跡がある」との連絡を受けて現場に急行したところ、確かにアオウミガメの上陸痕跡でした。産卵はしていません。足跡の具合から、前日14日の夜の上陸だったと思われる。再度、付近に上陸するだろうと警戒していたところ、翌16日に、程近い国頭村宇佐浜にアオウミガメの上陸痕跡を2つ見つけました。いずれも産卵には至っていません。同一個体によるものでしょう。

\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報09-03 (2/7)

\*\*\*\*\*  
長岡市寺泊水族博物館 青柳彩さんより (1/5)

新潟県長岡市寺泊・野積海岸に標識のついたタイムイが漂着し、無事、保護しました。1. 日時: 2008年(平成20年)12月27日 AM8:00 2. 場所: 長岡市寺泊・野積海岸 3. 発見者: 長岡市寺泊野積6351(金沢) 加藤正直氏 4. 状況: 生存漂着・外傷なし・背甲に長さ2cmほどの幅葉状のワケが覆う・頭状部0.5cm×1.3cmのエボシガイ7個体付着・藻類にワケラs.p付着 12月29日よりイカ、エビ、アジ切り身、ワケ、標識: 有り: JP54177 6. 測定値: 甲長19.5cm・甲幅15.0cm・体重950g 7. 放流場所: 沖縄県黒島 2008年(平成20)年7月23日・日本ウミガメ協議会付属研究所が2007年6月14日に黒島の西の浜で産卵、ふ化し育成した個体。

\*\*\*\*\*  
千葉県 三上裕美さんより (1/8)

昨年6月16日、午後3時頃に神奈川県三浦海岸で撮影した亀の死体写真を送ります。体長は頭の先からしっぽまででおよそ1メートルほどで、頭にぶつけたような大きな傷がありました。資料になれば幸いです。事務局より: 写真には鱗板の剥げかけたアオウミガメが写っていました。

\*\*\*\*\*  
長崎県平戸市大島村大根坂長崎鼻の定置網で標識のついたウミガメが泳いでいました。年月日:

2009/1/7、標識: 46579、状態: 定置網内で泳いでいた。事務局で放流先をしらべました。年月日:

2008/6/30、標識: 46579、38969、場所: 宮崎市 こともの国海岸で産卵、放流者: 宮崎野生動物研究会、SCL: 843mm、SCW: 611mm。

\*\*\*\*\*  
沖縄県国頭村の嘉陽宗幸さんより (1/21)

先週アオウミガメの上陸跡を見つけましたが、その後はありません。この週末は、沖縄も季節風が強く、かなり冷え込んでいます。その影響か、凍えたアオウミガメのライブストランディングがありました。場所は国頭村辺土名の海岸です。直甲長18.1cm、直甲幅16.4cmで、ほとんど見かけないサイズです。背甲には付着生物がたくさんついていました。動きが緩慢で

そのまま海に戻してもまた打ち上げられてしまいそうとのことで、美ら海水族館に保護してもらうことになりました。

\*\*\*\*\*  
亀崎の聞き取り (1/28)

昨年12/10に輪島市門前町の海岸にアカウミガメが上陸したことは、のとじま水族館の池口新一郎さんからの情報を皆さんに速報09-01でお伝えしました。その後、実際にカメを見た輪島市門前総合支所の小幡正章さんと、絲雲苑の上島洋山さんに電話で話をききました。どうやら、このアカウミガメは弱って海岸に打ち上がっていたようです。水温は12-13度だということですから、活性はあまり高くないと想像されます。翌日11日も付近の海岸に打ち上がり、同様に海に戻したようです。写真の穴は、既に人が沢山いて、卵はないなどと話していたということですから、多分、人によって掘られたものと思われました。

\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報09-04 (2/11)

\*\*\*\*\*  
神奈川県江口敏一さんより (1/10)

昨年5月に続き、年末沖縄に行ってきました。そこで再びカメの写真を撮ることが出来ましたので、お送り致します。渡嘉敷村儀志布島沖、ダイバーの間では「カメバラ」と呼ばれる場所です。必ずといって良いほどカメが居る場所なので「カメのバラダイス」が縮んだものと言われています。従って、多数の目撃報告があるはずで、亀崎様は「またか・・・」と思われるかも知れませんね。添付写真の個体は、左上肢・右下肢が欠損しており、幼いときにサメにやられたもの推測されています。あまりダイバーを恐れる様子はなく、いつも同じところで寝てるようで、かなりの確立で目撃出来るとのこと。従いまして、亀崎様は「またか・・・」と思われるかも知れませんが、もしかしたら、神戸空港の悠ちゃんの今後にも参考になるかもと思い、ご連絡することに致しました。

\*\*\*\*\*  
石垣島 河上慎一さんより (1/12)

ウミガメ死体発見情報です。日時: 平成21年1月11日 午後2時ごろ。場所: 沖縄県石垣市字平久保 サンセットビーチ。写真を添付しますが、たぶんアオウミガメ。甲羅の長さは50センチほど。目立った外傷はなし。夜、大変冷え込み、12度を切りました。北風も強く10m近く吹いていました。仮死状態になって打ち上げられたのかもしれませんが。近くに穴を掘って埋めました。事務局より: 写真は確かにアオウミガメでした。

\*\*\*\*\*  
水産大学校 浜野龍夫さんより (1/14)

ストランディングの情報があってのお知らせしておきます。日時: 2009年1月14日、場所: 山口県熊毛郡平生町小郡(ひらおちょうおぐに)の海岸、アカウミガメ、甲長80cm、甲幅60cm、外傷は見当たらない、腐敗が進んでいるので町役場が処分、現任者: 三木浩一(独立行政法人水産大学校田名臨海実験実習場)事務局より: 浜野先生はシャコの先生です。亀崎は昔からお世話になっています。

\*\*\*\*\*



福井市 高島直子さんより (1/17)

はじめまして。海がめの死体を見つけました。1月14日午前10時頃に福井県の福井市免島町・鷹巣海水浴場北側で見つけました。先に男性が数人集まっていたのですが、その後帰られたので、福井市自然史博物館に連絡し、翌日博物館に運ばれていきました。事務局より：アカウミガメでした。博物館で標本になるようです。

\*\*\*\*\*  
室戸基地 佐藤嘉威より (1/22)

本日三津漁港(室戸)にて再捕がありました。発見日時：2009年1月22日、発見場所：高知県室戸市室戸岬 三津漁港、標識番号：JPN64119、種類：アオウミガメ、大きさ：740mm、状況：生存(混獲)、処置：甲長などの計測後に放流、その他：左前肢のみの標識装着だった為、標識の付け替えを行った。(新標識：左前肢JPN62912)事務局より放流情報：年月日：2008/10/28、標識：64118(左)、64119(右)、場所：鹿児島県野間池しるせ位置置網、放流者：宮内 叶、SCL：745mm、SCW：600mm

\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報09-05 (2/25)

\*\*\*\*\*  
千葉県富津市 三上裕美さんより (1/8)

昨年6月16日、午後3時頃に神奈川県三浦海岸で撮影した亀の死体写真を送ります。体長は頭の前からしっぽまででおおよそ1メートルほどで、頭にぶつけたような大きな傷がありました。事務局より：写真にはアオウミガメが映っていました。頭には大きな傷がありました。スクリーンに当たったのかもしれませんが。

\*\*\*\*\*  
島根県浜田市 田原孝さんより (1/16)

今日(2009.01.16)、島根県浜田市折居海岸でウミガメの漂着死骸を発見しましたので報告します。事務局より：写真からアカウミガメと判別できました。

\*\*\*\*\*  
福岡県志賀島 赤瀬征雄さんより (1/23)

昨日、死んだウミガメが博多湾に面した志賀島の漁港に浮かんでいます。1メートル以上はありそうです。私が確認したのは今日ですが、漁師の話では1か月前から漂っているとの事。又、海岸を毎日散歩してる人の話では、それより2週間前から1キロメートル外海に面した海岸に浮いていたとの事です。事務局より：腐敗が激しいのですが、写真よりアカウミガメと判別できました。

\*\*\*\*\*  
沖縄県国頭村の嘉藤宗幸さん (2/7)

沖縄ではここ数日ボカボカ陽気が続いています。昨年10月5日に本島北部の奥の海岸でアオウミガメの産卵があり、そのままにしていたのですが、4ヶ月経過しても脱出の兆候がないので、産卵巣の上部を開けて様子を見てみました。上から見る限り、孵化しているものはありませんでした。上部の卵を一つ確認のために開けてみたところ、卵黄を抱いた状態で、まだ中の子ガメは生きていました。温かくなって無事に孵化するかもしれないので、産卵巣は元の状態に埋め戻しました。

\*\*\*\*\*

中本海中公園センター 吉田徹さんより (2/21)

アオウミガメの漂着死体がありましたのでお知らせします。発見日2009年2月20日 和歌山県串本町上浦海岸 アオウミガメ(♂)、直甲長 推定80cm、直甲幅 推定60cm、標識無し。背甲と四肢の爪がきれいに切り取られていたので、測定は推定になります。付近を散歩していた方に聞くと、1週間ほど前から打ち上げられていたそうです。その時点で既に背甲と爪が切り取られていたかは不明。

\*\*\*\*\*  
和歌山県紀美野町 山田正司さんより (2/13)

ウミガメの死体の漂着の情報です。和歌山県西牟婁郡串本町平松の須賀の浜からアンドの鼻に向かう途中の海岸、満潮線より上、添付の写真で見えるように、中本海中公園が奥に見えています。○発見日時 2009年1月21日 ○状態：海岸でのビーチコーミング途中に、満潮線より上部にウミガメの死体が打ち上げられていた、腹甲を上にした状態で腐敗が進んでいない、一部に骨が見えているところもあるが、ほぼ全体がそろっている、腕や足の付近に標識が無いが探しましたが、見つけることが出来ませんでした、手持ちのボールで、甲羅の長さを測ったところ75CMありました、甲羅の模様からするとアオウミガメと思われます。事務局より：写真は明らかにアオウミガメでした。

\*\*\*\*\*  
日和佐うみがめ博物館カレッタ 田中宇輝さんより (2/15)

2月14日の美波町の田井ノ浜でウミガメが死んで漂着しているとボランティアの方から連絡がありました。行ってみると、小型のアオウミガメでした。頭部は白骨化しており、ガスがたまっていましたが、内臓は腐敗が進行していませんでした。首には、大きな腫瘍のようなものが出来ていました。フィプロパピロマかと思いましたが、ガスがたまって膨らんだだけのようでした。胃には海藻、藻がぎっしり詰まっており、一部を採集しました。SCL 592mm、MCL 590mm、SCW 463mm、CCL 602mm、CCW 565mm、PL 496mm

\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報09-06 (3/12)

\*\*\*\*\*  
和歌山県白浜町の田名瀬美朋さんより (1/31)

漂着アカウミガメ(1頭、死亡個体)がありましたのでお知らせします。場所：白浜町権現崎(瀬戸漁港内)、日時：1月31日、連絡者：京都大学瀬戸臨海実験所 加藤哲哉氏、測定者：田名瀬、標準直甲長：48.5cm、直甲幅：38.6cm、外傷なし、腐敗臭あり、未成体、標識あり：プラスチックタグ(JPN 46814、ウミガメ協、前肢)、ステンレスタグ(JPN2718、後肢)、測定後の本体の処置は白浜町にお願いしました。事務局より：この個体は2008年8月19日に日和佐うみがめ博物館より放流された個体でした。放流時の大きさは以下の通りです。SCL：439mm、SCW：358mm、BW：10kg。また、死亡個体を事務局の石原が解剖に行っています。再計測値、SCL：480mm、MCL：474mm、SCW：383mm、BW：14.74kg、性別：♂、胃内容物：魚の肉片、消化進んでいる。骨は殆ど見あたらない。腸内容物：クロフジツボの殻、ホンダワラ類等少々。魚肉らしきものも見られる。



\*\*\*\*\*  
福井市八田真毅さんより (2/3)

本日、福井市鷹巣(鷹巣海水浴場)でウミガメの死体を発見しました。写真を送ります。事務局より:写真は若いアオウミガメでした。

\*\*\*\*\*  
会員の小泉香さんより (2/10)

宮古島でダイビングをしたらウミガメに遭遇しました。宮古島南のむいポイントでタイマイ、1月23日。また、宮古島と池間島と大神島の間辺りのアオウミガメの昼寝ポイントで大きなアオ2匹と小さなアオ1匹、1月25日。

\*\*\*\*\*  
クラブノアすみ 入江さんより (2/15)

2009/2/15、ガイド中にアオウミガメと遭遇しました。写真も一緒に添付しておきます。気温:17℃、水温:17℃、波:なし、流れ:なし、うねり:少々、場所:和歌山県すさみ町沖ダイビングポイント(中島)、水深:15m、体長:50cm(推定)、岩の隙間に休んでいるようにじっとしていました。なお、このポイントでは、水温が下がった冬場の時期になると、よく休憩しているのかじっとしているアオウミガメを頻繁に見かけます。私ども、スタッフ間では通称カメ穴と呼んでいるところです。

\*\*\*\*\*  
黒島研究所 亀田和成より (2/25)

タイマイの再捕がありました。当研究所で放したものです。再捕獲、2009年2月24日 石西礁湖、連絡者:石垣島の比嘉氏、種:タイマイ、標準直甲長537mm、最小直甲長504mm、直甲幅430mm、インコネル38337、備考:ブラタグははずれてました。放流:2005年1月22日、沖縄県竹富町黒島、標準直甲長428mm、甲幅336mm、インコネル:38337、ブラタグ:30886

\*\*\*\*\*  
財団法人しまね海洋館 村上昌吾さん・守谷浩さんより (3/1)

アクアス付近の海岸で次の通りストランディングがありました。平成21年2月28日午後2時50分頃、公園管理センター職員からアクアス前久代海岸にウミガメが漂着したとの連絡を受ける。大きさは40cm位で既に死亡しているとの話だった。ウミガメの処分は、公園管理センターに任せることにして、午後3時半頃現地に調査に向かう。アクアス正面から西側に3~400m位の所で発見。【場所】浜田市久代海岸 GPS 経度+43.57.39.96 緯度+132.08.19.52【種類】タイマイ

直甲長27.5cm、直甲幅24.1cm【状況】左前腕の骨が見えているが、他に大きな外傷はなし。背甲にフジツボと海藻が付着、腹甲にもフジツボが付着していた。背甲の海藻は乾き、背甲板も一部反っており長時間乾燥状態が続いた模様。波打ち際から引きずられた跡(タイマイより西側20m程続く)と鳥の足跡があった。

\*\*\*\*\*  
沖永良部ウミガメネットワークより (3/2)

3月2日、沖永良部島のハニク4の浜でアカウミガメのオスの死体が上がりました。甲長:91.7cm、甲幅:71.8cm、外傷なし、死後1週間ほど経過していると思われ。臭なし。膨張あり。甲羅1枚試料として採取しました。フジツボはついていませんでした。

\*\*\*\*\*

## ■ウミガメ速報09-07 (3/30)

\*\*\*\*\*  
室戸基地滞在中の佐藤嘉成より (1/25)

室戸三津の定置網に標識番号64119が入りました。アオウミガメで、SCLは740mmです。計測後、放流しました。事務局より:放流したのは鹿児島野間池のしろせ定置網の宮内叶さんでした。以下、放流時の情報。【放流情報】年月日:2008年10月28日、標識:64118(左)、64119(右)、SCL:745mm

\*\*\*\*\*  
鹿児島大学学生 大内裕貴さんより (2/17)

2009年2月17日、吹上浜、伊作川河口の南、約1kmでストランディングを発見しました。アカウミガメ、メス、OCL:804mm、CCW:747mm

\*\*\*\*\*  
グアム ウミガメ調査員 Shawn Wusstigさんより (3/5)

昨夜、仲間がグアム北部の砂浜で96744のタグをつけたアオウミガメに遭遇しました。産卵していました。誰か装着した人の情報をもってませんか? 事務局より:日本ウミガメ協議会の標識番号はまだ9万番台に達してません。

\*\*\*\*\*  
クラブノアすみ 入江さんより (3/15)

ウミガメの目撃を3件報告させていただきます。

(1)2月18日、天気:晴れ時々曇、水温:16℃、海況:風波少々うねりなし、場所:すさみ沖、ポイント名:中島 水深:15メートル、状況:通称カメ穴にて休憩中、体長:1.2m。(2)2月21日、天気:晴、水温:14~15℃、海況:穏やか。前日は波浪警報発令、大荒れの天候。当日波、うねりともにおさまる。場所:すさみ沖、ポイント名:中島、水深:15メートル、状況:カメ穴近くで休憩中、体長:1.2m。(3)2月22日、天気:晴、水温:15℃、海況:穏やか、場所:すさみ沖、ポイント名:中島、水深:15メートル、状況:カメ穴にて休憩中が1頭(体長:60cm)と、カメ穴近くで休憩中(体長:60cm)が1頭。今年は去年より平均水温が高く、いつもなら中島でほぼ見れるのが、なかなか見れなかったように経験上感じます。また、海況が荒れた次の日に出会い率が高いように思いますが、はっきりとデーターをとってないのであいまいです。2008年2月の平均水温:15.65℃、2009年2月の平均水温:16.93℃。

\*\*\*\*\*  
種子島 竹下涼子さんより (3/17)

先日ウミガメの死体があると連絡を受けていたので、今日確認してきました。アオウミガメ、メス、直甲長:76.9cm、甲幅:61.3cm、体高:24.1cm、場所:西之表市浦田海水浴場、3週間ほど前から海水浴場のほぼ中央に打ちあがっていて、海水浴場内での埋設は困るとのこと、放置しています。4月に浦田の人たちで清掃活動をする際に処理されるそうです。あと、南種子の宇宙センター内なのですが、サーフポイントでかなり大きなウミガメの死体があがったそうです。(こちらは昨日か今日あがったようです)種類は分かりませんが、南種子に行くことがあれば、確認しておきます。

\*\*\*\*\*  
沖縄県名護市 石倉健雄さんより (3/17)



2009年3月15日16:00頃、沖縄県の恩納村と名護市の境にある熱田のビーチでビーチコーミングをしていたところ、ウミガメの死体を見つけました。種類などは判りませんが、まだ大人のサイズではなかったです。画像を添付しますのでお確かめ下さい。状態は首がなく、手や足の骨が見えていました。事務局より：写真より、アオウミガメと判断できました。

\*\*\*\*\*  
室戸基地 佐藤嘉威より (3/17)

高知県室戸市の高岡でストランディングがありました。発見日時：2009/3/17、場所：高岡、種：アカウミガメ、SCL:708mm、SCW:603mm、備考：腐敗臭あり。頭部、両前肢、両後肢が腐敗のため欠損。

\*\*\*\*\*  
北海道 藤山恵子さんより (3/20)

2009/3/14、沖縄県石垣島大浜近くの海岸でタイマイの甲羅らしきものを拾いました。甲羅の内側に、白い線で模様がありました。自然にできたものでしょうか、それとも人工的なものでしょうか？事務局より：写真からタイマイの甲羅であることは確認できましたが、白い模様は真皮との結合によってできるタイマイの鱗板特有のものでした。

\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報09-08 (4/6)

\*\*\*\*\*  
沖縄県 尾辻章さんより (3/20)

2007/4/26、沖縄本島南部の新しいビーチにてウミガメの死体を見ました。事務局より：写真には、パンパンに膨張したアカウミガメが仰向けになって写っていました。

\*\*\*\*\*  
沖縄県石垣市 内藤智恵美さんより (3/20)

2009/3/11、米原の海岸にてスノーケリング中にウミガメを目撃しました。離れていたため種は不明です。40~60cmくらいの小さい個体でした。

\*\*\*\*\*  
千葉県館山市 桜井涼子さんより (3/23)

今朝、午前7時頃、千葉県南房総市白浜町でウミガメの死体を見つけたので報告します。長尾川河口から砂取方面へ200~300メートルほどのところ。カラスがなにか白いものをつついていたのに気がつき近づいてみたら裏返しになったウミガメの死体でした。すでにかかり痛んでおりましたが、そのままでは甲羅の様子がわからないのでひっくり返してみました。甲長は50センチ弱くらいだと思います。もしかしたらタイマイかも？と思ったので画像を2枚添付いたしました。事務局より：タイマイではなく、アオウミガメでした。後方から腸らしきものが露出していました。

\*\*\*\*\*  
和歌山県 井本賢治さんより (3/23)

美浜町に逢母海岸という場所があるのですが、その場所でウミガメの死体が発見されました。地元の方が発見され、確認に行ったのですが、頭は白骨化して胴体は少し肉が残っていて、近づくと鼻をつく臭いがしました。事務局より：写真には岩場で白骨化したアカウミガメが写っていました。

\*\*\*\*\*  
大阪 岩佐浩さんより (3/25)

先週、ちょっと息抜きを兼ねてハワイに行っていました。例年より気温も低いようで最高気温も26度程度で水温は、なんと22度程でしたが、それなりに楽しんでまいりました。ご存知かもしれませんが、どのポイントもアオウミガメが多く、中にはアオウミガメがクリーニングしてもらいに訪れるポイントまでありました。結果、水中写真はアオウミガメばかりとなりましたが、中に腫瘍のある個体もありましたので、写真を添付させていただきます。

\*\*\*\*\*  
北海道 小林真樹さんより (3/25)

ウミガメ死体漂着情報2件です。(1)2009年3月11日西表島イダの浜で見つけました。頭骨は胴体から2~30メートル離れたところで見つけています。確実にいえませんが、たぶん同一個体のものだろうと思っています。下顎はありませんでした。(2)昨年2008年6月4日に北海道様似町で見つけたカメラです。2007年の11月くらいからあったらしいという話を聞いております。事務局より：両方ともアオウミガメでした。

\*\*\*\*\*  
沖縄県うるま市 花城美奈子さんより (3/30)

土曜日の夜中2時半頃に浜下りをしている時、砂浜のほうに茶色いとゆうか、黄土色っぽいウミガメの死体を見ました。甲羅はところどころが割れて少しうじがわいていました。場所は、沖縄県金武のブルービーチです。砂浜をずっと奥まで歩いていると石の隣にいました。大きさはだいたい甲羅で80cm以上1メートル以内くらいだったと思います。頭の骨の隣に、タバコの箱のロングサイズを置きました。事務局より：翌日わざわざ撮影に行ってきた写真には、成熟したアオウミガメが写っていました。事務局より：浜下り(ハマウリ)とは、春の大潮の時に夜海に入り、干出したリーフでカイや魚をとることです。実に楽しい南の島の行事で、当会の水野事務局長の修士論文のテーマでした。

\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報09-09 (4/13)

鹿児島で初上陸です。

\*\*\*\*\*  
鹿児島県 大内裕貴さんより (2/25)

1月中旬ごろに佐賀県くらし環境本部有明海再生・自然環境課自然環境担当から「漁師が海の上をブカブカ浮いている甲長40cmほどのアオウミガメをみつけて保護しているんだけど、海水温が低くて佐賀で放流できないから鹿児島で放流してくれないか」という旨の電話がありました。私には判断できませんでしたので「日本ウミガメ協議会とも相談して処遇を決めたほうがいい」と伝えました。その後、再び、鹿児島で放流することになったという電話があり、私の元にカメラが送られてくることになりました。そのような経緯で、次の個体を放流しました。放流日：2009年2月22日、放流場所：鹿児島県南さつま市野間池漁港、種類：アオウミガメ、性別：不明、SCL:398mm、MCL:391mm、CCL:419mm、SCW:342mm、CCW:389mm、標識：インコネルJP68201(左前肢)、JP68202(右前肢)

\*\*\*\*\*  
トラスト 中嶋祐滋さんより (3/30)



高知県でダイビング中、海底で休むアオウミガメを発見しました。標識がついていました。年月日：2009.03.28、場所：高知県幡多郡大月町観音崎の少し北(132° 38' E 32° 49' N)、水温：16.5度、タグ：33604、状況：逃げる素振りもなく大人しくじっとしてました。事務局より：小笠原から放流したアオウミガメです。山口真名美さんによると2004年8月4日に父島の太田海岸より放流したものだそうです。放流時の甲長は249mmだったそうです。

\*\*\*\*\*  
歴久島うみがめ館 大牟田さんより(4/6)

4月4日に粟生浜でウミガメの上陸がありました。産卵できる場所じゃなかったようでそのまま引き返したようです。

\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報09-10(4/22)

歴久島、沖縄島、座間味島で産卵

\*\*\*\*\*  
沖永良部うみがめネットワーク メーリングより  
(3/31)

今日漂着情報がありました。場所：鹿児島県沖永良部島与和の浜中央、種：アオウミガメ、性別：メス、状況：死後10日ほど、外傷はなし、頭部は腐敗。甲長：89cm、幅：64g。

\*\*\*\*\*  
宮崎市 稲倉康信さんより(4/1)

標識のついたカメを発見しました。日時：年4月1日、場所：宮崎県内海野島の岩場、生死：死、発見状況：海岸打ち上げ、標識番号：57153、甲長：不明。事務局より：放流したのは、種子島の岩下文男さんです。以下、放流情報です。【放流情報】捕獲場所：種子島熊野定置、放流日時：2009年1月27日、種：アカウミガメ、標準直甲長：730mm、直甲幅：600mm、放流個体の由来：混獲、備考：網に入ったときは交尾していた。

\*\*\*\*\*  
大分県漁協蒲江支店 甲斐さんより(4/2)

再発見です。日時：4月2日、場所：蒲江沖定置網、生死：生、発見状況：混獲、漁法：定置網、標識番号：62527、処置：放流。事務局より：室戸基地より放流した個体でした。以下、放流情報です。【放流情報】捕獲場所：高知県室戸岬三津定置網、放流日時：2008年7月2日、種：アオウミガメ、標準直甲長：SCL792mm、直甲幅：SCW636mm、標識番号：62526、62527、59537、59538、放流個体の由来：混獲。

\*\*\*\*\*  
SEA REX 西田シゲルさんより(4/2)

はじめまして。熊本県のダイビングショップで『SEA REX』と申します。写真は、熊本県の天草諸島下田港内で2008年8月4日に撮影したものです。天草ではダイビング中に見かけることは稀で、しかも衰弱して湾内から出れない様子でした。そこで沖まで誘導して出す事は出来たのですが、その後は見かけていません。確認のため甲羅の周りやヒレなど、タグ等を探しましたが何も付いていませんでした。事務局より：写真に写っていたのは、ヒメウミガメでした。痩せた小柄な個体でした。日本での日撃は少なく、大変貴重な写真です。

\*\*\*\*\*

石垣島 内藤智恵美さんより(4/6)

ウミガメの死体を見ました。発見日：2009/4/5、発見場所：石垣島 桜海のサラ浜、種類：アオ、甲羅長：400mm、甲羅幅：380mm、頭から後肢までの長さ：530mm、計測方法：メジャー、標識：なし、その他：カメフジツボ2cm1個、腐敗していました。

\*\*\*\*\*  
沖縄国頭村 嘉陽宗幸さんからの情報(4/11)

昨夜、沖縄県国頭村辺土名の海岸でアカウミガメの産卵がありました。沖縄島では今年初の産卵となりました。例年と比べてもかなり早いです。

\*\*\*\*\*  
歴久島うみがめ館 大牟田一美さんより(4/12)

粟生で調査をしている方からの情報によると、4月10日から11日にかけて、今年のはじめてのアカウミガメの産卵があったとのこと。水田ではまだ上陸はありませんが、沿岸にはカメがウヨウヨ集まっています。

\*\*\*\*\*  
歴久島うみがめ館 大牟田一美さんより(4/17)

一澳のつ浜にて、産卵です。14日上陸、15日産卵です。田舎浜は、まだです。

\*\*\*\*\*  
座間味島宮平秀幸さんより(4/18)

座間味島ニタ浜にウミガメの足跡があるよ。見てご覧なさい。ということで、富山加奈と尾澤幸恵の座間味ウミガメギャルズが磯の上から、鯨探索用の双眼鏡で確認したところ、確かにありました。足跡の形よりアカウミガメだと思います。産卵の有無の確認は、天候の回復を待って行います。

\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報09-11(5/4)

\*\*\*\*\*  
石垣島 内藤智恵美さんより(4/6)

ウミガメの死体を見ました。発見日：2009/4/5、発見場所：石垣島 桜海のサラ浜、種類：アオ、甲羅長：400mm、甲羅幅：380mm、頭から後肢までの長さ：530mm、計測方法：メジャー、標識：なし、その他：カメフジツボ2cm1個、腐敗しているがパーツは全部ありそう。

\*\*\*\*\*  
鹿児島県野間池 宮内叶さんより(4/13)

再捕情報です。年月日：3月20日、場所：しろせ定置網、種：アオウミガメ、発見状況：生、SCL:960mm、MCL:960mm、SCW:725mm、CCL:1000mm、CCW:875mm、標識：23520、23521。事務局より：小笠原から放流したアオウミガメです。

\*\*\*\*\*  
和歌山県 山田遥香さん、正司さんより(4/16)

石垣島に家族で旅行に行きました。ビーチコーミングで行った海岸でウミガメの死体を見つけました。年月日：3月27日、場所：石垣島盛山麓川から北へ約500m、サイズ：頭の先から甲羅の後ろまで約60cm、標識：なし、状況：肉はほとんどなく、甲羅と骨だけ。ほぼ白骨化。頭・手足は有り。小型でアサヒ模様があることから、子どものアオウミガメだと思います。

\*\*\*\*\*  
沖縄県 アクアデートの齋藤さんより(4/19)



初めまして。昨年ですが沖縄のチービシ海域で、タグを付けたウミガメを見たのでご報告させていただきます。日付：2008年10月26日午後3時15分頃。場所：チービシ、ナガヌ島南沖。ダイビング中に見つけました。タグの番号は汚れていて良く見えなかったのですが、写真では「47351」と読めます。写真を貼付いたします。少しでもお役に立てれば幸いです。事務局より：野間池から放流した個体でした。

【放流情報】年月日：2006年1月11日、標識：47351・47331、場所：しらせ定置網、種：アオ、状況：生、SCL：600mm、MCL：587mm、CCL：610mm、SCW：480mm、CCW：560mm。

\*\*\*\*\*  
鹿児島県志布志 大和隆信さんより (4/22)

こんにちは。今年もシーズン到来。賑やかになってきたようですね。志布志湾はストランディングです。宮崎県との県境に近い、大黒リゾートホテル東の岩場にアカウミガメの死骸があると連絡を受けて行ってきました。SCL70.1cm、SCW56.7cm、性別は不明。頭部はちぎれて、腐敗の進んだ体内が見えていました。手足には目立った外傷は見られず、死因は不明です。

\*\*\*\*\*  
沖永良部島ウミガメネットワークさんより (4/28)

4月27日に沖永良部島出花泊浜でアカウミガメが初産卵です。

\*\*\*\*\*  
座間味島 富山加奈さんより (4/29)

前回の座間味島新田浜の上陸跡は調査しました。卵を発見しました。卵径は45.6mm (n=10) だったので、アオだと思います。新田浜ではもう1カ所アオが産卵しています。それ以外の浜ではまだ確認してません。

\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報09-12 (5/16)

\*\*\*\*\*  
屋久島うみがめ館 永野歩美さんより (4/22)

先日、栗生浜に上陸・産卵したアカウミガメについてお教えください。既着TAG：ジャンボ57174 (青タグ)、カメ種：アカウミガメ、確認日：2009年4月10日、上陸状況地：栗生浜にて産卵。事務局より：種子島の久米さんが放流した個体でした。【放流情報】日付：2009年2月27日、種：アカウミガメ、性：メス、タグ：NO.57174、名前：ナオミ、状況：混獲、甲羅サイズ：87 x 66。

\*\*\*\*\*  
南知多ビーチランド 黒柳賢治さんより (4/23)

協議会のみなさんこんにちは。ストランディングがありましたので以下の通りご報告いたします。場所：愛知県知多郡美浜町野間海岸/発見日：4月22日/種：アカウミガメ/SCL：77.5cm/性別：♀/腐敗初期、背甲鱗板一部剥離。サイズはやや小さめでしたが、この時期のメスなので多少卵胞が大きくなっているかと思いましたが、卵巣の発達はまったく見られませんでした。もちろん標識なしです。

\*\*\*\*\*  
沖永良部島ウミガメネットワークより (4/28)

4月27日、アカウミガメが出花泊浜で初産卵しました。

\*\*\*\*\*  
鹿児島県種子島 水谷志津江さんより (5/2)

中種子町の竹屋野海岸ですが、今年初上陸がありました。足跡を見ると産んでなさそうなので上陸のみだと思います。事務局より：写真を見ても産卵の痕跡はありませんでした。

\*\*\*\*\*  
南さつま市 有村成明さんより (5/4)

09年の初上陸は、昨年より2日早い上陸となった。残念ながら竹などの漂着物が障害になったのか、産卵せずに帰海。右後脚欠損の個性的な足跡だった。

\*\*\*\*\*  
屋久島うみがめ館の大牟田一美さんより (5/4)

4月中の屋久島・永田の上陸産卵状況は以下の通りで、今のところ、一昨年並みのペースです。いなか浜：上陸20 (うち産卵10)、前浜：上陸23 (うち産卵3)、四つ瀬浜：上陸5 (うち産卵4) 今年も調査ボランティアの申し込みが不調で、このままだと調査の継続が危ぶまれる状況です。

\*\*\*\*\*  
asahi.comマイタウン宮崎より (5/5)

宮崎県指定天然記念物のアカウミガメの産卵が4日、日南市で今年初めて確認された。卵は直径4~5センチの乳白色で107個。順調なら80日後に子ガメが生まれ、同市の海岸から海に放流される。市のアカウミガメ保護監視員で市野生動物研究会会長の桑田守さん(58)が4日午前10時ごろ、市民の連絡を受け、同市富士(ふ・と)海水浴場の砂浜で深さ55センチほどの地中に埋まっているのを確認した。1回の産卵数としては通常の個数だという。卵は桑田さんが掘り出して保護し、同市の孵化(ふ・か)場に移された。鳥や野犬などの食害から守り、孵化を待つ。今年初の産卵日は昨年と同じだった。桑田さんは「以前は5月下旬に確認することが多かったが、最近は温暖化のせいから5月上旬に繰り上がっている」と話す。市教委によると、昨年は親ガメ110匹が上陸し、うち79匹が卵を産んだ。産卵数は8568個で、3585匹が孵化した。親ガメの上陸数は89年の集計開始以来、過去最多だったという。桑田さんは「保護活動の成果が親ガメの上陸数に現れている。気温が上がらないと卵の孵化率が落ちるので、早く暖かくなってほしい」と話した。産卵は6~7月にピークを迎えるという。

\*\*\*\*\*  
鹿児島県種子島 水谷志津江さんより (5/9)

中種子町の竹屋野海岸でとうとう今年初の産卵がありました。これからウミガメシーズンの始まりですね。

\*\*\*\*\*  
四万十市不破・濱瀬幸三さんより (5/11)

5月10日、下の加江浜に今年初の産卵がありました。岡田幸生さんが卵を確認しました。波打ち際に近いので、もう少し丘の方が孵化場に移す予定です。平成四年にこの浜から放流しています。そのときの亀が産卵に戻った、なんてのはいいですねえ。本当なら最高のお話だが・・・。いったい何年くらいで戻ってくるのでしょうか。知りたいものですね。今年も、昨年同様たくさん産卵して欲しいものです。

\*\*\*\*\*  
沖永良部島ウミガメネットワークより (5/12)



こんにちは。はじめまして。うみがめにこんな協会があることをはじめて知りました。実は、一昨日、日曜日(5月10日)、沖縄県北谷のアラハビーチでウミガメの産卵に遭遇しました。アラハビーチは人口ビーチでまさかこんなところで産卵するとは思っていませんでしたが、亀は、出来るだけ海から速くに産もうと岩でできた防波堤?のようなところぎりぎり穴を掘っていましたが、なにせ人工ビーチのぎりぎりのところで10センチも掘るとコンクリートに当たります。何度も掘るのですが、かわいそうにザーザー音がするまで掘るのですが深く掘れずにあきらめ、また横に移動し4箇所くらい掘ってました。見かねた警備員や私たちがちょっと移動してやると真ん中あたりでけっこう深く掘り進めようやらやと産卵したみたいでした。人工ビーチなので機械での掃除もあるだろうし、あの卵たちはどうなるのか心配です。一応警備員の方に保護できるのですか?と尋ねたら、場所がわかれば保護できるかもとおっしゃっていましたが、こちらの協会の方にもどうしたらいいのかわからないとおもいますが、なにか最善の方法があれば、沖縄県北谷町あらはビーチに連絡して見ていただけないでしょうか?一応報告でした。ありがとうございました。事務局より: さっそく沖縄本島ウミガメ屋のペイン留美さんや美ら海水族館の皆さんが現場に急行し、管理者の方と相談し、保護体制を確認していただいたそうです。\*\*\*\*\* 日和佐うみがめ博物館 田中宇輝さんより (5/13)

今朝、浜崎敏明さんが日和佐大浜海岸でウミガメの上陸痕跡を発見しました。産卵はしてませんでした。\*\*\*\*\*

■ウミガメ速報09-13 (5/20)

\*\*\*\*\* 熊本県水産研究センター 森下さんより (4/28) 標識のついたカメがとれました。日: 2009年4月28日、場所: 熊本県天草牛深市沖、標識番号: 64165、64166、状況: 刺し網に入りウミガメは逃げた。標識のみ採取。事務局より: 放流したのは、鹿児島宮内さんです。【放流情報】放流日: 2009年4月22日、種類: アオウミガメ、SCL: 466mm、MCL: 455mm、SCW: 378mm、CCL: 480mm、CCW: 448mm。\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\* 海遊館 倉松昭男さん、北谷佳万さんより (4/30)

標識のついたアカウミガメを確認しました。高知県土佐清水市以布利、以布利共同大敷組合(同林正三組合長)、平成21年4月30日 午前7時ごろ。通称下網に入る。他3頭メスも入る。メス、標識番号: 青色タグ JPN-62979。この時期は以布利大敷もアカウミガメはよく入網するようです出張でしばらく以布利にいたのですが一つの網に6尾が入網していた日もありました。事務局より: 室戸より放流したアカウミガメです。【放流情報】日時: 2009年4月17日、捕獲地: 高知県室戸市三津大敷、種類: アカウミガメ、性別: 雄、プラタグ: 62878、62979、インコネル: 65778、65779、SCL: 732mm、体重: 5.7kg

\*\*\*\*\* 国土交通省高知海岸出張所 加納知加子さんより (5/1)

当出張所の工事担当区域に、ウミガメの死体の漂着がありましたので情報提供いたします。種類がアカウミガメかどうか、はっきりとは分かりません。詳細は下記のとおりです。①場所は、高知県土佐市新居の海岸②発見日時 平成21年4月28日(火)午前10:00過ぎ③頭や足は残っておらず、甲羅と骨が残っている。④直標準甲長は目測で70cm~80cmくらい。⑤状況から、波に乗って漂着したと思われる。事務局より: 写真には、頭と四肢のない甲羅だけのアカウミガメが写っていました。

\*\*\*\*\* 屋久島 大野睦さんより (5/2)

屋久島、楠川港にて釣りをしていた小学生からウミガメの死体があるとの連絡をもらい、見に行ったら、甲長40.7cm アオウミガメでした。状態がきれいでしたので、うみがめ館へ持っていきます。

\*\*\*\*\* 種子島 みずたにさんより (5/2)

こんにちは。竹屋野海岸、今年初上陸です。産んでなさそうですが。

\*\*\*\*\* 南日本新聞(5/3)より

中種子町の長浜海岸で1日、ウミガメが産卵した。種子島で確認されたのは今年初めて。全国で屋久島に次ぐ1656頭の上陸を確認した昨年と同時期で、関係者は「今年も多くの上陸につながれば」と期待している。産卵があったのは同海岸の納官地区。町ウミガメ保護監視員の笹川二成さん(67)が1日午前5時半、産卵中のアカウミガメ1頭を発見した。卵は127個で、この時期の産卵数としては多く、上陸から1時間ほどで海に戻ったとみられる。笹川さんは産卵場所に目印を立て、触れないよう注意を呼び掛けている。順調にいけば約2カ月でふ化する。同海岸では3日朝も産卵を確認したという。

\*\*\*\*\* 薩摩川内 外城康信さんより (5/4)

去る5月1日(金)のことですが、薩摩川内市の西方港方面にウミガメの死体が漂着した旨、通報がありまして、最終的には、唐浜海岸へ埋設したところですが、かなり腐敗が進んでおり、素人目では、種類の特定が困難であったため、今回、別添のとおりファイルを送信しますので、種類をメールにてご教示くだされば幸いに存じます。直甲長: 約47cm、直甲幅: 約35cm。標識なし。事務局より: 写真には、頭のないアオウミガメが写っていました。

\*\*\*\*\* 千葉大学 林亮太さんより (5/4)

千葉大学の後輩、谷脇天司くんが生痕化石調査中にウミガメストランディングを発見して写真を撮ってきてくれたので報告します。場所は沖縄県名護市有銘の海岸で、4月21日の発見だそうです。目測ですが、甲長およそ40cmくらいのタイマイと思われます。写真を添付いたします。

\*\*\*\*\* 久米島 イーフ マリン ホリデー 小川真司さんより (5/4)



おもしろいシーンを目にしましたので紹介します。5月1日、久米島真泊港沖のダイビングポイント「イマズニ」にて大きなアカウミガメに攻められました。翌日、真泊港沖東で大げんか？のアカウミガメたちを見つけボートを寄せましたが、ボートは関係なく目前で取っ組み合い、噛み付き合いを繰り返します。馬乗りになった大きな個体は背中の中の海藻からおそらく5/1に出会った個体の方でした。相手が性別不明でオス同士のケンカかメスへの求愛かがわかりません。さらに、その翌日3日には真泊港沖東のダイビングポイント「トンバラザシ」でダイビング中にスタッフが噛まれそうになりましたが、これも5/1のオスのようでした。このポイントは1日のイマズニから3km以上離れており、相当に広い範囲をテリトリーとして相棒を探しているようでした。オスの性とはいえ、狂ったように頑張っています。いい相手に恵まれるといいですね。久米島でも間もなく上陸するとおもいます。事務局より：送っていただいた写真はホームページにあります。

\*\*\*\*\*  
種子島 久米満晴さんより (5/6)

ストラディンが2件ありましたので報告します。個体1：アオウミガメ、確認日：2009年5月6日、場所：鹿児島県中種子町熊野海水浴場、測定値：甲長83cm、甲幅78cm、備考：外傷無し、タグ無し。個体2：アカウミガメ確認日：2009年5月6日、場所：鹿児島県中種子町熊野海水浴場、測定値：甲長97cm、甲幅78cm、備考：外傷無し、タグ無し。

\*\*\*\*\*  
大阪市 佐々木実さんより (5/7)

志摩市安楽に宿泊し時、平成21年5月4日午後4時45分ごろ 海岸を散歩をしている時 娘を見つけました。目玉は無くなっているようでした。横腹に穴が開いていました。旅館に帰ってから女将さんには、伝えました。何か連絡をするかなと思って、あくる日 朝見に行きましたがありませんでした。事務局より：送っていただいた写真はアカウミガメでした。

\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報09-14 (5/22)

\*\*\*\*\*  
鹿児島県 宮内叶さんより (4/9)

標識のついたカメがとれました。年月日：2009年4月9日、標識：57806、場所：鹿児島県南さつま市野間池、SCL：974mm、CCL：990mm、SCW：735mm、CCW：882mm、処置：生きて放流 事務局より：放流したのは鹿児島県の宮内一朗さんです。【放流情報】年月日：2007年11月22日、放流者：宮内一朗さん、標識：57806、場所：鹿児島県南さつま市秋目湾、種：不明、性：オス、尾の長さ：長い、サイズ：特に大型

\*\*\*\*\*  
大阪府 後藤裕幸さんより (5/6)

ウミガメの死体がありましたので報告します。発見日：5月4日、場所：和歌山県串本町田原 民宿宝嶋前 ビーチ状態：腐敗が進んでました。携帯で撮った写真添付します。事務局より：写真には、仰向けになったアカウミガメが写っていました。

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

和歌山県 山田正司さんより (5/6)

ストラディン(死体)の情報です、5月3日(日)ビーチコーミングの途中に見つけました。1、和歌山県東牟婁郡串本町須賀の浜。国道42号線から、須賀漁港と潮岬西口交差点付近の白砂の浜です。甲羅の全長600mmの幼体のアオウミガメが、打ち上げられていました。頭骨は白骨化しています、後ろ足右側なし、前足もカラスにやられたのでしょうかぼろぼろです。甲羅の表面(鱗甲)がはがれています。腐敗が進み内部は、ほぼ溶けてなくなっています。外傷等は見当たりません。標識等は確認できませんでした。\*もしかしたら以前報告した須賀の浜からアンドノ鼻間に漂着していた死体が流れ着いたものかもしれません、今回はアンドノ鼻方面に、行かなかったため、そちらの漂着死体の再確認はしていません。2、和歌山県東牟婁郡串本町御崎、潮岬灯台の北側に続くジャリ浜です。甲羅の全長700mmの幼体のアオウミガメが、打ち上げられていました。頭骨は一部白骨化しています。腐敗が進みカラスに食べられたのか、前足及び後ろ足はありません。また内部もほぼ溶けてなくなっています。外傷等は見当たりません。標識等は確認できませんでした。付近にはイルカも打ち上げられていました

\*\*\*\*\*  
高知県 島崎さんより (5/8)

今日の午後3時過ぎに高知県生見海岸に打ち上げられたウミガメです。3時前には生見の海を漂っていたようでその時点でもう死んでいたようです。かなり大きなウミガメで海から見ると岩のように見えました。一応写真 送っておきます。事務局より：アカウミガメでした。なお、この情報は大阪府の木村さんからもいただきました。その後、牟岐の加島さんが計測にいかれました。直最小甲長：73.9cm、直標準甲長：75.3cm、直甲幅：57.7cm

\*\*\*\*\*  
種子島 久米満晴さんより (5/11)

タグNO.67473、電話0728640335、5/10定置にて捕獲、新取付タグ64304にて放流。事務局より：以下は屋久島うみがめ館からいただいた放流情報です。カメ種：アカウミガメ、TAG種：P型、TAG装着日：2008年7月6日、装着地：前浜、上陸状況：2008年7月6日 上陸・産卵7月17日 戻り、7月18日 産卵

\*\*\*\*\*  
香川県 胡賢一さんより (5/14)

平成21年5月13日21時に香川県三豊市仁尾町でおおきな流木の下に挟まった形で死んでいるウミガメを見つけました。詳しくは見ておりませんが、体調1m弱、頭部が一部白骨化していて、甲羅、左後ろ足は綺麗だったと思います。写真は撮っておりません。2人で確認しましたので間違いないと思います。

\*\*\*\*\*  
鹿児島県 宮内叶さんより (5/14)

標識個体の捕獲です。日：2009年5月13日、再捕獲場所：野間池 しろせ定置、再捕者：宮内叶、種：アオウミガメ、タグ：57843、状態：生存→標識確認後放流 事務局より：放流したのは、鹿児島県の宮内一朗さんです。【放流情報】放流日：2009年5月8日、放流場所：鹿児島県秋目湾、大きさ：CCL480mm、



CCW450mm

\*\*\*\*\*  
徳島新聞 (5/13) より

海陽町の大里松原海岸で十二日、県内では今年初めてとなるアカウミガメの上陸、産卵が確認された。同海岸への上陸は昨年より十六日早い。午前八時半ごろ、ウミガメを監視している「大里松原ウミガメを守る会」のメンバーが防波堤に向かって続くカメの足跡を発見。足跡の幅は約九十センチで、中型のアカウミガメとみられる。波打ち際から約六十メートル付近に砂の盛り上がった箇所があり、掘り返すと百十二個の卵が見つかった。卵は、台風の高波などから守るため、メンバーが海岸近くに設けているふ化場に移した。順調なら七月初旬ごろにかえるという。同海岸で三十年近く調査している乃一繁会長(83)は「こんなに早いのは十数年ぶり。早い年は上陸回数も多い傾向にあるので、今年は期待できそうだ」と話していた。

\*\*\*\*\*

■ウミガメ速報09-15 (5/27)

\*\*\*\*\*  
喜界島 濱川孝久さんより (5/16)

喜界島で例年より1月早く産卵に来ています。小野津海水浴場5月13日、アカウミガメ1頭、産卵は確認できませんでした。先内海岸5月15日アカウミガメ1頭、産卵は確認できませんでした。

\*\*\*\*\*  
高知四万十市 溝淵幸三さんより (5/16)

5月16日、平野浜で初産卵がありました。

\*\*\*\*\*  
志布志湾 大和隆信さんより (5/16)

こんにちは。志布志湾でも産卵が始まりました。1回目は5/14 菱田川西1.5kmの大崎町益丸海岸で118個を産んでいました。卵径が38.6<sup>3</sup>と小ぶりの卵でした。大潮の満潮時には冠水するところでしたので、浜崖下に移設しました。2回目の産卵は今朝5/16でした。東串良町との境に近い大崎町の横瀬海岸で、卵径37.4<sup>3</sup>と小さな卵97個でした。この卵も土用波程度では冠水しない場所に移しました。今年から上陸及び産卵場所を緯度経度で記録することにしました。

\*\*\*\*\*  
沖縄国頭村 嘉陽宗幸さんより (5/16)

今年は、各地で例年比べて初上陸が若干早めようですが、沖縄島北部で私が調査している範囲における、5月16日時点での産卵回数の累計を去年と比較すると、昨年が20回で、今年が17回で、大差ありません。スタートが早かった割には、その後の出足は今ひとつといったところでしょうか。

\*\*\*\*\*  
千葉県 根上さんより (5/16)

ストランディングがありましたので報告します。日時:2009年5月16日、場所:館山市香(こうやつ)の花しぶきの東側300mの砂浜、発見者:根上氏、種:アカウミガメ 備考:腐敗が進んでいる。事務局より:写真より種を判定。また、調査を行ったエバーラスティングネイチャーからいただいた情報は次の通りです。直甲長76.5cm、直甲幅62.9cm、メスの未成熟個体

\*\*\*\*\*  
黒島研究所 亀田和成より (5/16)

黒島で標識個体の再捕がありました。年月日:2009/5/16、再捕場所:沖縄県竹富町黒島、種:アオウミガメ、標準直甲長:480mm、最小直甲長:470mm、直甲幅:384mm、体重:16.4kg、標識:インコネル38370 右前肢、インコネル38369 左前肢、状況:刺し網による混獲、連絡者:平良様 事務局より:放流時の情報は現在確認中です。

\*\*\*\*\*  
沖縄県 親川純治さんより (5/16)

海の中で標識のみが落ちていました。発見日:2009年5月16日、発見場所:南城市知念沖 N26° 8' 034" E127° 49' 277" 水深3m前後のリーフの上で発見、標識番号:57406、事務局より:この標識をカメにつけたのは沖縄県の平手康市さんでした。標識:プラスチックジャンボ57406;左前肢、インコネル54707;右前肢、標識放流日:2008年6月24日、放流場所:沖縄県うるま市石川(旧石川市)石崎2丁目石川漁港、種:アオウミガメ、SCL:737mm、SCW:614mm、Bet:65.3kg、捕獲状況:うるま市石川地先位置網混獲

\*\*\*\*\*  
表浜ネットワーク田中雄二さんより (5/17)

今朝の5時10分に表浜は東七根の海岸でアカウミガメの上陸を確認しました。早いですねえ。残念ながら切迫してないのか、砂丘手前で折り返して産卵は認められず。足跡からもなんとなく小ぶりですね。産卵をしていないから、数日中に表浜に上陸すると思います。\*\*\*\*\*  
カメハメハ王国 山本明男さんより (5/17)

死体の漂着がありました。1.漂着日時:平成21年5月16日 通報 死亡漂着、2.漂着場所:静岡県牧之原市波津地先海岸、3.種:アカウミガメ♀、直甲長 854mm、甲幅 547mm、4.その他の所見、頭部有り、四肢有り 標識無し 甲板剥離無し、5.解剖所見 解剖者 久保田昭久 立会者 渡辺美穂子 永田美子 山本明男、6.全体所見 死因不明 胃内容物 外洋性ホヤ 腸内容物外洋性ホヤ ホンダワラ 肝臓・心臓は比較的新鮮な状態で異常無し 食道・器官も異常なし 卵巣には卵無し

\*\*\*\*\*  
表浜ネットワーク田中雄二さんより (5/18)

今朝は表浜は湖西で産卵1箇所、豊橋域で上陸が3箇所内、1箇所産卵、残りは産卵せずに折り返して帰海でした。折り返し2箇所は小島でたぶん、同一のカメとしても、高塚で産卵したカメとは別のようです。これで最低でも4匹は表浜沖合に来ています。なんだか突然過ぎて・・・準備不足です。上陸シーズンが唐突の訪れました。

\*\*\*\*\*  
静岡県熱海市 夜久香織さんより (5/19)

ストランディングがありましたので報告します。日時:2009年5月18日、場所:静岡県熱海市上田賀タータズマンション前の岩礁、発見者:夜久香織氏、種:不明、甲長目視で1m、備考:甲羅が大きい。見た目からかなり腐敗している。

\*\*\*\*\*  
高知四万十市 溝淵幸三さんより (5/20)

20日、平野浜に二頭目が産卵しました。ただ、今回も低い浜で20メートルと波打ち際に近く、昨年は



1メートルほどほれこんだ場所でした。そのため、座に近いくところへ移しました。82個でした。よたよたと亀よりも遅い記者が取材に来ていました。

\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報09-16(6/3)

\*\*\*\*\*  
高知県黒潮町給大敷協同組合 宮地儀一さんより  
(5/20)

標識のついたアオウミガメが捕獲されました。標識：JPN 64414、65813、再発見日：2009年5月18日 朝の大敷、処置：同日、昼の網の時に沖まで出て放流する 事務局より：室戸基地から放流した個体でした。放流日：2009年5月15日、発見場所：室戸岬町椎名、状況：混獲（定置網）、生後：生存、SCL:125、BW:12.5kg、標識：J64413、J64414、I65812、I65813  
\*\*\*\*\*  
沖繩国頭村の嘉陽宗幸さんより(5/20)

昨夜、知り合いが国頭村奥の海岸にてウミガメの産卵巣と思しきところに、アカマタが頭を突っ込んでいたところを目撃しました。現地に出向き確認すると、そこは、昨日早朝に私が産卵を確認して目印をつけたばかりの巣でした。アカマタが卵を食した後の状態を確認するべく、産卵巣の正確な位置を探ろうと、地面に軽く棒を突き刺したところ、その先端が地中で何か弾力性のある物体に触れたような、奇妙な感覚がありました。同じところを再度突くと、何もあたりません。もう一度突くと、再び弾力性のある物体に触れました。それから間もなくして、砂の中から1匹のアカマタが顔を出し、アダンの茂みの中へと消えていきました。巣を掘り返すと、卵塊上部に、中身をアカマタに食べられたと思われる空の卵殻が14個出てきました。

\*\*\*\*\*  
新宮市 速水政夫さんより(5/21)

本日AM4:30に、王子ヶ浜で初産卵を確認しました。卵数は112個でした。初上陸は、5月17日に確認していましたが、その際は産卵してませんでした。

\*\*\*\*\*  
長崎市 引地秀司さんより(5/21)

久しぶりに産卵があり、産卵巣を移植しました。場所は長崎市高浜海水浴場(旧西枝杵郡野母崎町高浜)。5月18日夜~19日朝に上陸したと思われるウミガメの足跡が発見されました。当地でウミガメ保護に尽力していた馬場九十九さん(故人)のご子息・馬場広徳さんが掘って見たところ卵が確認されました。馬場さんの話では、今週末の大潮で水没してしまう場所である、とのこと。5月20日、馬場さんと長崎市担当部署職員立会いのもと、小生と妻とで、もう少し上の方に移植しました。卵の数は144個です。通常の生息・産卵パターンから、アカウミガメと判断しております。当該浜は10年ほど前に運輸省の予算で海浜工事がなされ、砂も他所の砂が持ち込まれております。以降ウミガメの産卵上陸がなく、関係者が案じていたところでした。

\*\*\*\*\*  
座間味島 富山加奈さんより(5/22)

近況報告です。座間味では例年通り新田浜の上陸産卵が相対的に多いです。アオだけではなく、アカの足跡もあります。今の所、座間味で卵を確実に確認しているのは6巣で、アオ5、アカ1です。明後日から大

潮ですから、干いている時にしか行けない浜に行くくと10巣ぐらいにはなると思います。1週間ほど前に、屋嘉比、久場島の浜を船から観察しに行きました。まだ、あまり上陸はしておらず、その代わりに、アオの交尾を2回見ました。久場島の北と、屋嘉比島の南西です。どちらも、島からごく近くで水深がかなり浅い所でした。屋嘉比の方は7、8頭が集まって、わさわさしていました。水深2mもないようなところだったので、船で最接近することはできませんでした。最後にストランディング情報です。といっても体の大部分は骨と左前肢が満潮線に打ち上がっていました。骨は、頭部・背甲・腹甲の一部です。おそらく、アオの小さい個体だと思われます。かなり乾燥していますが、腹甲表皮と、左前肢の先端の表皮を採取しました。

\*\*\*\*\*  
みなべ町千里浜の後藤清さんより(5/23)

以前、千里浜での調査に参加した江口英作君が久しぶりに浜を訪れ、アオウミガメの漂着死体を発見しました。サイズは以下の通りです。標準直甲長：49.5cm、最小直甲長：48.7cm、最大甲幅：40.2cm。

\*\*\*\*\*  
鹿児島市 宮形佳孝さんより(5/23)

吐葛崎列島宝島で産卵したと連絡がありました。卵は移植することとなりました。上陸3回目にして今年初産卵です。波打ち際1mで砂表から10cm下に卵塊トップを発見。産卵した浜は6月中旬に公共工事(皆既日食関連)で砂を採取するそうで同じ浜での移植はできず近くの浜に移したいと連絡がありました。作業手順は口頭で説明しました。

\*\*\*\*\*  
高知四万十市 清洲幸三さんより(5/24)

5月23日、大岐浜に一頭産卵。岡田幸生さんが卵を確認しました。同じく、平野浜に一頭上陸。こちらは波打ち際から5メートルで、産卵は有りませんでした。大岐浜はこれで三回目、平野浜も三回目となります。清洲より、あっ、忘れていました。真面目なを付けておいてくださいね。

\*\*\*\*\*  
紀宝町うみがめ公園 谷口真理さんより(5/23)

昨夕(5/22)、三重県南牟婁郡紀宝町の七里御浜井田海岸でアカウミガメが上陸しました。散歩中の地元住民が上陸中のアカウミガメを発見し、紀宝町ウミガメ保護監視員らが確認へ向かいました。穴を掘ろうとするものの、残念ながら上陸した場所は産卵できるような砂浜はなく、監視員や地元住民が見守る中、産卵せずに海へ還っていきました。これに懲りず再び上陸してくれることを祈るばかりです。今度はもっと砂がある場所へ!

\*\*\*\*\*  
紀宝町うみがめ公園 谷口真理さんより(5/25)

本日(5/25)、三重県南牟婁郡紀宝町の七里御浜井田海岸にて、アカウミガメの足跡があるとの地元住民からの連絡を受けて、紀宝町ウミガメ保護監視員らが確認へ向かいました。約2kmの海岸線がある紀宝町内で、海岸侵食やその対策の海岸工事などにより現在はアカウミガメが産卵できるだろう場所はほんの数百m程となっていました。今度はその数百mの場所に無事に上陸してくれて産卵できたようです。卵を確認しま



した。産卵巣は、地元住民の強い要望により、子供たちの情操教育のために紀宝町立井田小学校の人工孵化場へ移設される予定です。

\*\*\*\*\*  
鹿児島大学 大内裕貴さんより (5/26)

吹上浜の鹿児島大学ウミガメ研の調査域での今日現在の上陸は3回、産卵は1回です。鹿児島大研も私が引退したら、女の子が入会してきたようです。複雑な気分です。

\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報09-17 (6/8)

\*\*\*\*\*  
沖縄国頭村の嘉陽宗幸さんより (5/20)

昨夜、知り合いが国頭村奥の海岸にてウミガメの産卵巣と思しきところに、アカマタが頭を突っ込んでいたところを目撃しました。現地に出向き確認すると、そこは、昨日早朝に私が産卵を確認して目印をつけたばかりの巣でした。アカマタが卵を食した後の状態を確認するべく、産卵巣の正確な位置を探ろうと、地面に軽く棒を突き刺したところ、その先端が地中で何か弾力性のある物体に触れたような、奇妙な感覚がありました。同じところを再度突くと、何もあたりません。もう一度突くと、再び弾力性のある物体に触れました。それから間もなくして、砂の中から1匹のアカマタが顔を出し、アダンの茂みの中へと消えていきました。巣を掘り返すと、卵塊上部に、中身をアカマタに食べられたと思われる空の卵殻が14個出てきました。

\*\*\*\*\*  
神奈川県 石井雅之さんより (5/20)

ストラディン2件の報告です。20090313 鹿児島県南さつま市アオウミガメ 小湊漁港のすぐ北で西尾製作所のかたが甲長40cmほどのアオウミガメの死骸を発見しました。死骸は早稲田大学の学生が大学に持ち帰りました。20090518 神奈川県鎌倉市クロウミガメ 地元の住民から連絡をいただき調査したところ、外見の変なアオウミガメでした。背甲尾部のクビレ、うなじに残っていた黒い皮膚・セロテープのような鱗板など、どうもクロウミガメです。おそらく神奈川県で2例目の確認ですね。大きさは甲がゆるんでいたもので参考地ですが、直甲長参考値53.5cm、直甲幅42.5cmです。中は腐敗がはげしく性別など不明です。

\*\*\*\*\*  
新宮市 速水政夫さんより (5/21)

本日AM4:30に、王子ヶ浜で初産卵を確認しました。卵数は112個でした。初上陸は、5月17日に確認していましたが、その際は産卵できていませんでした。

\*\*\*\*\*  
紀宝町ウミガメ公園 谷口真理さんより (5/22)

昨日(5/21)夕方、三重県御浜町の海岸でアカウミガメの漂着死体を発見したので、報告いたします。発見日：2009年5月21日夕方、発見場所：御浜町阿田和七里御浜、種：アカウミガメ、性別：不明、サイズ：目測甲長60cm、発見状態：頭部・四肢はなく白骨化した甲羅のみ、処置：埋設予定

\*\*\*\*\*  
みなべ町千里浜 後藤清さんより (5/23)

以前、千里浜での調査に参加した江口英作君が久しぶりに浜を訪れ、アオウミガメの漂着死体を発見しま

した。サイズは以下の通りです。標準直甲長：49.5cm、最小直甲長：48.7cm、最大甲幅：40.2cm。

\*\*\*\*\*  
神奈川県 増田忠さんより (5/23)

今朝、江ノ島横の浜でウミガメの死体を見つけましたのでご連絡します。写真も添付します。事務局より：いただいた写真には、アカウミガメが写っていました。

\*\*\*\*\*  
日和佐うみがめ博物館 田中宇輝さんより

(5/24)

先日、23日に大浜海岸の恋人岬付近(うみがめ社の奥)にて、死亡漂着がありましたので報告します。20日より、すでに監視員が巡回しており、23日の朝に発見し、当館に報告がありました。よって、22日の深夜にかけて、うちあがったようです。種類はアオウミガメで、かなり小型の個体でした。死後数週間経過しているとおもわれ、頭部は頭丁骨より先が、脱落しておりました。胃内容物は、海藻がビッシリ詰まっていた。図鑑による判断ですが、アサミドリシオグサでしょうか？肺に特に水などは入っておらず、消化管に魚も見られませんでした。死因に関しては、不明です。産卵と生殖腺を見つけられませんでした。輸卵管は発見できましたのでメスでしょうか？SCL462 (mm) MCL315 SCW332 PL327 PW283尾長A60、B86

\*\*\*\*\*  
志布志湾 大和隆信さんより (5/26)

ところで上陸・産卵の方は今年は少なくなりそうな予感がしています。志布志湾での今朝までの上陸は4回。うち3回産卵ですが、昨年と比較するとかなり少なくなっています。目標？は「昨年の半分」とするのは変ですね。

\*\*\*\*\*  
千葉日報 (5/27) より

九十九里浜に面する横芝光町の木戸浜海岸で、ウミガメの産卵が今年初めて確認された。卵の保護活動に取り組む県自然保護指導員の大木清さん(63)は「5月に上陸するのは初めてで、記録上で過去最も早い産卵。ただ、気温が低下する梅雨の時期にかかるので卵が順調に育つか心配だ。地球温暖化が影響しているのかも」と話した。産卵が確認されたのは、海岸線から約30メートル内陸の砂浜。24日早朝、地元住民がウミガメの足跡を発見し、連絡を受けた大木さんが砂浜を調べたところ卵が見つかった。足跡の幅などから体長70-80センチほどのアカウミガメとみられる。約20年前から産卵のデータを記録している大木さんによると、同海岸での産卵は6月下旬から8月下旬ごろが多いが、今年の上陸は、データ上もっとも早かった昨年の6月15日よりさらに3週間早まった。ふ化は60日後の7月中旬の予定で、大木さんは地元住民と協力して海岸の監視を続け、成長を見守ることにしている。

\*\*\*\*\*  
カメハマ王国 山本明男さんより (6/1)

相良海岸でアカウミガメの初上陸がありました。昨年より2日早いです。残念ながら産卵はしませんでした。緩傾斜護岸設置・沖合の溜堤・ヘッドランドの3点セットを設置したおかげで砂浜が無くなってしまい、



満潮時汀線と護岸の間が僅か5mしかない場所です。沖合から緩傾斜護岸を見ると、豊かな砂浜が盛り上がっているように見えるからです。この緩傾斜護岸のおかげで、旧来の垂直護岸時より前方の砂浜が1.5mほど潰れています。護堤・ヘッドランドも効果が無いようで、設置してからの侵食がますます酷くなり、緩傾斜護岸の為、後背地への飛砂も増加しています。おまけに、垂直護岸を潰した時のコンクリートの残骸を砂中に埋めたものが、侵食により露出して、酷い海岸になってしまっています。今年はストラディンクも現在5個体(アカ3、アオ2)と多そうです。

\*\*\*\*\*  
計報：インドネシアでウミガメ保護活動を行っていたアキル・ユスフさんが6月6日に交通事故に遭われて亡くなりました。ご冥福をお祈りします。  
\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報09-18 (6/22)

\*\*\*\*\*  
長崎県 村田光さんより (5/26)

海岸に打ち上がっていて死んでいるみたいなんです。可哀相なのですがどうすればいいですか？ 事務局より：送っていただいた写真にはアカウミガメの死骸が映っていました。追加情報によると、長崎県雲仙市南串山町の板引という所ようです。

\*\*\*\*\*  
大阪府 佐々倉諭さんより (5/26)

和歌山県の上浦海岸で、ウミガメの死体を発見したのでご連絡します。砂浜より少し南にある磯浜で2個体発見しました。情報提供用に撮影したものではありませんので、不明な点も多いと思いますが、何かのお役に立てば幸いです。【発見場所】和歌山県上浦海岸(砂浜より少し南側の磯浜) 【発見日時】2009年5月19日 14時頃 【個体1】甲長：40cm位 【個体2】甲長：60cm位 事務局より：いただいた写真より、個体1、個体2ともにアオウミガメと判別しました。

\*\*\*\*\*  
鹿児島県薩摩川内市 中野さんより (5/27)

薩摩川内市唐浜海岸で海ガメの死亡漂着がありました。5月27日16時体長52cm、幅42cm、腐敗が激しいです。事務局より：いただいた写真にはアオウミガメが写っていました。なお、この情報は、外城康信さんからいただきました。

\*\*\*\*\*  
北限のジュゴンを見守る会鈴木雅子さんより (5/28)

09年5月17日午前11時21分、沖縄島辺野古崎沿岸(同漁港側)で、小谷成美氏が撮影した写真を見てください。ジュゴンとウミガメとが遊ぶ様子や、ウミガメ1頭は撮影されたことがあります。ウミガメ2頭(それもペア)映像は、少なくとも、辺野古崎沿岸海域ではじめてだと思われます。このようなジュゴンやウミガメ等も生息する生物多様性豊かな沿岸域への埋立計画(『普天間』代替基地計画)等を立てること自体、信じられない話ですし、断じて許されない話です。事務局より：アオウミガメが交尾している写真でした。

\*\*\*\*\*  
徳島県 加島祐二さんより (5/29)

高知県・生見海岸でストラディンクがありましたの

でご連絡いたします。調査日：2009.05.29 調査者：加島祐二 場所：防波堤番号G前 種：アオ? 甲長：42cm(メジャー) タグ：無し画像添付します。事務局より：いただいた写真を確認したところ、アオウミガメが写っていました。

\*\*\*\*\*  
カメハメハ王国 山本明男さんより (5/30)

3件のストラディンクがあったので、報告します。

1件目、漂着日時 平成21年5月27日通報 死亡漂着 2. 漂着場所 静岡県牧之原市片浜地先海岸 3. 種別 アカウミガメ ♀ 直甲長 850mm ※28日解剖予定としたが、暴風雨となり、流失 2件目、漂着日時 平成21年5月30日巡回時発見 死亡漂着 2. 漂着場所 静岡県牧之原市須々木地先海岸 3. 種別 アオウミガメ性別不明 直甲長 540mm ※解剖せず放置

3件目、漂着日時 平成21年5月29日通報 死亡漂着 2. 漂着場所 静岡県牧之原市須々木地先海岸

3. 種別 アカウミガメ ♀ 直甲長 677mm 甲幅 567mm 4. その他の所見 ・頭部有り、四肢有り 標識無し 甲板剥離無し 5. 解剖所見 (5月30日午前9時) 解剖者 久保田昭久 立会者 渡辺美穂子 永田美子 山本明男 6. 全体所見 死因不明 胃内容物 ホヤ、タコ、プラスチック、スチロール片 腸内容物 溶解 肝臓は比較的新鮮な状態で異常無し 食道・器官も異常なし 卵巣には卵無し

\*\*\*\*\*  
徳島県牟岐町 中山徹さんより (5/30)

2008年秋ごろからどうのせ海岸に2頭のウミガメが漂着しているとの情報を地元の人から話を聞き、大梅謙治氏、浅香新八郎氏とともに調査に出かけました。1個体目 場所：牟岐町出羽島どうのせ海岸 種：アオウミガメ、甲長：74cm 甲幅：57cm メジャーで計測2個体目 場所：牟岐町出羽島どうのせ海岸 種：アオウミガメ、甲長：70cm 甲幅：51cm メジャーで計測

\*\*\*\*\*  
千葉県 根上昌久さんより (5/30)

ストラディンクを発見しました。場所は波佐間海岸です。事務局より：いただいた写真には、アカウミガメが写っていました。

\*\*\*\*\*  
黒島研究所 亀田和成より (5/31)

アオの再発見がありましたのでご連絡します。黒島からの放流個体でしたので、放流データも合わせてお送りします。再発見データ 2009/5/30 沖縄県竹富町黒島 伊古 標準直甲長 507mm 最小直甲長503mm 甲幅402mm 体重17.65kg 縦網による混獲 放流データ 2007/6/29 沖縄県八重山 ウラビシ(黒島の北東) 標準直甲長468mm 最小直甲長463mm 甲幅396mm 体重11.0kg プラタグ24042、インコネル54155

\*\*\*\*\*  
愛知県 荒井親さんより (6/1)

愛知で漁師してます。今日愛知県の渥美半島伊良湖岬から4マイルくらい東の水深1.4mくらいの所で網を上げてたらオサガメが網に引っかかってました。網を外して逃がしてあげました。大きさはだいたい1.6m



くらいはあったと思います。ちょっと変わったウミガメだったので家に帰って調べたらオサガメと言うことが分かりました。

\*\*\*\*\*  
大分県 後藤さんより (6/1)

タグのついたウミガメが混獲されたので報告します。  
捕獲日: 2009年5月24日、場所: 大分県佐伯市蒲江の定置網、標識: JP32901 (白ロート)、サイズ: 直甲長36cm (上からメジャーで)、体重: 9.3kg、処置: 本日生きたまま放流予定 事務局より: 小笠原海洋センターからいただいた放流情報は次の通りです。放流日 2005年2月9日、放流場所 小笠原村父島富之浜海岸、計測日 2004年12月28日、SCL 21.3cm、SCW 18.9cm、CCL 22.2cm、CCW 21.4cm、BW 1620g  
\*\*\*\*\*  
鹿児島県 中尾和成さんより (6/1)

先日、網にタグのみかかっていたと言う事なので手に入れて来ました。先週木曜日の事ですが、タグの取扱について指導お願いします。事務局より: このタグの番号は、62760でした。放流したのは、鹿児島県の宮内叶さんでした。放流日: 2008年8月17日、放流場所: 鹿児島県南さつま市野間池しろせ定置網、標識番号: 62760、62761、SCL: 692mm MCL: 689mm CCL: 732mm SCW: 539mm CCW: 674mm  
\*\*\*\*\*

種子島町 久米満晴さんより (6/1)

死体発見情報を聞きました。日時 5月24日頃、場所 南種子町広田海岸 (東海岸でロケット基地の中種子側です)、種類 アカウミガメ、状況 産卵後の帰り道に息絶えていたようです。  
\*\*\*\*\*

新宮市 速水政夫さんより (6/1)

新宮の王子ヶ浜の5月分の上陸・産卵調査結果の報告です。5月7日初上陸、5月21日初産卵 (卵数: 112)、5月22日産卵 (卵数: 101) で、3回上陸の2回産卵でした。  
\*\*\*\*\*

沖縄国頭村の嘉陽宗幸さんより (6/2)

沖縄島北部での私の調査地域における産卵回数の累計は、5月末でちょうど50となりました。今のところ、昨年と全く同じペースです。今朝、6時頃、本島最北端の辺土岬から、沖を眺めていたところ、背中に何か小さな箱状のものが付いているウミガメを日撃しました。種は不明ですが、アカウミガメやアオウミガメであれば、亜成体～成体クラスのサイズに見えました。発信器でしょうか?  
\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

■ウミガメ速報09-19 (7/6)

\*\*\*\*\*  
徳島 池淵正明さんより (5/29)

本年も小松海岸にウミガメが上陸しました。以下報告です。2009年5月29日(金)午前5時ごろ、川内町在住の折野一昭さんから、小松海岸北薬師堤河口側の砂浜でウミガメの上陸跡を発見との連絡。行ってみると、20m北へ上り穴を掘って30m南に下って帰っていった模様。幅83cm、産卵はしてない模様。二年連続です。  
\*\*\*\*\*

みなべ町 後藤清さんより (6/3)

みなべ町青年クラブが和歌山県の環境賞を授賞しました。6/5に授賞式です。みなべ町青年クラブは千里浜の環境の調査活動を継続しておこなってきたので今回選ばれました。なお、5月末までの千里浜のウミガメの産卵数は7回です。昨年は21回だったので、今年は3分の1の産卵回数です。  
\*\*\*\*\*

和歌山県 速水政夫さんより (6/4)

ウミガメの漂着を見つけました。死んでいました。漂着日時: 2009年6月4日 漂着場所: 新宮市 大浜海岸 (熊野川河口、紀宝町との境) 種: アカウミガメ SCL: 1000mm (目測) SCW: 800mm (目測) 備考: 頭部の大きさが300mm (目測)  
\*\*\*\*\*

香川県 高砂敬さんより (6/5)

香川県の小豆島でウミガメの死体が漂着しました。アカウミガメだと思うのですが、確認方よろしく願います。事務局より: いただいた写真にはアカウミガメが写っていました。  
\*\*\*\*\*

千葉県 根上昌久さんより (6/6)

ウミガメが3頭漂着していましたので報告します。1頭目: 館山市見物の港です。前回報告したものと同一個体と思われます。臭うので処分される可能性もあります。2頭目: 館山市栄ノ浦です。こちらはさらに臭います。3頭目: 館山市波佐間海岸です。事務局より: いただいた写真より、すべてアカウミガメだとわかりました。なお、エバーラスティングネイチャーの井ノ口さんが調査に行ってくださいました。  
\*\*\*\*\*

千葉県 平井恵子さんより (6/6)

ウミガメの死体が打ち上げられているのを見つけましたので、ご連絡いたします。発見日時: 2009年6月6日 漂着しているポイント: 千葉県旭市 飯岡漁港の堤防の外側の砂浜 (屏風ヶ浦寄りではない方) に打ち上げられていました。現在、この砂浜にはコアジサシが営巣中です。来訪される場合には十分な御配慮をお願いいたします。発見した個体の特徴: 青い標識タグがついていました。(JPN62669) 写真を添付します。事務局より: いただいた写真にはアカウミガメが写っていました。放流したのは、三重県紀宝町の谷口真理さんでした。放流情報: 三重県御浜町阿田和大敷で混獲され、計測・タグ装着後に放流しました。タグNO: JB62669 JB62689 捕獲・放流日: 2009年4月27日 放流場所: 三重県紀宝町 鶴殿港 種: アカウミガメ (性別不明) サイズ: SCL695MCL681 SCW550 CCL731 CCW698なお、この情報は、千葉県の渡辺正市さん、齋藤幹人さんからいただきました。  
\*\*\*\*\*

愛媛県 岡田浩美さんより (6/7)

標識のついたウミガメを見かけました。すでに連絡済みかもしれませんが、2009. 6. 5 15:30頃 高知県大月町安満地 (詳しい場所は調べればわかります) 人なつかしく逃げません。ここ数日何度か見かけているらしい。どこからどのルートで来たのでしょうか? 是非是非教えてください! 事務局より: この標識は小笠原海洋センターのものでした。放流情報は現在確認中です。  
\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*



黒島研究所 亀田和成より (6/7)

アオウミガメのストラディンギがありましたので、ご報告します。2009年6月3日 種名:アオ 雌雄:オス 沖縄県竹富町黒島 宮里海岸漂着 標識無し 標準直甲長:710mm 最小直甲長:701mm 直甲幅:576mm

京都府 小石原潤さんより (6/9)

はじめまして、魚釣りにかけていて、びっくり発見!うみがめがプブカ浮かんでいました。すでに死んでしまってる様でしたが、かわいそうに・・・日本海にもいるんだウミガメって?場所は、京都府京丹後市網野町にある五色浜と言う所になります。事務局より:いただいた写真には、アカウミガメが写っていました。

徳島阿南 鎌田武さんより (6/10)

昨夜、蒲生田海岸にて2回の上陸がありました。内、1回は産卵していました。

紀伊民報(和歌山6/12)より

梅雨を迎え、和歌山県紀南地方の海岸でアカウミガメの産卵が本格化してきた。11日夜には白浜町日置の日置大浜でも産卵はしなかったものの初上陸が確認された。日置大浜には午後6時ごろ、ウミガメが上陸してくるのを地元住民が見つけ、白浜町日置川事務所の職員らも駆け付けた。砂を掘る行為はしたが産卵せず、8時半ごろ海に帰った。同事務所によると、はっきりした数は分からないが、毎年数回上陸して産卵しているという。日本有数の産卵地、みなべ町の千里の浜では、昨年より3日、例年より1週間早い5月14日に初産卵があり、11日までに18回上陸して16回産卵した。千里の浜で長年調査をしている後藤清さん(80)＝同町東古田＝は「昨年は近年では最も多い269回の産卵が確認されている。今年は激減すると予想され、昨年の半分ぐらい産んでくれればいいが」と話している。このほか、新宮市の王子ヶ浜では例年より早い5月19日に、串本町くじの川の橋杭海水浴場では6月5日に、それぞれ初産卵が確認されている。

松下みちこさんより (6/14)

高知県四万十市の双海海岸の出入り口でウミガメが産卵した跡があった。埋め戻してできる山もあるし、卵はあると思う。めちゃくちゃ人が通る所だけど、影響はないのか心配。高知県ではよくウミガメの卵を保護していることが新聞にでているけど、この卵は保護しなくてもいいのですか。事務局より:四万十市周辺で活動されている溝渕幸三さんに連絡をとり、確認をしてもらいました。ウミガメの足跡がなくなるくらい人の足跡ばかりだったので、安全な場所に移植したということです。また、産卵巣がもう一つ、近くにあったことも教えていただきました。

■ウミガメ速報09-20 (7/30)

沖縄国頭村 嘉陽宗幸さんより (6/16)

6月15日時点での沖縄島北部の産卵状況です。08年:110産卵、09年:84産卵。5月末までは、ほぼ同数でき

てましたが6月に入って差が大きくなりつつあります。西海岸では伊地の8減、東海岸では宇佐浜の6減、奥の6減、伊江の8減等がマイナス要因です。ユッパで6増ですが、残りの海岸については僅かな増減です。

紀伊民報(6/17 和歌山)より

昨年同期の3分の1 アカウミガメ初上陸から1カ月 アカウミガメの産卵シーズンを迎えた和歌山県みなべ町の千里の浜で、初上陸・初産卵が始まって14日で1カ月。同日現在、上陸は14回、うち産卵は11回で、昨年の3分の1にとどまっている。調査を続けているウミガメ研究班の後藤清代表は「シーズン前から予想していたこと」と話している。今シーズンの初上陸・初産卵は昨年より3日早かった。5月中の上陸は9回、うち産卵7回。6月に入ってからも少ない。昨年は、6月に入ると毎晩のように上陸・産卵しているのが確認された。後藤代表によると、上陸・産卵が多かった年の翌年は少ない傾向にあるという。昨年は、上陸464回、このうち産卵したのは269回だった。上陸400回台は、485回を数えた1994年以來最多だった。産卵も、200回台は250回を数えた93年以來最多だった。後藤代表は「上陸・産卵するペースがすごく遅い。昨年の半減程度でとどまってくればいいのだが」と話している。

長崎新聞(6/17)より

2009年6月17日より誤食、ウミガメの腸からゴムホース 対馬で発見の死骸を解剖 対馬市の海岸で9日見つかったウミガメの死骸(しがい)について、環境省対馬野生生物保護センター(同市上県町)は、ごみを誤って食べた可能性があるとして、16日までに死骸を回収して解剖。腸の中からゴムホースのような物体が見つかった。解剖した獣医師の山本英恵さんは「死因は不明だが、腸閉塞(へいそく)で死んだ可能性も否定できない。野生生物に悪影響を及ぼすのでごみを捨てないで」と訴えている。同センターによると、カメは環境省のレッドリストで絶滅危惧(きぐ)種に分類されているアカウミガメ。性別は不明。子どもとみられ、甲羅の長さは53センチ、幅46センチ、体重は13キロだった。産卵場所の調査をしていた対馬の生物研究家が上県町の井口浜で発見した。小腸に詰まっていた物体は長さ3センチ、直径2センチの管状のゴム。小腸の直径と同じくらいだった。ゴムがあった部分は緑色に変色、腸は全体的に詰まっていた。胃と食道の間にある嚢(のう)には、海藻の塊が残っていた。嚢に交じったごみを区別せずに食べてしまった恐れがあるという。環境保護団体によると、カメは漂流するビニール袋をクラグと間違えて食べて死ぬケースがある。対馬の海岸には大量の漂着ごみが散乱しており、生態系への影響が懸念されている。

徳島新聞(7/9)より

徳島県南部の今期のアカウミガメ上陸数は、6月末で57匹だった。同じ期間では、65匹だった昨期には及ばないものの、過去5年間の平均45・6匹と比べると4割上回っている。上陸のピークはこれから8月にかけてで、関係者は上陸、産卵数の伸びに期待している。アカウミガメの上陸・産卵を調査している住民グループ「県南ネットワーク」(藤井隆司代表)が、



阿南市以南の33海岸のデータをまとめた。5月12日に海陽町の大里松原海岸で初上陸が確認されて以降、阿南市と海部郡の11海岸で計57匹が上陸、うち24匹の産卵が確認された。上陸が最も多かったのは、大里松原海岸で22匹。次いで阿南市の蒲生田海岸と美波町の大浜海岸、木岐白浜でそれぞれ7匹だった。産卵は大里松原海岸で7匹、蒲生田海岸と大浜海岸、牟岐町の小島の浜がいずれも4匹だった。昨年は過去5年間最多の209匹が上陸しており、藤井代表は「昨年の上陸数が多かったため今年は掘り返しがあるかと危ぶんでいたが、順調な滑り出し。8月末までに200匹を超えるかもしれない」と話している。

\*\*\*\*\*  
西海パールシー 山口さんより (6/18)

6月15-16日に長崎県対馬市かみみうら海水浴場で、朝方海へ帰るウミガメを地元住民が目撃。砂を掘り卵を探したが卵は見つかりませんでした。

\*\*\*\*\*  
モラスコ牟岐 渡辺紗綾さんより (6/13)

6月11日 徳島県牟岐町砂美の浜に上陸した個体に標識がついていましたので連絡いたします。日時：2009年6月11日 17:15～ 標識番号：右62675 左62696 種：アカウミガメ。備考：17:15朝日新聞阿南支局よりモラスコ牟岐に連絡。砂美の浜にてアカウミガメが上陸したと聞き至急調査。17:15～18:12産卵の様子がなくウロウロする。ギャラリーが多かったためか落ち着かない。約1時間で動きが弱くなってきたため、甲羅をたたいて海へ誘導した。曲甲長：86cm 曲甲幅：80cm事務局より：三重県紀宝町より放流された個体でした。放流日：2009年5月22日 放流場所：三重県紀宝町鶴殿港 種：アカウミガメ サイズ：SCL 826mm MCL 814mm SCW 637mm CCL 866mm CCW804mm  
\*\*\*\*\*  
福井県海浜自然センター 児玉 晃治さんより (6/18)

近くの定置網でオサガメが混獲されました。110.6cmあります。残念ながら死んでいますが、解剖をしようと思います。福井県立大学のふくいうみがめサークルも手伝いに来てくれます。かなり新鮮なオサガメですが、ウミガメ協議会で必要なサンプルは何かあります。事務局より：石原が大阪の専門学校生を連れて現地へ行ってきました。標準直甲長110.6cm、曲甲長119cm、直甲幅64.5cm、曲甲幅85.5cm、体重153kgの未成熟の雌で、胃の中からはアカクラゲが出てきました。死んで間もない様子で腐敗臭もしませんでした。

\*\*\*\*\*  
高知県室戸基地 中里見猛より (6/9)

標識の再発見がありましたので、連絡いたします。再発見日：2009年6月9日 高知県室戸市 椎名大敷 種：アカ タグ JPN38855 (右前肢)計測値：SCL 851 MCL 838 CCL 894 SCW 657 CCW 807 体重 82.4kg 尾長A 167 尾長B 197 備考：タグにエボシガイがついていた。事務局より：放流したのは、宮崎県立動物研究会の竹下完さんでした。【放流情報】2006年8月10日に「こどもの国」に上陸して産卵した個体です。甲長82cm、甲幅66cm、甲厚89cm、甲高30cm、頭長16cm、頭幅15cm、前肢長37cm、後肢長23cm「前肢一部欠ける、ふじつぽあり」となっています。ちなみに前

左に46693のプラタグも付けていました。  
\*\*\*\*\*  
愛知県表浜ネットワーク 田中雄二さんより (6/11)

11日の朝、午前5時20分にアオウミガメのストラレンジングを確認しました。メスの若い個体。に外傷は無し。甲羅が腐敗で割がれています。頭部も異常なし。四肢は残っていますがタグなどはありませんね。甲長78cm、甲幅82cm 満潮時の汀段に打ち上がっていたため、波に洗われて処置出来ず。落ち着いたら処置しようかと思えます。

\*\*\*\*\*  
加藤大二郎さんより (6/13)

昨日6月12日午後3時半頃、神奈川県藤沢市の辻堂海岸でウミガメが打ち上げられていました。色鮮やかでとてもきれいな状態で、特に目立った傷もなく、生きていたかと思いましたが、まばたきなどもなく、周りの人が触っても全く動きがありませんでした。たぶん死んでいたと思います。残念ながら5分ほど離れた際に姿が見えなくなってしまいました。波がかかり始めていたので、海に流れていったのだと思います。写真は2枚しかありませんが添付します。事務局より：いただいた写真にはアカウミガメが写っていました。

\*\*\*\*\*  
高知県室戸基地 岡本慶より (6/15)

標識の再発見がありましたので、連絡いたします。再発見日：2009年6月14日 高知県室戸市 高岡大敷 種：アカ タグNo. 62691 62671サイズ：SCL921 MCL907 SCW740 CCL954 CCW877 TL235 総排泄孔まで150 事務局より：放流したのは、三重県紀宝町ウミガメ公園の谷口真理さんでした。【放流情報】三重県御浜町阿田和大敷で混獲され、計測・タグ装着後に放流しました。タグNO：JB62691 JB62671 捕獲・放流日：2009年5月13日 放流場所：三重県紀宝町鶴殿港 種：アカウミガメ サイズ：SCL923 MCL910 SCW737 CCL958 CCW885 TL225総排泄孔まで170  
\*\*\*\*\*  
モラスコ牟岐 渡辺紗綾さんより (6/15)

標識のついたウミガメが上陸しましたので、報告します。再発見日：2009年6月11日 17:15 再発見場所：徳島県牟岐町砂美の浜再発見状態：産卵のため上陸中。産卵はしないで帰海。標識番号：右：62675 左：62696 大きさ：曲甲長：86cm 曲甲幅：80cm 事務局より：放流したのは、三重県紀宝町ウミガメ公園の谷口真理さんでした。【放流情報】三重県御浜町阿田和大敷で混獲され、計測・タグ装着後に放流しました。タグNO：JB62675 JB62696 捕獲・放流日：2009年5月22日 放流場所：三重県紀宝町鶴殿港 種：アカウミガメ サイズ：SCL826 MCL814 SCW637 CCL866 CCW804 TL205 総排泄孔まで160

\*\*\*\*\*  
屋久島うみがめ館 大牟田法子さんより (6/15)

屋久島の田代浜で監視されている新村和宏さんが、6月9日、標識のついたカメが産卵しているところを確認しました。以下のとおり再捕個体の履歴をお知らせいたします。事務局より：放流したのは種子島の久米満晴さんでした。【放流情報】捕獲・放流日：



2009年5月9日 種:アカウミガメ メス 場所:種子島  
島嶼野定置網 取付タグNO.64303 甲羅サイズ甲長  
88cm 甲幅68cm

\*\*\*\*\*  
兵庫県 寛さんより (6/15)

南淡路市沼島で底曳き網をしている寛と言います。  
先ほど畑田沖2000m水深5.2m付近で海面を泳いで  
いる赤海亀を見ました。

\*\*\*\*\*  
和歌山県 速水政夫さんより (6/17)

和歌山県新宮市御手洗の所で小さいカメが打ちあが  
って腐っていました。腐敗が進んでおり、大きさも種  
類も性別も分かりません。カメは知人が埋めてくれま  
した。

\*\*\*\*\*  
静岡県カメハマ王国 山本明男さんより  
(6/17)

ストランディングの報告です。1. 漂着日時 平成  
21年6月16日 通報 死亡漂着 2. 漂着場所  
静岡県牧之原市相良先海岸 3. 種別 アカウミガ  
メ ♀ 直甲長 764mm 甲幅 591mm 4.  
その他の所見 頭部有り、四肢有り 標識無し 甲板  
剥離無し、ガス有 5. 解剖所見 (6月17日午後3  
時) 解剖者 山本明男 立会者 渡辺美穂子 6. 全  
体所見 死因不明 胃内容物 無 腸内容物 無 卵  
巣卵胞105個 食道・器官も異常なし 肝臓:溶解  
途中

\*\*\*\*\*  
愛知県 金森さんより (6/18)

さる6月12日(金曜日)田原市の先端 伊良湖 西  
の浜海岸に甲羅長50cmほどのアカウミガメ(雌雄不  
明)の死体が漂着しておりました。こちらへの報告の  
ことは存じ上げておりませんでしたので、詳細は記録  
しておりません。とりあえずその海岸に埋めました。  
私が穴を掘っている間に甲羅がめくれ上がって来たど  
ころをみると漂着して間もない感じではありましたが

\*\*\*\*\*  
羽咋市役所 庄田(しょうだ)さんより (6/24)

6月24日 石川県羽咋市千里浜でウミガメの産卵跡  
が確認されました。千里浜インターチェンジから降り  
て800m位前方の場所。レスト千里浜の前あたりです。  
現状のまま観察します。

\*\*\*\*\*  
伊勢新聞(三重 6/25)より

鳥羽市安楽島町の市営安楽島海水浴場で十三年ぶりに  
アカウミガメの産卵を確認した。海水浴場を管理する  
同市農水商工観光課観光戦略室は二十四日、卵の場  
所を移動して保護した。安楽島町の住民が十七日朝、  
砂浜にアカウミガメが上陸したような跡を発見。鳥羽  
水族館が調査したところ二十三日になって産卵を確認  
できた。産卵場所が海水浴場のほぼ真ん中であつたた  
め、市は来月一日の海開きを前に水族館の協力を得て  
卵を安全な場所へ移すこととした。二十四日は、飼  
育員の若林郁夫さんが砂浜を六十センチほど掘るとピン  
ポン玉くらいの大きさの卵が次々と現れた。一つづつ  
丁寧に取り出したアカウミガメの卵は全部で九十七  
個。すべて保護し、海岸の別の場所に移した。若林さん  
によると赤ちゃんが生まれるまでには約六十日くら  
いかかるという。市では「この海岸でウミガメの赤

ちゃんが無事に誕生するように見守ってほしい」と呼び  
掛けている。

\*\*\*\*\*  
紀宝町ウミガメ公園 谷口真理さんより (6/26)

紀宝町ウミガメ公園に着任してから2度目のアカウ  
ミガメ産卵シーズンがやってきました。今年は熊野市、  
御浜町、紀宝町と3市町をまたぐ七里御浜においてこ  
れまできちんと産卵調査がされたことがない御浜町内  
(海岸線約8km)で本格的に産卵上陸状況調査に取り組  
んでいます。5月15日より夕方や早朝に浜を練り歩く  
痕跡調査を開始して、5月26日に初上陸、6月7日には  
初産卵を確認しています。砂浜での産卵確認作業にな  
かなか慣れず、いろいろと苦戦していますが、6月26  
日現在で上陸22回、産卵7回。この結果が多いのか少  
ないのか私にはまだわかりませんが、海岸侵食やそれ  
に伴う海岸工事などの影響でアカウミガメの産卵上陸  
回数が減っていると思われる七里御浜において、  
まだまだアカウミガメの産卵地としての可能性を感じ  
ています。ちなみに紀宝町内では6月26日現在で上陸5  
回、産卵3回と順調のようです。

\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報09-21 (8/21)

\*\*\*\*\*  
房日新聞(千葉 6/26)より

鴨川市の東条海岸で、今シーズン初めてとなるアカ  
ウミガメの産卵があった。ウミガメの保護活動に取り  
組む、鴨川シーワールドの職員が確認。ふ化には不適  
切な場所のため、127個の卵が同園内の保護施設に移  
された。美しい砂浜が数キロ続く、鴨川市の前原から  
東条にかけての海岸は、毎年6月から8月にかけて、ア  
カウミガメが産卵することで知られている。今季初の  
産卵は、さる15日、市民から同園に「ウミガメが上陸  
した跡がある」という情報が寄せられ、職員が現地調  
査で確かめた。アカウミガメは通常、「産卵巣」と呼  
ばれる50cmほどの穴を掘り産卵するが、この産卵巣は  
「極めて浅く、卵が直射日光の影響を受けやすい」(同  
園)ことなどから、同園内の「海亀の浜」に埋め直  
した。卵は「順調に発生が進めば8月中旬にもふ化し、  
子ガメが誕生する」という話で、同園関係者も心待ち  
にしている。アカウミガメは、世界中の熱帯から温帯  
域に分布。日本は主要な産卵場となっている。千葉県  
は北限域にあたり、南房総では毎年6月から8月にか  
けて産卵が確認される。1回に80個から140個の卵を生み、  
約2か月でふ化する。

\*\*\*\*\*  
中日新聞(石川 6/26)より

羽咋市の千里浜海岸で25日、ウミガメとみられる  
動物の目撃情報があり、波打ち際から約25メートル  
離れた砂浜に産卵したような跡が見つかった。市環境  
安全課は自然の状態を保つため掘り起こして卵を確認  
することはせず、周囲を囲ってふ化に期待している。  
ウミガメの産卵は県内では珍しいという。同市千里浜  
町の公務員男性(58)が同日午前五時ごろ、千里浜  
海岸を散歩中、親ガメ一匹を発見。車にはわられない  
よう近くでカメを守り海に戻るまで見守った。産卵シ  
ーンや卵は見えていないという。しか動物園(熊野  
市)によると、カメが移動した跡の幅が約一メートル  
あり、溝を掘ったような形をしていることからウミガ



メとみられる。現在は産卵期で、本県が産卵の北限とされている。県内ではこれまで、親ウミガメの上陸情報、内灘町や志賀町でアカウミガメのふ化情報がいくつかある。今回、産卵場所とみられる地中に卵があれば、約二カ月後の八月下旬から九月上旬にはふ化するという。同園の飼育担当者は「親ガメの上陸情報に加え、ふ化まで進めば貴重な資料になる。そのままの状態で見守ってほしい」としている。

\*\*\*\*\*  
大分県国東市役所秘書広報課より (6/29)

市民からウミガメの写真の提供がありました。場所：大分県国東市国東町小原(黒津崎海岸) 日時：6月13日(土)、午前5時30分から6時ころ 写真：市民が散歩中に目撃し、自宅にカメラを取りに帰って撮影。事務局より：産卵しているアカウミガメの写真でした。

\*\*\*\*\*  
南日本新聞(鹿児島 7/1)より

鹿児島湾奥にあたる垂水市牛根麓の海岸で30日、ウミガメの上陸と産卵が確認された。県自然保護課などによると、記録が残る1988年の県ウミガメ保護条例制定以降、湾奥では初めて。29日に鹿児島市磯海水浴場に上陸したウミガメと同一の可能性もあり、話題を呼んでいる。垂水市によると、30日午前、牛根麓大中野地区の住民が上陸した形跡を発見。連絡を受けた職員が掘り起こしたところ、深さ約50センチの砂の中に105個の卵があった。満潮でも浸水の危険性が低いことなどから、その場に埋め戻した。アカウミガメとみられる。特定非営利活動法人(NPO法人)屋久島うみがめ館代表の大牟田一美さん(59)は「距離や潮流の向きなどを考えると、磯海水浴場のウミガメと同じ可能性が十分ある。(磯より)静かで暗い場所に回避したのではないかと推測した。大中野復興会長の岩下洋蔵さん(70)は「この50年間、ウミガメの上陸は聞いたことがない。もっと海岸をきれいにして産卵が増えてほしい」。近くの松ヶ崎小学校から駆けつけた6年の大崎沙理奈さん(12)は「(30日は)自分の誕生日と一緒にうれしい。元気に子ガメが出てくるのが楽しみ」と話した。

\*\*\*\*\*  
みなべ町の後藤清さんより (7/1)

6月までのみなべ千里浜の産卵回数は、60回となりました。昨年は100回でしたから、ちょうど6割です。

\*\*\*\*\*  
徳島県の藤井隆司さんより (7/3)

徳島県内の上陸産卵状況を各地の皆さんにうかがえてまとめた集計結果です。08年：上陸66回、産卵35回、09年：上陸58回、産卵24回です。対昨年比で上陸は88%、産卵69%です。

\*\*\*\*\*  
南知多ビーチランド 近藤鉄也さんより (7/5)

7月4日の夜に南知多町内海の海岸でアカウミガメの産卵がありました。上陸の第一発見者は近くの料理旅館「しぼりや」さんの愛犬「タロウ」です。不審な物音に気づいて近づいたところ、前肢ではたかれたようです。翌5日に連絡をいただき、産卵巣を確認しました。

\*\*\*\*\*  
大分合同新聞 (7/12)より

佐伯市の番匠川河口で、ウミガメが産卵しているのが確認された。4日早朝、市内の無職男性(68)が散歩中、親ガメが上陸した跡が長さ10メートルほど付いているのを見つけた。10日になって、同市職員が、産卵場所を振り返したところ、ピンポン球大の卵が出てきた。数は50個ほどまで確認できたが、正確には数えず埋め戻した。同川河口での産卵の確認は極めて珍しいとみられる。同市では例年、蒲江地区などでウミガメの産卵が確認され、卵が見つかった場合、県マリナルチャーセンターで、ふ化させているが、ことは同地区での産卵の情報はまだないという。「(番匠川河口での産卵は)親ガメが行き場を失ったのだろうか」と話している。

\*\*\*\*\*  
高知県春野 熊沢佳範さんより (7/30)

今年の春野海岸ではこれまで29回の産卵がありました。10巣を2つの小学校の孵化場、2巣は自然の状況、残りの17巣を海岸の孵化場で発生させています。海岸の孵化場はテトラポットの後背にあり、そのまま海に脱出するのが難しいため、色々と工夫して子ガメの誘導路を作ってやりました。誘導路はテトラの間隙をぬって海岸に出れるようになっていたのですが、これまで3巣孵化し、すべての子ガメがこの誘導路を通過して海に還っています。

\*\*\*\*\*  
福津市 葉良江さんより (7/30)

昨夜から今朝にかけて宗像市の深浜海水浴場でアカウミガメが産卵しました。卵は92個でした。

\*\*\*\*\*  
神戸市役所 大鹿達弥さんより (7/31)

7月29日、神戸港でアカウミガメを保護しましたが、甲斐無く死んでしまいました。29日10時頃、神戸曳船という会社から、神戸大橋東側でウミガメが浮いている」との連絡がタグポート協会経由で入る。11時、現地到着。確かに生きていますが、ほとんど動かない。時折、30秒ほどの潜行を繰り返す。13時半、見かねた発見者の神戸曳船の社員が手漕ぎボートを出して、捕獲してくれる。甲長約60cmのアカウミガメ。甲羅の形状や色彩から飼育されていた個体の可能性が高いと考えられた。神戸空港のラグーンに収容することも考えたが、衰弱が激しいため須磨水族園に収容し、治療するもの、翌日死亡。

\*\*\*\*\*  
和歌山県新宮市 連水政夫さんより (7/31)

王子が浜の7月の上陸・産卵数を報告します。今月は雨が多く、上陸の足跡が消えてしまい上陸回数は分かりませんが産卵回数は10回でした。7月前半は波打ち際によく産卵していました。

\*\*\*\*\*  
鹿児島県鹿野 宮内叶さんより (7/31)

これまで見たこともないウミガメが捕獲されました。事務局より：鹿大ウミガメ研究会に連絡して、楠翼君達に現場に急行してもらいました。送ってもらった写真には、成熟したタイマイの雌が写ってました。日本で通常見るタイマイは未成熟の個体が多く、また、成熟すると甲羅はつるつるになり背甲の色も赤茶けたいになるので、確かに別種に見えてもしかたありません。ベテラン漁師の宮内さんが初めて見るくらいですから、九州本土では極めて珍しいと思われま



君の計測によるとSCL:81.2cm、MCL:78.8、SCW:63.1、体重:67.5kg(体重のみ宮内さんの計測)でした。このタイマイは8/1に放流されました。

\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報09-22(8/27)

\*\*\*\*\*

徳島県 池淵正明さんより(7/6)

ウミガメの漂着がありましたので報告します。1個体目 発見日:2009年6月21日 発見場所:徳島県海部郡海陽町那佐半島 種:アオウミガメ 2個体目 発見日:2009年7月6日 発見場所:徳島県海部郡海陽町那佐半島 事務局より:いただいた写真より、アオウミガメとわかりました。

\*\*\*\*\*  
エバーラスティングネイチャー 井ノ口栄美さんより(7/13)

標識のついたウミガメが混獲されましたので、報告します。混獲日:2009年6月20日 場所:神奈川県平塚市 種:アカウミガメ 性:不明 標識:53468 事務局より:この個体を放流したのは東京大学海洋研究所の楠崎友子さんでした。【放流情報】捕獲日:2008年8月13日 捕獲場所:岩手県下閉伊郡山田町船越漁協の根崎定置網 捕獲時の標識の有無:無 種:アカウミガメ 性別:不明(しかし尾が長めなのでオスの可能性がある) 計測日:2008年8月19日

SCL:76.0 cm SCW:62.2 cm BW:67.5 kg TL:24.5 cm 装着した標識:ジャンボブルー 左前肢:53468

右前肢:53469放流は2008年9月頃、岩手県大槌湾にて行いました。なお、当方の記録に不手際があったため、詳細な放流日がわかりません。

\*\*\*\*\*  
福岡県 石津光さんより(7/15)

6月6日、7月5日、7月7日に福岡市海岸にウミガメの3個体のストランディングがありましたので、報告します。A 1. 発見日時:平成21年6月6日16時頃 2. 発見場所:福岡県福岡市勝浦海岸 3. 発見者:永島利夫 4. 確認日時:平成21年6月6日18時頃 5. 現認者:福岡市うみがめ課石津課長 6. ウミガメの概要 種別:タイマイ 性別:不明 標準直甲長:37.6cm 直甲幅:30.8cm 外観:特に損傷なし・タグなし

B 1. 発見日時:平成21年7月5日7時頃 2. 発見場所:福岡県福岡市恋の浦海岸 3. 発見者:奈良江 4. 確認日時:平成21年7月5日9時30分頃 5. 現認者:福岡市うみがめ課花田保長 6. ウミガメの概要 種別:アオウミガメ 性別:不明 標準直甲長:46cm 直甲幅:38.5cm 外観:特に損傷なし(一部白骨化)・タグなし C 1. 発見日時:平成21年7月7日15時頃 2. 発見場所:福岡県福岡市勝浦海岸 3. 発見者:匿名 4. 確認日時:平成21年7月7日15時30分頃 5. 現認者:福岡市うみがめ課高山主任 6. ウミガメの概要 種別:アカウミガメ 性別:メス(体内に卵あり) 標準直甲長:80.2cm 直甲幅:60.3cm 外観:特に損傷なし・タグなし

\*\*\*\*\*  
徳島県モラスコ幸岐 神谷良成さんより(7/16)

ウミガメの漂着がありましたので、報告します。日時:2009年7月15日 種:アオウミガメ 場所:徳島

県海部郡幸岐町砂美の浜 曲甲長49cm 曲甲幅46cm 生死:死 標識なし 肋甲板・手足の鱗板が剥がれはじめている 腐敗臭あり 両眼球なし 目立つ外傷無し 体全体がガスのためパンパンに腫れている 下顎の付け根あたりに特に目立つ腫れあり

\*\*\*\*\*  
千葉県 鈴木さんより(7/18)

ウミガメの漂着がありましたので、報告します。日時:2009年7月18日

11:30 場所:館山市見物 旅館松庵の西側 松庵の前の海から見える位のところにありました。

\*\*\*\*\*  
千葉県 横上昌久さんより(7/18)

ウミガメの漂着がありましたので、報告します。日時:2009年7月18日 場所:千葉県館山市見物海岸

事務局より:いただいた写真より、アカウミガメとわかりました。また、千葉県の田名網愛子さんからも、同じ個体の情報をいただきました。

\*\*\*\*\*  
神奈川県 羽太喜久雄さんより(7/19)

かなり傷んでいますが、死体がありました。日時:2009年7月19日 場所:神奈川県鎌倉市稲村ヶ崎公園前 事務局より:いただいた写真よりアカウミガメとわかりました。

\*\*\*\*\*  
神奈川県 戸川貴子さんより(7/20)

神奈川県茅ヶ崎市のサザンビーチに本日海ガメの死骸がうち上がっていました。茅ヶ崎に住んで8年目。初めて会えた海ガメが死骸だなんて…。ショックです。

場所は、国道134号線、茅ヶ崎球場交差点より海岸に入った辺りです。事務局より:エバーラスティングネイチャーの井ノ口さんによるとアカウミガメだそうです。

\*\*\*\*\*  
東京大学海洋研究所 楠崎友子さんより(7/21)

2007年に放流したアカウミガメが、再び捕獲されたのでご連絡いたします。【種】アカウミガメ

【性別】不明 【標識】53415/53416(左前肢/右前肢) 【捕獲日】2009年7月18日 【捕獲場所】岩手県下閉伊郡山田町船越漁協の小谷島定置

【SCL】65.0 cm 【SCW】55.1 cm 【BW】47.5 kg 【捕獲時の状況】生存。【放流情報】:【捕獲日】2007年8月7日 【捕獲場所】岩手県上閉伊郡大槌町の沖野島定置

【捕獲時の状況】生存。【SCL】62.6 cm 【SCW】53.9 cm 【BW】39.0 kg

\*\*\*\*\*  
福島県 渡辺さんより(7/21)

ウミガメの漂着がありましたので、報告します。場所:福島県いわき市なつい海岸 種類・大きさ:不明

状況:ウミガメの死骸は1週間程立っている様子。タグは付いていなかった。死骸は埋めておきました。

\*\*\*\*\*  
徳島県 浜さんより(7/21)

7月19日(日)、高知県東洋町野根漁港の西側の海岸に、写真のウミガメの漂着体が打ち上がっていました。事務局より:いただいた写真を見ましたところ、アオウミガメと考えられます。

\*\*\*\*\*  
熊本県 中原静也さんより(7/23)



標識のついたウミガメが混獲されましたので、報告します。発見日：2009年7月19日(日) 場所：熊本県天草市(旧：牛深市)魚貫(おにき)の定置網 状況：生きていたため放流 標識番号：64540 大きさ：約50cm

体重10kgくらい 事務局より：この個体を放流したのは鹿児島県の宮内叶さんでした。【放流情報】放流日：2009年7月13日 場所：鹿児島県南さつま市野間池しろせ定置網 サイズ：SCL 534 MCL 527 SCW 419

\*\*\*\*\*  
三重大学かめつぶり 小山祐介さんより(7/23)

昨日、大学、三重県水産資源室経由で三重県鈴鹿市の土木事務所の方からウミガメの連絡があり、調査に行ってきたので報告させていただきます。日：

2009年7月23日 場所：三重県鈴鹿市長太旭町(なごあさひまち)の長太海岸 種：アカウミガメ 性別：メス

タグ(金属、左前肢)：JPN31687 標準直甲長：957mm 最小直甲長：886mm 直甲幅：684mm 状況：

地元住民が7/23の朝6時に発見、当日午前11時に調査開始。腐敗はなく、尾部のフジツボがまだ生きていたため死後あまり時間が経っていないと思われる(この3日間は曇りか雨)。事務局より：この個体を放流したのは、屋久島うみがめ館でした。【放流情報】種：アカウミガメ TAG種：モネル 31687TAG装着日：

2004/05/14 装着地：永田いなか浜 上陸状況：4回上陸産卵 その他：右甲羅・右後肢一部欠損

\*\*\*\*\*  
静岡県カメハメハ王国 山本明男さんより(7/23)

2個体のウミガメの漂着がありましたので、報告します。1個体目 1. 漂着日時：平成21年7月22日

死亡漂着 2. 漂着場所：静岡県牧之原市須々木池先海岸 3. 種別：アカウミガメ ♀ サイズ：直甲長814mm 甲幅674mm 腹甲長649mm 4. その他の所見：頭部有り、四肢有り標識無し甲板剥離途中、ガス有

5. 解剖所見(7月23日午前10時30分) 解剖者 山本明男立会者 渡辺美穂子 6. 全体所見：死因不明 胃内容物無 腸内容物無 卵巣卵胞多数 食道・気道：異常なし

2個体目 1. 漂着日時：平成21年7月22日 死亡漂着 2. 漂着場所：静岡県牧之原市須々木池先海岸 3. 種別：アカウミガメ ♀ サイズ：直甲長809mm 甲幅624mm 腹甲長609mm 4. その他の所見：頭部有り、四肢有り標識無し甲板剥離途中、ガス有

5. 解剖所見(7月23日午前10時30分) 解剖者 山本明男 立会者 渡辺美穂子 6. 全体所見：死因不明 胃内容物無 腸内容物無 卵巣卵巣は肥大化しているものの卵胞は発見できず。産卵直後死亡の可能性。食道・気道：異常なし

\*\*\*\*\*

■ウミガメ速報09-23(9/11)

\*\*\*\*\*  
徳島県自然環境課 中山裕美さんより(7/24)

7月22日に県職員が小松海岸に行き、ウミガメの死骸の確認を行いました。ウミガメの腐敗が進んでいたようで甲羅の長さを測れるような状況では無かったようです。個体については、その後、小松海岸に埋設したとのことです。事務局より：いただいた写真より、アカウミガメとわかりました。

\*\*\*\*\*

鹿児島県 宮内一朗さんより(7/24)

ウミガメが混獲されたので、標識を装着後に放流しました。日付：2009年7月23日 種：アカウミガメ

性別：メス 標識：左 57854(装着した) サイズ：甲長90cm

\*\*\*\*\*  
室戸基地 中里見猛さんより(7/24)

標識のついたウミガメが混獲されましたので、報告します。混獲日：2009/07/22 混獲場所：高知県室戸市室戸岬町三津地先、種：アカウミガメ 状況：沖の定置にかかり死亡。標識：プラタグ55518 インコネ

ル 59675 事務局より：和歌山県のみなべ基地にてつけた標識でした。【放流情報】日付：2009年6月29日 場所：和歌山県みなべ町千里浜ポイント3で産卵

種：アカウミガメ 標識番号：プラ 55518 インコネル 59675産卵時に標識を装着 サイズ：SCL 854 MCL 846 SCW 688

\*\*\*\*\*  
茨城県国交省 渡辺国広さんより(7/24)

ウミガメの漂着と標識の再発見がありましたので、報告します。1. 漂着 国土交通省仙台河川国道事務所、高橋一(建設専門官)より連絡。【発見日時】2009年7月21日 【発見者】高橋一氏 【場所】宮城県亘理郡山元町5号ヘッドランド北の消波ブロック背後 【種】アカウミガメ 【サイズ】直甲長SCL 71cm、直甲幅 SCW 53cm(メジャーで計測) 【標識】なし

【処置】7/23に解剖して砂浜に埋葬 【所見】四肢の先端部がいずれも損傷し、骨が露出。眼球なく、頭部は一部に頭骨の露出あり。既に腹腔内にガスが発生し、膨張しつつある状態。肝臓は原形を留めているものの、非常にもろく、触ると崩れる程度まで腐敗が進んでいた。食道内には砂のみ、胃内に消化のかなり進んだペースト状のものあり。大腸部にカルエポシの殻多数、ホンダワラ類少量。鳥の羽、2cm角程の発泡スチロール片、電球のフィラメント部分。底生生物は出てこず、恐らく海表面に漂っていたもの手当たり次第に食べていたものと思われる。胃内要物はホルマリン固定して国総研に保管。腐敗のため、やや判断しにくかったが生殖腺観察により雌と判定。

2. 標識再発見 【発見日時】2009年7月13日 【発見者】宮城県漁業協同組合山元支所 岩佐敏氏 【場所】宮城県亘理郡山元町 9号ヘッドランド沖 水深5mの地点 【漁具】刺し網 【種】アカウミガメ 【標識】右後肢に白いロートタグ(JPN26584) 【処置】生きていたので、酒を飲ませて放流。岩佐氏によれば体重は20kgであったとのこと。事務局より：この個体は、和歌山県串本海中公園センターが放流したものでした。【放流情報】放流年月日：2004年7月25日 放流地：和歌山県串本町大島野野崎近く・船上放流(串本海上保安署巡視船より)放流時サイズ：直最小甲長21.7cm 直甲長18.3cm 体重1.7kg(2003年9月4日生まれ、当館繁殖個体・アオ)

\*\*\*\*\*  
長崎県 山本英恵さんより(7/28)

オサガメの漂着がありましたので、報告します。回収日：2009年7月24日午後 回収地点：長崎県対馬市厳原町尾浦(いずはらまちおうら)尾浦海水浴場 甲長はSCL107cm、CCW82.5cm、体重は大きすぎて計測不能でした。外傷は、頭蓋骨の骨折と、右脇腹裂傷(消



化管脱出)生前か、死後の損傷かは不明です。消化管内には、直径10cm弱のクラゲと考えられる透明の物体1個と、白い小さな(直径1cm?)塊1個が入っていました。死亡する直前にはあまり餌を獲れていなかったのではないかと推測いたします。死因の解明に繋がるものは解剖では得られませんでした。

\*\*\*\*\*  
長崎県 山本英恵さんより(7/30)

対馬でまたカメが漂着しました。アカウミガメなのか、アオウミガメなのか、判断に苦しんでいるのですがこの写真の個体はどちらでしょうか?明日解剖の予定にしております。漂着日:2009年7月29日 場所:長崎県対馬市上県町女連漁港(かみあがたまち、うなつら)回収時刻:15:00 計測・解剖日:2009年7月30日 体重:8kg SCL41.5cm SCW37cm PL35cm 事務局より:いただいた写真よりアオウミガメとわかりました。

\*\*\*\*\*  
匿名の方より(7/30)

7月30日近くの海岸でウミガメの死体を見つけたので連絡します。場所:山口県宇部市西岐波白土海岸です。たまたまデジカメがありましたので撮影したものを送ります。カラスに突かれてかなりダメージがありました。事務局より:いただいた写真より、アカウミガメとわかりました。

\*\*\*\*\*  
高知・四万十市 溝淵幸三さんより(7/31)

大岐海岸では6月25日産卵のものが31日、1匹脱出しました。砂の中に弱々しい子ガメが数匹いたので、すぐに埋め戻しました。下の方も孵化しているのでしょうか。波をかぶっていたので心配していましたが、少しほっとしました。5月16日の産卵巣は3日ほど波をかぶる言うより、浸かっていました。孵化できるか心配です。双海は14回産卵、平野は11回です。大岐も25回くらいです。

\*\*\*\*\*  
紀伊民報(和歌山 8/4)より

和歌山県白浜町日置の志原海岸に3日早朝、アカウミガメが上陸した。産卵はしなかったが、地元関係者は「また産卵に来てほしい」と話している。午前4時半ごろ、近くにある「リヴァージュ・スバヒきがわ」の職員が、付近の見回り中に発見した。アカウミガメは浜を蛇行したり砂を掘ったりして5時20分ごろ海へ戻った。中本海中公園センター(中本町)によると、今季に志原海岸と日置大浜で足跡が確認されたのは計24匹(7月21日現在)。日置大浜では6月11日に初上陸が確認されている。

\*\*\*\*\*  
徳島新聞(8/3)より

阿南市椿町蒲生田の蒲生田海岸で1、2の両日、「ウミガメ交流キャンプ」が開かれ、児童35人がウミガメの生態を学んだ。ウミガメ保護に取り組んでいた蒲生田小学校=1992年に休校=の校長だった鎌田武さん(80)から、産卵に適した場所や観察の注意点を聞き、海岸に出発。砂浜を丁寧に掘り、30日夜に産卵していたウミガメの卵を観察した。ウミガメの卵を初めて触ったという富岡小4年の岡久志都さん(10)は「ふわふわして柔らかい。産卵するところも見てみたい」と話した。児童は蒲生田小運動場にテ

ントを張って泊まり、ウミガメを待ったが、キャンプ中の上陸はなかった。

\*\*\*\*\*  
事務局 佐藤嘉成より(8/3)

昨日(8月2日)神戸海上保安部から神戸港沖でウミガメの死体が漂流しているとの情報をいただき、調査に行ってきました。発見日時:2009年8月2日午前10時頃、発見場所 兵庫県神戸港沖 N 34.35188、E 135.06043、発見者:神戸清港会 杉木氏、種:アカウミガメオス、サイズ: SCL:767mm MCL:750mm SCW:618mm、備考:全体的に腐敗が進行、四肢の鱗板の白化、両後肢が腐り、骨が外れ皮でつながった状態。開腹すると、胃や腸が腐っており、ドロドロの状態

で腐敗臭が強かった。

\*\*\*\*\*  
徳島新聞(8/6)より

日和佐うみがめ博物館「カレット」(美波町日和佐浦)は5日未明、今シーズン初めて博物館の人工ふ化場でふ化したアカウミガメの赤ちゃんを近くの大浜海岸に放流した。放流したのは、大浜海岸に6月7日未明、産み落とされた卵からふ化した子ガメ。職員が4日夜、卵117個のうち89匹がふ化したのを確認。今後もカレットで飼育を続ける13匹を除く76匹を5日午前0時半、砂浜に放した。子ガメはふ化後、1日たてば泳ぐ力が著しく落ちることが最近の研究で分かっている。このためカレットは、職員が深夜にふ化状況を見回り、遊泳能力が高いふ化直後に放流している。カレットの豊崎浩司館長は「1匹でも多く生き残り、また大浜に帰ってきてくれれば」と話した。

\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報09-24(9/16)

\*\*\*\*\*  
長崎県 よこやまさんより(8/3)

標識のついたウミガメが混獲されましたので、報告します。発見日:2009年8月3日午前中 場所:長崎県杵岐市母ヶ浦湾の前にあるくろせ島の刺し網 標識番号:JPN64533 大きさ:約1m状態:生きていたので、標識をはずして放流 事務局より:この個体を放流したのは鹿児島県の宮内叶さんでした。【放流情報】放流日:2009年7月10日 場所:鹿児島県南さつま市野間池しろせ定置網 サイズ:SCL 683 MCL 682 SCW 580

\*\*\*\*\*  
大阪府 作場さんより(8/3)

ウミガメの漂着がありましたので、報告します。発見日時 2009年8月3日 発見場所 三重県志摩市国府の浜 種類 アカウミガメ 大きさ 50センチ~60センチぐらい 状況 すでに死んでいて、標識は確認できなかった。ウミガメの死がいは浜に放置したままです。事務局より:8/4に三重大学かめつぷりの山内さんと井田さんに調査に行ってくださいましたが、すでに流されており、発見できなかったそうです。

\*\*\*\*\*  
神奈川県 石井雅之さんより(8/3)

神奈川県では5月末から空前のウミガメ死骸の漂着ラッシュがはじまり、8月3日までに小田原市・真鶴町・大磯町・平塚市・茅ヶ崎市・藤沢市・鎌倉市・逗子市・葉山町・横須賀市・三浦市で62頭のウミガメを



解剖し、埋設など処理に追われていました。大半は未成熟のアカウミガメですが、成熟直前または非繁殖期らしき個体も1割ほどいます。産卵上陸も去年に引き続き神奈川県としては好調な様子で、死骸を埋める穴を掘っていると産卵巣にあたる事態も起きてしまいました。

\*\*\*\*\*  
日本ウミガメ協議会 佐藤嘉威より(8/5)

昨日(8月4日)神戸海上保安部から神戸港沖でウミガメの死体が漂流しているとの情報をいただき、調査に行ってきました。漂流日時:2009年8月4日 午前10時頃 漂流場所:兵庫県神戸港沖 N 34.35188、E 135.06043 解剖場所:神戸清港会 種:アカウミガメ オス サイズ:SCL:767mm MCL:750mm SCW:618mm、備考:カメの状態としては、全体的に腐敗が進行、四肢の鱗板の白化、両後肢が腐り、骨が外れ皮でつながった状態、開腹すると、胃や腸が腐っており、ドロドロの状態で腐敗臭が強かった。

\*\*\*\*\*  
茨城県 渡辺国広さんより(8/6)

仙台河川国道事務所よりウミガメ漂着の報告が2件ありましたのでお知らせいたします。1件目【発見者】国土交通省仙台河川国道事務所 【発見日】8月4日(火)【場所】仙台湾南部海岸山元地区 N37.999、E140.915(事務所の図面より渡辺が地図上で大まかに算出)【種】アカウミガメ【サイズ】直甲長約60cm(事務所撮影写真より渡辺が判読)【性別】不明【状態】(写真より渡辺が判読)腐敗が進んでいるため、外傷および付着生物の有無は不明。前肢および後肢は先端部が欠損して白骨化。四肢の付け根部分は皮膚がまだ残っていた。頭部は白骨化が進み、頸部の皮膚はミイラ化。背甲は後部の縁甲板が剥離し、縁骨板が露出。【処置】今後、宮城県が埋葬処理する予定

2件目【発見者】国土交通省仙台河川国道事務所【発見日】8月4日(火)【場所】仙台湾南部海岸山元地区 N37.948、E140.919(事務所の図面より渡辺が地図上で大まかに算出)【種】アカウミガメ【サイズ】SCL75cm、SCW60cm(ノギスでなく、メジャーにより渡辺が計測)【性別】オス(尾部の伸長状態により渡辺が判断)【標識】なし【状態】外傷は見られず、四肢も先端部まで残っていた。ガスにより頸部、四肢付け根、胴体部が膨満。背甲は右第二助甲板および左右の縁甲板が剥離が始まっているものの、まだ残存しており、背甲後部には付着藻が乾燥した状態で残っていた。解剖したところ、脂肪の量は通常程度。肝臓および腸管は触ると容易に崩れるほど脆弱化。食道、胃内は空。腸内には巻貝類の蓋および二枚貝の貝殻片が多数(正確な同定はしていない)、スゴカイイソメ1個体。ヤドカリの腕破片。ホッキガイの破片も見られ、恐らく仙台湾南部海岸周辺で底生生物を食べていたものと思われる。大腸付近にソラマメ大の腫瘍あり。【処置】8月5日に渡辺が解剖。腸内容物をホルマリン固定して国総研に保管。カメは現地にて埋葬。

\*\*\*\*\*  
カメハメハ王国 山本明男さんより(8/7)

ウミガメの漂着がありましたので、報告します。1.漂着日時:平成21年8月6日 死亡漂着 2.漂着場所:静岡県牧之原市太田浜池先海岸 3.種別:ア

カウミガメ ♀ サイズ:直甲長763mm 甲幅589mm 腹甲長583mm 4.その他の所見:頭部有り、四肢有り、標識無し、甲板剥離途中、ガス有 5.解剖所見(8月7日午前10時00分)解剖者 山本明男 立会者 永田美子・市役所職員2名 6.全体所見:死因不明 胃内容物 ホヤ、タチウオ、その他魚満杯 腸内容物無 卵巣産卵前卵胞多数 食道・気道:異常なし 産卵期間中のメスは摂餌行動をとらない。過去の経験から定置網に入った場合は消化管内に多数の魚が認められたことから、定置網による混獲死亡の可能性が高い。

\*\*\*\*\*  
愛知県 鬼崎漁業協同組合さんより(8/7)

本日、標識のついたウミガメを捕獲したので、報告します。【日時】平成21年8月7日 午前8時30ごろ 【場所】愛知県常滑市榎戸港内【サイズ】甲羅長40センチ 巾33センチ 右前ビレ長25センチ 重量9.4キログラム 右前ビレに黄色タグ JPN33874 右後ビレにもあり 左前ビレに金属タグ JPN35985 事務局より:放流したのは南知多ビーチランドでした。【放流情報】種:アカウミガメ 標識:33874 右前肢33875 右後肢 35985 左前肢 35986 左後肢 PIT・96800004763966 左前肢上面皮下 SCL389 SCW320 放流日:2009/8/1 放流場所:愛知県知多郡美浜町奥田海岸

\*\*\*\*\*  
貝塚市立自然遊学館 山田浩二さんより(8/8)

本日、貝塚市の海浜緑地公園にてアカウミガメが個体の死亡漂着の連絡が、二色の浜公園事務所から入りました。採集に向かい、館まで運び終えたところでした。昨晩に発見されていたそうです。大きさは甲長約85センチで、甲羅の後半部表面に多くのムラサキガイを付着しています。ガスで膨らんではいませんが、そんなに臭気は発しておらず外傷も見られません。事務局より:当会より佐藤と岡本が現地にて、計測などを行ってきました。SCL:861 MCL:850 SCW:642

\*\*\*\*\*  
屋久島うみがめ館より(8/9)

標識のついた個体が上陸しましたので、報告します。カメ種:アカウミガメ TAG種:ジャンボ64314(青) 確認地:2009.7.6 熊毛郡屋久島町栗生浜月野美勇希氏 甲長A:77.2cm(いなか浜にて計測) 甲幅:68.3cm(いなか浜にて計測) 上陸状況等:2009.5.7 70088(左前)、P型70089(左後)、インナー 96800005400901 いなか浜装着(産卵97個) 2009.5.28屋久島町栗生浜産卵(83個) 2009.7.6屋久島町栗生浜産卵(79個) 事務局より:この個体は種子島の久米満晴さんが放流したものでした。【放流情報】放流場所:鹿児島県熊毛郡中種子町熊野漁港沖定置網 放流日:6月19日 標識番号:64314 種:アカウミガメ 性別:メス サイズ:甲長77cm×甲幅67cm なお、標識放流した際、左足70089、左手70088の標識が付いていました。

\*\*\*\*\*  
あかばね塾より(8/10)

衰弱したウミガメが漂着して見つかったので報告します。日時:2009年8月10日、場所:愛知県赤羽根漁港西のテトラポッドの間隙、種:アカウミガメ、測定値:標準直甲長706mm、直甲幅578mm、状況:午前中に



地元の方の手によってテトラポッドの隙間から救出され、砂浜の潮溜まりに置かれていました。ちょうど事務局から水野が田原に行っていたため、あかばね塾の方々と確認に行ったところ、かなり衰弱しきっている様子でした。サーファーの方が一度潮溜まりから放流したそうですが、台風の高波のため沖に出ることができなかつたようです。そのまま置いておくことと死んでしまう可能性が非常に高かったため、丁度、田原に来ていた日本ウミガメ協議会の水野康次郎氏に託して大阪まで持ち帰りました。以下、水野より：持ち帰って、経過をみていましたが、残念ながら死亡してしまいました。以下、解剖した岡本より：性別はメスでした。とにかく栄養状態が悪く、脂肪は著しく少なく、筋肉も少なくなっていました。消化管内には僅かに魚の骨と人工樹脂が見られただけで、ほとんどなにも入っていない状態でした。

\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報09-25 (10/1)

\*\*\*\*\*  
海遊館 北谷佳万さんより (8/10)

ウミガメ協議会の標識のついたアオウミガメが入網しましたので連絡いたします。場所：以布利共同大敷組合同網 岡林正三組合長 入網日時：2009年8月8日 朝 標識番号：左後肢-黄色タグ JPN39470 右後肢-黄色タグ JPN39471 アオウミガメは単独で入網し、そのまま放流されました。事務局より：この個体を放流したのは、小笠原海洋センターでした。【放流情報】放流日：2005年7月8日 放流場所：小笠原村父島初寝浦海岸 サイズ：SCL 92.8cm SCW 68.9cm 標識：Y39470 左後肢 Y39471 右後肢 I41746 左前肢 I41747 右前肢 性別：♀

\*\*\*\*\*  
愛知県 あかばね塾より (8/10)

衰弱したウミガメが漂着して見つかったので報告します。日時：2009年8月10日、場所：愛知県赤羽根漁港西のテトラポッドの隙間、種：アカウミガメ、測定値：標準直甲長706mm、直甲幅578mm、状況：午前中に地元の方の手によってテトラポッドの隙間から救出され、砂浜の潮溜まりに置かれていました。ちょうど事務局から水野が田原に行っていたため、あかばね塾の方々と確認に行ったところ、かなり衰弱しきっている様子でした。サーファーの方が一度潮溜まりから放流したそうですが、台風の高波のため沖に出ることができなかつたようです。そのまま置いておくことと死んでしまう可能性が非常に高かったため、保護して大阪まで持ち帰りました。様子を見ていましたが、残念ながら死亡してしまいました。事務局より：解剖知見を報告します。まず、腹甲をはずす前から、やせていることが明らかでした。一般的な個体と比較して、前肢の付け根周辺は細く、腹甲と背甲の縫ぎ目の周辺はへこんでいるといった状態でした。次に腹甲をはずすと、大胸筋周辺にほとんど筋肉がなく骨が見えている状態でした。また、食道から直腸部まで、裂いて中を確認しましたが、直腸部に少量の魚の骨のようなものと小さなビニールテープのようなものがあっただけで、他の部分は、何も入っておらず、空の状態でした。それらの消化管を取り外すと通常なら、背甲の内側に分厚い脂肪層が見られますが、本個体は薄い脂肪層が確認で

きるのみでした。さらに、通常、肝臓を切ると、液状の脂肪分が確認できますが、本個体はほとんど確認できませんでした。これらのことから、本個体は、自然死に近い状態で、餓死である可能性が強く示唆されました。なお、解剖の結果、性別はメスと判明しました。\*\*\*\*\*  
紀伊氏報(和歌山 8/10)より

和歌山県串本町のウミガメ保護団体「串本海亀を守る会」(中尾勇会長)は7月31日までの町内でのウミガメ産卵状況をまとめた。それによると、上陸したのは12匹、うち産卵したのは11匹で、産卵数は合計1121個だった。中尾会長は、梅雨が長かった影響でふ化が遅れており、ふ化率も悪くなるのではないかと心配している。調査は会員6人で行った。今シーズン確認したのは、6月5日に橋杭海岸で1匹が上陸、産卵したのが最初。同海岸ではその後、7月にも1匹が上陸、産卵。合わせて2匹が254個を産卵した。上浦海岸では6月中に4匹が上陸し、うち3匹が産卵。7月中に4匹が上陸、産卵した。計7匹が646個を産卵した。ほかに、西向の海岸でも7月中に2匹が上陸し、計221個の産卵を確認した。昨年は同時期までに、計26匹が2949個を産卵したのが確認され、これは1982年以降の調査では2番目に多かった。雨が少なかったことなどから、ふ化率も高かったという。昨年は8月10日ごろからふ化が始まったが、今年はまだない。梅雨が長いため、中尾会長はふ化まで時間がかかり、早いので今月末から9月上旬にかけてふ化するのではないかとみている。同会は、台風や低気圧通過など高潮の影響から卵を守るため、上浦海岸と西向の海岸で、それぞれ設けたふ化場へ卵を移して保護している。ふ化の時期には、地元の子どもたちにも呼び掛け、赤ちゃんガメの放流を手伝ってもらう予定という。串本海亀を守る会が確認している以外に、串本海中公園センターの宮脇逸朗館長によると、高富の海岸で5月と6月に1匹ずつ上陸したが産卵せず、田原の海岸では6月と7月に計6匹が上陸し、そのうち1匹の産卵を確認しているという。

\*\*\*\*\*  
東京大学海洋研究所 榎崎友子さんより (8/12)

昨年こちらで放流したアカウミガメが、再び捕獲されましたのでご連絡いたします。【捕獲日】2009年8月12日 【捕獲場所】岩手県宮古市重茂漁協の根定位置 【種】アカウミガメ 【性別】不明 【標識】JPN53462/JPN53463 (左前肢/右前肢) 【捕獲時の状況】生存。漁港で引き取り、東京大学国際沿岸海洋研究センター(岩手県大槌町)に搬送。両前肢のプラスチックタグのまわりにエポキシがびっしり付着していました。【SCL】80.8cm 【BW】79.0kg 【TL】20.1cm (計測日：2009年8月12日) 事務局より：榎崎さんからいただいた、この個体の放流情報です。【捕獲日】2008年8月11日 【捕獲場所】岩手県陸前高田市広田湾漁協の榎島定置 【捕獲時の状況】生存。漁港で引き取り、漁港で引き取り、東京大学国際沿岸海洋研究センター(岩手県大槌町)の屋外水槽でしばらく飼育。【SCL】80.7cm 【BW】77.5kg 【TL】19.5cm (計測日：2008年8月11日) 【放流日】2008年10月1日 【放流場所】岩手県大槌湾湾口部 (39° 21.570N, 141° 59.873E)

\*\*\*\*\*



山階鳥類研究所 仲村昇さんより (8/19)

宮古島周辺と奄美大島周辺の島々を訪れました。奄美エリアでは船上からの調査も多く、浜歩きが少なかったこともあってカメの上陸跡は見ませんでした。宮古島エリアでは、全ての浜を歩いた訳ではありませんが、以下の3件(2島)の上陸跡を確認しましたのでご報告いたします。①2009年7月8日大神島(宮古島北東)の北西海岸。上陸跡1往復(産卵したと思われる窪地有)。前夜の雨よりも古いので当日朝の痕跡ではなく、3-4日前の痕跡は大雨によって消された可能性が高いことから、1日か2日前の跡と推定しました。この島には幅広い砂浜がほとんど無く、たまたまそこだけがやや広く砂が溜まっている場所でした。この島は小さいため、上陸数はかなり少ないと思われます。②2009年7月11日多良間島北方の水納島の南西海岸、上陸跡2往復(どちらも産卵したと思われる窪地有)。過去数日の天候から判断して、新しい方は1-2日前、古い方は3日以上前のものと推定しました。水納島は海岸線の9割ほどが砂浜となっており、砂浜の幅も高さもそこそこあるため、産卵するには良さそうに見えたので、上陸跡がもっとあっても良いのに、という印象を受けました。

\*\*\*\*\*

■ウミガメ速報09-26(10/13)

\*\*\*\*\*

宮城県 古田さんより (8/19)

深沼漁港に3頭のカメの死骸が漂着しましたので情報提供いたします。1個体目 場所:宮城県仙台市若林区荒浜字海浜地内、日時:8月10~11日にかけて、甲羅の大きさ:たて80cm、よこ60cm、高さ35cm、2個体目 場所:宮城県仙台市若林区荒浜字海浜地内、日時:8月10~11日にかけて、甲羅の大きさ:たて70cm、よこ50cm、高さ30cm、3個体目 場所:宮城県仙台市若林区荒浜字海浜地内、日時:8月10~11日にかけて、甲羅の大きさ:たて60cm、よこ45cm、高さ25cm 事務局より:いただいた写真より、すべてアカウミガメとわかりました。

\*\*\*\*\*

千葉県 根上昌久さんより (8/20)

館山市塩見海岸にウミガメの漂着がありましたので、報告します。事務局より:いただいた写真には、アカウミガメが写っており、エパーラスティングネイチャーの井ノ口さんが調査に行ってくださいました。

\*\*\*\*\*

徳島県 匿名の方より (8/20)

ウミガメの漂着死体を発見したので、報告します。発見日:2009年8月20日、発見場所:徳島県海部郡海陽町穴喰 道の駅穴喰前の海岸、種:アカウミガメ、生死:死、状況:死亡漂着

\*\*\*\*\*

神奈川県 羽太喜久雄さんより (8/20)

神奈川県鎌倉小動岬七里ヶ浜側で、ウミガメの死体を見ました。事務局より:いただいた写真には、アカウミガメが写っていました。

\*\*\*\*\*

鹿児島県 ヒラセさんより (8/21)

標識のついたウミガメが混獲されましたので、報告します。発見日:2009年8月21日、発見者:ヒラノ様

(組合員)、捕獲場所:阿久根市佐湯沖、種:アオウミガメ、標識:JPN64523(プラタグ)、漁具:たて網、生死:死亡、サイズ:甲長約50cmとのこと 事務局より:この個体を放流したのは鹿児島県の宮内叶さんでした。【放流情報】放流日時:2009年7月2日、場所:鹿児島県南さつま市野間池しらせ定置網、放流時のサイズ:SCL 472mm MCL 463mm SCW 406mm CCL 484mm CCW 462mm

\*\*\*\*\*

愛媛県 ノノシタさんより (8/21)

標識のついたウミガメが混獲されましたので、報告します。発見日:2009年8月20日、発見場所:愛媛県南宇和郡愛南町御荘湾種:アカウミガメ、状況:生存、標識番号:JPN59072、サイズ:約17cm 事務局より:この個体を放流したのは沖縄県の美ら海水族館でした。

【放流情報】放流日時:2009年7月26日、放流場所:海洋博公園内にあるエメラルドビーチの囲いの浜、放流時のサイズ:直甲長:162.8mm、直甲幅:141.0mm、体重:808g

\*\*\*\*\*

大分県 山田さんより (8/22)

標識のついたウミガメが混獲されましたので、報告します。再捕獲日:2009年8月22日、発見者:大分県漁協鶴見支店 田島氏、再捕獲場所:大分県佐伯市鶴見大字地松浦地先、生死:生存、発見状況:混獲、漁法:定置網、種:アオウミガメ、標識番号:64604 64603 65907 65906、処置:漁協から放流 事務局より:この個体は当会の室戸基地から放流したものでした。【放流情報】種:アオウミガメ、調査者:中里見猛、捕獲日:2009.6.22、捕獲場所:高知県室戸市室戸岬町椎名大敷、放流日:2009.7.23、放流場所:高知県室戸市室戸岬町高岡漁港、サイズ:SCL:441 MCL:432 OCL:462 SCW:390 CCW:447 BW:12.2kg 尾長A:55 尾長B:74 標識番号:64603 64604 65906 65907

\*\*\*\*\*

日本ウミガメ協議会室戸基地 水野大將より

(8/23)

高知県室戸基地において、砂に埋めておいたアカウミガメの卵から子ガメが誕生しました。この子ガメは、死んで間もないアカウミガメのお腹からでてきた卵から誕生しました。まだ、26個を砂に埋めて観察をしました。埋めてから6日目に卵に色が白くなる変化が現われ、57日目には潰れた卵がみられました。そして、61日目に最初の子ガメが砂からでてきて、62日目までに13匹の子ガメが脱出しました。産み落とされていない卵でも孵化することができるようです。帝王切開した卵から新たな生命が誕生したことがとても感動でした。

\*\*\*\*\*

岩手・東大国際沿岸海洋研究センター 楢崎友子さんより (8/23)

3年前にこちらで放流したアカウミガメが、再び捕獲されましたのでご連絡いたします。【種】アカウミガメ【性別】不明【標識】JPN47127/JPN47128(左前肢/右前肢)(1)捕獲1回目【捕獲日】2006年8月24日

【捕獲場所】岩手県宮古市重茂漁協の根流定置【捕獲時の状況】生存。漁港で引き取り、漁港で引き取り、東京大学国際沿岸海洋研究センター(岩手県大槌町)



の屋外水槽でしばらく飼育。【SCL】66.3cm【BW】42.0kg【TL】14.8cm(計測日:2006年8月31日)このとき標識を装着しました。(2)放流【放流日】2006年9月26日【放流場所】岩手県大槌湾(39°20.593N,141°56.301E)(3)再捕獲【捕獲日】2009年8月22日【捕獲場所】岩手県山田町船越湾漁協の小谷島定置【捕獲時の状況】生存。漁港で引き取り、東京大学国際沿岸海洋研究センター(岩手県大槌町)に搬送。再捕時、右前肢の標識の下側が脱落していました。また左前肢の標識も曲がってしまっていたので、新たな標識に交換しました。今回もブラ標識にエポキシが付着していました。【SCL】69.9cm【BW】56.5kg【TL】21.6cm【交換した標識】JPN64790/JPN64791(左前肢/右前肢)(計測&標識を交換した日:2009年8月22日)

\*\*\*\*\*  
宮城県農長使節船ミュージアム 石川歩さんより  
(8/24)

本日、当館前海上にて体験学習を行っていたところ、漂着物を発見しました。腐敗が進行しており正体がよくわからないのですが、ウミガメのように見えます。事務局より:いただいた写真にはアカウミガメが写っていました。

\*\*\*\*\*  
宮城県 高橋健児さんより(8/26)

先日(7月23日)宮城県亶理町の吉田浜にサーフィンに行ったところウミガメの死骸が漂着していました。打ち上げられて間もないようでした。また8月16日にも少し離れた場所に2匹のウミガメの死骸が打ち上げられていました。こちらは腐敗が進んでいました。\*\*\*\*\*  
宮城県 鈴木さんより(8/28)

ウミガメが漂着していたので、報告します。発見日:8月28日、発見場所:宮城県岩沼市仙台空港付近の海浜緑地の海側、状況:3個体漂着していて、腐敗はけっこうひどい。種類:不明、標識:腐敗と匂いがひどく近づけなかったとのことで、標識があったかどうか不明、処置:放置

\*\*\*\*\*  
大阪事務局 佐藤嘉成より(8/31)

兵庫漁連から連絡があり、事務局から佐藤と掛田が淡路島の由良町中央漁港に保護されていたウミガメの確保と神戸ラグーン収容を行ってきました。個体情報などは下記の通りです。発見日:2009年8月31日、発見者:亀谷弘人氏、連絡者:兵庫漁連捕獲場所:南あわじ市灘沖、種:アカウミガメ、生死:生存、標識:新規装着 JPN53382 JPN53383、漁具:底曳き網、サイズ: scl 756mm mcl 1741mm scw 596mm、備考:右第3と4肋甲板の境に直径15mm程の抉られたような傷あり、直径約20mmから5mmのフジツボが背甲、腹甲、頭部、四肢に付着

\*\*\*\*\*  
鹿児島県 宮内叶さんより(9/1)

標識のついたウミガメが混獲されましたので、報告します。発見日:9月1日、発見場所:鹿児島県野間池しるせ位置網、種:アオウミガメ、サイズ:SCL 93.5cm SCW 73.5cm 標識番号:左後肢39311、右前肢41618、左前肢 41617 事務局より:この標識は、小笠原海洋センターに送ったものでした。放流情報は現

在確認中です。  
\*\*\*\*\*  
国交省国土技術政策総合研究所 渡辺国広さんより  
(9/1)

ウミガメの漂着を発見したとの連絡がありましたので、報告します。場所:宮城県岩沼市蒲崎海岸、種:アカウミガメ、性別:不明、サイズ:SCL約70cm(写真より判断)、処置:埋設

\*\*\*\*\*  
大阪府環境農林水産総合研究所 鍋島靖信さんより  
(9/2)

標識のついたウミガメを捕獲したとの連絡がありましたので、報告します。2009.8.31に大阪府関西空港沖で採捕、採捕者:大阪府大阪市尾崎漁協 サワラ流し網漁船 古川さん、状況:遊泳中のウミガメを網ですくう サイズ:背甲長18cm、甲幅15.6cm、標識:JP59298、処置:阪南市沖にて放流 事務局より:この個体を放流したのは沖縄県の美ら海水族館でした。【放流情報】放流日時:2009年7月26日、放流場所:海洋博公園内にあるエメラルドビーチの隣の浜、放流時のサイズ:直甲長:167mm、直甲幅:147mm、体重:0.8kg

\*\*\*\*\*

■ウミガメ速報09-27(10/21)  
\*\*\*\*\*

エバーラスティングネイチャー 井ノ口栄美さんより  
(9/3)

標識のついたウミガメが漂着しましたので、報告します。標識:左前:JB62598、右前:JB62599、左後:インコネル65539、右後:インコネル65540、発見日:2009年9月3日、漂着場所:神奈川県横須賀市浦賀町6丁目・燈明堂海岸、種:アオウミガメ、直甲長:84.1cm、直甲幅:60.6cm、性別:雌(未成熟)事務局より:この個体は当会の室戸基地から放流したものでした。【放流情報】発見・放流日:2008/8/12、発見場所:高知県室戸市室戸岬町稚名大敷、種:アオウミガメ、サイズ:SCL 821 MCL 819 SCW 639、標識:62598 62599 65539 65540 備考:左後肢先欠損

\*\*\*\*\*  
大阪事務局 佐藤嘉成より(9/4)

9月4日に兵庫県南あわじ市の南淡漁協からウミガメが底曳き網に入ったとの連絡があり、事務局から佐藤が行ってきました。死んでしまう位に弱っていたため、保護したカメは、日和佐うみがめ博物館カレックに運び、しばらくの間療養していただくことになりました。個体情報などは下記の通りです。発見日:2009年9月4日、発見者:橋本昌和氏、捕獲場所:南あわじ市沼島から東に4km、水深40m、漁具:底曳き網、種:アカウミガメ標識:新規装着 JB44664、JB44665、インコネル64915、54916、状況:すごく弱っているが生存、サイズ:SCL 748mm MCL 742mm SCW 606mm CCL 796mm CCW 738mm BW 62.9kg 備考:南淡漁協の方からひどく衰弱しているという事をうけ、神戸空港人工池ではなく、日和佐うみがめ博物館カレックに運びました。その後、元気を取り戻したようです。

\*\*\*\*\*  
和歌山県串本海中公園センター 宮崎逸朗さんより  
(9/5)



標識のついたウミガメが混獲されましたので、報告  
します。発見日：2009年9月1日、発見場所：和歌山県  
串本町大島野地先定置網、採捕者：弁天前大敷運営  
委員会、標識：64222、生死：生存、処置：放流 事  
務局より：この個体を放流したのは三重県紀宝町ウミ  
ガメ公園の谷口真理さんでした。【放流情報】種：ア  
オウミガメ、タグNO：JB64222(右前肢) JB64221(左  
前肢)、捕獲日：2009年7月10日、捕獲場所：三重県御  
浜町沖 阿田和大敷、サイズ：SCL 484 MCL 473 SCW  
391 CCL 500 CCW 458、放流日：2009年8月23日、放流  
場所：三重県紀宝町井田海岸、備考：捕獲後、紀宝町  
ウミガメ公園に一時収容し、再放流

\*\*\*\*\*  
茨城県 藤咲知也さんより (9/8)

ウミガメの漂着がありましたので、報告します。発  
見日：2009年9月6日、発見場所：茨城県阿字ヶ浦海岸、  
種：オサガメ、甲長：不明、重量：140kg、処置：ひ  
たちなか市内の処分場敷地内へ埋設 事務局より：エ  
バーラスティングネイチャーの菅沼さんが調査に行っ  
てくださいました。

\*\*\*\*\*  
宮城県 鈴木藍子さんより (9/9)

今日、海岸に行ったら、ウミガメの死体がひとつ打  
ち上げられていました。海にはたまにしか行かないの  
で、いつから打ち上げられていたのかなどは分かりま  
せん。写真をみていただければ分かると思いますが、  
一部白骨化してしまっていて、周りには悪臭が漂って  
いました。発見場所は宮城県仙台市若林区の深沼海水浴場  
というところ。もしずっとはやくに見つけてあげ  
られたら、命が助かったのかもしれないと思うとかわ  
いそうです。ウミガメの保護活動など、どうぞがんば  
ってください。事務局より：いただいた写真には、ア  
カウミガメが写っていました。

\*\*\*\*\*  
宮城県 高橋勇さんより (9/9)

本日、ウミガメの死体を4体発見しましたので連絡  
しておきます。みな既に白骨化しておりました。場所  
は宮城県亶理町の吉田浜海岸です。写真添付してお  
きますので参照ください。事務局より：いただいた写真  
よりすべてアカウミガメとわかりました。

\*\*\*\*\*  
高知県 野波さんより (9/9)

高知県大方町田ノ浦漁港内でウミガメが泳いでい  
ます。事務局より：この情報を受け、高知県の清瀬幸三  
さんに観察に行ってくださいました。すると、標識が  
付いていることがわかりました。種：アカウミガメ、  
標識番号：8940 事務局より：この個体を放流したの  
は、新潟市水族館でした。【放流情報】放流日：2006  
年9月22日、放流場所：新潟県新潟市信濃川河口沖約  
4km、直標準甲長：800mm、体重：68.0kg標識右前肢：  
インコネルJPN7181、左前肢：ジャンボJPN8940、10/  
18現在、この個体は元気らしく、漁港で捨てられたク  
カノハダイを食べていることが確認されたようです。

\*\*\*\*\*  
長崎県 山本英恵さんより (9/9)

9月2日に、対馬市美津島町太田浜沖でウミガメの生  
体が目撃されましたのでご連絡させていただきます。  
午後1時20分頃、太田浜沖の水深約5mの岩場に甲長  
50cmほどのカメがいたそうです。太田浜は、今年数回

上陸が確認された勝見浦に隣接しています。事務局よ  
り：いただいた写真には、タイマイが写っていました。  
ご存じのようにタイマイはサンゴ礁に生息しています。  
あまり餌も食べることが出来ない状態だと思われま  
す。無事、南下できればいいのですが・・・

\*\*\*\*\*  
愛知県 今村和志さんより (9/11)

ウミガメのスタンディング情報です。確認日：  
2009年9月9日、種類：アカウミガメ、性別：腐敗が激  
しく不明、甲長：腐敗および損傷が激しく不明、場  
所：愛知県表浜海岸(西七根町地先の海岸)

\*\*\*\*\*  
宮城県 漁業者より (9/11)

標識のついたウミガメが混獲されましたので、報告  
します。再発見日：2009年9月11日、再発見場所：宮  
城県亶理郡亶理町吉田地先小型定置網、生死：死、標  
識番号：30417 30413 54404 54405曲甲長：43cm  
事務局より：この個体を放流したのは茨城県の大洗水  
族館でした。【放流情報】放流場所：大洗水族館下  
放流日：2009年8月26日、種：アオウミガメ、標準直  
甲長：43.1cm、直甲幅：36.8cm体重：12.4kg

\*\*\*\*\*  
屋久島うみがめ館 花澤さんより (9/13)

標識のついたウミガメが上陸しましたので、報告し  
ます。種：アカウミガメ、標識：ジャンボ64308

(青)、確認日：2009年7月5日、確認場所：熊本郡屋  
久島町前浜、甲長A：不明、甲幅：不明、上陸状況  
等：なし 事務局より：この個体を放流したのは、種  
子島の久米満晴さんでした。【放流情報】放流日：  
2009年5月19日、放流場所：鹿児島県種子島熊野定置  
網周辺、甲長820mm、甲幅：650mm

\*\*\*\*\*  
大阪府 中西美文さんより (9/13)

本日海亀の死体が打ち上げられているのを発見しま  
したので報告します。場所：和歌山県湯浅町町瀬島の  
浜辺、様子：頭部は白骨化していたが体はまだ比較的  
最近の様子、甲羅の全長は80センチくらいあったかも  
\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報09-28 (11/12)

\*\*\*\*\*  
大阪海遊館 竹内慧さんより (9/2)

8月20日に高知県土佐清水市以布利の定置網で後肢  
に標識のついたアオウミガメ1個体が混獲されました。  
標識はかなり擦り減っていたのですが、「JPN33  
40」と書かれた表示を確認することが出来ました。  
このアオウミガメは標識を撮影後、網の外にリリース  
しました。事務局より：いただいた写真に写っていた  
標識を確認すると、最後の「桁」が消えていることが判  
明しました。よって詳しいことは不明ですが、標識は  
小笠原海洋センターに送ったもので、2003年あるいは  
2004年に小笠原で装着されたことまでは明らかになり  
ました。

\*\*\*\*\*  
三重県 広田敦さんより (9/13)

本日、三重県の千代崎海岸でウミガメの死体を確認  
しましたのでご連絡します。白骨化しているところを  
見ると、かなり以前からあった模様。既にどなたかか  
らご連絡入っているかもしれませんが・・・ご参考に



なればと思ひ写真とともにご連絡します。事務局より：いただいた写真には、アカウミガメが写っていました。

\*\*\*\*\*  
神奈川県 三輪貞夫さんより (9/14)

生まれて初めて、野生のウミガメを見ました。状況は以下のとおりです。日時：9/13 (日) 14:00頃、場所：横浜港旧赤灯台堤防中央東側大きさ：よくわからないが、体長1メートルくらいかな、種類：太陽を浴びて金色に光っていた感じ。黄色っぽいアカウミガメだったようです。状況：堤防からイソメをえさに釣をしていたら、それに食いついたらしく、ゆっくり動いているようだったのでやり取りしていたら、空気を吸いに10メートルくらい沖で浮かび上がってきた。とても釣り上げられるようなものではないので、すぐに糸をしゃくって切りました。それにしても、あんなところでウミガメ見るとは夢にも思いませんでした。びっくりしました。

\*\*\*\*\*  
佐賀県 大津安夫さんより (9/14)

標識のついたウミガメが混獲されましたので、報告します。再捕日：平成21年9月14日、再捕場所：佐賀県唐津市屋形石地先定置網、標識番号：JPN64572、曲甲長：88cm、曲甲幅：71cm 事務局より：この個体を放流したのは、鹿児島県の宮内叶さんでした。【放流情報】放流日：2009年8月14日、種：アオウミガメ、放流場所：鹿児島県野間池しろせ定置網周辺、装着標識：64571、64572、サイズ：SCL 771 MCL 771CCL 812 SCW 630 CCW 800

\*\*\*\*\*  
宮城県 樋口圭一さんより (9/16)

ここ数年前から、海洋環境に興味を持ち始め、仙台湾の海浜を探索し始めて…驚きました。ウミガメのストランディングが多い日で7~10匹位、確認したのです。あまりの驚きで…最近、友人と海浜清掃を始めて少しでもウミガメの環境を良くしようと取組んでいる次第です。その中で、赤ウミガメのメスと思われ腐敗の状態が良かったウミガメを携帯電話で、撮影しました。甲羅に少し乗っている砂は、友人2人と砂をかけてほうむって上げようとした時のものです。発生日時：平成21年7月20日午前9時30分~午前10時頃、発見場所：宮城県仙台市：仙台湾に面する、蒲生海岸（がもうかいがん）七北田川の河口寄り南方へ2~2.5km位の処です。産卵の為に上がって来ようとしたのか、尾の方から産道らしきものが膨らんでいたのが確認できました。一方向からの画像しかなくて、申し訳無いのですが…お役に立てれば、光栄です。ウミガメの住み良い環境を守る為に、せめてものと思って友人と2人でウミガメ環境保護活動を始めようとして準備を始めている段階です。海浜清掃活動がメインですがね。ウミガメの事がもっともっと詳しく解って来たら~わずかずつかも知れませんが、幅広い活動を始めようと友人と考えています。まだ、友人と2人で活動していますが…何とか協力してくれる仲間を徐々に増やして行く考えと意欲に燃えています。

\*\*\*\*\*  
長崎県 安重武志さんより (9/18)

標識のついたウミガメが漂着していましたので、報告します。発見日：2009年9月18日、発見場所：長崎

県対馬市豊玉町唐洲の海岸標識番号：64534、大きさ：甲羅の大きさが1メートルくらい、処置：埋設

事務局より：なお、この個体は対馬野生生物保護センターの山本英恵さんが計測、解剖を行ってくださいました。SCL 69cm CCL 74cm SCW 56cm CCW 69cm PL 60cm BW 40kg 外傷はありませんでした。腐敗しガスが貯留しており、死因は不明です。消化管内（食道~直腸）には海藻が多量に残されており、死亡の直前まで採餌していたものと考えられます。また、この個体を放流したのは、鹿児島県の宮内叶さんでした。【放流情報】放流日：2009年7月10日、発見場所：野間池、しろせ定置網、装着標識番号：64534・64533、種：アオウミガメ、大きさ：SCL 683 MCL 682 CCL 722 SCW 580 CCW 699

\*\*\*\*\*  
石川県 森山知明さんより (9/18)

先月から福井県の越前海岸に居ついているウミガメの情報は入っていますでしょうか。私も写真を持っています、タグの番号も読み取れます。必要であれば写真を送ります。なお、このカメは8月25日くらいから観察され、最近も目撃例があります。場所は越前海岸米ノ壁石岩海岸です。サイズはかなり大きく、1m近くあるのではないのでしょうか。事務局より：写真を送っていただいたところ、アオウミガメとわかり、標識番号はJPN64051・JPN64052とわかりました。この個体を放流したのは、石川県の、のとじま水族館でした。

【放流情報】放流場所：石川県羽咋郡志賀町高浜町の砂浜、放流日：2009年7月24日、種：アオウミガメ、雌雄：オス、標準直甲長：82.5cm、体重109.8kg、標識番号：JPN64051・JPN64052

\*\*\*\*\*  
北海道 長谷川さんより (9/21)

標識のついたウミガメが漂着していましたので、報告します。発見日：2009年9月21日、場所：北海道斜里郡小清水町宇浜小清水キャンプ場付近の海岸、状態：死亡漂着、標識JPN64056、処置：標識を外し、前浜部分に1mほどの穴を掘り埋設 事務局より：この個体を放流したのは、石川県の、のとじま水族館でした。【放流情報】放流日：2009年7月24日、放流場所：石川県羽咋郡志賀町高浜町の砂浜、種：アカウミガメ、雌雄：不明、直甲長：52.0cm 体重：31.2kg、標識：前肢にJPN64055、JPN64056を装着、備考：甲羅の後部一部欠損

\*\*\*\*\*  
宮城県 樋口圭一さんより (9/23)

1件目 仙台湾蒲生海岸附近の、ストランディングです。ご覧の通り、頭は白骨化していました~甲羅には、傷跡なのか白くなってる箇所がありました。白骨化した顔を見ていると、ウミガメが何かを訴えて警告しているように思えてなりません。余談になりますが…海岸周辺には、漁具類が特に多く散乱（漂着）してました。他には、流木等・ヤシ・ビニール等の順で散乱（漂着）してました。海岸浸食も、激しくなってきました。発見日時：平成21年9月22日・08時、発見場所：宮城県仙台湾内・蒲生海岸 2件目 同じ仙台湾内では有りますが、先程送った蒲生（がもう）海岸寄りには、南へ7~10km程の距離に有る、関上（ゆりあげ）漁港の北側に有る、名取川と広瀬川の合流する河川の河口付近です。残念ながら、



頭の方は有りませんでした。そして、500m~2km位離れた北側には、甲羅がバラバラになったストラディングが、2匹発見しました。そして、海岸浸食も蘆生海岸に比べて、著しく浸食していました。ゴミの方は、長めの流木等が殆どでした。3件目 発見日時：平成21年9月23日・13時頃 発見場所：宮城県仙台市・蘆生（がもう）海岸、腐敗・白骨化していて、臭いも漂っていました。事務局より：いただいた写真より、3件ともアカウミガメとわかりました。

■ウミガメ速報09-30(11/24)

\*\*\*\*\*  
愛知県 今村和志さんより(9/25)

ストラディング情報です。1件目 確認日：2009年9月24日、種類：アオウミガメ(誤同定の可能性があります。写真にてご確認ください)、性別：腐敗が進行しており不明、曲甲長：43.5cm、曲甲幅：43.5cm、場所：愛知県表浜海岸(豊橋市伊古部町地先の海岸) 2件目確認日：2009年9月24日、種類：アオウミガメ(誤同定の可能性があります。写真にてご確認ください)、性別：腐敗が進行しており不明曲甲長：54.5cm、曲甲幅：46.5cm、場所：愛知県表浜海岸(豊橋市小島町地先の海岸) 事務局より：いただいた写真より、どちらもアオウミガメ間違いありませんでした。

\*\*\*\*\*  
宮城県 樋口圭一さんより(9/27)

発見日時：平成21年9月27日(日)07時20分発見、発見場所：宮城県仙台市・深沼海岸、漂着個体の大きさ：全長110cm・(頭部鼻先から尾の方向の甲羅まで)65cm(甲羅部分の横幅)漂着個体の状態：頭部：白骨化してました、甲羅：表面が腐敗してました、手足等：手足ともに、腐敗し白骨化してました、調査時の概要等：発見時は、甲羅の一部だけが砂浜から露出してました、死亡原因と個体の大きさを確認する為、個体周りの砂を掘り起こしました。その結果、個体は網に絡まった状態で死亡していました。その他に、同じ深沼海岸で2匹のストラディングを発見しました。状態は、2匹ともに腐敗が激しく、甲羅だけが残っている状態で白骨化してました。事務局より：いただいた写真にはアカウミガメが写っていました。

\*\*\*\*\*  
宮城県 大田さんより(9/27)

標識のついたウミガメが混獲されたとの連絡がありましたので、報告します。発見年月日：2009年9月22日、発見場所：宮城県東松島市沖大型定置網、生死：生存、標識番号：JP64030、種類：アオウミガメ、大きさ：50cmぐらい、処置：放流 事務局より：この個体を放流したのは、東京大学の榎崎友子さんでした。放流情報は現在確認中です。

\*\*\*\*\*  
神奈川県 島海憲治さんより(9/28)

標識のついたウミガメが混獲されましたので、報告します。発見日：2009年9月28日、発見場所：神奈川県福浦大敷、種類：アカウミガメ、曲甲長：72cm、標識：右64759 左64758、状態：生存、処置：放流 事務局より：この個体を放流したのは、東京大学の榎崎

友子さんでした。【放流情報】放流日：2009年9月9日、放流場所：岩手県大槌町大槌湾の中央部、種：アカウミガメ、性別：不明、SCL:67.3cm MCL:65.7cm SCW:55.2cm BW:51.5kg 装着した標識：64758/64759 (左前肢/右前肢)

\*\*\*\*\*  
宮城県 杉田さんより(9/28)

標識のついたウミガメが混獲されたとの連絡がありましたので、報告します。発見年月日：2009年9月28日、連絡先：宮城県南三陸町歌津地先定置網、生死：生存、標識番号：JP64795、種：不明、甲長：約400mm、処置：丘に一度にあげたあと湾内にて放流 事務局より：この個体を放流したのは、東京大学の榎崎友子さんでした。【放流情報】放流日：2009年9月15日、放流場所：岩手県上閉伊郡大槌町大槌湾口、種：アオウミガメ、性別：不明、SCL:43.3cm MCL:42.7cm SCW:37.8cm BW:12.5kg 装着した標識：64794/64795 (右後肢/左後肢)

\*\*\*\*\*  
鳥取県 一澤圭さんより(9/28)

本日、鳥取県内でウミガメ漂着の情報が寄せられたのですが、死後かなりの時間が経過しているようで、半白骨化した状態です。死体は地元自治体の職員の方が埋設したのですが、当方にはそのときの写真を送っていただきました。このような写真で、種類の同定は可能でしょうか？ご教示いただけましたらありがたいと思います。なお、サイズは「長さ約80cm、幅約60cm」とのことです。事務局より：いただいた写真より、アオウミガメとわかりました。

\*\*\*\*\*  
和歌山県 かわださんより(9/29)

標識のついたウミガメが混獲されましたので、報告します。混獲日：2009年9月29日、混獲場所：和歌山県串本町大島野野定置網、標識：JPN62677、処置：そのまま放流 事務局より：この個体を放流したのは、紀宝町ウミガメ公園の谷口真理さんでした。放流情報は現在確認中です。

\*\*\*\*\*  
宮城県 杉田さんより(9/29)

標識のついたウミガメが混獲されたとの連絡がありましたので、報告します。発見年月日：2009年9月29日、発見場所：宮城県気仙沼市本吉町三丁目定置網、生死：生存、標識番号：JP64757、種類：アカウミガメ、曲甲長：約780mm、処置：標識を片側だけはずして、酒を飲ませて放流 事務局より：この個体を放流したのは、東京大学の榎崎友子さんでした。【放流情報】放流日：2009年8月10日、放流場所：岩手県上閉伊郡大槌町 国際沿岸海洋研究センター前の波止場、種：アカウミガメ、性別：不明、SCL:74.7cm MCL:73.4cm SCW:61.5cm BW:64.5kg 装着した標識：64756/64757 (左前肢/右前肢)

\*\*\*\*\*  
長崎県 細井副佐義さんより(9/30)

長崎県の細井と申します。私は漁業を営んでおりますが、時々ウミガメを目撃いたします。私が目撃したのは体調1メートル前後のカメで、種は分かりません(アカ、アオ見分けが付きません)この個体は3日ほど同じ海域で見かけました。息つぎ時の浮上の時に何度も目が合ったので同一個体だと自分では確信してい



ます。又数日後、浮いたまま死んでいるカメも見つきました。目立った外傷はありませんでした。活きたカメを目撃した3日間は夜間操業で、私の船は電気を焚いて操業中でした。船は潮流に乗って流れ、自船の灯りで周りには昼間のように明るくなっていました。電気を焚いているため、プランクトンや、イワシ、サバなどの小魚がたくさん付き、時にカメも目撃します。死んだ個体の目撃時は、夜間操業に向かう途中で、このように情報をお伝えするなら、もっと詳しく写真だけでも撮っていただければと思っています。夏(7月30日~8月9日)は素潜り漁をしますが、毎年、必ず1度はカメを目撃します。その時はたいがい、海藻の中や海底でじっとしています。水深は5~15メートルくらいです。上記のカメの目撃日は9月の10日。場所は対馬の北海上10キロくらいです。死亡した個体の写真を添付しております。漁業を営む上で海と海洋生物に多大な影響、被害を与えております。その事を心頭におき、感謝の念と、少しでも未来にこの環境を残していけるよう心がけていこうと考えます。事務局より：いただいた写真には、アオウミガメが写っていました。

\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報09-31(11/26)

\*\*\*\*\*

環境省生物多様性センターの藤田道男さんより

(9/28)

シルパーウイークは八丈島にダイビングと素潜りをしに行きました。定量的な調査ではなく、日視での確認のため、根拠はありませんが、フィロパピローマに冒されていないアオウミガメが、去年より多いように感じました。(昨年は目撃個体の9割方にフィロパピローマが発生していましたが、今年は目撃個体のうち、6割~7割くらいしか冒されていないという印象を受けました)一方で、目の周りにも小さな腫瘍ができ、ちゃんと周囲が見えていない亜成体クラスのアオがいました(素潜りで近づきましたが、見えていないらしく逃げませんでした)。また、別のアオですが、釣りのPEラインが首に幾重かに絡まった個体もいました。同じく素潜りで、ナイフを持って接近しましたが、垂れているPEラインを掴んだものの、するっと逃げられてしまいました。(私は潜る際にグローブもしていますし、そんなに水深が深くないので、私の身の危険はないと判断して接近しましたが、結果的にPEラインを切り取ってあげることができませんでした)。まだ、ゆるく首に巻き付いているので、暫くは大丈夫かと思いますが、心配です。

\*\*\*\*\*

ゲームズクック大学 島田貴裕さんより

(10/16)

オーストラリアタウンズビルにある砂浜に打ちあがったハタの仲間の胃からアオウミガメが見つかったと地元の新聞に載っていました。カメのサイズは分かりませんが、みたかんじでは、SCL30cm以上はありそうです。ここまででかくなっても、魚にまるのみされるとは・・・。ちなみに魚はサイズは218cm、150kgです。写真は以下のリンクに残っているかもしれません。

[http://www.townsvillebulletin.com.au/article/2009/10/16/86971\\_bpphoto.html](http://www.townsvillebulletin.com.au/article/2009/10/16/86971_bpphoto.html)

\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報09-32(12/14)

\*\*\*\*\*

紀伊民報(和歌山 9/2)より

和歌山県みなべ町のウミガメ研究班(後藤清代表)は1日、今シーズンの同町千里の浜でのウミガメの上陸が299回、産卵が172回だったと発表した。後藤代表は「去年の産卵回数は近年にない多さだったため、今年は大幅に減ると予想していたが、3分の2程度にとどまった」と話した。近年は産んだ卵をアライグマに食べられる被害が多発しており、対策が課題となっているという。千里の浜は、鹿児島県屋久島に次ぐアカウミガメの産卵地として知られる。研究班は、1981年から産卵の調査に取り組んでおり、90年から上陸回数も調査項目に加えた。今シーズンの初上陸、初産卵はいずれも5月14日で、最終は8月23日。期間中、最多上陸は7月11日の13回、最多産卵は6月26日の9回。上陸がゼロの日は6月に4日、7月に2日の計6日間だった。上陸は昨年より464回より165回少なかった。産卵は昨年より269回より97回少なかった。調査開始以降の最多上陸は90年の900回、最多産卵は91年の348回。最少はいずれも98年で上陸69回、産卵29回だった。アライグマによる被害は今シーズン、30カ所であった。産卵した172回のうちの約17%が被害に遭っている。95年まではタヌキの被害が多かったが、最近はタヌキはあまり見掛けないという。後藤代表は「今年は台風による被害もなく条件はそう悪くなかった。ただ、アライグマの害に頭を抱えている。アライグマはタヌキより巧妙で、網や竹で編んだかごをかぶせたりしたが効果が見られず有効な対策が見当たらない」と話している。

\*\*\*\*\*

南日本新聞(鹿児島 9/3)より

環境の悪化などで最近、ウミガメの産卵がみられなくなっていた阿久根市の脇本浜で8月31日早朝、ふ化した子ガメが海へと帰った足跡があるのを、近くの団体役員、大川内良一さん(58)が見つけた。波打ち際から数十メートル内陸側に産卵場所を特定し、子ガメ14匹と卵13個も発見。近所の子ども17人を急きよ呼び寄せ観察後、放流した。浜の清掃を兼ねた愛犬との早朝散歩を10年以上続ける大川内さんは今年5~8月、ウミガメ上陸を21回確認。太極拳愛好グループなど地元ボランティアやサーファーの清掃活動の成果か、今年の上陸回数は過去5年間で最多。子ガメのにおいを覚えた愛犬が「ここ糞れ」とばかりに場所を教えるため、翌1日までに別の2カ所でも産卵を確認した。31日集まった子ども17人は、地元の浜でふ化した子ガメを見るのは初めて。バケツから海へ放った子ガメを追いかけ、写真を撮るなど大はしゃぎ。脇本小6年の野畑敬亮君(11)は「かわいくて感動した。海で頑張って大きく育ち、浜に戻ってきてほしい」と語った。同市や地元住民によると、脇本浜では40年ほど前まで、ウミガメ上陸や産卵がよく普通に見られたが、ここ数年は上陸しても浜に散在する漂着ごみの影響などで産卵はみられなかった。同市西目地区でも今年、ウミガメの産卵が確認されており住民の海岸清掃に根ざした環境改善の兆しがみられるという。

\*\*\*\*\*

大分合同新聞(9/4)より



「大きくなって帰って来て」一佐伯市の番匠川河口で2日夜、地元の渡町台小学校の児童や保護者らが参加してアカウミガメの放流が行われた。7月初めに河口の砂浜にウミガメが産卵しているのを散歩中の市民がを見つけ、同市に連絡。大雨やいたずらなどで卵が傷つかないよう、同市蒲江の県マリカルチャーセンターが119個を保護し、ふ化を待っていた。8月31日からふ化が始まり、2日までに63匹になったため、産卵場所から放流することにした。同市が、地元の渡町台小学校の児童に、放流を体験してもらおうと呼び掛けたところ、1年生から6年生まで約100人が保護者と一緒に集まった。児童2人で1匹ずつ、海に面した河口から放した。子ガメは砂浜をはって水に近づくと、一気に沖を目指した。中には砂浜に戻ってくる子ガメも。児童たちは「かわいかった」「いつか帰ってきてほしい」などと感想。残りの卵も数日中にふ化するとみられ、同センターは順次、放流する。

\*\*\*\*\*  
千葉県 宇賀野孝治さんより (9/18)

今日、海がめの子供の死骸を2体発見しました。前からあったのかも知れませんが車にひかれてました。画像をお送りいたします。発見現場は千葉県外房の中里海岸で、トンネルから海岸に至る道の海岸入り口付近です。海にたどりつけず死んだのか車にひかれて死んだのかはわかりません。今、この付近は、駐車場の工事をしていますが、これも影響を与えるのではと心配しています。

\*\*\*\*\*  
豊橋技術科学大学大学院 今村和志さんより (9/25)

ストランディング情報です。(1) 確認日:2009年9月24日、種類:アオウミガメ、性別:腐敗が進行しており不明、曲甲長:43.5cm、曲甲幅:43.5cm、場所:愛知県表浜海岸(豊橋市伊古部町地先の海岸)

(2) 確認日:2009年9月24日、種類:アオウミガメ、性別:腐敗が進行しており不明、曲甲長:54.5cm、曲甲幅:46.5cm、場所:愛知県表浜海岸(豊橋市小島町地先の海岸)

\*\*\*\*\*  
ジュゴンパラダイス三重・野田啓子さんより (9/27)

シルバーウィークを利用して、高知県柏島へ夫婦でダイビングに出掛けて来ました。そして偶然にも、ダイビング中にアオウミガメと遭遇したので写真を撮りました。撮影者は主人です。撮影日:9月20日午前9時すぎ、晴れ、撮影場所:高知県柏島後浜No.2、水深7~8M(水温26℃)ウミガメの大きさは、頭から尻尾まで60~70cmといったところでしょうか。まあ、とにかく可愛かったです。

\*\*\*\*\*  
長崎県対馬海子丸 細井副佐義さんより (9/30)

はじめまして、長崎県対馬市上対馬町の細井と申します。私は漁業を営んでおりますが、時々ウミガメを目撃いたします。先日、対馬市の野生動物保護センターの山本さんから貴協会の事を伺いご連絡いたしました。私が目撃したのは体調1メートル前後のカメで、種は分かりません(アカ、アオ見分けがつかない)この個体は3日ほど同じ海域で見かけました。息つき時の浮上の時に何度も目が合ったので同一個体だと自

分では確信しています。又数日後、浮いたまま死んでいるカメも見つけました。目立った外傷はありませんでした。活きたカメを目撃した3日間は夜間操業で、私の船は電気を焚いて操業中でした。船は潮流に乗って流れ、自船の灯りで周りには昼間のように明るくなっていました。電気を焚いているため、プランクトンや、イワシ、サバなどの小魚がたくさん付き、時にカメも目撃します。死んだ個体の目撃時は、夜間操業に向かう途中で、このように情報をお伝えするのなら、もっと詳しく写真だけでも撮っていただきたいと思います。夏(7月30日~8月9日)は素潜り漁をしますが、毎年、必ず一度はカメを目撃します。その時はたいがい、海藻の中や海底でじっとしています。水深は5~15メートルくらいです。上記のカメの目撃日は9月の10日。場所は対馬の北海上10キロくらいです。死亡した個体の写真を添付しております。漁業を営む上で海と海洋生物に多大な影響、被害を与えております。その事を心頭におき、感謝の念と、少しでも未来にこの環境を残していけるよう心がけていこうと考えます。目撃しましたら又ご連絡いたします。

\*\*\*\*\*  
兵庫県 廣田福子さんより (10/2)

先日訪れた奄美大島・加計呂麻島のスリ浜で、ウミガメの死体を発見しました。カラスが群れていて気づきました。近づいてみると随分中身もひっぱりだされてお腐敗が進んでいるようでした。古いものなら、既にご近所の方が連絡されているかもしれませんが、念のため携帯で写真を撮影したものを添付にて送ります。事務局より:ウミガメはタイマイでした。

\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報09-33(12/29)

\*\*\*\*\*  
千葉県 根上昌久さんより (10/3)

館山市の坂田海岸東にて、ウミガメの漂着がありました。事務局より:いただいた写真には、アカウミガメが写っていました。

\*\*\*\*\*  
愛知県 中村幸生さんより (10/4)

2009年10月3日15時40分頃、豊橋市野外教育センター近くの浜辺でウミガメの死体を発見しましたのでご報告いたします。場所は、野外教育センターから砂浜を西南西の方向に進んだところにある消波ブロック群です。死体は腐敗が進んでおり、頭部は既に無くなっていましたが、特に外傷は見られませんでした。大きさは4~50cmくらいだったと思います。死体の状況からすると、消波ブロックの窪みに入ってしまい出られなくなったのではないかと思います。事務局より:いただいた写真にはアオウミガメが写っていました。

\*\*\*\*\*  
北海道 興膳康敏さんより (10/5)

ウミガメの漂着が確認されましたので、報告します。場所:北海道登別市大和町2丁目富岸川河口付近、サイズ:長さ71cm、幅60cm 事務局より:いただいた写真には、アカウミガメが写っていました。

\*\*\*\*\*  
沖縄県 匿名の方より (10/6)

先日9月27日、中城村の海岸で体長80cm程のウミガメの死体が砂浜のビーチに打ち上げられていました。



ウミガメの損傷は頭部が朽ち果てていて、他の体にはほとんど傷は外見からは見当たらず、腐敗もしていませんでした。はじめは、船から見たとき、波打ち際でウミガメが動いているように見え、お客と話していたのですが、船を近くへ寄せると頭部が確認できない状況でした。写真を撮ろうと思いましたが、あまりにも無残な姿だったので撮影しませんでした。

\*\*\*\*\*  
宮城県 堀江和一さんより (10/7)

海岸でイシモチ釣りをしている時に発見したウミガメです。発見日時：平成21年10月3日午後2時頃、発見場所：宮城県ゆりあげ海岸 事務局より：いただいた写真にはアカウミガメが写っていました。

\*\*\*\*\*  
千葉県 鶴澤直樹さんより (10/12)

先日旅行の際にたまたまウミガメの死体が浜に上がっているのを見かけました。場所は静岡県須崎御用邸近くの九十浜海水浴場です。発見日は2009年10月10日昼ごろです。2日ほど前台風が通過したはずですが、首がちぎれていたのと右手の先の方が一部損傷しておりました。首からは体液(血液、その他)がぼたぼたと垂れていました。死体に遭遇し残念でしたがせめて何かのお役に立てればと情報提供致します。

\*\*\*\*\*  
静岡県 大塚幸彦さんより (10/12)

10月11日、静岡県西伊豆大瀬崎湾内で、アオウミガメを見かけました。タグの番号は以下のとおりです。右手：33888、右足：33889備考：最新の情報では、16日にも大瀬崎周辺でこの個体が目撃されたとのことです。また、別な目撃情報によれば、このウミガメは、海藻ではなく、オオサンゴイソギンチャクやサンゴイソギンチャク、それにナガヒカリボヤをむさぼるように食っていた、とのことです。結構たくましく生き抜いているようですね。事務局より：この情報は、今井田清一さん、久保田昭久さんからもいただきました。この個体を放流したのは、南知多ビーチランドさんでした。【放流情報】放流日：2009年8月24日、放流場所：愛知県知多郡美浜町奥田海岸、放流個体：2005年産アオウミガメ、放流時サイズ：SCL50.2cm、CW42.0cm

\*\*\*\*\*  
秋田県 斎藤和敏さんより (10/12)

ウミガメの採捕について連絡します。定置網にかかったウミガメに標識が付いていたことから、漁業者が持ち帰り漁協内の活魚水槽に一旦収容。漁協経由で水産振興センターに連絡を受け、標識確認、甲長測定、写真撮影後、漁船にて沖に放流しました。(ウミガメは、元気が良く押さえるのがやっとでした)採捕日：2009年10月12日、場所：秋田県湯上市天王沖、漁具：小型定置網(水深約20m)採捕者氏名：伊藤勝美、標識番号 右手：64067、左手：64068、甲羅の長さ：73cm 事務局より：この個体を放流したのは、のとじま水族館さんでした。【放流情報】放流日：2009年7月24日、放流場所：石川県羽咋郡志賀町高浜町の砂浜、種：アオウミガメ(オス)、直甲長73cm、体重60.9kg、標識番号：JPN64067、JPN64068、その他：甲羅の一部変形していた

\*\*\*\*\*  
北海道 宇仁義和さんより (10/13)

オサガメの漂着がありましたので、報告いたします。発見日：2009年10月13日、発見場所：北海道網走市藻琴川河口左岸、発見時の状態：死亡、計測値 体重：130kg、直甲長：104.6cm、直甲幅：67.8cm、曲甲長：114.4cm、曲甲幅：81.4cm、全長：136.8cm、

\*\*\*\*\*  
大阪府海遊館 野間康平さんより (10/14)

ウミガメ協議会の標識のついたアオウミガメが入網しましたので連絡いたします。場所：以布利共同大敷組合沖網、入網日時：2009年10月13日昼、標識番号：左前肢一銀色タグJP5944、後肢一黄色タグJPN55831(左)、55832(右)です。アオウミガメは単独で入網し、そのまま放流されました。事務局より：この個体を放流したのは、クラブ・ノア母島さんでした。

【放流情報】放流年月日：2009年8月7日、放流場所：小笠原村母島臨浜、測定年月日：2009年4月23日測定値SCL 95.1cm SCW 70.9cm CCL 96.3cm CCW 87.0cm  
\*\*\*\*\*  
福井県海浜自然センター 児玉さんより (10/15)

オサガメが生きたまま定置網に混獲されたとの連絡がありましたので、報告いたします。発見者：浦谷俊晴、発見日：2009年10月15日、種：オサガメ、CCL:1200mm SCW:657mm 装着標識：57307、57308、57309、57310 事務局より：福井県立大学ふくいうみがめサークルの皆さんが調査に行ってくださいました。\*\*\*\*\*  
山口県水産研究センター 内田喜隆さんより (10/16)

貴協会が放流したと思われるタグ付きウミガメ混獲の情報がりましたのでお知らせします。知らせてくれた漁業者によると、再放流し元気に泳いでいったとのことです。漁業者が気に掛けておられましたので、この亀の放流時等の情報についてお知らせいただけると幸いです。<日時>2009年10月14日12:30頃、<場所>瀬戸内海伊予灘祝島南沖北緯33度43分東経132度01分付近、<漁法>小型底びき網、<標識記載内容>ウミガメJAPAN62346 事務局より：この個体を放流したのは、当会室戸基地でした。【放流情報】<日時>2009年2月24日、<場所>高知県室戸市室戸岬町三津地先、<漁法>大敷網、<種>アカウミガメ、<サイズ>標準直甲長74.8cm

\*\*\*\*\*  
和歌山県すさみ町エビとカニの水族館 平井さんより (10/16)

タイマイが混獲されたとの連絡がありましたので報告いたします。発見日：2009年10月16日、状況：混獲(エビ刺し網)、状態：死亡(硬直がはじまっている)、種：タイマイ、大きさ：甲長 50cmくらい 事務局より：サンプルとしてこの個体をお送りいただきました。

\*\*\*\*\*  
千葉県 根上昌久さんより (10/18)

館山市波佐間海岸にてウミガメの漂着がありましたので、報告します。事務局より：いただいた写真には、アオウミガメが写っていました。

\*\*\*\*\*  
京都府 阿部さんより (10/19)

漂着したウミガメを発見しましたので、報告します。



発見現場は京都府宮津市の神埼海水浴場の由良川河口右岸に程近い浜辺。種：アオウミガメ

\*\*\*\*\*  
宮城県 樋口圭一さんより (10/19)

発見日時：平成21年10月17日土曜・16時10分発見、  
天候：晴、気温20℃、現地海水温：18℃、発見場所：宮城県山元町・山下海岸にて発見、発見時状況：甲羅の長さは、およそ60cm位、幅は、40cm位、波打ち際の、砂の粒子は荒目で～車乗り入れが4台(約りの為)有り砂浜の表面はかなり踏み固められた感じでした。海岸法で、砂浜への車の乗り入れは禁止されていますし、ウミガメ保護・海岸浸食防止となる砂浜の植物等の保護の為に砂浜への乗り入れをしないでくださいと理解して貰えるように、説得し納得して頂きました(4台全車、納得して頂きました)。漂着ゴミとしては、流木等(大木)がかなり散乱していました(台風18号の影響かと思えます)事務局より：いただいた写真にはアカウミガメが写っていました。2個体目は：同じ日に同じ海岸で、第1発見場所から30m位の処で発見しました。発見日時：平成21年10月17日土曜・16時20分発見、発見場所：宮城県山元町・山下海岸にて発見、発見時状況：甲羅は白骨化していました。甲羅の長さは、40cm位で円形状態でした。甲羅を返して、腹部の状態も見て見ましたが、既に白骨化していたので、タグや内蔵等の状態を確認する事は出来ませんでした。以前に、お送りしたスタンディングの海岸(蘆生海岸・深沼海岸)から福島県の相馬港附近を探索調査しています。まだ宮城県の山元町・山下海岸附近で～相馬港までは、砂浜を徒歩で片道4時間位の距離ですが、地道に探索調査しようかと思っています。これからも、発見しましたら画像を送りますので、よろしく願います。事務局より：いただいた写真にはアオウミガメが写っていました。

\*\*\*\*\*  
和歌山県 田名瀬英朋さん (10/22)

タイマイ1個体の漂着(死亡個体)がありましたので報告します。場所：和歌山県西牟婁郡白浜町富田・牛ヶ巻浜。確認・測定日：10月18日。発見者：櫻山嘉郎氏。個体の状況：鱗板剝離中・首の周囲に擦り傷あり。標識なし。性別：不明。大きさ：標準直甲長43.2cm、直甲幅34.6cm。測定後に現場へ埋没。  
\*\*\*\*\*

#### ■ウミガメ速報09-34 (12/30)

\*\*\*\*\*  
宮城県 橋本勝さんより (10/23)

本日(23日)、久しぶりに仙台市の南に隣接する名取市北釜の海岸の様子を見てきましたので、報告します。●1個体目。発見場所：名取市北釜(北緯38°08'03"07 東経140°56'33"39)、種：アカウミガメ、サイズ：SCL 79cm SCW 62cm、●2個体目。発見場所：名取市北釜(北緯38°08'01"95 東経140°56'32"02)、種：アカウミガメ、サイズ：SCL 78cm SCW 64cm、●3個体目。発見場所：名取市北釜(北緯38°08'01"12 東経140°56'31"81)、種：アカウミガメ、サイズ：SCL 70.5cm SCW 63cm、●4個体目。発見場所：名取市北釜(北緯38°07'59"65 東経140°56'31"02)、種：アカウミガメ、サイズ：

SCL 70cm SCW 60cm、●5個体目。発見場所：名取市北釜(北緯38°07'59"65 東経140°56'31"02)、種：アカウミガメ、サイズ：SCL 65cm SCW 約54cm  
\*\*\*\*\*  
熊本県 平田剛さんより (10/24)

標識の付いたウミガメが混獲されましたので、報告いたします。再捕獲日：2009年10月24日 10:00頃(発見した日時)、再捕獲場所：熊本県八代市不知火海(しらぬかい)、生死：死亡、漁法：定置網種：アカウミガメ、標識番号：JPN64516、大きさ：目測で1mくらい(頭～しっぽ)、処置：海に流す、備考：ウミガメが浮いていたがにおいはまだしなかった。ここ最近ウミガメを見ていなかったから網に絡まっていたびっくりした。20年ほど前に1回ウミガメがかかったことがあったが、その時は生きていたから放流した。事務局より：この個体を放流したのは、鹿児島県の宮内叶さんでした【放流情報】捕獲場所：鹿児島県野間池しるせ定置網、放流日時：2009年6月25日、種：アカウミガメ、標準直甲長：832mm、最小直甲長：820mm、直甲幅：663mm

\*\*\*\*\*  
三重県 ハマナカさん、ヒガシさんより (10/26)

標識のついたウミガメが混獲されましたので、報告いたします。再捕獲日：2009年10月24日、再捕獲場所：三重県尾鷲市梶賀町神須付近、生死：死亡、漁法：エビ刺し網、種：アオウミガメ、大きさ：目測50cm、標識番号：JP51635、備考：ひきあげてから2～3日たっている。事務局より：この個体を放流したのは、小笠原海洋センターでした【放流情報】放流年月日：2007年1月1日、放流場所：小笠原村父島大村海岸、測定年月日：2006年12月15日、測定値：SCL 21.2cm SCW 18.5cm CCL 22.4cm CCW 21.1cm BW 1640g  
\*\*\*\*\*  
茨城県 渡辺国広さんより (10/26)

仙台湾南部海岸におけるアカウミガメ死亡漂着の連絡がありましたので報告します。発見日：2009年10月20日、解剖日：2009年10月23日、解剖者：渡辺国広、発見場所：N37°57.705', E140°54.924' (仙台湾南部海岸宮城県山元町)、種：アカウミガメ、サイズ：MCL 69.0cm (CCL 74.0cm)、SCW 55.0cm (CW 74.8cm)、性別：不明、状態：頸部および四肢付け根がやや膨満しているものの、四肢の欠損や眼球突出がなく比較的新鮮。右の第2～第5肋甲板にかけて縁甲板との境界部付近に剥離あり。腹部は左右の亜縁甲板に穴あり。その他は目立った外傷なし。解剖したところ、腹部脂肪厚は1.5cmほどあり栄養状態は良い。肝臓はやや脆弱ながら形状を留めている。胆嚢は胆汁出てこず。食道、胃に内容物なし。腸中間部にウニの棘および殻の破片多数。マボヤの断片。プラスチック袋片。イガイ属の殻。解剖終了後現地に埋葬。  
\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*  
宮城県 樋口圭一さんより (10/27)

宮城県山元町(アカウミガメの産卵の北限地)からの漂着個体です。1個体目。発見日時：平成21年10月24日14時45分発見、発見場所：宮城県山元町磯浜海岸附近、状況：甲羅の長さが78cm、幅が65cmで、頭部・手足共に無し。波打ち際からは、20～25m位の処で発見。少し腐敗臭い。手足無い為に、タグは



確認出来ず。2個体目、発見日時：平成21年10月24日15時発見、発見場所：宮城県山元町磯浜海岸附近、状況：甲羅の長さが75cm、幅が60cmで、頭部・手足共に無し。発見場所から、10~15m程横（南側）の処で発見。海浜の漂着ゴミとしては、流木がかなり漂着していました。事務局より；いただいた写真より、2個体ともアカウミガメとわかりました。  
\*\*\*\*\*  
徳島県日和佐うみがめ博物館 田中宇輝さんより  
(10/29)

今年のウミガメ漂着情報を送ります。発見年月日：2009年8月14日、発見場所：徳島県牟岐町古江の浜、種：オサガメ、サイズ：SCL1087mm SCW 733mm HL225mm、備考：腐敗により消化管内容、性別は不明、骨格全てを採取した。ずいぶん前に打ちあがったとのこと。発見年月日：2009年8月26日、発見場所：徳島県大里松原海岸、種：アオウミガメ、サイズ：SCL 715mm SCW 556mm、備考：解剖できず、埋葬発見年月日：2009年10月13日、発見場所：徳島県アブ漁港付近の海岸、種：アオウミガメ、サイズ：SCL 767mm MCL 766mm SCW 639mm CCL 781mm CCW 775mm PL 615mm PW 566mm、備考：四肢無し、頭部無し状態で、頭骨のみ白骨化して、体の上に置かれていた。8日当たりうちあがったとのことだが、頭部の白骨度合いから、一月以上は立っているように思われるが、内部は腐敗しきっていなかった。消化管には、海藻がビッシリ入っていた。卵巣らしきブツブツがあったので雌。消化管の一部、上腕骨、腹甲、背甲を採取  
\*\*\*\*\*  
徳島県日和佐うみがめ博物館 田中宇輝さんより  
(10/29)

標識の付いたウミガメが漂着しましたので、報告いたします。発見日：2009年10月26日、種：アカウミガメ、発見場所：徳島県阿南市福井町？高瀬（蒲生田付近）サイズ：SCL815mm、MCL802mm、SCW660mm、雌雄：メス（発達した卵巣あり）、生死：死亡、標識：左前肢：モネルタグ38655、右前肢：標識が抜け落ちていた、備考：左側中部に大きなフジツボ2つ。太っててすごく重たい個体であった。腹部にはビッシリ脂肪がついていた。死骸はガスがたまっていたが、新鮮で、死後一週間以内と考えられた。消化管には魚類の骨やあごの骨がたくさん入っていたので、混獲と考えられたが、肺には水が入っていなかったように見えた。事務局より：この個体を放流したのは、屋久島うみがめ館でした【放流情報】カメ種：アカウミガメ、TAG種：モネル38655、TAG装着日：2004/6/27、装着地：永田前浜、上陸状況：2004/6/27永田前浜上陸・産卵（1回確認のみ）、（モネル：38655・良質プラスチック：24724同時装着）

\*\*\*\*\*  
福岡県ダイビングクラブサンズ 木村さんより  
(10/30)

長崎県五島列島、福江島の崎山漁港沖海域に漂流中のアオウミガメの死体を発見しました。タグが付いていましたので写真をお送りします。定置網の多い海域なので迷い込んだりしたのかもかもしれません…事務局より：この個体を放流したのは、鹿児島県の宮内叶さんでした【放流情報】発見・放流日：2009/10/10、標識：JB73116、JB73115、サイズ：SCL 735mm MCL

729mm SCW 593mm CCL 771mm CCW 712mm

\*\*\*\*\*  
和歌山県 本山昌史さんより (10/31)

10月30日夕方4時頃、和歌山県田辺市天神峰の海岸にウミガメ60~70センチの死骸が漂着しました。種類などはわかりませんが、あまり損傷していないようです。場所は、丸山の白灯台から北に約100メートルのところ。遊歩道からでも確認できます（遊歩道から約20メートル）今朝方も確認してきましたがまだありません。どこに連絡していいのかわからずウェブで調べて連絡させていただきました。事務局より；いただいた写真にはアオウミガメが写っていました。

\*\*\*\*\*  
福岡県 上田博文さんより (11/1)

オサガメが漂着しましたので報告します。発見日：2009年10月30日、発見場所：福岡県宗像市  
\*\*\*\*\*  
長崎県 町田さんより (11/2)

標識のついたウミガメが混獲されたので報告します。再発見日：2009年11月2日、再発見場所：長崎県平戸市生月、生死：生、漁法：定置網、標識番号：64551

事務局より：この個体を放流したのは、鹿児島県の宮内叶さんでした【放流情報】発見・放流日：2009/07/14、発見場所：鹿児島県野間池しろせ定置網、種：アオウミガメ、生死：生、性別：不明、標識：64552、64551、サイズ：SCL 709mm MCL704mm CCL 736mm SCW 583mm CCW 690mm

\*\*\*\*\*  
大阪府 吉村みなみさんより (11/6)

友人からウミガメの漂着情報を受けましたので、報告します。発見年月日：2009年11月2日夜12時50分発見、発見場所：和歌山県田辺市天神峰、甲長：約100mm  
\*\*\*\*\*  
鳥取県立博物館 一澤圭さんより (11/13)

ウミガメの漂着情報がありましたので報告いたします。発見年月日：2009年11月13日、発見場所：鳥取県境港、サイズ：SCL 79.5cm、MCL 63.5cm、備考：昨日は生きていたものの、本日は死亡してしまったようです。事務局より：いただいた写真には、アカウミガメが写っていました。

\*\*\*\*\*  
千葉県 三田久徳さんより (11/13)

千葉県館山水産事務所に報告された座礁ウミガメに貴協議会の標識が付いていたので報告いたします。なお、標識ウミガメのデータは下記のとおりです。標識番号：JPN64455、発見場所：千葉県館山市塩見地先海岸、日時：平成21年11月9日午後4時30分 事務局より：この個体を放流したのは、当会室戸基地でした。【放流情報】発見・放流日：2009/6/10、発見場所：高知県室戸市高岡大敷、種：アカウミガメ、SCL 699mm MCL 691mm CCL 747mm SCW 558mm CCW 645mm BW 53.5kg、生死：生存、標識：64455、64456、65859、65860

\*\*\*\*\*  
沖縄県 植田浩子さんより (11/15)

ウミガメの漂着がありましたので、報告します。日時：2009/11/15 16:40頃、場所：石垣島太田湾伊土名の海岸、種：アオウミガメ、サイズ：CCL 528mm CCW 494mm、計測方法：メジャー、タグ：なし、状況：大



の散歩をしていたところ、犬が穴を掘ったので見るとウミガメだった。いったん帰宅し、シャベルとカメラを持参して再び海岸へ。そこから私も同行。石の多い海岸で、シャベルで掘る最中も石がゴロゴロしていて、掘りにくかった。四肢、頭有り。目玉なし。それほど膨張しておらず、漂着してまだ日がたっていないようだった。処理：波打ち際が近く少し後ろに埋め直そうかと思ったが、もともと幅のない海岸。適切な場所がなく、その場に埋設した。

\*\*\*\*\*  
神奈川県 伊藤直人さんより (11/19)

既に白骨化したものですが、報告入れておきます。発見日時：2009年11月4日、漂着しているポイント：沖縄県小浜島トゥマールビーチ、発見した個体の特徴：イルカ？とともに白骨化したものが散乱、タグ等は見当たらなかった(と思う)事務局より：いただいた写真には、アオウミガメの骨が写っていました。

\*\*\*\*\*  
財団法人自然環境研究センター 間曾左智子さんより (11/19)

11月2日の午前中、茅ヶ崎の海岸にて、写真の個体の漂着を発見しました。事務局より：いただいた写真には、アカウミガメの子ガメが写っていました。

\*\*\*\*\*  
愛知県 林重雄さんより (11/21)

ウミガメ漂着は珍しくありませんが、オサガメの漂着を確認しましたので連絡差し上げます。発見日時：11月21日・地元の人のお話では19にはあったらしい。発見場所：福井県美浜町松原海岸、種：オサガメ、体長：1.7m、雌雄：不明 事務局より：福井県立大ふくいうみがめサークルと当会日本海支部の島達也が調査を行いました。

\*\*\*\*\*  
静岡県カレック君のふる里を守る会 西野和俊さんより (11/23)

11月22日の朝に田中輝彦氏からストランディングがあるから昼過ぎに処理をする。と連絡が入りました。処理済みですが協議会にお知らせしておきます。発見場所：静岡県湖西市白須賀海岸、種：アカウミガメ、サイズ：SCL 81.9cm WCL 80.5cm SCW 61.9cm、備考：打ち上げられていた場所は波打ち際よりも30m以上も陸地なので10月の台風18号で打ち寄せた波で上がり砂の中の埋もれた状態で遠州のからっ風っと言う言葉がありますから、この時期の西風で砂が飛ばされ出てきたと思います。外傷は見られませんでした。

\*\*\*\*\*  
和歌山県 深井雅司さんより (11/24)

和歌山県の由良町衣奈(えな)海水浴場北側地蔵でウミガメの甲羅が漂着していました。甲羅表面は模様が少し残っていますが、白くなった部分もありました。又、頭部側か尻尾側が少し無くなっています。一年位前にも貴サイトの写真のようストランディングを見た事が有り、どうして亡くなったかが気になり、調べてたら貴サイトを見つけました。

\*\*\*\*\*  
愛知県 林重雄さんより (11/27)

ちょっと前の記録ですが面白い例なのでお知らせします。2009年2月22日、福井県若狭町食見海岸でビーチコーミング講座の折、参加者が面白いものを見つけ

ました。それは何とタイマイの嘴でした。事務局より：いただいた写真には確かにタイマイの口蓋の先端が写っていました。

\*\*\*\*\*  
沖縄県 高橋光範さんより (11/27)

偶然にウミガメの遺体を2つ発見いたしましたので何かのご縁と思い、ご報告させていただきます。便宜上「a」「b」にて識別しております。遺体aおよびbについて、発見日時：aは2009/11/26 18:00頃 bは2009/11/27 16:00頃、発見場所：宮古島市島尻海岸にてaおよびbは日時は違いますが発見場所は同じ海岸で距離約50mほど離れた地点種類：わかりませんが2体とも同じ種類だと思います、甲羅の寸法：aは約50cm、bは約59cm ※aについては前日に発見したのですが、暗すぎて写真が撮れず、翌日に撮影しなおすつもりで再訪した際にbを発見した次第です。aについては腐乱状態がひどく、ハエがたかかっておりました。bは見た目はきれいでしたが、触れてみると水ぶくれのようでプロポヨしておりました。尚、私2009年5月から宮古島に住んでおり、島尻海岸へは釣りにも度々訪れましたが、この海岸で過去ウミガメを見かけたことはございません。事務局より：いただいた写真より、2個体ともアオウミガメとわかりました。

\*\*\*\*\*  
山口県萩博物館 堀成夫さんより (11/27)

近くでウミガメの死骸の情報を入手しましたのでご連絡させていただきました。発見日：2009年11月上旬、発見地：山口県阿武町清ヶ浜(きよがはま)、種：アオウミガメ、サイズ：甲長65cm、発見時の状態：死骸、状況：波打ち際から100m以上離れた砂の上で、発見時すでに死亡していたようです。そのまま放置され、本日私が別件で近くに行った際に事情を聞いたので案内してもらって見に行ったところ、すでに腐敗が進み収縮し破損している状態でした。

\*\*\*\*\*  
神奈川県 伊藤直人さんより (11/29)

昔の写真を探していたところ、1つありましたので写真を送付します。古くて役立たないかもしれませんが。発見日時：2006年8月10日、漂着しているポイント：神奈川県城ヶ島(西側の磯の奥ほとんど通路わきの空地)、発見した個体の特徴：アカウミガメ?大きかった(1m近い?)記憶が、大きすぎて、持ち帰れなかった。その頃はタグのことを知らなかった。見ていません。事務局より：いただいた写真には、アカウミガメが写っていました。

\*\*\*\*\*  
佐賀県 大津安夫さんより (11/30)

標識ウミガメが再捕されましたので、報告いたします。採捕日：2009/11/30、採捕場所：佐賀県唐津市鎮西町加唐島(かからじま)、漁法：定置網、標識番号：JPN73020、備考：標識を回収後、ウミガメは現場で放流したと報告があった。事務局より：この個体を放流したのは、当会室戸基地でした。【放流情報】発見・放流日：2009/9/14、放流場所：高知県室戸市三津漁港、種：アカウミガメ、サイズ：SCL 769mm SCW 597mm、標識：73020、73021、68534、68535

\*\*\*\*\*

うみがめニュースレター編集委員会

編集委員長 松沢慶将

編集顧問 亀崎直樹・菅沼弘行

編集委員

田中真一・平手康市・堀越和夫・山口真名美

編集補助 岡本慶

デザイン

宮原尚子

**Editor**

**Yoshimasa Matsuzawa**

*Sea Turtle Association of Japan, Hirakata, Japan*

*E-mail: ymatsu@umigame.org*

**Editorial Adviser**

**Naoki Kamezaki**

*Department of Ecosystem Studies, University of Tokyo  
& Sea Turtle Association of Japan, Hirakata, Japan*

**Hiroyuki Suganuma** (founding editor)

*Everlasting Nature of Asia, Yokohama, Japan*

**Editorial Board**

**Shinichi Tanaka**

*Everlasting Nature of Asia, Yokohama, Japan*

**Kouichi Hirate**

*Sea Turtle Association of Japan, Naha, Japan*

**Kazuo Horikoshi**

*Institute of Boninology, Ogasawara, Japan*

**Manami Yamaguchi**

*Ogasawara Marine Center, Ogasawara, Japan*

**Assistant**

**Kei Okamoto**

*Department of Ecosystem Studies, University of Tokyo, Japan*

**Designer**

**Naoko Miyahara**

*Sea Turtle Association of Japan, Hirakata, Japan*

2010年3月31日発行

発行 うみがめニュースレター編集委員会

〒100-2101 東京都小笠原村父島字屏風谷

小笠原海洋センター

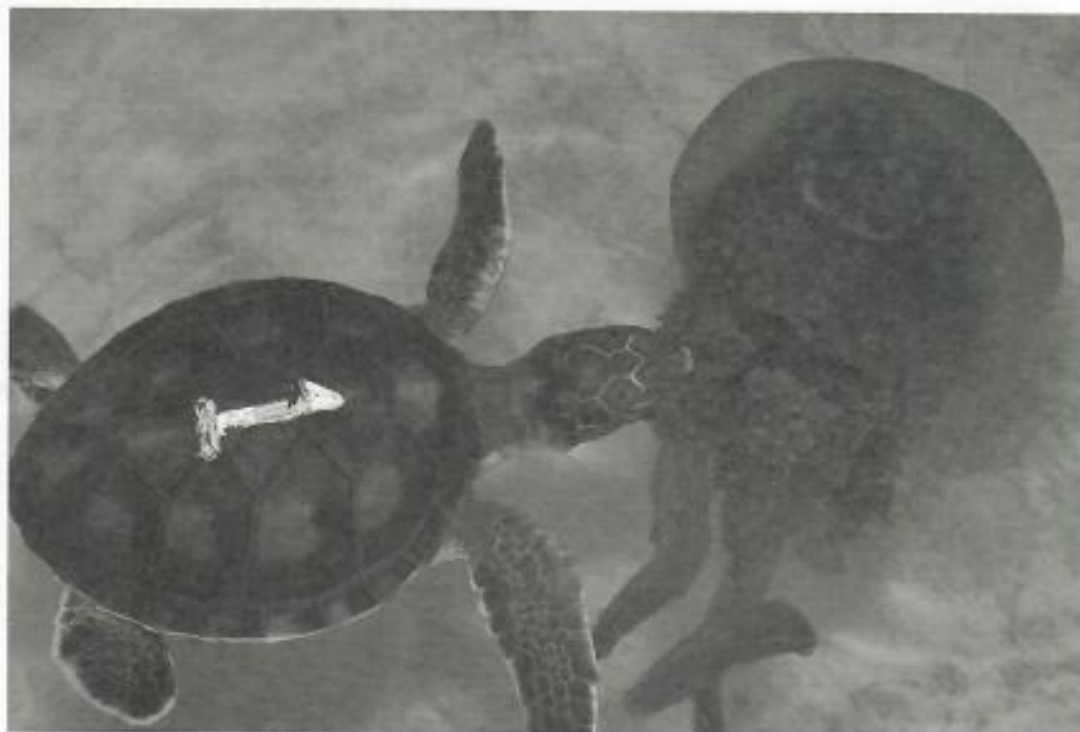
E-mail: newsletter@umigame.org



# うみがめニュースレター

UMIGAME NEWSLETTER OF JAPAN

No.87 2011



## 目次

- 玳瑁龜圖説の現代語訳（その1）……………多胡 彰郎… 2
- クラゲを餌料としたアオウミガメの稚ガメの成長  
……………すさみ町立エビとカニの水族館 平井厚志… 5
- 外部形態の体表部位の名称の提案……………優谷真理・亀崎直樹…10

## ■デジタル(PDF)版も利用できます

専用サイト ([http://www.umigame.org/j1/katsudou\\_newsletter.html](http://www.umigame.org/j1/katsudou_newsletter.html)) からネット上でデジタル版(PDF版) うみがめニューズレターをダウンロードしていただくことができます。デジタル版の利用が可能な方で、アナログ版(紙に印刷され郵便で届く従来の冊子)の配信中止をご希望の方は、お手数ですが、[newsletter@umigame.org](mailto:newsletter@umigame.org)までご連絡ください。タイトルに、「アナログ版不要」とご記入の上、本文には、受取人氏名(封筒に明記してある個人名または団体名)を明記してメールを送信してください。経費削減と紙資源の節約に対する皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## ■寄付のお願い

「うみがめニューズレター」は、小笠原村からの補助と日本ウミガメ協議会からの援助および一部の読者からのご寄付で無料にて発行を続けております。経費のほぼ全てを占める印刷費・送料を圧縮するため、PDF配信の導入など経費節減につとめてきますが、引き続き厳しい状況にあります。これからも有意義な誌面作りに編集委員一同努力いたしますので、今後も皆様からの温かいご寄付をお待ちしております。切手の寄付も大歓迎です。また協賛広告も併せて募集中です。詳細はメールで [newsletter@umigame.org](mailto:newsletter@umigame.org) までお問い合わせください。

郵便振替口座 10120-25391001

加入者名 うみがめニューズレター編集委員会

〒100-2101 東京都小笠原村父島字屏風谷 小笠原海洋センター内

## ■寄稿者へのお知らせ

本誌はウミガメに関する国内唯一の総合情報誌として、関連するあらゆる情報を取り扱い掲載しています。生物学的知見はもちろんのこと、ウミガメに関わる民俗、保護、論評や意見、会議報告なども含みます。様式は特に定めるものではありませんので、読者の皆様もどうぞお気軽にご寄稿ください。寄稿者には編集委員会から記念の粗品を差し上げております。なお、本誌はISSN番号の登録を受けた定期刊行物で、海外の関連機関や研究者へも配布しております関係上、編集の際に英文の要旨とタイトルをつけております。予めご了承下さい。

## ■Cover photograph

表紙の写真は水面を泳ぐタコクラゲを摂餌するアオウミガメ。  
詳細は「クラゲを餌料としたアオウミガメの稚ガメの成長」の本文(5ページ〜)をご覧ください。



## ■デジタル(PDF)版も利用できます

専用サイト ([http://www.umigame.org/j1/katsudou\\_newsletter.html](http://www.umigame.org/j1/katsudou_newsletter.html)) からネット上でデジタル版(PDF版) うみがめニューズレターをダウンロードしていただくことができます。デジタル版の利用が可能な方で、アナログ版(紙に印刷され郵便で届く従来の冊子)の配信中止をご希望の方は、お手数ですが、[newsletter@umigame.org](mailto:newsletter@umigame.org)までご連絡ください。タイトルに、「アナログ版不要」とご記入の上、本文には、受取人氏名(封筒に明記してある個人名または団体名)を明記してメールを送信してください。経費削減と紙資源の節約に対する皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

## ■寄付のお願い

「うみがめニューズレター」は、小笠原村からの補助と日本ウミガメ協議会からの援助および一部の読者からのご寄付で無料にて発行を続けております。経費のほぼ全てを占める印刷費・送料を圧縮するため、PDF配信の導入など経費節減につとめてきますが、引き続き厳しい状況にあります。これからも有意義な誌面作りに編集委員一同努力いたしますので、今後も皆様からの温かいご寄付をお待ちしております。切手の寄付も大歓迎です。また協賛広告も併せて募集中です。詳細はメールで [newsletter@umigame.org](mailto:newsletter@umigame.org) までお問い合わせください。

郵便振替口座 10120-25391001

加入者名 うみがめニューズレター編集委員会

〒100-2101 東京都小笠原村父島字屏風谷 小笠原海洋センター内

## ■寄稿者へのお知らせ

本誌はウミガメに関する国内唯一の総合情報誌として、関連するあらゆる情報を取り扱い掲載しています。生物学的知見はもちろんのこと、ウミガメに関わる民俗、保護、論評や意見、会議報告なども含みます。様式は特に定めるものではありませんので、読者の皆様もどうぞお気軽にご寄稿ください。寄稿者には編集委員会から記念の粗品を差し上げております。なお、本誌はISSN番号の登録を受けた定期刊行物で、海外の関連機関や研究者へも配布しております関係上、編集の際に英文の要旨とタイトルをつけております。予めご了承下さい。

## ■ Cover photograph

表紙の写真は水面を泳ぐタコクラゲを摂餌するアオウミガメ。  
詳細は「クラゲを餌料としたアオウミガメの稚ガメの成長」の本文(5ページ〜)をご覧ください。

玳瑁龜圖説の現代語訳（その1）  
Interpretation of Taimaigame-zusetu  
: Japanese Monograph of Hawksbill Turtle (1841)

多胡 彰郎  
Akio Tago

タイマイの鱗板はべつ甲細工の材料となること  
で有名であるが、薬効があることはあまり知  
られていない。筆者は薬理学の観点からべつ甲  
に興味があり、玳瑁龜圖説  
(www.geocities.jp/hmkwg/new\_page\_64.htm)  
の現代語訳を試みたのでここに数回に分けて紹  
介したい。

「玳瑁龜圖説」は1841年に金子直吉によって  
著されたものであるが、現存しているものは  
1862年に川尻清潭という日本橋甲問屋角屋の息  
子が二人の画家（三谷重緒と大堀廣方）に写さ  
せたもので、さらにそれが石川泓美によって  
1982年に復刻された。玳瑁龜圖説には、江戸時  
代の晩期に当時の日本に存在したタイマイに関  
するあらゆる種類の資料がまとめられており、  
最初には本草綱目の玳瑁之記が紹介されている。  
以下は現代語訳と解説。

『本草綱目』介部第四十五卷  
玳瑁 寶宋 タイマイ

後漢の劉熙は『釋名』の中で「玳瑁」と言  
う音は“代味”または“音毒目”に由来する  
と記載している。また、李時珍は『本草綱目』  
で「毒が自身の効力を失わせる解毒作用を持つ  
玳瑁に対して媚嫉（ねたむこと）したことから、  
“毒”と“冒（媚のつくり）”を用いて“玳  
瑁”という文字が使われるようになった」と記  
している。

○陳蔵器は『史記集解』で「タイマイは嶺南  
（現在の中国広東省および広西チワン族自治  
区）の山から水が流れてくる海岸で生まれる。  
卵ほどの大きさで、亀甲に似た文様がある」と  
記している。

陳士良は『食性本草』で「タイマイの体型は  
亀に似ていて、クチバシはオウムのようであ  
る」と述べている。

蘇頌は『新修本草』で「タイマイは、廣南  
（現在のベトナム）地域に棲み、大きなものは  
盤のようである。また、タイマイの腹と背の甲  
には紅點斑がある。薬として使用するには、生  
の甲を用いるべきである。毒のあるものを飲食

すると、必ず何らかの徴候があるものである。  
死んでしまえば生き返ることは出来ないので注  
意することが必要である。人々は亀を殺してそ  
の殻を器皿とする。また、鍋のようにも使用す  
るので、加熱しない生の殻を手に入れることは  
非常に困難である」と記載している。

李時珍は『本草綱目』で以下の引用をして、  
「玳瑁」を論じている。

范成大は『虞衡志』で「タイマイは海洋の深  
い場所に棲み、その体型は亀龜のように殻が  
長い。背には十二片の甲があり、黒白の斑が入  
り組んでおり、その殻の周りは鋸の歯のよう  
である。足はなくて四本の蹠がある。前蹠は長く  
後蹠は短くて鱗斑があり甲のようである。海人  
は塩水で飼育し、餌として小魚を与えている」  
と述べている。

『羅玳海槎録』には、「大きなタイマイの捕  
獲は稀であるが、小さなタイマイは時々捕獲さ  
れる。歳を経たタイマイの甲は厚くて色が明る  
いが、小さなタイマイの甲は薄くて色合いが暗  
い。タイマイの甲は鞭血斑の様であると言うが、  
これは間違いである。タイマイを仰向けにして、  
酢を入れて煮れば、簡単に甲が外れる」と記載  
されている。

『南方異物志』には、「大きなタイマイは蓮  
條(?)のようである。背には鱗があり、その大  
きさは弱ぐらいである。甲を取り外して文様を  
見て、煮て柔らかくして器を作る。鮫の皮で磨  
き、さらに枯木の葉で磨けば光り輝く」と記さ  
れている。

陸佃は「タイマイは一度だけ交尾をする。産  
卵に臨んで抱卵する、これを「護卵」という」  
と述べている。

○〔附録〕『嶽八兒』で李時珍は次のように記  
述している。すなわち、「劉備は『西域記』に  
「西海に棲む玳瑁は強精力の薬効を持つが、こ  
れはサメに吞食吐出を長年繰り返されたこと  
により得られた能力である。玳瑁は金のよう  
に高価であるため、偽玳瑁が横行するが、偽  
玳瑁を作る者は屎や牛の糞である」と記載し  
ている。この記載には玳瑁が強精力剤であると信じられ



必ずしも証明されたものではないので、研究により証明されることを望んでいる。

○甲〔気味〕甘みがあり、からだを冷やす作用がある。冠宗爽は『本草衍義』で、「薬としては、火を通さない甲が薬効を示し、湯通しや過熱したものは薬効を示さない。生のまま熟成させた犀角が薬効を示すことと同じことである」という。

○〔主な薬効〕陳蔵器は「嶺南にある百薬の毒を解す」と記している。『日華子本草』には「できもの皮を破り、できものの毒を消し、癰瘤の痼癢を抑える」と記載されている。陳士良は「神経症の治療に効果があり、不快な熱感を除き、血行を良くし、大小腸の働きを快調にする。その効果は肉と同等である」と述べている。李時珍は「玳瑁を磨って汁にして服用すれば蠱毒を解し、玳瑁を佩用すれば蠱毒を避けることができる」と記載している。また李時珍は「痘瘡を治療し、心神の動転、夜泣き、急性熱疾患の発熱やうわ言を鎮める」としている。

〔発明〕李時珍は「玳瑁は解毒作用を有し、熱を下げるが、その効果は犀角と同じである」のように述べている。

古い時代には処方されなかったが、宋時代になって初めて至寶丹として用いられるようになった。効能は鼈甲と同じである。

〔附方〕『醫一新一』には「蠱毒に対して効果がある。生玳瑁を磨って濃い汁とした後、水を加えて服用すれば直ぐに蠱毒を解く」と記載されている。

△『楊氏産乳方』には「痘瘡の治療に有効である。痘瘡の発症前に玳瑁を服用すれば発症を押さえ、発症する人は稀である。生玳瑁や生犀角を磨って、各々の磨汁を混ぜて、温水を加えたもの半合を日に三度服用すれば、最も効果的である」と記されている。

△『靈苑方』には「疱疹が化膿せず黒くしぼんだ状態は心熱血が凝った状態である。このような場合の治療には生玳瑁や生犀角を用いる。生玳瑁と生犀角を磨って混合した汁に猪心血を少々と紫草湯を五匙入れ、混和して温めて服用する」とされている。

△聞人規の『痘疹論』には「外邪（体に悪い外的要因）により涙が止まらないのは心腎が炎症を起こしているのである。生玳瑁、羚羊角各々一滴、石燕子一匙を粉末とし、薄荷を加えた湯にして、日に一服する」と記載されている。

△『鴻飛集』には以下の記載がある。

○肉に関する陳士良の記述には「〔気味〕味は甘く、体を温めたり冷やしたりすることはなく、毒ではない。〔主治〕諸々の外邪の毒や熱を解し、胸膈の風熱を下げ、気血を改善し、心身を鎮め、大・小腸の働きを活発化し、婦人の生理を順調にする」とある。

○血に関しては『開寶本草』に次の記載「〔主な薬効〕諸々の毒に対し解毒作用を示す。タイマイに刃物を刺して生血を飲む」がある。

#### 解説文

「本草綱目 玳瑁の記」は、中国の李時珍が著した『本草綱目』（1578年）介部第四十五巻の「玳瑁 寶宋」を基に「玳瑁」に関する記述をまとめたものです。「本草綱目 玳瑁の記」には『釋名』、『集解』や『附録』などの本草の名称や『時珍』、『蔵器』や『士良』などの本草の著者の名前が出てきますが、これらは略記されたもので整理すると次のようになります。

書名	著者	書名	著者	書名	著者
「本草綱目」	李時珍	「釋名」	劉熙	「史記集解」	陳蔵器
「食性本草」	陳士良	「新修本草」	蘇頌	「虞衡志」	范成大
「本草衍義」	冠宗爽	「西域記」	劉郁	「痘疹論」	聞人規

タイマイ（玳瑁、瑤瑁、*Eretmochelys imbricata*）は動物界脊索動物門爬虫綱カメ目ウミガメ科タイマイ属に分類され、インドネシア、セーシェル、モルディブ、西インド諸島等で繁殖し、その北限は日本といわれています。現在、タイマイの生態学的研究は進歩していますが、科学的な研究が本格的に始まったのは20世紀の中ごろからです。現代においても、タイマイに関する本草学的な知識は「本草綱目 瑤瑁の記」に記載されたとおりで、「原色和漢薬図鑑」（保育社）の記載内容のほとんどは「本草綱目」や「史記集解」（陳臓器）からの引用です。これは研究者が玳瑁は生薬としてあまり有用でないと考え、研究の対象としてこなかったためだと思います。

奈良県の上之宮遺跡で発見された玳瑁製品（琴の部品といわれる）が日本における最も古い痕跡といわれ、正式には遣隋使により中国から日本に持ち込まれたのが最初といわれています。正倉院には多くの玳瑁製品が残されていますが、正倉院の記録には玳瑁は「瑤瑁」と記されています。

李時珍は玳瑁が「瑤瑁」と記される由来は、「毒が自身の効力を失わせる解毒作用を持つ玳瑁に対して嫉妬（ねたむこと）したことから、

“毒”と“冒（媚のつくり）”を用いて“瑤瑁”という文字が使われるようになった」と記しています。その後時代が下るに連れて“瑤瑁”は“玳瑁”と書かれるようになりました。筆者は玳瑁が薬として使われるようになって、薬に対して“毒”と言う字を使用することは不適切だと考える人たちが、『釋名』（劉熙）に記載されている“代味”を基に“玳瑁”と記すようになったものと考えています。

漢方薬においては「気味論」という考え方が非常に大きな意味を持っています。「気味論」とは“「気」と「味」の相互作用により、漢方薬が薬効を発揮するという理論”で、「気」とは“生薬の性質について、身体を温めたり冷やしたりする寒熱の作用”のことをいい、「味」とは“生薬固有の味覚を薬効に関連させて考えた理論”のことをいい、一般的には「温薬」は甘味があり、「涼薬」は苦味がつよいと考えるようです。

「気味」には五気・五味があり、五味には「淡味・渋味」を加えて「七味」とされることもあります。これをまとめたものが以下の表です。生薬はこれらの理論をふまえて語られます。

五性(五気)			五味(七味)		
温薬	熱薬の作用よりも弱い	人参・黄耆・当帰等	酸味	収斂・収縮・固澀作用	五味子・山茱萸等
熱薬	刺激・興奮作用がある	附子・乾姜・桂皮等	苦味	清熱・瀉下・鎮静作用	黄連・黄柏・大黄等
平薬	寒熱どちらにも属さない	猪苓・茯苓等	甘味	滋補・和中・緩急作用	人参・黄耆・甘草等
涼薬	寒薬の作用より弱い	牡丹皮・連翹等	辛味	発散・解表・健胃作用	荊芥・桂皮・紫蘇葉等
寒薬	沈降・鎮静・消炎作用	黄連・黄柏・大黄等	鹹味	軟堅・散結・瀉下作用	牡蠣・芒硝等
			淡味	滲湿・利尿・鎮静作用	茯苓・猪苓等
			渋味	収斂・固精・止瀉作用	烏梅・赤石脂等



# クラゲを餌料としたアオウミガメの稚ガメの成長

## Growth of juvenile green turtle fed with jellyfish

すさみ町立エビとカニの水族館 平井厚志  
ATSUSHI HIRAI

はじめに

ウミガメやマンボウをはじめとする魚類がクラゲ類を捕食するということは比較的よく知られているが、実際に自然界でどの程度の割合で餌料として利用しているかはあまり知られていない。これは他の餌料に比べてクラゲ類の栄養価が低いこと、体が壊れやすく消化が速いことから餌料生物として認識及び重要視されてこなかったことに起因する(喜多村2004)。しかし一方で捕食の容易性や、海域によっては高密度に集積される特性に注目して、クラゲ類の餌料生物としての潜在的な重要性を指摘した例もある(西村1993)。最近では世界中の沿岸で様々なクラゲ類の大量発生が報告され(石井他2008)、鳥類、ウミガメ類、魚類、甲殻類、貝類等様々な動物が餌料として利用していることも明らかになってきている(喜多村2004 安田2007)。

ウミガメ類では、オサガメが主にクラゲを捕食するほか、アオウミガメでもわずかながら胃内容物調査から摂食が確認されている(亀田・石原2009)。また、すべてのウミガメ類が、ふ化後1年未満の浮遊生活中にはニューストーン性の浮遊生物を利用すると言われており(内田1995)、これにはクラゲ類も含まれていると考えられる。そこでクラゲ類がウミガメ類に与える影響の推測とクラゲの餌料としての価値を調べるため、紀伊半島沿岸で大量発生するタコクラゲを稚ガメに与え、その成長を記録したのでここに報告する。

材料および方法(飼育環境)

実験に用いたアオウミガメは、2010年7月中旬に小笠原諸島母島の人工産卵孵化場にて孵化した3個体で、当館に収容してから約2ヶ月間は人工餌料や生餌料(イカ、魚)で飼育したものである。飼育には、80cm(横)×60cm(縦)×35cm(深さ)のポリ容器を使用し、水深は25cmとした。観賞魚用ヒーター200Wを用いて水温を27℃に設定し、屋外(屋根つき日照時間平均7時間)に容器を設置し、各容器1個体ずつ飼

育した。

各個体の背甲にペンキで識別Noを書き込み、2個体をクラゲ給餌、1個体を比較のため人工餌料のみ給餌した。内訳は単独飼育で計測20日前からクラゲのみを試験給餌した個体をNa1、複数飼育していた中から抽出した直甲長のほぼ同じ2個体のうち、人工餌料(株式会社キョーリン カメのエサ)のみ給餌する個体をNa2、クラゲのみを給餌する個体をNa3とした。人工餌料は1日6gを2回にわけ給餌し、クラゲは摂餌するだけ与えた(後述)。成長を記録するため標準直甲長(SCL)、標準直甲幅(SCW)、曲甲長(CCL)、曲甲幅(CCW)、体重(BW)を毎日夕方計測し記録した。計測法はウミガメ保護ハンドブック(2006)に従った。(本稿では標準直甲長と体重のみ議論する。)ろ過槽は設置せず1~3日ごとに換水(天然海水)を行った。

餌料とするクラゲは近年夏から晩秋にかけ紀伊半島南岸の内湾部で大量発生するタコクラゲ *Mastigias papua* (LESSON) (写真1)を採集し用いた。タコクラゲは屋外に設置した300ℓの容器にエアレーションを行い、20個体ほど収容し、数日おきに採集・補充した。クラゲへの給餌は一切行っていない。朝、クラゲ1~3個体をウミガメに給餌し、なくなり次第新たにクラゲを投入した。その際、クラゲは1個体ずつザルで掬い上げて、傘径と湿重量を計測した。夕方ウミガメを計測するまでに与えた各個体の総湿重量を1日の摂餌量として記録した。使用したタコクラゲのサイズは傘径40mm~160mm、重量35~400gであった。

ウミガメへのクラゲ給餌および計測は9月中旬から10月末日までの39日間行った。

結果と考察

### 1 クラゲ摂餌方法

飼育したアオウミガメは2個体ともタコクラゲに対し強い嗜好性を示し、容易に摂餌した。クラゲ投入直後、傘部に執拗に摂餌を試みることも観察されたが、大まかな順番としては付属器/口腕→傘内部→傘周縁部→傘部で各部位を少し

ずつ引きちぎりながら摂餌した(写真2)。タコクラゲは傘部のみになっても拍動し遊泳するが傘内部および周縁部を摂餌されると底に沈む。タコクラゲ数個体を同時に入れた場合は目の前にあるものから無作為に各付属器または口腕をまず摂餌し、遊泳するタコクラゲが無くなると底に沈んだ傘部を摂餌した。沈降した遊泳力の乏しいタコクラゲよりも活発に水面下を泳ぐタコクラゲから摂餌する傾向があった。クラゲのサイズ(傘径)による摂餌法の違いは無かった。

自然下で発見されたウミガメ幼体が、水面の浮遊物を摂食している事が報告されている(平手・木村1996)。海流等によって移動し水面近くで生活するクラゲ類についても同様に摂食していると推測される。稚ガメ期のウミガメが水面下で摂食することは、結果的に摂餌行動におけるエネルギー消費を抑えることにつながっていると考えられる。

## 2 成長と摂餌量

標準直甲長と体重の推移を図1と図2に示す。標準直甲長はほぼ毎日増加し、クラゲを与えたNo.1とNo.3の平均成長速度はそれぞれ平均0.47mm/日と0.64mm/日であった。人工飼料を与えたNo.2は0.88mm/日で、実験個体の中では最も成長が早かった。体重については、一時的に若干の減少と停滞が見られたものの、No.2で最も大きく増加した。No.1とNo.3の体重は大きく増減を繰

り返ししながら緩やかに増加した。

クラゲ摂餌量の推移を図3に示す。期間を通じて全体的に増加傾向にあったが、13日目までは不規則な増減を繰り返し、14日目から20日目までは安定して増加し、21日目以降は再び1~3日おきに増減を繰り返した。体重の増減と摂餌量の増減はほぼ連動していた。クラゲ摂餌量の不規則な変動は、ほぼ一定に保った水温以外の要因があると考えられるが、期間が短く原因はわからなかった。

クラゲを与えた個体No.1とNo.3の1日当たりの摂餌量(湿重量)の体重比はそれぞれ、平均1.9(最大2.8)と平均2.5(最大3.8)であった。摂餌量に対する体重への還元率は、人工飼料(乾重量)の76%に対して、クラゲ(湿重量)で約0.75%と、大きな違いがあった(表1)。これは、クラゲの体重の90%以上が水分であることに加えて、消化吸収効率の悪さによるものと考えられる。

人工飼料を与えた個体では実験の前後で体色に目立った変化は見られなかったが、クラゲを与えた2個体では、頭部や背甲の一部が変色した(写真3)。また、摂餌時以外の遊泳時および計測時の四肢の動きは、人工飼料を与えた個体に比べてクラゲを与えた個体の方が不活発であった。クラゲ類には動物の生理機能にとって必須のビタミンがほとんど含有されていないことから(西村1993)、体色の変化や活力の低下もこうした栄養価の低さが原因と考えられる。



写真1  
タコクラゲ *Mastigias papua* と  
各部名称



写真2  
水面を泳ぐタコクラゲを  
摂餌するアオウミガメ



## まとめ

ウミガメの餌料としてのクラゲは大量摂餌が可能であっても栄養価が低く、単一餌料としての価値は低い。しかし摂餌の容易さと短期間で大量消化が可能であることから、同時に他の様々な餌料を摂餌することができれば、不足した栄養を補い、大きな成長が得られるのではないかと推測される。近年、世界中で報告されるクラゲ類の大量発生が、ウミガメの生活圏で起こりうるかどうかは判らない。だが摂餌の容易さを考えると、クラゲ類はウミガメ類にとって重要な餌料になっている可能性があり、成長、生存等に少なからず影響があるものと推測される。ただし期間が短く偏った条件で摂餌量の少ない稚ガメを用いた本実験では、すべてのウミガメ類に対するクラゲの重要性は導き出せない。今後ウミガメ生活圏でのクラゲ類を含めたその他生物の出現量や、種および成長の違いによる必須栄養素や消化速度など様々な角度からの検証が必要であると思われる。

## 謝辞

アオウミガメの入手、輸送に際しご協力いただいた小笠原母島漁業協同組合ならびにクラブノア母島の皆様、終始貴重な助言をいただいたすさみ町立エビとカニの水族館の森拓也館長、クラゲの採集と飼育でご協力いただいた田中貴晴氏に厚くお礼申し上げます。また実験のきっ

かけを与えていただくと共にご指導を賜った日本ウミガメ協議会の亀崎直樹氏に深く感謝致します。

## 参考文献

- 平手康成・木村基文. 1996: ロストエイジ期のアオウミガメの琉球列島海域での発見 (速報). うみがめニュースレター, No.29, 10-11.
- 石井晴人・秋保太郎・松田宗平. 2008: ゼラチン質プランクトン. 谷口 旭監修. 海洋プランクトン生態学. 成山堂書店. 194-217.
- 亀田和成・石原孝. 2009: 日本沿岸におけるアオウミガメの消化管内容物. うみがめニュースレター, No.81, 17-23.
- 環境省自然環境局・日本ウミガメ協議会. 2006: ウミガメ保護ハンドブック. 34pp
- 喜多村稔. 2004: クラゲ類の生物・生態学 (3) 食物網内でどのように位置づけられるか?. 海洋と生物150. Vol. 26, 1: 47-56.
- 並河洋・楚山勇. 2000: クラゲガイドブック. TBSブリタニカ. 東京. 120pp
- 西村和一郎. 1993: ウミガメの餌料としてのクラゲ類のエネルギーについて. うみがめニュースレター, No.16, 3-6.
- 内田至. 1995: 爬虫類の餌料. 新飼育ハンドブック 水族館編 1繁殖 餌料 病気. 社団法人日本動物園水族館協会. 67-70.
- 安田徹. 2007: エチゼンクラゲとミズクラゲ - その正体と対策 -. 成山堂書店. 188pp.

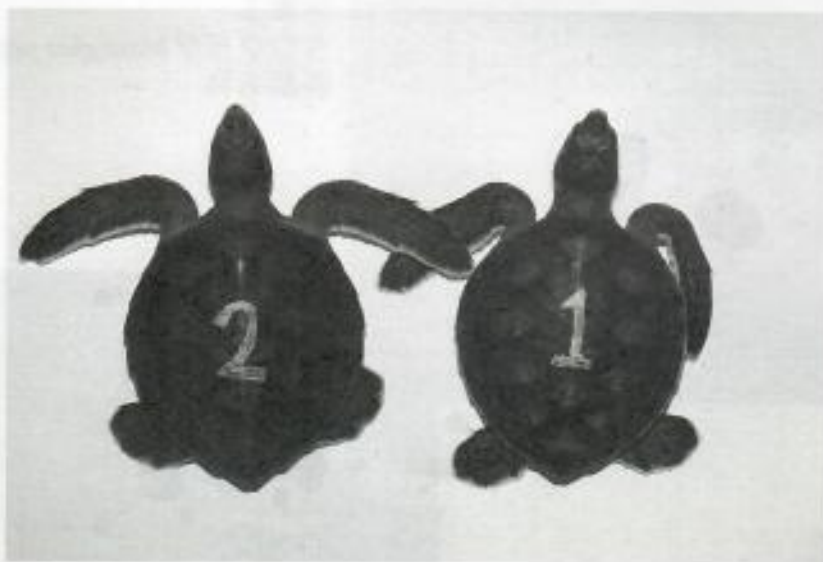


写真3 体色の変化

人工餌料(左)とクラゲ(右)を摂餌した個体

※カラー写真は専用サイトにアップしています。

下記のアドレスよりデジタル版(PDF版)をダウンロードしてご覧ください。

[http://www.umigame.org/J1/katsudou\\_newsletter.html](http://www.umigame.org/J1/katsudou_newsletter.html)

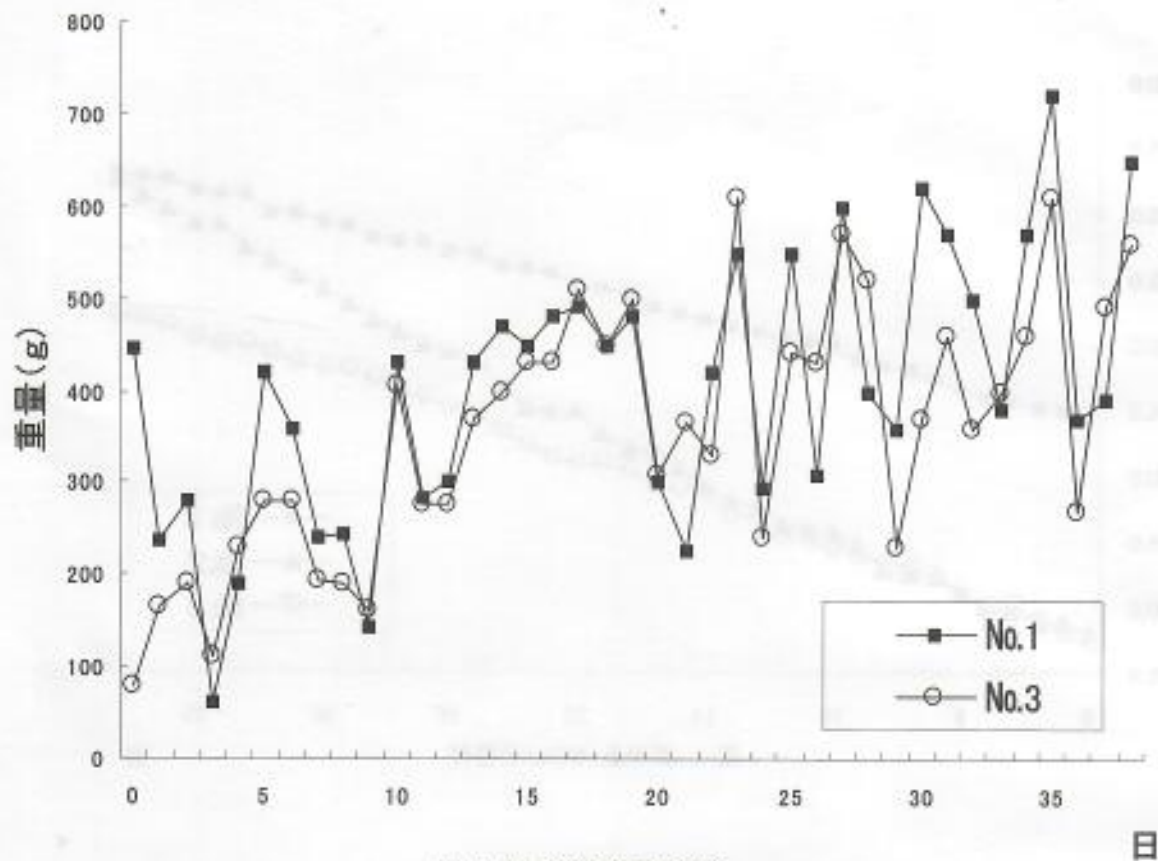
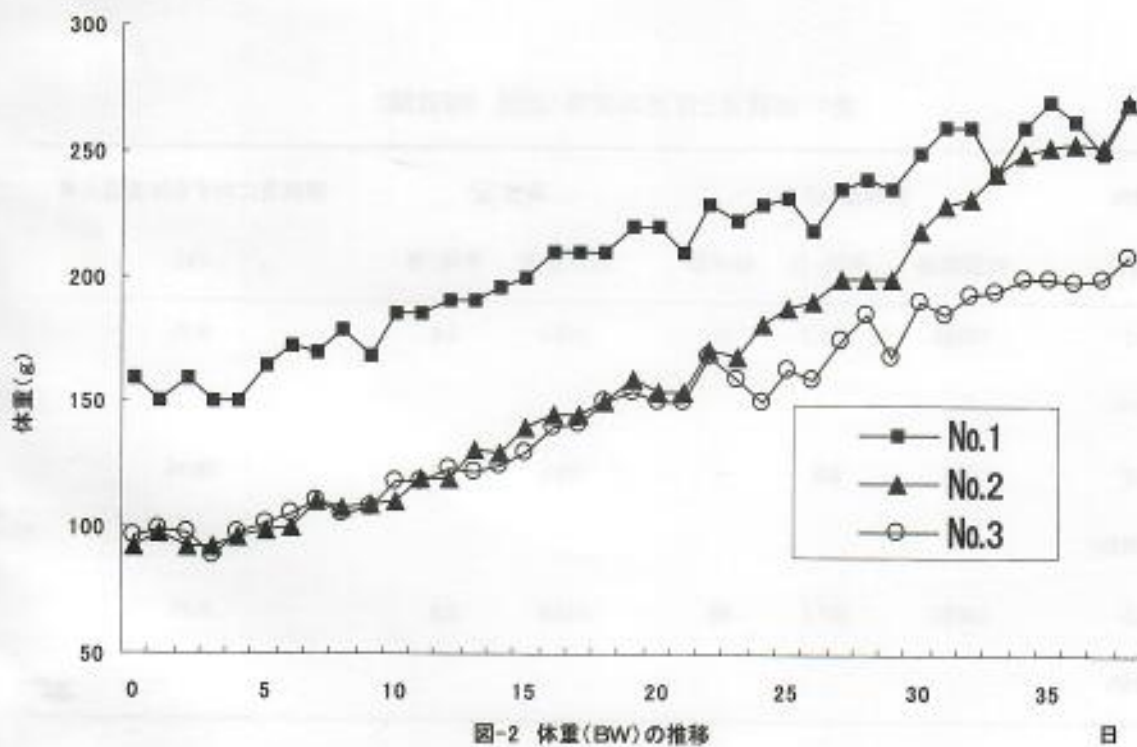
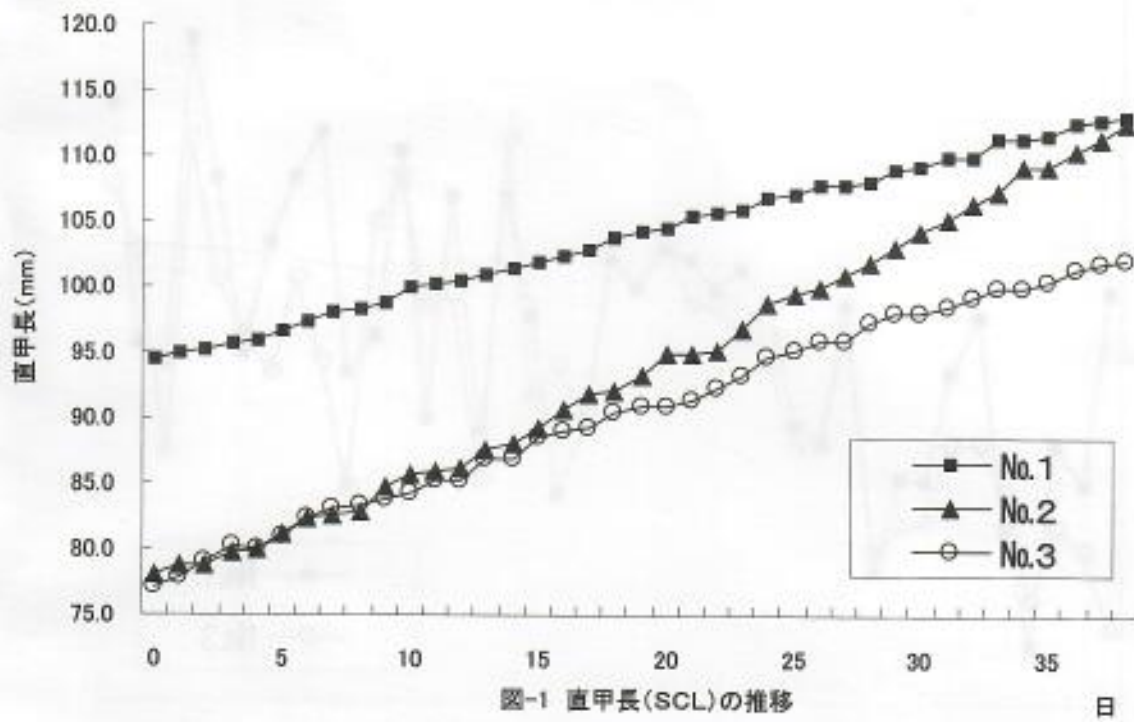


図-3 クラゲ摂餌量の推移

表1 摂餌量と体重の関係(期間 39日間)

個体No. (餌料)	摂餌量 (g)			体重 (g)		摂餌量に対する体重還元率 (%)
	総摂餌量	平均/日	個体数	総成長量	平均/日	
No.1 (クラゲ)	15665	401.7	91	109.0	2.8	0.7%
No.2 (人工餌料)	234	6.0	—	178.0	4.6	76.1%
No.3 (クラゲ)	13950	357.7	86	113.0	2.9	0.8%





(Infraplastron region: 図2a⑮) は腸窩部、尾部を除く腹甲下端の軟体な領域を示し、尾部(Caudal region: 2a⑯) は総排泄腔が存在し、腹甲下部から突起している領域を示すこととする。

## 1-2. 背側の名称

同様に、背側についても名称を定義する。頭部(Head region: 図2b①) はオトガイ、下顎骨下縁から後頭隆起を結ぶ線よりも前の領域を示し、背頸部(Dorsal neck region: 図2b②) は頭部につづく頸椎が存在する部位で、下縁は背甲、頸二腹筋(図4)が存在する領域と定義する。また、厚みのある頸部をもつウミガメに関して、外側頸三角(External cervical triangle: 図2b③) という部位を提案した。この部位は、背頸部より外側に位置し、深部には頸横筋、外頸静脈(図4)が通る存在している部位であると定義する。前肢、後肢の背側は、腹側と同様の定義に基づくものとし、それらの違いは腹背の表現によって明示することとした。すなわち、背上腕部(Dorsal brachial region: 図2b④)、背前腕部(Dorsal antebrachial region: 図2b⑤)、背手根部(Dorsal carpal region: 図2b⑥)、外側手背部(Lateral opisthenar: 図2b⑦)、内側手背部(Medial opisthenar: 図2b⑧)、背下腿部(Dorsal leg region: 図2b⑨)、背距腿部(Dorsal ankle region: 図2b⑩)、背足部(Dorsal foot region: 図2b⑪) と示す。

以上、ウミガメ類の体表の様々な部位を示す名称を提案した。様々な分野で使用していただければ幸いである。

## 謝辞

本稿の執筆に関しては、石原孝氏、水野康次郎氏、佐藤嘉威氏のお世話になりました。ここに感謝の意を表します。

## 引用文献

- 岩本壮太郎. 2000. 体表解剖学. 南山堂. 東京. 132pp.  
 三木明德・井上貴央(監訳). 1998. からだの構造と機能. 西村書店. 新潟.  
 Schaffler, A. and Schmidt, S. 1998. Biologie, Anatomie, Physiologie, für die Pflegeberufe. 348pp.  
 Wyneken, J. 2001. The anatomy of sea turtles. NOAA Technical Memorandum NMFS-SEFSC-470: 172 pp.

優谷真理 (ウミガメ協議会/東大院農)  
 亀崎直樹 (ウミガメ協議会/東大農/須磨水)

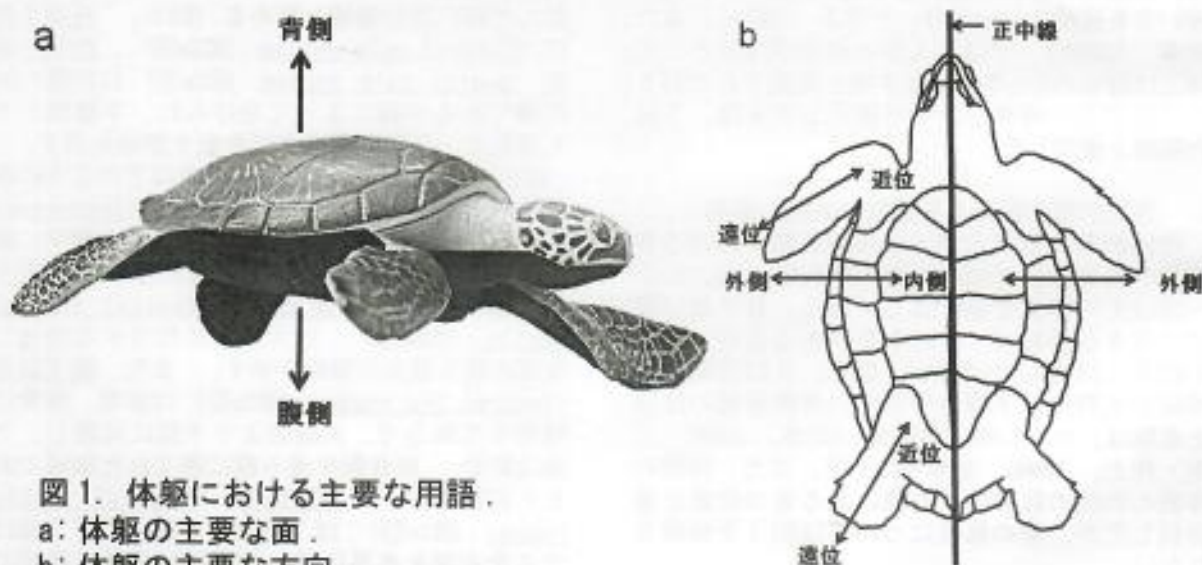


図1. 体躯における主要な用語.

a: 体躯の主要な面.

b: 体躯の主要な方向.

Fig.1. Principal terms of the body. a: Principal planes of the body.

b: Principal directions of the body.



# 外部形態の体表部位の名称の提案

## Proposal of names indicating external morphological regions

優谷真理・亀崎直樹  
Mari Yuutani and Naoki Kamezaki

ウミガメ類のさまざまな研究において体表の部位を特定することは必要であるが、その部位の名称については、大きな鱗板の名称は設定されているものの、それ以外の部位については名称が定まっていなかった。そのため、体表部位を表記することに不便を感じることはしばしばである。このような背景から、ウミガメ類の体表を細かく区分し、それぞれの部位に対しての名称を提唱したい。

筆者らは、筋肉や骨、血管などの構造に基づいて、体表における部位を区分した。また、ウミガメの体表面を表現するのに、体軀の方向を表現する用語は図1で示した。まず、体軀を背と腹に二分する面を基準にして腹甲側を腹側(ventral)、背甲側を背側(dorsal)と定めた(図1a)。図1aにおいて黒く塗りつぶされている面は腹側、塗りつぶされていない面が背側を表す。また、横軸上の表現で、体軀の対称線を正中線と定め、それに近い方を内側(medial)、遠い方を外側(lateral)と定めた(図1b)。さらに、四肢では体幹に近い方を近位(proximal)、遠い方を遠位(distal)と呼ぶ(図1b)。また、岩本(2000)では、人体の解剖学用語として、縁とは器官の2つの面がなす線と定義されており、近隣器官との境界を示す用語として上縁、下縁、内側縁と使用した。

### 1. 外部形態の区分と各部位の名称の提案

今回提唱するウミガメの外部形態における各部位の名称は図2に示した。図2a①~⑩、2b①~⑩はその部位を示す番号である。背甲及び腹甲の大きな鱗板はすでに名称があるため、今回の提案には含んでいない。なお、今回提案する部位の名称には下線を付した。外部形態の区分と名称は、ヒトの体表の区分(岩本, 2000; 三木・井上, 1998)を参考にした。また、四肢の体表の部位の区分は、内部にある骨の位置を重要視したが、骨の部位については図3を参照されたい。

#### 1-1. 腹側の名称

まず腹側からその名称の提案を行う。腹側頭

部のオトガイ部(Mental region: 図2a①)は下顎骨の後端を結んだ線より前方の部位で、下顎骨に囲まれた領域を示す。オトガイ下部(Submental region: 図2a②)は下顎骨後端下縁から頸部括約筋が存在する表皮領域を示す。三角筋部(Deltoid region: 図2a③)は、三角筋上縁、腹甲上縁、左右の上腕骨線に囲まれた領域を表す。上腕骨線とは上腕骨の内側線を通る垂線であると定義する。続いて、腋窩部(Axillary region: 図2a④)は、前肢と腹甲および上腕骨線に挟まれたくぼみのある領域であると定義する。上肢については腹上腕部(Ventral brachial region: 図2a⑤)を上腕骨が存在する部分で、腋窩部の遠位境界線から前腕部の近位境界線までの領域と定める。腹前腕部(Ventral antebrachial region: 図2a⑥)は上腕部と手根部の間の部位で、橈骨、尺骨を取り囲み、手根部よりも近位である領域と示される。腹手根部(Ventral carpal region: 図2a⑦)は手根骨が存在する部分で、上縁は橈骨、尺骨顆を通る線で、下縁は中手骨末端を水平に結んだ線の囲む領域と定める(図3)。外側手掌部(Lateral palm region: 図2a⑧)、内側手掌部(Medial palm region: 図2a⑨)は前肢の対称線である中線によって分けられ、手根部よりも遠位で、前肢の末端までを表す領域を表す。

続いて、腹側の後肢については以下のように各部位の名称を定義した。腸窩部(Intestinal foveolate region: 図2a⑩)は後肢と腹甲に囲まれた柔らかい皮膚の部分で後肢基部上縁より前の領域を示す。腹大腿部(Ventral femoral region: 図2a⑪)は大腿骨に相当する部分で、後肢の最も根元の領域を示す。また、腹下腿部(Ventral leg region: 図2a⑫)は腓骨、脛骨に相当する部分で、大腿部より下部に位置し、下縁は腓骨、脛骨顆を通る線に囲まれた領域であると定義する。腹距腿部(Ventral ankle region: 図2a⑬)は下腿部より遠位で、下縁は中足骨末端を水平に結んだ線に囲まれた領域であると定義する。腹足部(Ventral foot region: 図2a⑭)は距腿部より遠位で、後肢の末端までを表す領域と示す。腹甲下部

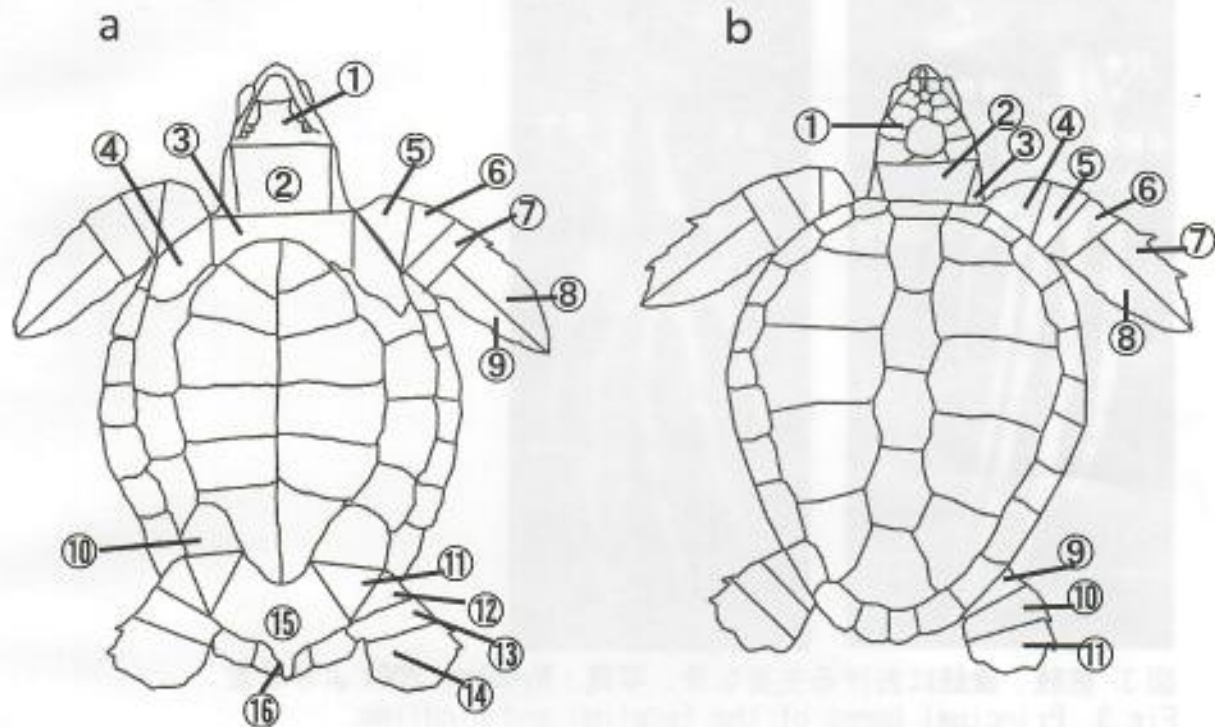


図2. 体表における各部位の名称.

a: 腹側 ①オトガイ部 ②オトガイ下部 ③三角筋部 ④腋窩部 ⑤腹上腕部  
 ⑥腹前腕部 ⑦腹手根部 ⑧外側手掌部 ⑨内側手掌部 ⑩腸窩部 ⑪腹大腿部  
 ⑫腹下腿部 ⑬腹距腿部 ⑭腹足部 ⑮腹甲下部 ⑯尾部.

b: 背側 ①頭部 ②背頸部 ③外側頸三角 ④背上腕部 ⑤背前腕部  
 ⑥背手根部 ⑦外側手背部 ⑧内側手背部 ⑨背下腿部 ⑩背距腿部 ⑪背足部.

Fig.2. Names for external morphological regions.

a: ventral ①Mental region ②Submental region ③Deltoid region  
 ④Axillary region ⑤Ventral brachial region ⑥Ventral antebrachial region  
 ⑦Ventral carpal region ⑧Lateral palm region ⑨Medial palm region  
 ⑩Intestinal foveolate position ⑪Ventral femoral region  
 ⑫Ventral leg region ⑬Ventral ankle region ⑭Ventral ankle region  
 ⑮Infraplastron region ⑯Caudal region.

b: dorsal ①Head region ②Dorsal neck region ③External cervical triangle  
 ④Dorsal brachial region ⑤Dorsal antebrachial region  
 ⑥Dorsal carpal region ⑦Lateral opisthenar ⑧Medial opisthenar  
 ⑨Dorsal leg region ⑩Dorsal ankle region ⑪Dorsal foot region





図3. 前肢, 後肢における主要な骨. 写真: Wyneken, 2001 より改変.  
 Fig.3. Principal bones of the forelimb and hindlimb.  
 The photo by Wyneken(2001) is altered.



図4. 背側の頸部における主要な筋肉と静脈. 写真: Wyneken, 2001 より改変.  
 Fig.4. Principal muscles and veins of the dorsal neck.  
 The photo by Wyneken(2001) is altered.

大切な論文の英文校正・ネイティブ  
チェックはエディターズにおまかせ  
ください。

ed/tage™

エキスパートによる英文校正



お見積りはWebサイトから完全無料でご依頼いただけます。  
営業時間1時間以内にご返信さしあげます。

- 1単語6円から ● 機密保持厳守 ● 校費・科研費支払い対応可
- 英文校正以外にも国際ジャーナルへの投稿を支援する各種サービスをご用意しています。

70000人  
以上の  
ご利用実績

TEL: 0120-974-859 (通話料無料)

[www.editage.jp](http://www.editage.jp)



うみがめニュースレター編集委員会

編集委員長 松沢慶将

編集顧問 亀崎直樹・菅沼弘行

編集委員

田中真一・平手康市・堀越和夫・山口真名美

デザイン

宮原尚子

**Editor**

**Yoshimasa Matsuzawa**

*Sea Turtle Association of Japan, Hirakata, Japan*

*E-mail: ymatsu@umigame.org*

**Editorial Adviser**

**Naoki Kamezaki**

*Department of Ecosystem Studies, University of Tokyo*

*& Sea Turtle Association of Japan, Hirakata, Japan*

**Hiroyuki Suganuma** (founding editor)

*Everlasting Nature of Asia, Yokohama, Japan*

**Editorial Board**

**Shinichi Tanaka**

**Kouichi Hirate**

**Kazuo Horikoshi**

**Manami Yamaguchi**

**Designer**

**Naoko Miyahara**

*Sea Turtle Association of Japan, Hirakata, Japan*

2011年3月31日発行

発行 うみがめニュースレター編集委員会

〒100-2101 東京都小笠原村父島字屏風谷

小笠原海洋センター

E-mail: newsletter@umigame.org

# うみがめニュースレター

UMIGAME NEWSLETTER OF JAPAN

No.88 2011



## 目次

- 玳瑁龜圖説の現代語訳（その2）……………多胡彰郎 …… 2
- 孵化後飼育したアオウミガメ2個体の放流・再捕獲からの考察……………平井厚志 …… 5
- 静岡県相良海岸の砂浜の形状変化……………山本明男 …… 8
- 熊野灘沿岸に出現するウミガメ類  
……………岡本慶・石原孝・谷口真理・山下訓右・亀崎直樹……………13
- 産卵シーズン初期の上陸回数からシーズン全体の上陸および産卵回数を推定する試み  
……………大内裕貴・大牟田一美・亀崎直樹……………19



## ■デジタル(PDF)版も利用できます

専用サイト ([http://www.umigame.org/J1/katsudou\\_newsletter.html](http://www.umigame.org/J1/katsudou_newsletter.html)) からネット上でPDF版うみがめニュースレターをダウンロードしていただくことができます。デジタル版の利用が可能な方で、従来の冊子の送付中止をご希望の方は、お手数ですが、[newsletter@umigame.org](mailto:newsletter@umigame.org)までご連絡ください。タイトルに、「アナログ版不要」とご記入の上、本文に受取人氏名を明記してメールを送信してください。経費削減と紙資源の節約に対する皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

## ■寄付のお願い

「うみがめニュースレター」は、小笠原村からの補助と日本ウミガメ協議会からの援助および一部の読者からのご寄付で無料にて発行を続けておりますが、印刷費・送料等厳しい状況にあります。今後も皆様からの温かいご寄付をお待ちしております。切手の寄付も大歓迎です。また協賛広告も併せて募集中です。詳細はメールで [newsletter@umigame.org](mailto:newsletter@umigame.org) までお問い合わせください。

郵便振替口座 10120-25391001

加入者名 うみがめニュースレター編集委員会

〒100-2101 東京都小笠原村父島字屏風谷 小笠原海洋センター内

## ■寄稿者へのお知らせ

本誌はウミガメに関する国内唯一の総合情報誌として、関連するあらゆる情報を取り扱い掲載しています。生物学的知見はもちろんのこと、ウミガメに関わる民俗、保護、論評や意見、会議報告など、読者の皆様もどうぞお気軽にご寄稿ください。寄稿者には編集委員会から記念の粗品を差し上げております。なお、本誌はISSN番号の登録を受けた定期刊行物で、海外の関連機関や研究者へも配布しております関係上、編集の際に英文の要旨とタイトルをつけております。予めご了承下さい。

## ■Cover photograph

表紙の写真は、今号13ページに掲載されている「熊野灘沿岸に出現するウミガメ類」の調査地である三重県紀北町島勝大敷にて混獲されたアカウミガメです。漁業者の協力の下、漁に同行させていただき、混獲されたウミガメの計測などを行っています。この大敷網（大型定置網）では、1年間にアカウミガメとアオウミガメが数十頭ずつ混獲される三重県でも有数のウミガメ出現地です。その詳細については、13ページから17ページをご覧ください。

大切な論文の英文校正・ネイティブ  
チェックはエディターにおまかせ  
ください。

ed/tage™

エキスパートによる英文校正



高品質



低価格



迅速対応

お見積りはWebサイトから完全無料でご依頼いただけます。  
営業時間1時間以内にご返信さしあげます。

- 1単語6円から、●機密保持厳守、●校費・科研費支払い対応可
- 英文校正以外にも国際ジャーナルへの投稿を支援する各種サービスをご用意しています。

70000人  
以上の  
ご利用実績

TEL: 0120-974-859 (通話料無料) [www.editage.jp](http://www.editage.jp)

## 玳瑁龜圖説の現代語訳（その2）

### Interpretation of Taimaigame-zusetu

### : Japanese Monograph of Hawksbill Turtle (1841)

多胡 彰郎

Akio Tago

前回、「玳瑁龜圖説」の「本草綱目・玳瑁之記」の項を現代語訳しました。今回は「和漢三才圖會」の項を現代語訳して、江戸時代の日本において玳瑁がどのように理解されていたかを紹介します。

#### 【現代語訳】

#### 三才圖會 玳瑁の記

「和漢三才圖會」巻第四十六 介甲部

〔玳瑁〕代味〔玳瑁〕タイムイ

俗に亀甲と鼈甲を混同する人がいるが、これは大変な間違いである。

玳瑁は海洋の深いところに棲んでいる。亀のように殻が長く、背には十二（十三(?)）片の甲がある。黒白斑の文様が入り組んでいる。殻の周りは鋸の歯のようで、足はなく四本の鱗があり、前鱗は長く後鱗は短くて鱗に覆われている。すべての鱗には甲と同じような斑文がある。交尾は単回ある。産卵に臨んで抱卵するがこれを「護卵」という。老いたタイムイの甲は厚くて明るい色をしている。小さなタイムイの甲は薄くて色は暗い。歳を経たタイムイはめったに獲れないが、小さなタイムイは時々捕獲される。捕獲した時には体を仰向けにして、酢を使って処理すれば、甲は容易にはずすことができ、煮て柔らかくして器を作る。鮫の皮を用いて荒く磨き、枯れ木の葉で肌理細かく磨けば光輝くようになる。

甲は甘寒であり、毒を消して熱を下げる効能は、犀角と同じである。（生のまま処理した玳瑁を薬として使用すれば薬効は保全される。湯や火を用いて処理した玳瑁は効能が薄れて薬として使用することができない）。瘡癩の毒を消すことができ、玳瑁と犀角（生のまま処理した各々の磨汁一合）を混合して半合を日に三度温服すれば、発病していない者には予防薬となり、発病する者は稀である。

玳瑁の甲を用いて箱や香盒の飾や、櫛・笄・耳かき等を作ることができる。黒紫色であり、日にかざせば、白赤黄の樗文が見える。その文は艶美ですばらしい。脆くて折損し易く、縫補は難しい。近頃では玳瑁櫛の折れた歯を、ただ炙って温めるだけで全く痕跡を残さずに接ぐことができる職人がいる。（『和漢三才圖會』の内玳瑁の説。）

#### 【解説】

「和漢三才圖會」は寺島良安が中国の「三才圖會」を範として和漢の事象を並べ、図を添えて考証した105巻81冊に及ぶ百科事典で、1712年（正徳2年）出版されました。東洋医学に関する記事内容は非常に正確で、信頼できる古典と考えられて多くの書籍に引用されています。

「亀甲と鼈甲を混同する人がいる」と記載されています。ここでいう「亀甲」とはタイムイの甲のことです。「鼈」とはもともとスッポンのことで、「鼈甲」とはスッポンの甲のことですが、現在では「鼈甲」とはタイムイの甲や爪を磨いたものを指します。この混同は17世紀には始まっていたようです。1603年に出版された日葡辞書（VOCABVL-ARTODAL-NGOADEJAPAN）には、当時の日本人が「たいまい」と「べっ甲」を混同していた痕跡が認められます。この辞書はイエズス会の神父とイルマンが当時の日本人たちの会話から言葉を収録したもので、「Becco」と「Camenoco」および「Taimai」について次のように解説してあります（邦訳日葡辞書 岩波書店）。

“Becco”と“Camenoco”：亀類の甲羅

“Becco”：亀の甲から作られた薬

“Camenoco”：亀の背

“Camenoco”および“Taimai”：中国人が細工物などを作る亀の甲



喜多川守貞の「近世風俗志」(1853年)によると、贅沢品として販売禁止になった「たいまい」を売買するため、商人は「すっぽん」の甲を代用品としたり、玳瑁を「すっぽん」と名づけたりして役人の目をごまかして販売していました。そのために「たいまい」と「べっ甲」が同一になったと述べています。すなわち、19世紀には「たいまい」と「べっ甲」の区別がつかなくなってしまうようです。

タイマイの生態に関する記載は伝聞によるものと思われ、必ずしも正確ではありませんが大きな間違いは記載されていないようです。筆者はタイマイの生態に関しては、論評するだけの十分な知識を持ち合わせていないので、ここでは言及しません。

甲を外すための酢を使った処理や、光沢を出すために鮫皮や枯れ木の葉を使う処理法など実用的で興味深い内容が記載されています。酢を使って加熱処理すればタンパク質が変性して、甲が外れやすくなることは容易に想像できます。ここで気になるのは、枯木の葉を使って甲を磨くと書いてあることです。甲磨きには使うのは棕の葉(後段の「玳瑁細工の記」に記載されています)ですが、なぜ棕の枯葉でなく枯木の葉なのか興味のあるところです。

甲の効能効果についても記載されていますが、二点の興味深い記載があります。ひとつは加熱処理により玳瑁甲の疱疹に対する薬効が使用に値しないレベルにまで低下すること、もう一つは非加熱処理した玳瑁甲が疱疹の予防薬として使用されていることです。

玳瑁甲の成分分析に関する文献はほとんどありませんが、わずかにタンパク質が主成分で微量成分として脂肪酸を含むとの記載があります。タンパク質は加熱により変性しますし、生理活性の強い不飽和脂肪酸も加熱により酸化されて変化するために、加熱処理した玳瑁甲の薬効レベルが低いことは容易に想像できます。

ご存知のように種痘により疱疹はほぼ予防できますが、近代医学が未発達な時代に疱疹を予防するために玳瑁甲が使用されていたことは非常に興味深いことです。玳瑁甲に種痘のような根本的疱疹予防効果があるとは考えられないことから、玳瑁甲が免疫力を強化することにより疱疹の発症を抑制するのかもしれませんが、予防効果があるとすれば、玳瑁甲に含まれる微量元素が関与しているものと思います。

タイマイの保護が叫ばれ、捕獲が禁止された現在、玳瑁甲を使用した研究の実施は不可能で

玳瑁甲の薬理的効能を科学的に証明することは非常に困難となっています。

原文に「甲(甘寒)」という記載があります。これは「甲は甘寒に属し、甘寒の効能がある」ということです。ここでいう「甘寒」について少し説明します。古代中国における自然哲学に「五行思想」という思想があります。この思想は、万物は「木・火・土・金・水」の5元素からなり、これらの元素は「互いに影響を与え合い、その生滅盛衰によって天地万物が変化し、循環する」というものです。この思想によれば、万物は「木・火・土・金・水」の5元素に分類されます。「甘寒」は「甘」と「寒」に分かれ、「甘」は「五味(酸、苦、甘、辛、鹹)」に、「寒」は「五悪(風、熱、湿、燥、寒)」に属します。これらを「木・火・土・金・水」に分類すると次表のようになります。なお、「五悪(気)」の「悪」とは「気象」のことです。また、以下の説明上「五臓(寒、心、脾、肺、腎)」を付け加えます。もちろん「五臓」の「臓」とは臓器のことです。

五行	木	火	土	金	水
五味	酸	苦	甘	辛	鹹
五悪	風	熱	湿	燥	寒
五臓	肝	心	脾	肺	腎

「五行思想」には、「五味」と「五臓」、「五味」と「五悪(気)」の間に密接な関係があると記されています。

「五味」と「五臓」の関は、次のような因果が記載されています。

- ・酸：酸いものは肝臓に取り込まれやすく、肝臓を衰弱から守る。
- ・苦：苦いものは心臓に取り込まれやすく、心臓を衰弱から守る。
- ・甘：甘いものは脾臓に取り込まれやすく、脾臓を衰弱から守る。
- ・辛：辛いものは肺臓に取り込まれやすく、肺臓を衰弱から守る。
- ・鹹：塩からいものは腎臓に取り込まれやすく、腎臓を衰弱から守る。

また、

- ・酸：酸いものを過食すれば、肉が疲れて唇がめくれる。
- ・苦：苦いものを過食すれば、皮膚が枯れて体毛が抜ける。
- ・甘：甘いものを過食すれば、骨が痛んで髪が抜ける。
- ・辛：辛いものを過食すれば、筋肉がひきつって爪が枯れる。
- ・鹹：塩からいものを過食すれば、血管が細くなり顔色が悪くなる。

健康を維持するために「五味」の摂取に十分気をつけろということでしょう。

また、「五味」と「五悪」の関は、次のような因果が記載されています。

- ・風：普段よりあるいは他人より風に当たるのが嫌なときには、肝臓の病気を疑うべきであり。また肝臓病の時には、できるだけ風に当たることを避けるべきである。
- ・熱：普段よりあるいは他人より暑さをひどく感じるときには、心臓の病気を疑うべきであり。また心臓病の時には、できるだけ暑さを避けるべきである。
- ・溼：普段よりあるいは他人より湿気がひどく応えるときには、脾臓の病気を考えるべきであり。また脾臓病の時には、できるだけ湿気を避けるべきである。
- ・燥：普段よりあるいは他人より乾燥が嫌なときには、肺臓の病気を考えるべきであり。また肺臓病の時には、できるだけ乾燥を避けるべきである。
- ・寒：普段よりあるいは他人より寒気がひどく応えるときには、腎臓の病気を考えるべきであり。また腎臓の時には、できるだけ寒気を避けるべきである。

要するに、健康を保持するためには、気候の変化に順応すべきであり、逆らえば風、寒、暑、湿、燥が五臓に悪影響を及ぼし、病変の原因となるということです。

「甲（甘寒）」とは、甘味の薬である甲は「脾臓が弱った時に投与すれば脾臓の働きを正常にする。また、甲は体を冷やす作用があるので、腎臓の弱い人は、冬の寒さには十分注意する必要があります。」という意味です。

なお、「甘寒」には、小麦・砂糖・ナス・き

ゅうり・キャベツ・トマト・はくさい・レタス・わらび・柿・みかん・すいか・なし・とうふ・こんにやく・そば・マクワウリ・たこ・タニシ・パイ・あさり貝・鴨等が属します。もちろん「犀角」すなわち「サイの角」もこれに属します。

またこの項では、玳瑁の甲を用いた製品にも言及しています。甲を用いて箱や香盒の飾や、櫛・笄・耳かき等が作成されていることを記載すると共に、その色合や文様のすばらしさを述べています。また、脆くて折損し易い玳瑁甲の継補法が発達してきたとも述べています。これら玳瑁甲の製品や製品製造法などについては、別項において詳しく記載されているので、その項の現代語訳を掲載する時（掲載ことになると思います）に詳しく紹介します。



## 孵化後飼育したアオウミガメ2個体の放流・再捕獲からの考察 Head-starting cases of two green turtles from Wakayama, Japan

平井 厚志  
Atsushi HIRAI

はじめに

産卵地の減少や混獲等で絶滅が危惧されるウミガメ類において、自然下で死亡率の高い孵化直後の稚ガメを一定期間飼育、放流することで個体数の回復を試みるヘッド・スターティングが行われている。放流後の追跡例として、アオウミガメではケイマン諸島において放流した個体が十数年後に回帰し、成熟および繁殖行動を確認した例(Bell and Parsons 2002)や、小笠原諸島父島より放流した個体が本州沿岸で再捕獲され成長を示した例などがある(小笠原海洋センター1995, 1996)。しかし個体数回復の効果については、放流個体と野生個体の生存率を比較できないことから不明である(奥山2010)。さらには標識の耐久性(村山ら1998)や小型個体への装着の難しさ(亀崎ら1998)から放流後の追跡が難しく、種本来の食性および回遊行動、繁殖を放流個体が行えるかなど、自然環境での適応を示す行動の観察例は少ない。

そのような中で、孵化後数年飼育したアオウミガメ5個体を本州沿岸より標識を付けて放流したところ2個体が2日後と97日後に再捕獲され、放流直後の迷走行動と自然環境への適応を示すと思われる事例を得たので簡単に報告する。

方法

今回放流した5個体のアオウミガメは、小笠原諸島母島の人工孵化場にて孵化した稚ガメをエビとカニの水族館で3年ないし4年間飼育したものである。孵化後1年間は人工餌料(ペレット)を、それ以後はイカ、アジ等生餌をそれぞれ餌として与えた。放流個体には日本ウミガメ協議会が配布するプラスチックタグ(白)をそれぞれ両後肢に装着し、甲長および体重を計測後、2010年10月23日に和歌山県すさみ町沖合1キロ地点において船上より放流した。放流時の表面海水温は24℃であった。放流地点付近は潮汐や黒潮(黒潮分岐流)等の影響により複雑な流れとなっており、時間によって流向が著しく変化することを確認している。

結果と考察

再捕獲されたアオウミガメ2個体の概要を表1にまとめる。

個体A

この個体は、2006年7月に孵化したもので、放流から2日後の2010年10月25日に、放流地点よりおよそ2km離れた和歌山県すさみ町のすさみ漁港内において(図1)、岸壁間際に滞留するゴミや海藻を捕食するところを地元漁師により発見された。係留している大型漁船のすぐ近くを遊泳し、航行中の船外機付小型船や人間が近づいても逃避行動は見られず容易に捕獲できた。当館に収容(現在も飼育中)。甲長に成長はなく体重が200g減少していた。

沖縄島ではクロウミガメと思われる個体が港内に住み着き餌付けされた例があるものの、常に人間が観察できるような場所にウミガメ類が定住することは珍しいとされている(嘉陽ら2002)。今回発見されたすさみ漁港付近においても、冬季に繰り返し同じ場所で観察される個体なども含め、様々なサイズのアオウミガメが水中で観察もしくは混獲されるが、大型の漁船が多く航行する港内での目撃例はない。

自然下で孵化した仔ガメは砂浜から沖合に泳ぎ出るまで間に到来波や地磁気などから方向感覚を養うことが知られている(奥山2010)。しかし孵化後水槽で飼育した個体はこうした初期学習を経験しないことから、放流直後には遊泳方位を認識できない可能性があり、これも港内に迷い込む一因になったと思われる。さらに飼育したウミガメは人間によく馴れ水槽に近づくと自ら寄ってくる行動が見られる。これは人間が給餌を行う事で餌と人間を結びつけた学習をウミガメが行っていると推測され、飼育下での学習が警戒心の低下や水面での無作為な索餌を引き起こしたと考えられる。

個体B

この個体は、2011年1月28日に、放流地点より約30km離れた和歌山県白浜町三段壁沖で、水深20mに仕掛けたイセエビ刺網により混獲され死んだ状態で発見された(図1)。エビとカニの水族館に収容後、計測および解剖を行った。

放流から再捕まで97日経過しているが、この間甲長に成長はなく、体重のみわずかな増加が見られた。消化器内には海藻が充満しており、食道および胃内からは未消化の海藻(図2)、小腸お



よび大腸内からは消化中の藻類がそれぞれ確認された。人工物としては、1.0 m角の陶器片2個と、長さ50 cmほどの釣糸の付いた約1.0 mの釣針が、それぞれ小腸内から見つかった。食道内より摂餌直後と思われる新鮮な海藻が見つかったことや(図3)、眼窩上部に刺網による傷があり流血していたことなどから、断定はできないものの直接的死因は混獲による溺死と考えられる。

アオウミガメは体重が約4.5 kgになると稚ガメ期の雑食性から海草および海藻を主な餌とする食性に変化していくことが知られている(内田1995)。亀田・石原(2009)はアオウミガメの混獲個体と死亡源個体の消化管内内容を精査したうえで、日本沿岸が本種の索餌海域であり、四国および紀伊半島沿岸ではワクサを中心とした様々な海藻を主に摂餌していることを報告している。B個体において特定の種は見られないものの選択的に海藻を摂餌しており、これは孵化後数年間動物性餌料のみで飼育し自然環境を全く経験していなくても、放流後3か月以内には種本来の食性に変化することを示唆する。

黒柳ら(2001)は孵化後17年間飼育したアオウミガメに発信器を付け愛知県志摩半島より放流したところ、紀伊半島沿岸にとどまることを確認し、放流23日後再捕獲時の胃内内容物から海藻類を摂餌していたことを報告している。B個体においても約3か月後に放流地点に近い海域で再捕獲されたことから、紀伊半島沿岸にある程度にとどまりながら索餌行動をしていたと推測される。

沖縄島沿岸海域で見られるアオウミガメは、季節によって成長段階の異なる個体が来遊しておお(平手2005)、鹿児島沿岸で混獲される本種においても様々なサイズの未成熟個体が季節的に入れ替わり来遊すると考えられている(武内ら2008)。孵化後水槽内で一定期間飼育された個体が放流後成長とともにこうした季節回遊を行うことを確認するには、標識の耐久性も含めさらなる検証が必要であると思われる。

まとめ  
 孵化後3年間動物性餌料のみで人工飼育し自然環境を経験することがないウミガメでも、放流後3か月以内にはその種本来の食性に変化することを確認した。しかし甲長に全く成長がみられない事と放流直後には警戒心の低下および遊泳方位を認識できない可能性があるなど、自然環境に適応するにはある程度の時間を要することが示唆された。

ヘッドスライディングの効果を評価するには、放流した個体が野生個体と同じように回遊・繁殖することを確認しなければならない。このこと

を踏まえ、今後飼育個体の放流は、確実な個体識別および長期的な追跡手法の開発・導入、飼育期間や放流時期の検討など、計画性を持って行う必要があると思われる。

謝辞  
 放流個体の捕獲にあたりご協力および詳細な情報をいただいたすさみ町の長野好孝氏、みなへ町の湯浅五郎氏、紀州日高漁業協同組合南部町支所の皆様により御礼申し上げます。孵化個体を快く提供していただいた小笠原母島漁業協同組合ならびにクラノア母島の皆様に深く感謝いたします。本報告のきっかけを与えていただいたことにもご指導を賜った日本ウミガメ協議会ならびに亀崎直樹氏に厚く御礼申し上げます。エドとカニの水産館の発拓出展長ならびにスタッフには放流個体の飼育でお世話になるとともに貴重なご意見をいただきました。感謝いたします。

参考文献  
 Bell, C. D. L. and J. Parsons. (2002) Cayman turtle farm head-starting project yields tangible success. *Marine Turtle Newsletter* 98:5-6.  
 平手康南(2005) 竜宮城への招待 矢野和成(編). 南の島の自然史. 東海大学出版会. 東京. pp173-184.  
 亀田和成・石原孝(2009) 日本沿岸におけるアオウミガメの消化管内内容物. *ウミガメニュースター* 81:17-23.  
 亀崎直樹・黒柳賢治・杉山重実(1998) ウミガメ稚幼体への体内標識挿入の試み. *ウミガメニュースター* 36:10-12.  
 葛岡宗幸・平手康南・菊川幸・若月元樹・亀崎直樹(2002) 沖縄県北部の漁港に定住するウミガメ. *ウミガメニュースター* 56:14.  
 黒柳賢治・亀崎直樹・小林桂人(2001) 飼育下で育ったアオウミガメの自然環境下での行動追跡. *ウミガメニュースター* 48:13-14.  
 村山堅一・堀越和夫・佐藤文彦・山口真名美・小守純世・菅沼弘行・立川浩之(1998) 小笠原で行われた標識放流: アオウミガメの耐久性について(講演要旨). *ウミガメニュースター* 35:8.  
 小笠原海洋センター(1995) 小笠原諸島におけるウミガメ類の標識放流結果(1994年度). *ウミガメニュースター* 25:8-12.  
 小笠原海洋センター(1996) 小笠原諸島におけるウミガメ類の標識放流結果(1995年度). *ウミガメニュースター* 29:3-8.  
 奥山幸一(2010) 仔ガメの放流はいかにあるべきか? 海洋と生物190. 32(5):430-435.



サイズ (置甲長/体重)		再捕場所	
再捕時	43.7cm / 12.1kg	和歌山県すさみ町	2010/10/23
放流時	43.7cm / 12.3kg	すさみ港内 (放流地点から約2km)	2010/10/25
再捕時	36.9cm / 6.8kg	和歌山県白浜町	2011/01/28
放流時	36.7cm / 6.4kg	三股豊沖水深20m イセエビ刺網	2010/10/23

表1 再捕されたアオウミガメの概要

図2 個体Bの食道と胃より確認された海藻類 図3 個体Bの解剖時の食道内容物

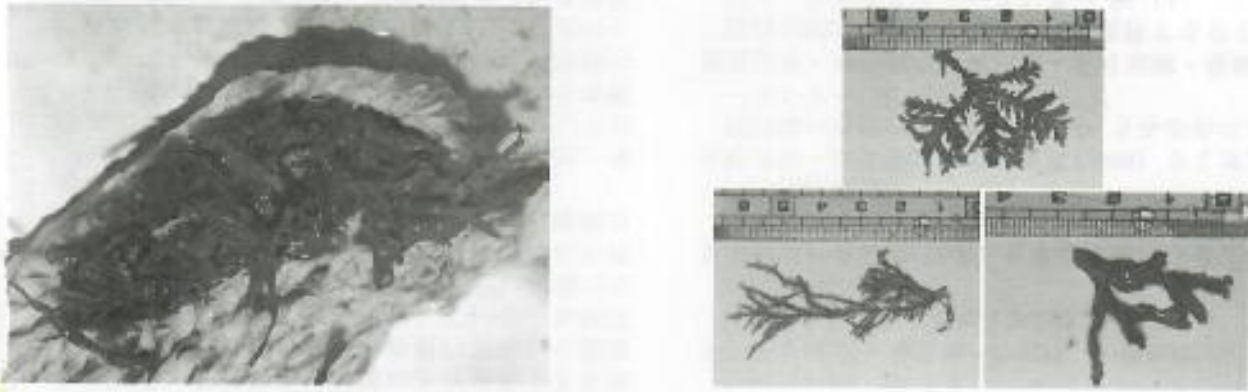


図1 再捕獲された2個体の放流地点と再捕獲地点



武内有加・富山清升・亀崎直樹・宮内叶 (2008) 鹿児島県野間池沿岸におけるアオウミガメの個体群とその季節変動(講演要旨). うみがめニュースレター 78:3-14.  
 田中次郎・中村庸夫 (2000) 日本の海藻 基本284. 平凡社, 東京, 245pp  
 内田至 (1995) 爬虫類の餌料, 新飼育ハンドブック 水族館編 1繁殖 餌料 病気, 社団法人日本動物園水族館協会, 67-70.

武内有加・富山清升・亀崎直樹・宮内叶 (2008) 鹿児島県野間池沿岸におけるアオウミガメの個体群とその季節変動(講演要旨). うみがめニュースレター 78:3-14.

田中次郎・中村庸夫 (2000) 日本の海藻 基本284. 平凡社. 東京. 245pp

内田至 (1995) 爬虫類の餌料. 新飼育ハンドブック 水族館編 1繁殖 餌料 病気 . 社団法人日本動物園水族館協会. 67-70.

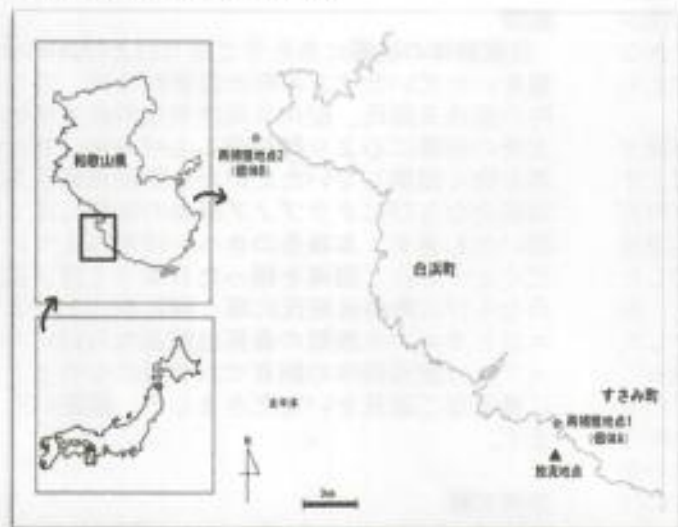


図1 再捕獲された2個体の放流地点と再捕獲地点



図2 個体Bの食道と胃より確認された海藻類



図3 個体Bの解剖時の食道内容物

表1 再捕されたアオウミガメの概要

	個体A	個体B
放流日	2010/10/23	2010/10/23
再捕日	2010/10/25	2011/01/28
再捕場所	和歌山県すさみ町 すさみ漁港内 (放流地点から約2km)	和歌山県白浜町 三段沖水深20m イセエビ刺網
サイズ (直甲長 / 体重)		
放流時	43.7cm / 12.3kg	36.7cm / 6.4kg
再捕時	43.7cm / 12.1kg	36.9cm / 6.8kg



## 静岡県相良海岸の砂浜の形状変化

Vertical profile change of sandy beaches in Sagara, Shizuoka

カメハメハ王国 山本 明男

Akio Yamamoto

静岡県相良海岸においても、全国の海岸の砂浜が抱える問題と同じように「砂浜侵食」が最近著しい。

砂浜の侵食は、ウミガメの産卵・孵化に大きな影響を及ぼす事は周知の事実であるが、その原因は海岸に造られた人工構築物による沿岸漂砂の遮断やダムや河川護岸工事による河川からの土砂流出減少等、我々人間の営みによる影響の結果により、もたらされた事も多くの研究者により証明されている。

しかしながら、これらの問題が改善出来にくいのは、原因母体が多数存在する事や原因母体を管轄する行政が縦割り行政により情報伝達や施策が統一できない事や原因母体の設置が、一方では我々を水害から守ったり、電力を確保したり、農業用水をもたらししてくれるなど、利害が相反する事に起因する。

また、海岸侵食の進行速度は緩慢であり、長い年月をかけて徐々に進行する事や、季節性変動があったり、海岸付近の開発等により、定量的に捉えられにくいという側面を持つ事から、どの原因物質により、どの程度侵食されたかを特定する事が困難である為、一部の海岸のみが「サンドバイパス」「離岸堤」設置などの対症療法的考え方で処置されてきたのである。

相良海岸でも同様な砂浜侵食が顕著になりはじめた昭和50年代に離岸堤が設置され、侵食問題は解決されたかのように地域住民に周知されてきた。

しかし、平成に入り度重なる台風の襲来や沿岸漂砂の上流部に当たる御前崎港の拡張工事の進展とともに砂浜侵食が顕著になってきた為、専門家である宇多高明氏（財団法人土木研究センター審議役なぎさ総合研究室長）のアドバイスにより、海岸侵食を定量的に捉える為の定点測量事業に着手する事となった。

ここでは、10年間に及ぶ調査結果から、一定の所見を下記に記す事にする。

### 1. 測量位置

相良海岸の人工構築物で区切られた海岸を5ヶ所の定点を決め、毎年3月、6月

9月、12月の計4回の測量調査を実施する。

① 須々木海岸：相良海岸の連続した砂浜の最南

端に位置し、離岸堤の最南端部であり、御前崎を回り込んできた沿岸漂砂の供給が絶たれば真っ先に侵食されると思われる海岸。

② 波津海岸：離岸堤設置区域の中央部に位置する海岸。

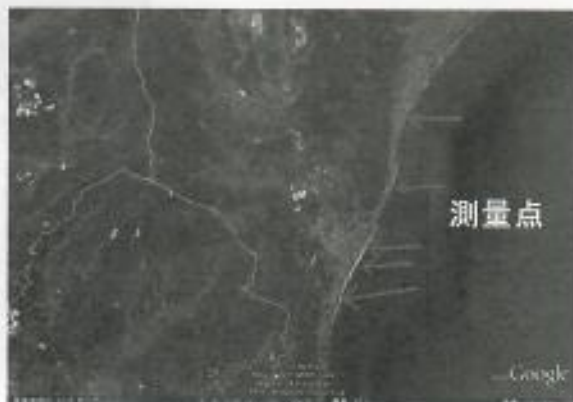
③ 相良海水浴場：離岸堤最北端と相良漁港に挟まれた海岸。

④ 平田海岸：相良漁港と坂井平田漁港に挟まれた1km程度の緩傾斜護岸設置海岸。

⑤ 片浜海岸：坂井平田漁港北側の離岸堤の無い海岸。



(地図①) 相良海岸の位置



(地図②) 南から 須々木・波津・相良・平田・片浜 定点測量点

相良地区

ウミガメ最多上陸地区

離岸堤

潜堤+緩傾斜護岸

平田地区

ヘッドランド

片浜地区

ウエットビーチ

1999年5月3日 中潮 干潮時(13時)  
表紙ネットワーク 加藤 弘氏撮影

(写真①) 相良海岸を北側から空撮した様子



(写真②) 西方の天竜川から流れ込む沿岸漂砂の流れと人工構築物

相良海岸は、静岡県の駿河湾西側の御前崎市に隣接している海岸であり（地図①参照）狭い範囲に河川と港が二つも隣接しており、その間の約1 kmの海岸は、緩傾斜護岸・ヘッドランド・潜堤がセットで設置されているという特徴的な沿岸部を持つ。（写真①参照）

また、相良海岸を形成している砂浜は、県西部の天竜川から流れ込む土砂により形成されており、御前崎港の拡張により、砂の供給が絶たれているのが現状である。（写真②参照）

写真①の様子から人工構築物である漁港の北側に砂が堆積していることから、沿岸漂砂の動きは、南から北へ流れている事がわかる。

しかし、この沿岸漂砂の流れは、季節性（季節風との関連）や夏場の台風による侵食等定量的に捉える事が難しい為、定点写真撮影及び定点測量調査をもって実態を継続的に調べる必要がある。



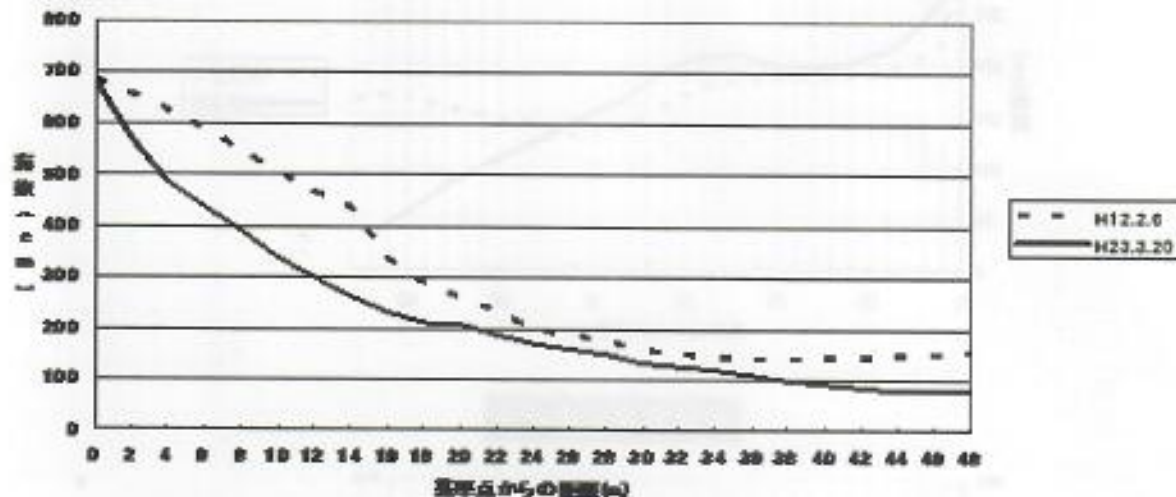
## 2. 測量結果 (南端から)

### ① 須々木海岸

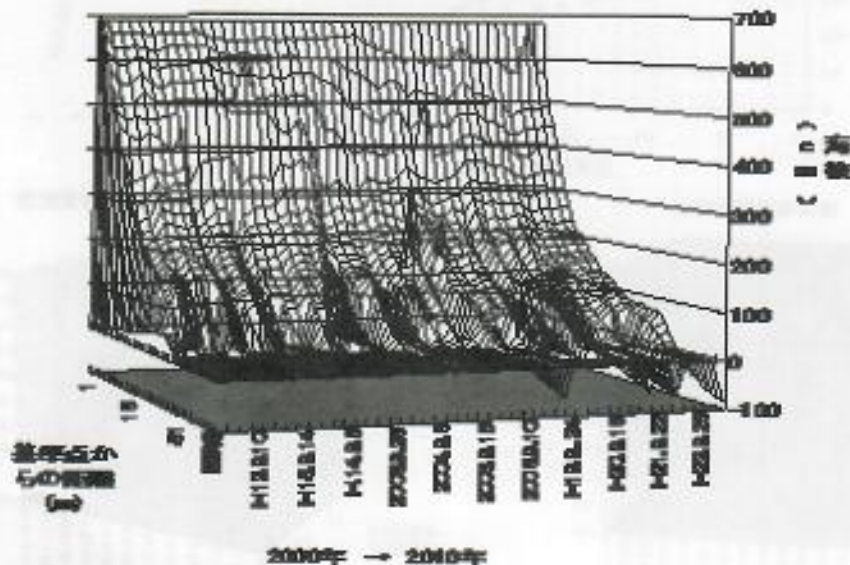
須々木海岸は相良海岸の連続した砂浜の南端にあり、御前崎港による沿岸漂砂の影響を最も受けやすいと思われる海岸で、この10年間にわたる調査結果から、あきらかに侵食されている事がわかる。

等高線グラフで、表したのを見ると、季節性的変化をもちながら動いている事がわかるが、海浜上部の等高線を確認すると、少しずつではあるが、砂浜が減少している事がわかる。

須々木海岸侵食状況



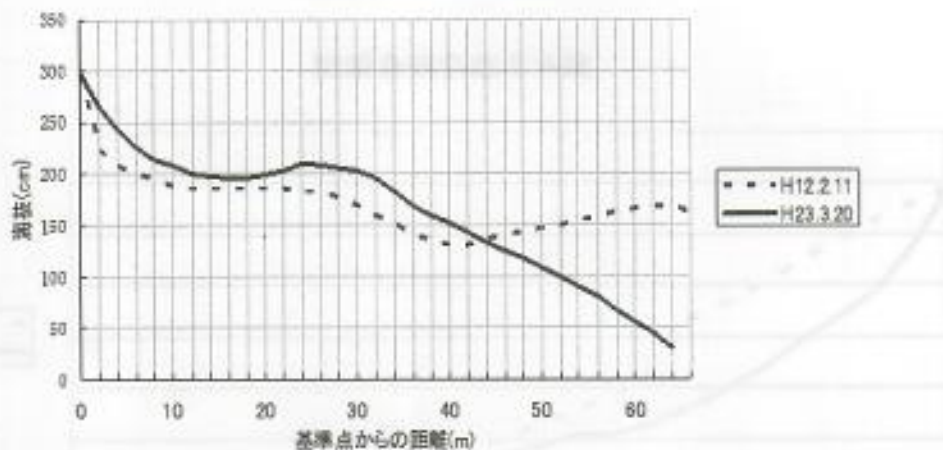
須々木海岸侵食状況(定点測量)



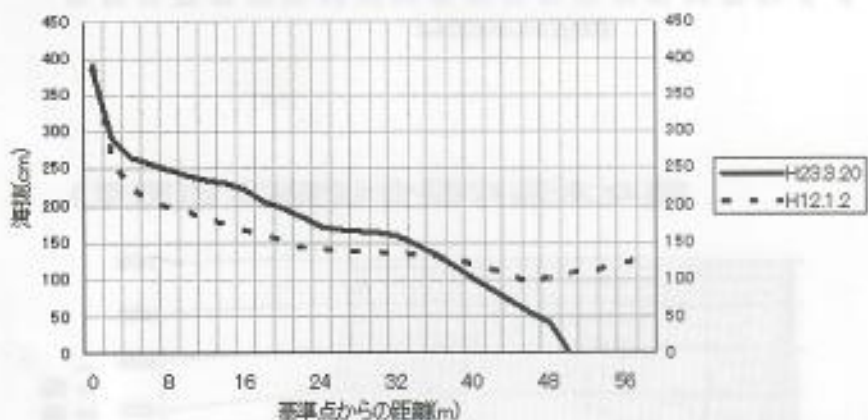
② 波津海岸・相良海岸

この2つの海岸は、離岸堤が沖合に設置されており、著しい侵食は見られていない。但し、10年前と現在の測量図から、汀線付近が著しく侵食されている事がわかる。これは、波打ち際のバームも形成されにくくなっている事から、沖合数メートルの砂の総量自体の減少を意味し（遠浅海岸が無くなった）、台風が襲来した折には、激しく侵食される事を意味する。

波津海岸侵食状況

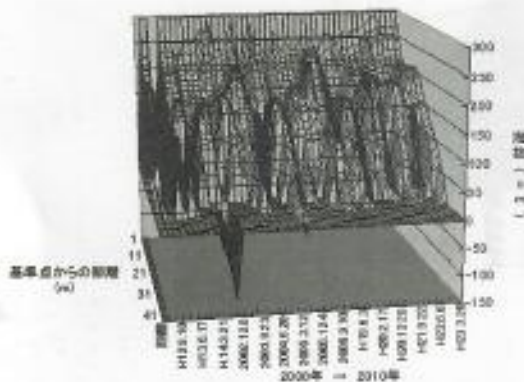


相良海岸侵食状況

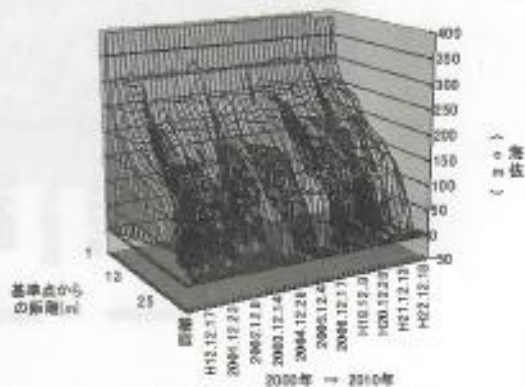


波津海岸侵食状況

相良海岸侵食状況



波津海岸の等高線グラフ



相良海岸の等高線グラフ



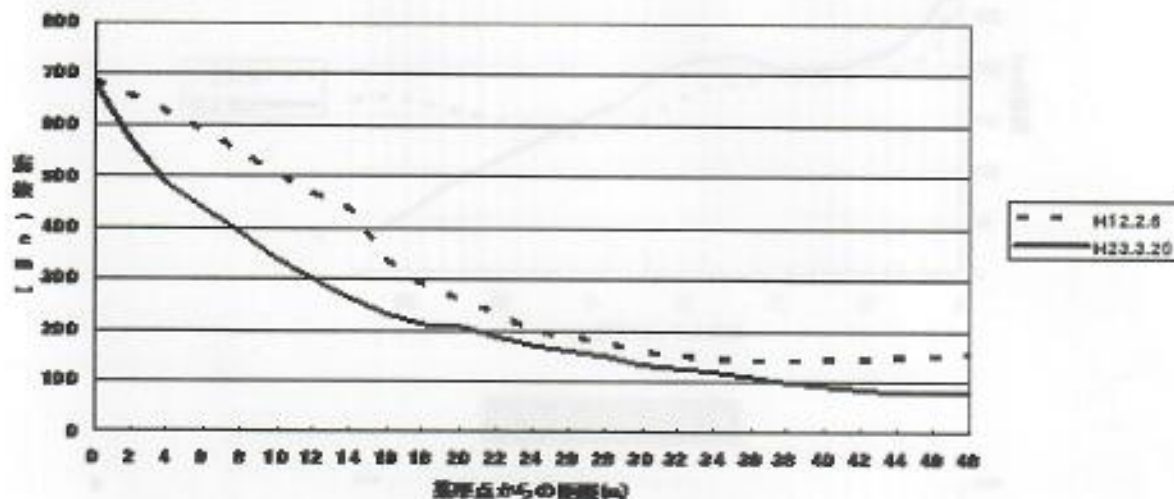
## 2. 測量結果 (南端から)

### ① 須々木海岸

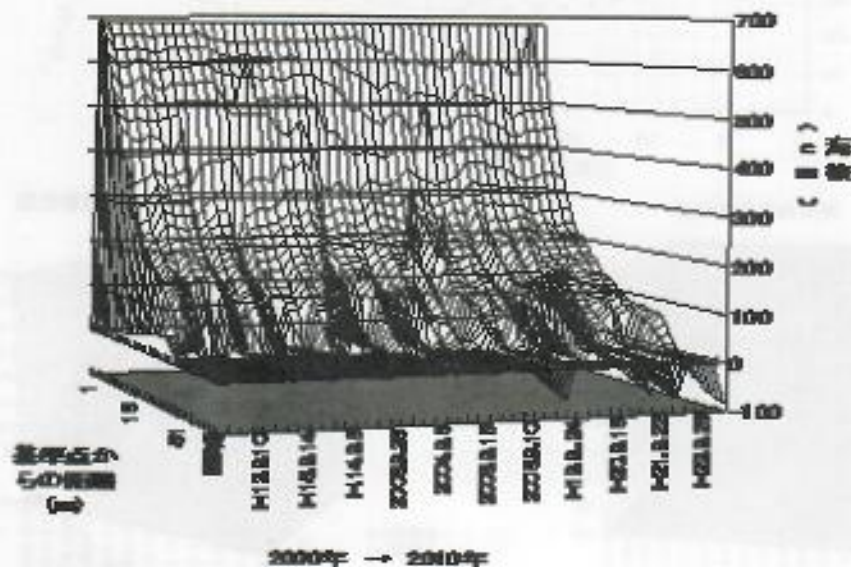
須々木海岸は相良海岸の連続した砂浜の南端にあり、御前崎港による沿岸漂砂の影響を最も受けやすいと思われる海岸で、この10年間にわたる調査結果から、あきらかに侵食されている事がわかる。

等高線グラフで、表したのを見ると、季節性的変化をもちながら動いている事がわかるが、海浜上部の等高線を確認すると、少しずつではあるが、砂浜が減少している事がわかる。

須々木海岸侵食状況



須々木海岸侵食状況(定点測量)



### ③ 平田海岸

この海岸は緩傾斜護岸+潜堤+ヘッドランドがセットになった海岸で、侵食が著しく、測定点においては測量不能となってしまったので写真で解説する。



不思議なものだが、このような折に役立つのが人工構築物である。2001年には緩傾斜護岸を

覆い隠していた砂浜が2010年には消失している。

下の写真では、海岸に伸びた放水路が2000年には、殆ど隠れているが、2009年には砂浜の侵食により、露出してしまっている。

### ④ 片浜海岸

この海岸は、相良海岸の北端に位置しており、大井川からの土砂を運んでくる南向きの沿岸漂砂と交わる砂浜で、著しい侵食は見られていないが、離岸堤などが全く無い海岸で、季節変動が激しい。

砂浜自体も豊富ではなく、ウェットビーチが多く、台風等の襲来により、著しく砂浜は姿を変える。しかし、サーファーも多く、「遠浅」が存在する海岸でもある。

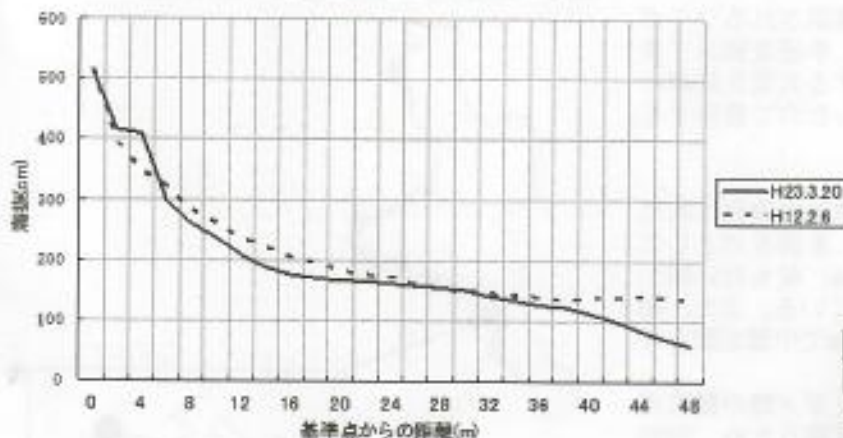
### 3. まとめ

この10年間に及ぶ調査結果から、相良海岸は急激な侵食ではなく、緩やかな侵食傾向を示している事が分かる。

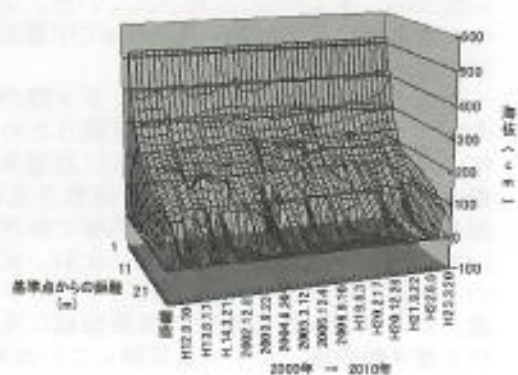
御前崎から回り込んで流れてくる沿岸漂砂の供給が絶たれた今、漁港の浚渫土砂を、上流側の須々木海岸の沿岸域に投機してもらうよう行政に要請したり、後背地への飛砂を極力抑える為、堆砂垣を建設したりと、対策を講じている。

相良海岸の砂は、いまや貴重品であることから、我々の運動により、静岡県条例により砂浜への車両乗り入れが禁止された事や、県立自然公園に指定されている事から、この「白砂青松」の海岸の維持に努めて行きたい。

片浜海岸侵食状況



片浜海岸侵食状況





## 熊野灘沿岸に出現するウミガメ類

### Occurrence of the sea turtles at the coastal water of Kumano-nada

岡本慶・石原孝・谷口真理・山下訓右・亀崎直樹

Kei OKAMOTO, Takashi ISHIHARA, Mari TANIGUCHI, Noriaki YAMASHITA  
and Naoki KAMEZAKI

熊野灘周辺においては、紀伊半島東岸の伊勢湾沿岸、志摩半島および七里御浜でアカウミガメ *Caretta caretta* が産卵しているほか（若林, 1990; 花尻, 1998; 岩本ほか, 2005）、アオウミガメ *Chelonia mydas* が志摩半島沿岸、熊野灘、和歌山県串本地先、タイマイ *Eretmochelys imbricata* が志摩半島沿岸、串本地先、ヒメウミガメ *Lepidochelys olivacea* が串本地先、オサガメ *Dermochelys coriacea* が伊勢湾、志摩半島沿岸および串本地先で確認されている（宮脇, 1994; 若林, 1997; 若林ほか, 1999; 若林ほか, 2004; 山下, 2007; 若林, 2008; 若林・岡, 2008; 谷口・亀崎, 2011）。また、これまでに谷口・亀崎（2011）によって熊野灘沿岸に出現するウミガメ類については、定置網、刺網といった漁具への入網、海岸への漂着個体を用いて種組成やサイズ組成に関して報告がなされているものの、周年を通じて同じ場所、手法で採取されたものではなく、同海域に生息するウミガメ類の種組成やサイズ分布を反映しているとは言い難い。

本研究では、熊野灘沿岸で確認されるウミガメ類の種組成ならびにサイズ、季節変動が三重県紀北町島勝浦の地先に位置する大型定置網に入網した個体から明らかになったので報告する。

#### 調査地と方法

三重県紀北町海山区島勝浦地先に設置された大型定置網、島勝大敷（図1）を調査地とした。島勝大敷は島勝漁港から約2 km、最も近い陸から約200 m、水深48 mに設置されている。また、網の大きさは全長約350 m、幅約60 mで中層定置と呼ばれるものである。

島勝大敷付近に生息するウミガメ類の種組成や種ごとの出現時期、サイズを探るため、2006年4月1日から2009年3月31日に島勝大敷に混獲されたウミガメ類の種、個体数を記録した。調査は、台風、高波、強風、早潮や休漁日を除いて、周年を通じて行なった。なお、定置網という漁法の性質上、捕獲されるウミガメの種組成、サイズ組成は定置網の設置海域に生息するウミガメ類の種、サイズを反映しているものと

考えられる。

採取されたウミガメはPritchard and Mortimer (1999)に従い、外部形態に基づいて種の同定を行なった後、ノギスおよび巻き尺を用いて、標準直甲長（以下SCL）および曲甲長（以下CCL）を計測した（亀崎・菅沼, 1991）。なお、CCLのみの計測を行なったアオウミガメに関しては、 $SCL = 0.918 * CCL + 1.40$ の換算式（岩瀬・黒柳, 1999）を用いて、SCLを推定した。

また、計測したウミガメのうち、死亡していた個体は生殖腺を観察し、雌雄判別および成熟度の判別を行ない、これらのウミガメ類の本海域への出現要因を推察した。なお、採取されたウミガメ類の性成熟度の判定は、Limpus and Limpus (2003)およびMiller and Limpus (2003)を基に、オスの精巣において、円筒形で精巣上体がはっきりと肥大していれば成熟、楕円形で精巣上体と体壁との境が明確でなければ未成熟と、メスの卵巣において、卵黄が発達しているか黄体や白体、閉鎖卵胞があれば成熟、発達した卵胞が見られなければ未成熟と判定した。

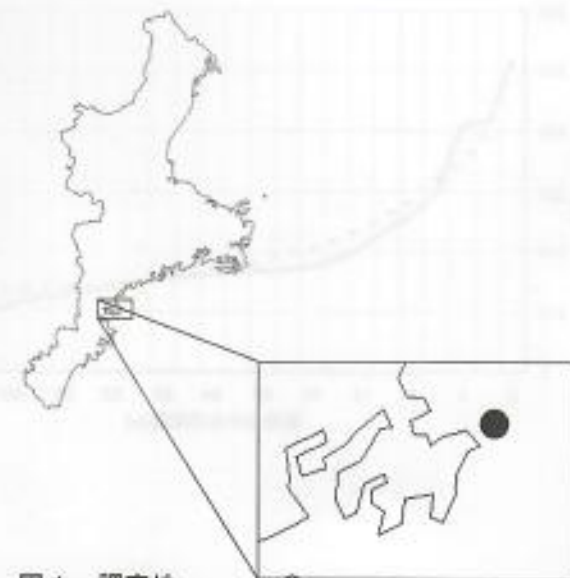


図1. 調査地  
三重県紀北町島勝浦沖に設置されている大型定置網を調査地とした。

## 結果

島勝大敷で確認されたウミガメ類はアオウミガメが225個体(54.1%)、アカウミガメが190個体(45.7%)、タイマイが1個体(0.2%)確認された。年度別では、2006年度がアカウミガメ72個体、アオウミガメ53個体、2007年度はアカウミガメ50個体、アオウミガメ83個体、タイマイ1個体、2008年度はアカウミガメ68個体、アオウミガメ89個体と年度により種組成に変動がみられるものの、アカウミガメとアオウミガメの2種が優占していた。また、2008年度に混獲されたアオウミガメには、その外部形態から亜種 *Chelonia mydas agassizii* (和名：クロウミガメ) と判別される個体(亀崎ほか, 1998) が1個体含まれていた。これ以降、出現の多かったアカウミガメとアオウミガメについてまとめた。

アカウミガメは産卵期に相当する5-7月には合計102個体(53.7%)が確認された一方で、冬季にあたる12-2月には合計14個体(7.4%)しか確認されなかった(図2)。すなわち、アカウミガメは産卵期にあたる季節に出現数が増加し、冬季には減少する傾向が示された。アオウミガメは6-11月に多く出現し、この期間に全体の93.8%にあたる211個体が確認された(図2)。最も多かったのは6月で45個体、次いで8月の38個体であった。その一方で1-4月には2月に1個体確認されたのみであった。

SCLが計測できたアカウミガメは12個体、アオウミガメは26個体であった。アカウミガメのSCLは、 $756 \pm 35\text{mm}$  (mean  $\pm$  SD, range: 701-809mm,  $n=12$ ) であった(図3)。一方、アオウミガメのSCLは $670 \pm 229\text{mm}$  (369-1015mm,  $n=26$ ) であり、SCLの分布は401-500mmと851-950mmにモードを示す二山型となった(図3)。

混獲されたウミガメ類のうち、アカウミガメ11個体、アオウミガメ15個体に関しては、雌雄の判別および性成熟度の判定を行なった。アカウミガメはメスが9個体、オスが2個体であった。成熟した個体は4個体で、すべて卵殻付卵胞を有し、産卵を直前に控えたメスであった(表1, 2)。また、成熟個体が確認されたのは5月と6月に限られたが、未成熟個体は6-8月、10月、12月に確認された。

次に、アオウミガメはメスが10個体でオスが3個体、成熟していたのはメス3個体、オス2個体であった(表1, 2)。メスの成熟個体は6、7、9月に確認されたが、成熟したメスの卵胞はいずれも卵殻は形成されていなかった。オスの成熟個体は6、7月にそれぞれ1個体ずつ確認され、6月の個体は精巣が発達し精巣上に精子が蓄積されていたが、7月の個体の精巣と精巣上体は萎縮していた。なお、未成熟個体はメスが6-8月、10月に、オスが8月に確認された。

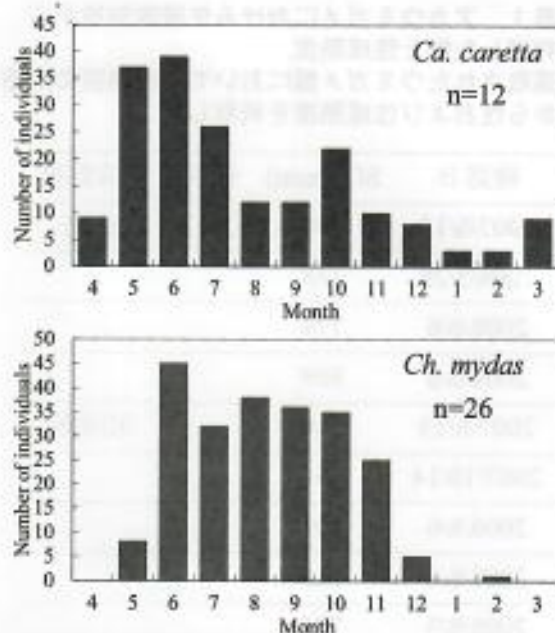


図2. 月別確認個体数  
上段にアカウミガメ、下段にアオウミガメの個体数を示した。

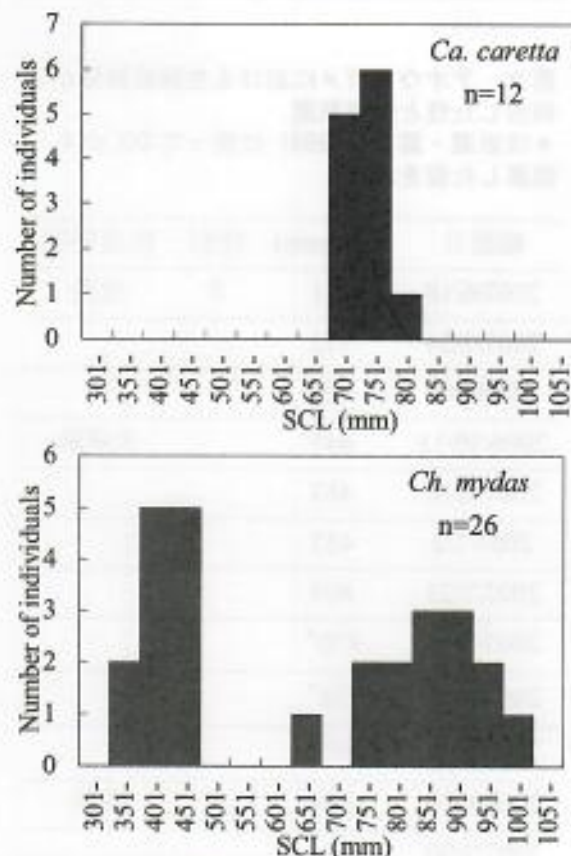


図3. 標準直甲長(SCL)組成  
上段にアカウミガメ、下段にアオウミガメの標準直甲長組成を示した。



表1. アカウミガメにおける生殖腺形態から判別した性と性成熟度。  
採取されたウミガメ類において、生殖腺の形態から性および性成熟度を判別した。

確認日	SCL(mm)	性別	性成熟度
2007/6/13	794	♀	成熟
2008/5/28	738		
2008/6/6	774		
2008/6/6	809		
2007/6/13	710		未成熟
2007/10/14	761		
2008/6/6	701		
2008/6/6	736		
2008/8/3	775		
2007/7/3	759	♂	未成熟
2007/12/28	790		

表2. アオウミガメにおける生殖腺形態から判別した性と性成熟度。

\*は岩瀬・黒柳(1999)に従ってCCLから換算した値を示す。

確認日	SCL(mm)	性別	性成熟度
2007/6/18	911	♀	成熟
2007/7/24	912		
2008/9/4	929		
2006/10/13	449		未成熟
2007/6/10	463		
2007/7/2	455		
2007/7/23	809		
2007/7/30	470*		
2007/7/30	438*		
2007/7/31	418*		
2007/6/10	878	♂	成熟
2007/7/30	970		
2008/8/3	845		未成熟

## 考察

本海域に出現するウミガメ類は、アカウミガメとアオウミガメが多く、稀にタイマイが確認されることが明らかになった。また、1年に確認されるウミガメ類はアカウミガメとアオウミガメが99-100%を占めるが、これら両種の出現割合は年によって変動が見られた。これは両種が本海域を利用する要因が異なっていることを示している。

アカウミガメは5-7月に特に出現個体数が多かったが、これは宮脇(1994)、谷口・亀崎(印刷中)による報告と一致していた。なお、その理由としては、5-7月がアカウミガメの産卵期にあたり、三重県でも伊勢湾沿岸や志摩半島、七里御浜で産卵が確認されていること(岩本ほか, 2005; 若林, 1990)、5-7月に生殖腺を観察した7個体中4個体は卵殻付卵を有していたことから、産卵目的で調査地の沿岸に近づいた個体が多かったことが考えられた。また、日本沿岸の他海域における過去の報告によると、アカウミガメの出現は沖縄島中部東岸では1-5月(平手, 2000)、高知県室戸岬沿岸では3-6月、鹿児島県野間池沿岸では4-7月(武内, 2008)に相対的に多く、1年のうちで多くの個体が出現する時期は南方の海域の方がより早い傾向にあると考えられた。

次に、アカウミガメのSCLの分布は701-809mmにあり、熊野灘の本報よりさらに南方の海域のSCL649-923mm(n=51; 谷口・亀崎, 2011)、室戸のSCL563-1050mm(n=1392; Ishihara et al., 2011)、沖縄島のSCL651-921mm(n=29; 平手, 2000)に比べて範囲は狭かったが、これは主に試料数の違いに起因すると推察される。また、本海域ではモードとなるSCLの階級は751-800mmであり、室戸のSCL740-750mm(Ishihara et al., in press)、沖縄島のSCL700-750mm(平手, 2000)よりも大きく、熊野灘のSCL701-800mmと変わらなかった。このことから考えると、北方の海域ほどSCLが大きくなるようにも思われるが、統計学的な検討を行なうには本海域での試料数を増やす必要がある。また、さらに北方に位置する三陸沿岸の定置網で混獲されたアカウミガメのSCLは720±63mm(mean±SD, range: 522-825mm, n=34)と最も小さい(楢崎ほか, 2010)ことから、北方の海域ほどSCLが大きくなることを結論づけることは危険である。しかし、仮に沖縄島から三重県にかけてはより北方の海域ほど混獲個体のSCLのモードが大きくなるとすると、これは、北方の産卵地ほどSCLが小さくなる産卵個体(亀崎ほか, 1995)とは逆の傾向であり興味深い。本海域におけるアカウミガメのSCLのモードを構成する個体の大半は、性成熟が進行中の個体であり(石原, 2011)、今後、日本各地で確



認められるアカウミガメのSCLのモードの出現傾向を明らかにしていくことにより、アカウミガメにおける性成熟前の回遊の実態解明が期待される。

アオウミガメは日本において屋久島以南の南西諸島、小笠原諸島に産卵場を持つことが知られている(菅沼, 1998)。アオウミガメの産卵期は5-8月上旬であるとされ(山口ほか, 2005)、本海域での出現数が多かった6-11月にも産卵期の一部が含まれていた。しかし、成熟したメスは確認されたものの、卵殻付卵は確認されず、付近にアオウミガメの産卵地も知られていないことから、本海域での出現は産卵を目的としたものと考えがたい。また、島勝大敷で混獲されたアオウミガメの消化管内は海藻類で満たされており(石原ほか, 2007; 亀田・石原, 2009)、熊野灘沿岸はアオウミガメの摂餌域であることが強く示唆された。また、アオウミガメは12-5月には本海域における出現数が少なかった。これは、アオウミガメが冬季の低水温期には別の海域に移動していることを示唆しており、時期によって生息域を変えながら生活していると考えられた。串本町地先においては7月の22個体(18.2%)に加えて12、1月にも合計36個体(29.8%)と多くの個体が捕獲されており、低水温を避けて周辺海域から来遊している可能性があると考えられており(宮脇, 1994)、夏季に本海域に分布している集団の一部は冬季には串本地先海域へと移動している可能性がある。

次にアオウミガメのSCLの分布(図3)は正規分布せず、351-500mmおよび751-1050mmに山を形成する二山型の分布を示した。すなわち、SCL688mmの1個体を除いて、350mm以下、501-750mmのサイズの個体は別の海域に生息していることを示している。一方、熊野灘沿岸のアオウミガメのSCL分布について報告されている谷口・亀崎(2011)のSCLの分布をみると、401-500mmの幼体が多く、701mm以上の個体は少なかった。これは、調査地の位置や水深に起因するものと考えられ、七里御浜沖においては、701mm以上の大型個体の生息するような摂餌域は存在しないものと考えられる。また、その他の海域での過去の研究においては、串本では300mm以下と500-1000mm(宮脇, 1994)、室戸では350mm以下と500-700mm(石原ほか, 2006)、鹿児島県野間池では350mm以下と500-650mm(武内, 2008)、沖縄島では350mm以下と500-600mm(平手, 2000)、日本海沿岸では300mm以下と500-700mm(山下, 1995)のアオウミガメが少数しか確認されていないことから、アオウミガメのSCL350mm以下や500-700mm程度のサイズの個体は日本の沿岸域には多くは分布しないものと考え

えられる。しかし、現時点ではどこの海域に分布しているか、なぜ日本の沿岸域に分布しないのかはわかっておらず、今後の標識調査などの研究の成果を期待したい。

#### 謝辞

本調査の一部は、日本経団連自然保護協議会による公益信託日本経団連自然保護基金、Western Pacific Regional Fishery Management Council、公益財団法人日立環境財団からの助成を受けて行なった。また、データの採取においては、津村公、玉置立各氏をはじめとする(株)島勝大敷の漁業者の皆様、木野得克、田中宇輝、中島悠介の各氏ならびに三重大学ウミガメ・スナメリ調査・保全サークル「かめっぷり」の皆様に協力いただいた。ここに記し、感謝申し上げる。

#### 引用文献

- 花尻薫. 1998. 三重県熊野市内に上陸・産卵したアカウミガメの状況(1998年). うみがめニュースレター(38): 10.
- 平手康市. 2000. 沖縄島近海に出現するウミガメ類集団の種、性、サイズ組成とその季節変動に関する研究. 琉球大学修士論文, 沖縄.
- 石原孝. 2011. 北太平洋産アカウミガメの性成熟過程における生活史. 東京大学博士論文, 東京.
- 石原孝・亀崎直樹・山崎千亜希・山下傑. 2006. 高知県室戸岬周辺に出現するウミガメ. うみがめニュースレター(70): 14.
- 石原孝・亀田和成・中本真理子・岡本慶・井田なつき. 2007. 産卵を控えたアオウミガメの摂餌例. うみがめニュースレター(74): 18.
- Ishihara, T., N. Kamezaki, Y. Matsuzawa, F. Iwamoto, T. Oshika, Y. Miyagata, C. Ebisui, and S. Yamashita. in press. Re-entering of Juvenile and Sub-adult Loggerhead Turtles into the Japanese Natal Waters. Current Herpetology.
- 岩本太志・石原孝・林且雄・木野得克・若林郁夫・亀崎直樹. 2005. 三重県北部沿岸におけるアカウミガメ(*Caretta caretta*)の出現記録. 爬虫両棲類学会報 2005(2): 109-111.
- 岩瀬文人・黒柳賢治. 1999. アオウミガメ及びタイマイの直甲長と曲甲長の関係. うみがめニュースレター(39): 12.
- 亀田和成・石原孝. 2009. 日本沿岸におけるアオウミガメの消化管内容物. うみがめニュースレター(81): 17-23.
- 亀崎直樹. 1994. 子ガメの生活場所と移動. p. 6. In: 紀伊半島ウミガメ情報交換会・日本ウミガメ協議会(編). うみがめは減っているか



- ～その保護と未来～. 紀伊半島ウミガメ情報交換会, 和歌山.
- 亀崎直樹・松井正文. 1997. 日本におけるウミガメ類の生物学的研究(総説). 沖縄生物学会誌 35: 1-8.
- 亀崎直樹・平手康市・重井明男. 1995. 八重山海域におけるアオウミガメの成長例. Akamata (11): 27-28.
- 亀崎直樹・黒柳賢治・杉山重実. 1998. 八重山諸島近海で得られたクロウミガメ *Chelonia mydas agassizii* について. 爬虫両棲類学雑誌 17(4): 178.
- Limpus, C. J., and D. J. Limpus. 2003. Biology of the Loggerhead Turtle in Western South Pacific Ocean Foraging Areas. p. 93-113. In: A. B. Bolten and B. E. Witherington (eds.), Loggerhead sea turtles. Smithsonian Books, Washington, D.C., U.S.A.
- Miller, J. D., and C. J. Limpus. 2003. Ontogeny of marine turtle gonads. p. 199-224. In: P. Lutz, J. A. Musick, and J. Wyneken (eds.), The Biology of Sea Turtles. Vol. 2. CRC Press, U.S.A.
- 宮脇逸朗. 1994. 和歌山県串本町地先海域で捕獲されたウミガメ類とその直甲長について. p. 75-80. In: 亀崎直樹ほか(編), 日本のウミガメの産卵地. 日本ウミガメ協議会, 大阪.
- 榎崎友子・詫間峻一・林果林・佐藤克文. 2010. 三陸沿岸域におけるウミガメ類の混獲調査の報告(2010年度). うみがめニュースレター (86): 17.
- Pritchard, P. C. H. and J. A. Mortimer. 1999. Taxonomy, External Morphology, and Species Identification. p. 21-38. In: K. L. Eckert, K. A. Bjorndal, F. A. Abreu-Grobois, and M. Donnelly (eds.), Research and Management Techniques for the Conservation of sea turtles, IUCN/SSC Marine Turtle Specialist Group Publication (4). Washington, D.C., U.S.A.
- 菅沼弘行. 1998. アオウミガメ. p. 240-241. In: 水産庁(編), 日本の希少な野生水生生物に関するデータブック. 日本水産資源保護協会, 東京.
- 谷口真理・亀崎直樹. 2011. 熊野灘に出現するウミガメ類. 南紀生物 53(1): 65-67.
- 武内有加. 2008. 鹿児島県野間池沿岸におけるアオウミガメ (*Chelonia mydas*) の個体群構造とその季節変動. 鹿児島大学修士論文, 鹿児島.
- Uchida, I. and M. Nishiwaki. 1982. Sea turtles in the water adjacent to Japan. p. 317-319. In: K. A. Bjorndal. (ed.), Biology and Conservation of Sea Turtle. Smithsonian Institution Press, Washington, D.C., U.S.A.
- 若林郁夫. 1990. 三重県におけるアカウミガメの産卵. うみがめニュースレター (5): 3-4.
- 若林郁夫. 1997. 三重県におけるオサガメの漂着2例. 鳥羽水族館年報 (8): 45-48.
- 若林郁夫. 2008. 伊勢湾におけるオサガメの混獲例. 三重の生きものだより (39): 6.
- 若林郁夫・岡由佳理. 2008. 志摩半島におけるタイマイの漂着2例. 三重の生きものだより (38): 4-5.
- 若林郁夫・中村みつ子・山本祥輝. 2004. 伊勢湾におけるオサガメの目撃記録. 三重の生きものだより (23): 2-3.
- 若林郁夫・中村光幸・福永純子・亀井陽太郎・浦中秀人. 1999. 三重県志摩半島周辺におけるウミガメ類の漂着記録. うみがめニュースレター (39): 17.
- 山口真名美・菅沼弘行・嶋島浩二. 2005. 小笠原諸島父島列島で繁殖するアオウミガメ (*Chelonia mydas*) の上陸・産卵状況(2005年)と過去27年間の産卵巣数の経年変化. うみがめニュースレター (66): 2-6.
- 山下郁. 1995. 日本海におけるウミガメ類の来遊について. 富山大学教育学部地理学教室年報 (3): 155-173.
- 山下訓右. 2007. 三重県における中層定置網とウミガメ. うみがめニュースレター (71): 32.



## 産卵シーズン初期の上陸回数からシーズン全体の上陸および産卵回数を推定する試み

### An estimation of total landing and nesting numbers of loggerhead sea turtles (*Caretta caretta*) from initial landing numbers at the initial nesting season

大内裕貴・大牟田一美・亀崎直樹

Yuki Ouchi, Kazuyoshi Omuta and Naoki Kamezaki

北太平洋に生息するアカウミガメはIUCNレッドリストにおいて絶滅危惧IB類に指定されている(Baillie and Groombridge 1996)。また日本は北太平洋に生息する本種の最大の産卵地となっている(Kamezaki 1989; Kamezaki *et al.* 2003)。絶滅危惧種である本種を保全する上で、北太平洋に生息し産卵を行う集団サイズの把握は重要な課題であり、日本における本種の上陸および産卵回数の知見は必要不可欠な情報となっている。本種は南西諸島から本州鹿島灘沿岸まで広く産卵に訪れる(日本ウミガメ協議会 2002; Kamezaki *et al.* 2003)。特に薩南諸島は主要な産卵地が多いことで知られており、屋久島は日本全体の産卵回数の約3割を占める(Kamezaki 1989)。薩南諸島での上陸および産卵回数の調査の主体者は、地元の有志の方々や調査団体の会員、ボランティア、鹿児島県ウミガメ保護条例の施行に伴うウミガメ保護監視員である。屋久島の田舎浜、前浜、四ツ瀬浜では4月から8月までの産卵シーズンを通して毎日、夜から朝にかけて砂浜を歩き、上陸および産卵回数をカウントするという調査方法をとっており、薩南諸島の他の産卵地もほぼ同様の調査方法がとられている。屋久島を代表とする薩南諸島の産卵地は本種の上陸回数があまりにも多いことから、産卵シーズン全体を通してこの方法での調査を継続するのは、調査者の肉体に多大な負担をかけ、また多くの調査人数を必要とするために、非常に困難となっている。そこで、産卵シーズン初期の上陸回数からシーズン全体の上陸および産卵回数が推定できれば、調査者の負担を軽減できると考えられる。

産卵シーズン初期の上陸回数からシーズン全体の上陸および産卵回数を推定する方法として、各年のシーズン初期とシーズン全体の上陸および産卵回数間で相関を求め、強い相関が認められた場合には散布図に近似曲線を引き、近似式から推定する方法が考えられる。Gratiot *et al.* (2005) は、オサガメ、ヒメウミガメ、アオウミガメにおいて産卵シーズンの初期から終期

にかけての産卵回数の増減が、波形を表す正弦関数に当てはめられるほど規則的であることを示した。本種の各年における経月の上陸および産卵回数の増減も同様の傾向を示すならば、各年における産卵シーズン初期の上陸回数とシーズン全体の上陸および産卵回数との間に強い相関が認められる可能性がある。

そこで本研究では、薩南諸島の屋久島、種子島、奄美大島の3産卵地について本種の各年における経月の上陸および産卵回数を明らかにし、産卵シーズン初期の上陸回数とシーズン全体の上陸および産卵回数について、ピアソンの積率相関分析により相関を求めた。もし強い相関が認められた場合には散布図に近似曲線を引き、近似式を求めることで、産卵シーズン初期の上陸回数からシーズン全体の上陸および産卵回数を推定するモデルの構築を試みた。

#### 調査地データおよび解析方法

薩南諸島の主要な産卵地である屋久島、種子島、奄美大島の3産卵地について調査を行った。屋久島の上屋久町のいなか浜、前浜、四ツ瀬浜の3浜については特定非営利活動法人屋久島うみがめ館が毎年発行する「屋久島におけるウミガメ上陸・産卵調査報告」、その他の砂浜については鹿児島県が毎年発行する「鹿児島県ウミガメ実態調査表」の中に記載されている生データを用いた。なお、これらのうち2000年から2008年の4月から8月までのデータを使用した。

3産卵地全体における各年の経月の上陸および産卵回数を明らかにし、4月、5月、6月までの累積上陸回数とシーズン全体の上陸および産卵回数について、ピアソンの積率相関分析を行った。また強い相関 ( $p < 0.05$ ) が認められた場合には散布図に近似曲線を引き、近似式を求めるとともに、式の解と実際のシーズン全体の上陸および産卵回数との誤差を表す標準偏差を求めた。



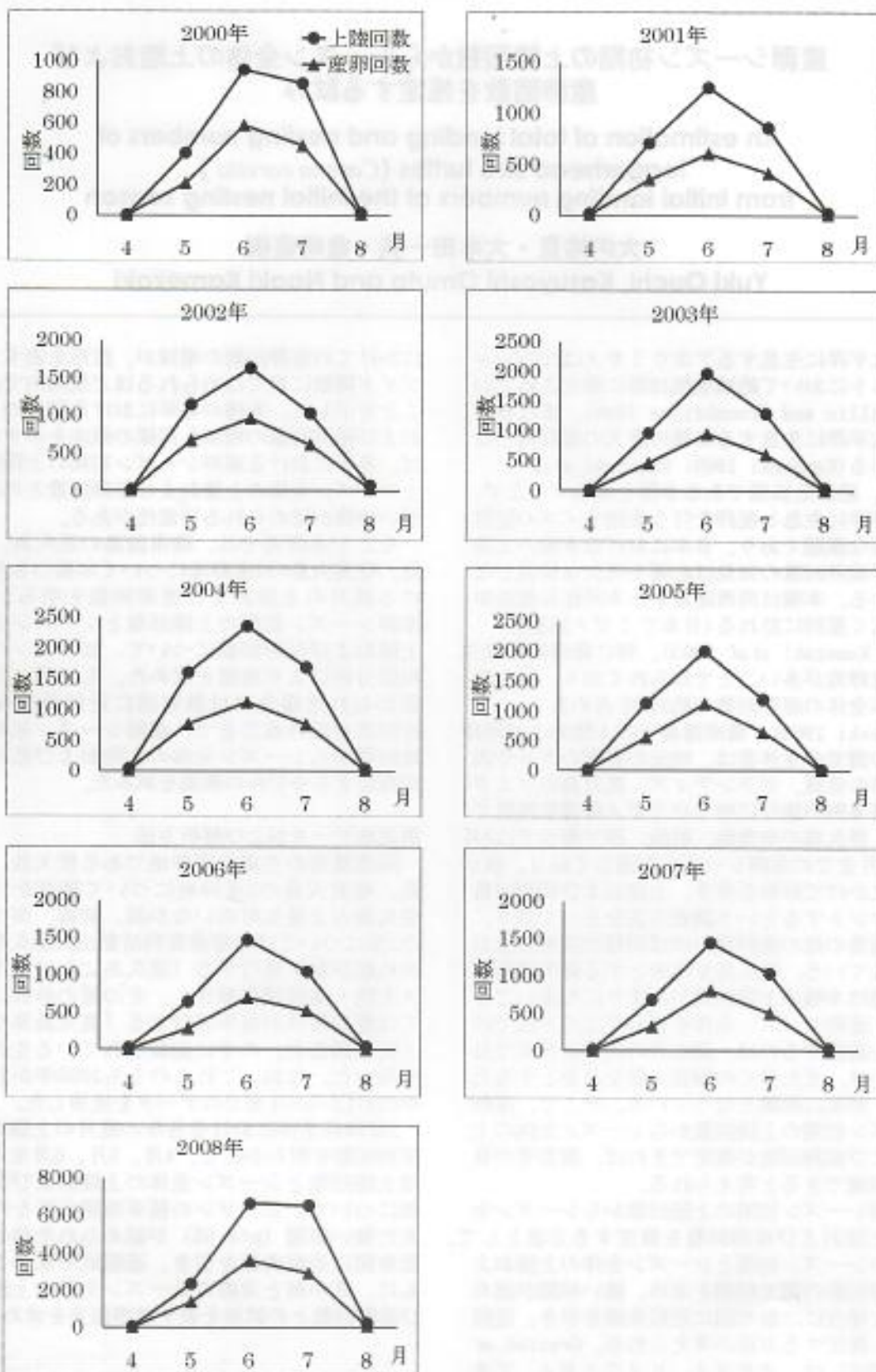


図1. 3産卵地における各年の経月の上陸および産卵回数

表1. 4月,5月,6月までの累積上陸回数と  
シーズン全体の上陸および産卵回数との相関

	シーズン全体上陸回数			シーズン全体産卵回数		
	r	p	n	r	p	n
4月のみ上陸回数	0.89	4.91E-10	25	0.84	4.57E-08	25
5月のみ上陸回数	0.97	8.94E-18	25	0.97	2.26E-16	25
6月のみ上陸回数	0.99	1.43E-28	25	0.97	7.52E-17	25
5月まで累積上陸回数	0.98	5.27E-18	25	0.97	2.42E-16	25
6月まで累積上陸回数	0.99	1.08E-26	25	0.97	8.29E-18	25

#### 結果

3産卵地全体における各年の経月の上陸および産卵回数を図1に示した。これをみると、上陸と産卵は4月から8月にかけて確認され、それらの回数は6月にピークがみられる単峰性となり、両者は各年で同様の経月変化を示した。

次に3産卵地全体における4月、5月、6月までの累積上陸回数とシーズン全体の上陸および産卵回数との相関を表1に示した。

また散布図を図2に示した。これをみると、相関を求めたすべての組み合わせにおいて強い正の相関が認められた( $p < 0.01$ )。また6月のみ、6月までの累積上陸回数とシーズン全体の上陸回数との相関において最も強い正の相関が認められた(どちらも $r = 0.99$ )。

図2の散布図に引いた近似曲線から求めた近似式、近似式の解と実際のシーズン全体の上陸および産卵回数との誤差を表す標準偏差を表2に示した。これをみると誤差が最も大きくなったのは4月の上陸回数とシーズン全体の上陸回数との相関から求めた近似式の解( $\pm 528.75$ )であった。また誤差が最も小さくなったのは6月の上陸回数とシーズン全体の上陸回数との相関から求めた近似式の解で( $\pm 96.290$ )あった。

#### 考察

今回の結果より、4月、5月、6月までの累積上陸回数からシーズン全体の上陸回数が推定できる可能性が示された。また5月までの累積上陸回数および6月のみ、6月までの累積の上陸回数を用いると、より小さな誤差でシーズン全体の上陸および産卵回数が推定できる可能性が示唆された。近似式より求められた解と実際のシーズン全体の上陸および産卵回数との誤差は、すべての解析結果において3産卵地全体における隔年の上陸および産卵回数の変動よりも小さい値であり(3地域全体における9年間の平均上陸回数: 5073.2回, 標準偏差:  $\pm 3931.6$ , 最大値-最小値: 15856-2222; 3産卵地全体における9年間の平均産卵回数: 2584.8回, 標準偏差:  $\pm 1994.1$ , 最大値-最小値: 8070-1253)、推定値は各年のシーズン全体の上陸または産卵回数を表すのに妥当な値であると考えられる。ただ、本研究で最も誤差が小さかった6月の上陸回数から推定したシーズン全体の上陸回数でも $\pm 96.290$ 回の誤差があることから、上陸回数の少ない年にこの式を用いると上陸回数の過少、過大評価につながる危険性がある。そのため本研究で求めた近似式は慎重に運用する必要があり、あくまでシーズン全体の上陸または産卵回数の目安としての運用に止めるべきであると考えられる。



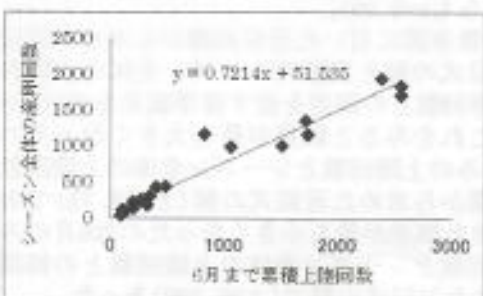
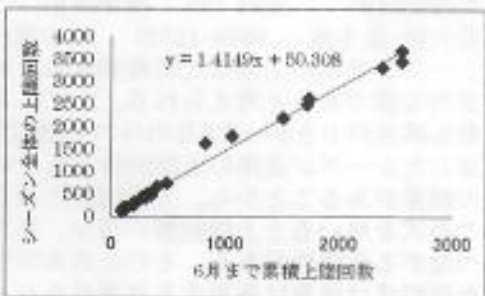
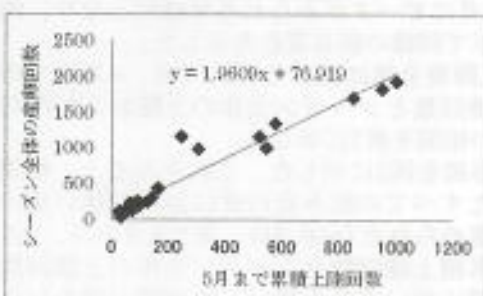
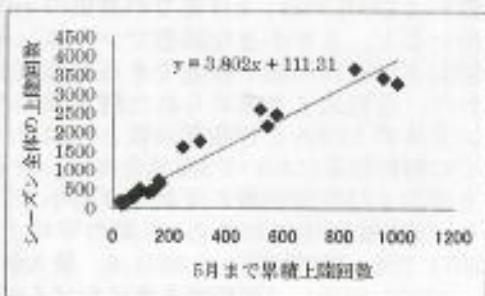
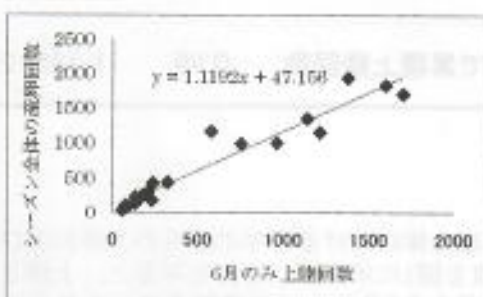
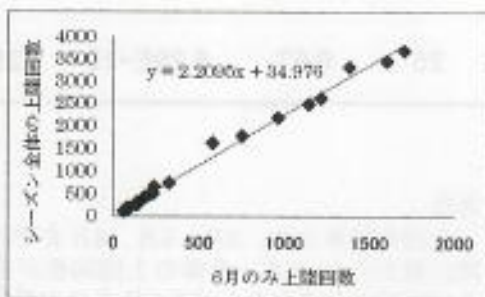
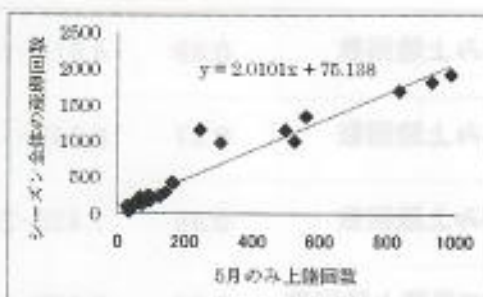
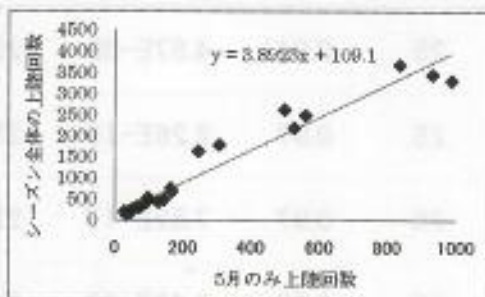
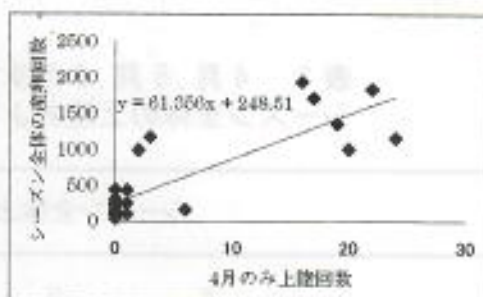
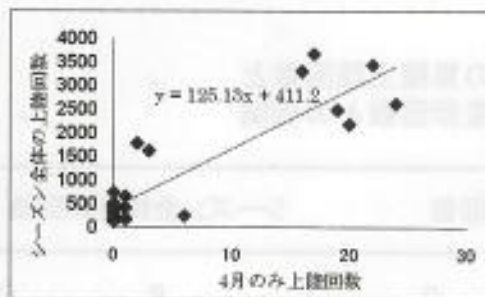


図2. 4月、5月、6月までの累積上陸回数とシーズン全体の上陸および産卵回数との相関散布図

表 2. 散布図の近似曲線から求めた近似式および標準偏差

	シーズン全体上陸回数		シーズン全体産卵回数	
	近似式	標準偏差	近似式	標準偏差
4月のみ上陸回数	$y=125.13x+411.2$	$\pm 528.75$	$y=61.356x+248.51$	$\pm 329.2$
5月のみ上陸回数	$y=3.8923x+109.1$	$\pm 260.07$	$y=2.0101x+75.138$	$\pm 154$
6月のみ上陸回数	$y=2.2095x+34.976$	$\pm 96.3$	$y=1.1192x+47.156$	$\pm 147.37$
5月まで累積上陸回数	$y=3.802x+111.31$	$\pm 254.63$	$y=1.9609x+76.919$	$\pm 154.42$
6月まで累積上陸回数	$y=1.4149x+50.308$	$\pm 114.48$	$y=0.7214x+51.535$	$\pm 134.95$

謝辞

本研究を行うにあたり、資料を提供して下さった屋久島うみがめ館、鹿児島県庁環境保護課の小濱一志様、鹿児島県ウミガメ保護監視員の皆様はこの場を借りて御礼を申し上げます。

引用文献

- Baillie, J. and B. Groombridge. 1996. 1996 IUCN Red List of Threatened Animals. International Union for Conservation of Nature. Gland, Switzerland.
- Gratiot, N., J. Gratiot, L. Kelle and B. de Thoisy. 2005. Estimation of the nesting season of marine turtles from incomplete data: statistical adjustment of a sinusoidal function. *Animal Conservation* 9(1): 95-102.
- Kamezaki, N. 1989. The Nesting of sea turtles in the Ryukyu Archipelago and Taiwan main islands. p. 342-348. In: M. Matsui, T. Hikida, and R. C. Goris (eds.), *Current herpetology in East Asia*. The Herpetological Society of Japan, Kyoto.
- Kamezaki, N., Y. Matsuzawa, O. Abe, H. Asakawa, T. Fujii, K. Goto, S. Hagino, M. Hayami, M. Ishii, T. Iwamoto, T. Kamata, H. Kato, J. Kodama, Y. Kondo, I. Miyawaki, K. Mizobuchi, Y. Nakamura, Y. Nakashima, H. Suganuma, H. Takeshita, T. Tanaka, T. Toji, M. Uematsu, A. Yamamoto, T. Yamato, and I. Wakabayashi. 2003. Loggerhead Turtles Nesting in Japan. p. 210-217. In: A. B. Bolten and B. E. Witherington (eds.), *Loggerhead Sea Turtles*. Smithsonian Books, Washington D. C.
- 日本ウミガメ協議会. 2002. 日本のアカウミガメの産卵と砂浜環境の現状. 亀崎直樹・通事祐子・松沢慶将(編). 蒼永印刷株式会社, 大阪. 157 p.
- 大内 (ウミガメ協議会/東大院農)  
大牟田 (屋久島うみがめ館)  
亀崎 (ウミガメ協議会/東大院農/須磨水)



うみがめニュースレター編集委員会

編集委員長 松沢慶将

編集顧問 亀崎直樹・菅沼弘行

編集委員

田中真一・平手康市・堀越和夫・山口真名美

デザイン

宮原尚子

**Editor**

**Yoshimasa Matsuzawa**

*Sea Turtle Association of Japan, Hirakata, Japan  
E-mail: ymatsu@umigame.org*

**Editorial Adviser**

**Naoki Kamezaki**

*Department of Ecosystem Studies, University of Tokyo  
& Sea Turtle Association of Japan, Hirakata, Japan*

**Hiroyuki Suganuma** (founding editor)

*Everlasting Nature of Asia, Yokohama, Japan*

**Editorial Board**

**Shinichi Tanaka**

**Kouichi Hirate**

**Kazuo Horikoshi**

**Manami Yamaguchi**

**Designer**

**Naoko Miyahara**

*Sea Turtle Association of Japan, Hirakata, Japan*

2011年8月31日発行

発行 うみがめニュースレター編集委員会

〒100-2101 東京都小笠原村父島字屏風谷

小笠原海洋センター

E-mail: newsletter@umigame.org